

令和2年度 スクーリングの手引（4月～7月）

東京スクーリング

4 月期	4 月 25 日(土)・26 日(日), 5 月 2 日(土)・3 日(日)	通信教育部 1 号館ほか (体育実技以外) 通信教育部 1 号館ほか (体育実技のみ) 文理学部総合体育館 及び百周年記念館 通信教育部 1 号館ほか
5 月期	5 月 9 日(土)・10 日(日), 5 月 16 日(土)・17 日(日)	
6 月期 第 1 期 (体育実技以外)	6 月 6 日(土)・7 日(日), 6 月 13 日(土)・14 日(日)	
	(体育実技のみ) 6 月 13 日(土)・14 日(日), 6 月 20 日(土)・21 日(日)	
第 2 期	6 月 27 日(土)・28 日(日), 7 月 4 日(土)・5 日(日)	

地方スクーリング

5 月期	5 月 30 日(土)～6 月 1 日(月)	札幌・福岡
7 月期 第 1 期	7 月 18 日(土)～20 日(月)	名古屋
	7 月 24 日(金)～26 日(日)	大阪

夜間スクーリング

春 期	5 月 11 日(月)～7 月 3 日(金)	通信教育部 1 号館
-----	------------------------	------------

スクーリング受講手続日程

	受講申込み開始日 (ポータルサイト)	*1 併用履修登録 締切日(必着)	履修登録締切日(必着) 併用レポート提出締切日(必着) 受講申込締切日(必着)	受講資格 審査結果 通知予定日	振込用紙 発送予定日	受講辞退 手続期限(必着)	受講料 振込期限	結果通知 予定
東京スクーリング (4 月期)	3/ 1(日)	2/29(土)【前期生】 3/13(金)【後期生】	3/13(金)	4/ 3(金)	4/ 3(金)	4/10(金)	4/17(金)	6 月上旬
東京スクーリング (5 月期)	3/22(日)	4/ 3(金)	4/ 3(金)	4/17(金)	4/17(金)	4/24(金)	5/ 1(金)	6 月中旬
夜間スクーリング (春期)	3/20(金)	4/ 3(金)	4/ 3(金)	4/17(金)	4/17(金)	4/24(金)	5/ 1(金)	8 月中旬
地方スクーリング (5 月期) 【札幌・福岡】	4/ 3(金)	4/17(金)	4/17(金)	5/ 8(金)	5/ 8(金)	5/15(金)	5/22(金)	7 月上旬
東京スクーリング (6 月期) 第 1 期	4/ 3(金)	4/17(金)	4/17(金)	5/15(金)	5/15(金)	5/22(金)	5/29(金)	7 月中旬
東京スクーリング (6 月期) 第 2 期	5/ 8(金)	5/22(金)	5/22(金)	6/ 5(金)	6/ 5(金)	6/12(金)	6/19(金)	8 月中旬
地方スクーリング (7 月期) 第 1 期 【名古屋】	5/ 8(金)	5/22(金)	5/22(金)	6/26(金)	6/26(金)	7/ 3(金)	7/10(金)	8 月下旬
地方スクーリング (7 月期) 第 2 期 【大阪】	5/ 8(金)	5/22(金)	5/22(金)	6/26(金)	6/26(金)	7/ 3(金)	7/10(金)	9 月上旬
注 意 事 項	ポータルサイト【24:00 まで】			ポータルサイトに掲載します	5 日経過しても届かない場合は会計課までお問合せください	窓口【事務取扱時間内必着】 郵送【必着】	Ⅶ 受講料の納入を参照してください。	ポータルサイトに掲載します

*1 東京スクーリング（4 月期）は、併用履修登録締切日が前期生と後期生で異なります。併用方式での申込みをしない場合は、受講申込締切日までに履修登録を行ってください。

*2 令和2年度新生（4 月生）は、上記手続日程と異なる場合があります。詳しくは「入学許可に伴う手続等案内」をご覧ください。

*3 申込期限直前は、ポータルサイトにアクセスが集中します。余裕をもって登録を行ってください。

はじめに

面接授業（スクーリング）とは、教員による直接の講義・演習・実技を受講することをいいます。その目的は、教材による在宅学修では十分に学修効果を上げることが困難な科目の一面を補い、教育効果を高めることにあります。このような主旨・目的から、スクーリングは卒業のための必修となっています。

本学の通信教育部では、学生に多くの受講機会が得られるよう、多種多様なスクーリングを開講しています。この『手引』は、その実施要領などをとりまとめて掲載しています。

スクーリングの受講を希望する場合には、手続きの前にこの『手引』を必ず読み、その指示に従って受講してください。

【所定単位とスクーリングについてお知らせ】

所定単位とは、その科目を修得するために必要な単位数のことです。

スクーリングでは、開講単位数を1単位又は2単位で開講しています。そのため、多くの講座は、所定単位の半分の開講単位数になります。したがって、**スクーリングのみを受講する場合は**、スクーリングで1回受講・合格しても1科目分の修得単位としては認められないため、所定単位を充足したことにはならず、**成績証明書、教員免許状申請用学力に関する証明書等に記載されません。**

大部分の科目において『学修要覧』にある科目の所定単位とスクーリングでの開講単位は異なります。所定単位と各スクーリングでの開講単位を必ず確認してください。

【受講の調整について】

スクーリングには、十分な教育効果を得るための適正な受講者数の基準が設定されています。受講申込者数が、適正受講者数でない場合、大学側で受講の調整を行うことがあります。

調整にあたっては、「受講機会の均等」の観点から、各申込者の受講調整履歴、スクーリング受講状況、単位修得状況、在学年数等を総合的に判断し、対象者を確定しますので、あらかじめご了承ください。

なお、講座の適正人数は、おおよそ下表の人数を目安としますが、講座の特性、スクーリングの形態、スクーリング会場の定員数、パソコン台数及び受講学生の履修要件等により、下表によらない場合もあります。

講座	受講者数の上限	受講者数の下限
外国語科目講座	65名	5名
演習講座	30名	5名
上記以外の講座	100名	10名

〔調整方法等〕

- 希望した講座が受講者数の上限を超えた場合、同時期に開講されている同じ科目の講座に振り分けることがあります。
- 超過人数の状況により新たに講座を増設し、受講者を分割して開講する場合があります。
- 上記1・2の方法で対応できない場合、調整対象者は当該講座の受講ができません。
- 受講申込者数が下限に満たない場合、開講を取りやめることがあります。
- 受講許可講座以外の講座の受講は認められません。また、一度決定した受講許可講座の追加・変更はできません。

目 次

I	講座の選定	
1	受講講座の選定	2
2	「教職に関する科目」における新・旧科目について	3
3	「開講講座表」の見方	4
II	東京スクーリング	
1	開講日程	6
2	実施会場	6
3	「体育実技」について	
	【東京スクーリング（6月期第1期）開講】	6
	◆開講講座表及び講座内容（シラバス）	
	・4月期	8
	・5月期	28
	・6月期第1期	48
	・6月期第2期	66
III	地方スクーリング	
1	開催地及び開講日程	84
2	実施会場	84
	◆開講講座表、会場案内及び講座内容（シラバス）	
	・5月期 札 幌	85
	・5月期 福 岡	89
	・7月期第1期 名古屋	93
	・7月期第2期 大 阪	97
IV	夜間スクーリング	
1	開講日程	102
2	実施会場	102
3	開講講座	103
	◆開講講座表及び講座内容（シラバス）	
	・月曜日	104
	・火曜日	111
	・水曜日	118
	・木曜日	125
	・金曜日	133
■	付録	
	交通案内・校舎案内	141

I 講座の選定

1 受講講座の選定

① 受講講座を選ぶ

東京・地方スクーリングともに各期につき1講座、夜間スクーリングでは、月曜日から金曜日までの各曜日から1講座（最多5講座）を申込みできます。各自、入学時に配布された『学修要覧』やコース履修者は『コース履修の手引』を参照し、自分が履修しなければならない科目を把握し、学修計画を立てた上で受講申込みをしてください。

② 受講制限について

すべての方がすべての講座を申し込めるものではありません。自分の学年・学科（専攻）及びその他の理由により申し込むことができない講座があります。以下、それぞれの受講制限を掲載しますので、必ず確認の上、申し込みしてください。

(1) 配当学年による受講制限

ア 1学年生

各期の「開講講座表」の「配当学年」欄に「1年」と記載されている講座のみ受講可能です。それ以外の講座は受講できません。

なお、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

イ 2学年生

各期の「開講講座表」の「配当学年」欄に「1年」又は「2年」と記載されている講座の受講が可能です。それ以外の講座は受講できません。

なお、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

ウ 3・4学年生

配当学年による受講の制限はありませんが、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

(2) 科目履修生の受講制限

入学時の「履修申請書」で履修登録した科目に該当する講座のみ受講できます。

なお、科目履修生は「スクーリング併用試験方式」での申込み・受講はできませんので注意してください。

(3) シラバスによる受講制限

シラバスに、過去のスクーリングと積み重ね不可の記載がある場合は、受講できません。

(4) その他の理由による受講制限

以下のいずれかに該当する場合、その講座は受講できません。

ア 既に所定単位を修得している科目及び単位修得方式が確定している科目を充当科目とする講座の受講

イ 受講の調整による受講制限

一部の講座については、申込希望者が講座の適正人員を超える場合があり、この場合、大学側で受講の調整を行います。

調整により、受講申込講座と異なる講座での受講を許可する場合や、受講不許可となる場合があります。

そのため、必ずポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて、許可された講座を受講してください（受講許可講座と異なる講座の受講は、認められません）。

※受講届のみでの申込者は、「受講資格審査結果通知」を確認してください。

③ 他のスクーリングとの日程重複や会場移動に伴う講座受講に関する注意点について

以下に該当する場合、講座の受講に支障がでる場合がございますので、ご自身で確認の上、受講申込を行ってください。

- 夜間スクーリング（春期）月曜日の授業と、地方スクーリングの授業を受講する場合
- 夜間スクーリング（春期）金曜日の授業と、地方スクーリングの授業を受講する場合

2 「教職に関する科目」における新・旧科目について

・平成 23 年度の名称変更について

平成 23 年度に下表の「教職に関する科目」4科目については、科目名称が変更となり、平成 23 年度 1 学年入学者から学年進行により順次、新科目名での履修となります。

スクーリングの開講にあたっては、同一講座で新・旧両方の科目を充当科目として開講しますので、下表により適用となる充当科目を確認の上、受講申込みをしてください。

旧科目名		新科目名	
T10300	教育の思想	T10200	教育原論
T21400	道徳教育の研究	T21300	道徳教育の理論と方法
T21600	特別活動の研究	T21500	特別活動論
T30700	教育カウンセリング論	T30600	教育相談
旧科目名での履修対象者		新科目名での履修対象者	
右記以外の学生		入学年度	入学形態
		平成 23 年度	1 学年入学生
		平成 24 年度	1 学年入学生 2 学年編入・再入学生 科目履修生
		平成 25 年度	1 学年入学生 2 学年編入・再入学生 3 学年編入・再入学生 科目履修生
		平成 26 年度以降	全入学生

・令和元年度の教育職員免許法改正に関わる開講科目の変更について

令和元年度の教員免許法の改正に伴い、旧法・新法どちらの適用になるかによって履修可能な科目が異なります。詳細は『コース履修の手引』を参考にしてください。

旧法課程		新法課程	
T10500	発達と学習	T23100	発達と学習
対応科目なし		T23200	特別支援教育概論
		T23300	教育課程論
T10500	特別活動論	T23400	特別活動・総合的な学習の時間の指導法
T23400	特別活動・総合的な学習の時間の指導法		
N20300	英米文学概説	N20400	英語文学概説

3 「開講講座表」の見方

「開講講座表」の見方

①	講座コード	講座ごとに付された固有のコード番号です。 「受講届」の「講座コード」欄（4桁）に記入してください。	
②	開講講座名	講座の名称です。原則、科目名と同一ですが、複数開講される講座は、講座名の後ろにアルファベットを付して識別します。	
③	担当講師名	当該講座を担当する教員の氏名です。	
④	開講単位数	受講講座の合格により修得できるスクーリング単位数です。	
⑤	充当科目（科目コード、科目名）	受講講座の合格により成績評価の対象となる科目コードと科目名です。多くの講座は1講座につき1科目ですが、「英語」や「演習科目」のように受講者の単位修得状況により充当科目の選択が必要な講座もあるので、慎重に選択してください。 「受講届」の「充当科目コード」欄（6桁）には、この科目コードを記入してください。	
⑥	併用	「スクーリング併用試験方式」による受講の対象講座か否を記載しています。「スクーリング併用試験方式」による受講ができない講座には、「×印」が記載されています。	
⑦	制限・注意	配 当 学 年	ここに記載されている学年に達していない場合は受講できません。 学部・学科（専攻）により受講可能な学年が異なる場合は、「受講条件」欄に記載されています。
		受 講 条 件	その他の受講制限及び諸注意等がある場合に記載されています。
⑧	オープン受講	オープン受講ができない講座には「×印」が記載されています。 記載がない講座はオープン受講申込可です。	

◆ 開講講座表及び講座内容（シラバス）

東京 4月期	日	程	授業時間	備考
	4月25日	土	13:00～18:30	※日曜日は時間内に 昼休みを設けます。
	4月26日	日	9:00～16:30	
	5月2日	土	13:00～18:30	
	5月3日	日	9:00～16:00 <試験も含む>	

※以下の4月期開講の講座から1講座を選択してください。

講座 コード ①	開講講座名 ②	担当講師名 ③	単開 位数 ④	充 当 科 目 ⑤		併 用 配 当 学 年 ⑥	制 限 ・ 注 意 ⑦		受 入 講 ⑧
				科目 コード	科目 名		受 講 条 件		
DC01	総 合 科 目	根 岸 良 征	2	B101S0	総 合 科 目 I	× 1年	・ I～VIのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。 ・ スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。		
				B102S0	総 合 科 目 II				
				B103S0	総 合 科 目 III				
				B104S0	総 合 科 目 IV				
				B105S0	総 合 科 目 V				
				B106S0	総 合 科 目 VI				

Ⅱ 東京スクーリング

1 開講日程

開講期		日程	授業時間		
4月期	4月	25日(土)	13:00～18:30		
		26日(日)	9:00～16:30		
	5月	2日(土)	13:00～18:30		
		3日(日)	9:00～16:00 <試験も含む>		
5月期	5月	9日(土)	13:00～18:30		
		10日(日)	9:00～16:30		
		16日(土)	13:00～18:30		
		17日(日)	9:00～16:00 <試験も含む>		
6月期	第1期	6月	6日(土)	13:00～18:30	
			7日(日)	9:00～16:30	
			13日(土)	13:00～18:30	
			14日(日)	9:00～16:00 <試験も含む>	
	第2期	6月	27日(土)	13:00～18:30	
			28日(日)	9:00～16:30	
			7月	4日(土)	13:00～18:30
				5日(日)	9:00～16:00 <試験も含む>

※各期ごとに全日程の出席が必要です。

※授業時間内に休憩時間を設けます。

※各期から1講座のみ申込みできます。

※6月期第1期「体育実技」のみ授業日程、授業時間及び実施会場が異なるため、注意してください。

2 実施会場

授業は主として通信教育部校舎及びその周辺の本学校舎で行います。ただし、「体育実技」は世田谷キャンパスの文理学部校舎で行います。

名 称	日本大学通信教育部1号館及び本学校舎周辺
所 在 地	通信教育部 東京都千代田区九段南4-8-28
交通案内	市ヶ谷駅から徒歩3分

※授業講堂は、ポータルサイトにて事前にお知らせします。

3 「体育実技」について【東京スクーリング（6月期第1期）開講】

「体育実技」は、他の講座と異なり文理学部総合体育館及び百周年記念館で受講します。以下の事項をよく確認してください。

a 開講日程【雨天決行】

日程	授業時間
6月13日(土)	18:00～21:30
6月14日(日)	9:00～17:00
6月20日(土)	18:00～21:30
6月21日(日)	9:00～17:00

※東京スクーリング（6月期第1期）の他講座と授業時間及び会場が異なります。

b 実施会場

日本大学文理学部総合体育館及び百周年記念館（後掲「文理学部案内図」参照）

c 持参物

- ・運動のできる服装（トレーニングウェア等）
- ・室内用運動靴
- ・健康保険証
- ・筆記用具
- ・スクーリングの手引

d 「体育実技」の集合場所・集合時間

日本大学文理学部総合体育館入口

※授業開始の15分前から受付を開始します。

※遅くとも授業開始の5分前には受付を済ませた後、運動のできる服装に着替え、時間厳守で受講会場に集合してください。

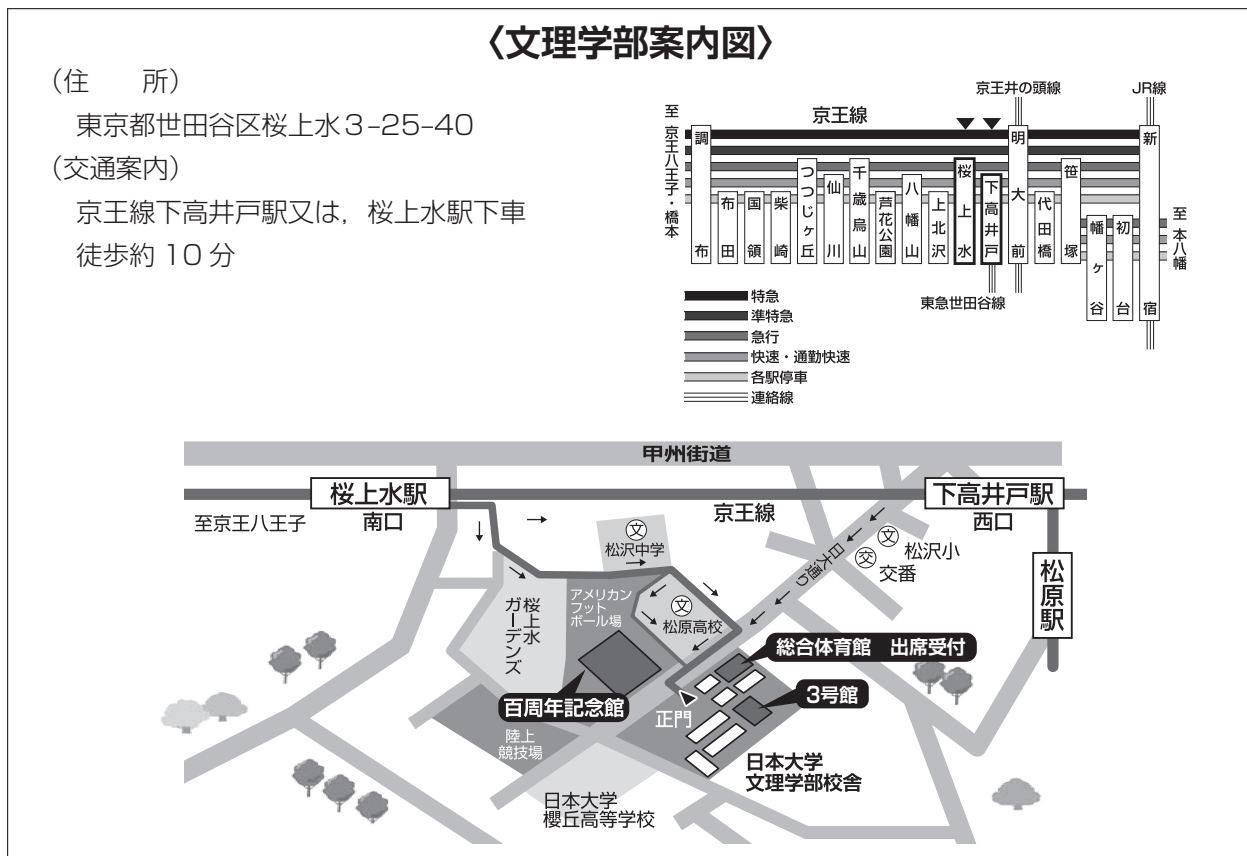
※更衣室の使用はできますが、ロッカーの使用及び更衣室に荷物を置いておくことはできませんので、荷物を持って会場に集合してください。

e 受講について

体育実技は卒業必修科目となっていますが、疾病その他身体障害の理由で実技自体の参加が困難であると思われる方は、受講申込前（「受講届」提出前）に教務課に連絡してください（TEL 03-5275-8911）。

f 注意事項

- ・ジーンズや普段着での受講はできません。
- ・更衣室は、文理学部総合体育館にあります。
- ・貴重品は、各自で管理してください。ロッカーの利用はできません。
- ・日曜日の昼食は、周辺に飲食店が少ないため各自が持参することを強く勧めます。



◆ 開講講座表及び講座内容（シラバス）

東京

4月期

日	程	授業時間	備考
4月25日	土	13:00～18:30	※日曜日は時間内に 昼休みを設けます。
4月26日	日	9:00～16:30	
5月2日	土	13:00～18:30	
5月3日	日	9:00～16:00 <試験も含む>	

※以下の4月期開講の講座から1講座を選択してください。

講座コード	開講講座名	担当講師名	単開 位数講	充 当 科 目		併 用	配当 学年	制 限・注 意	受 オ ー プ ン 講
				科目 コード	科目名			受 講 条 件	
DC01	総 合 科 目	根 岸 良 征	2	B101S0	総 合 科 目 I	×	1 年	・ I～VIのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。 ・ スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	
				B102S0	総 合 科 目 II				
				B103S0	総 合 科 目 III				
				B104S0	総 合 科 目 IV				
				B105S0	総 合 科 目 V				
				B106S0	総 合 科 目 VI				
DC02	英 語 A	上 島 美 佳	1	C10100	英 語 I		1 年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	
				C10200	英 語 II		2 年		
				C10300	英 語 III				
				C10400	英 語 IV				
DC03	英 語 B	桑 山 啓 子	1	C10100	英 語 I		1 年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	
				C10200	英 語 II		2 年		
				C10300	英 語 III				
				C10400	英 語 IV				
DC04	民 法 IV	加 藤 雅 之	2	K30300	民 法 IV		2 年		
DC05	税 法	本 村 大 輔	2	K31500	税 法		2 年		
DC06	法 哲 学	高 須 則 行	2	K318S0	法 哲 学	×	2 年		
DC07	行 政 学	山 田 光 矢	2	L30100	行 政 学		2 年		
DC08	国 文 学 史 I	加 藤 清	2	M30100	国 文 学 史 I		2 年		
DC09	か な 書 法	山 本 ま り 子	2	T22500	か な 書 法	×	2 年	・ 文学専攻（国文学）のみ申 込可。 ・ スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座 コード	開講講座名	担当講師名	単開 位 数講	充 当 科 目		併 用	制 限 ・ 注 意		受 オ ー プ ン 講
				科 目 コード	科 目 名		配 当 学 年	受 講 条 件	
DC0A	英語文学概説/ 英米文学概説	野口 肇	2	N20300	英米文学概説	※	×	・文学専攻（英文学）のみ1 学年以上申込可、それ以外 は2学年以上申込可。 ・平成30年度以前入学学生 のみ履修可。	×
				N23400	英語文学概説			・文学専攻（英文学）のみ1 学年以上申込可、それ以外 は2学年以上申込可。 ・令和元年度以降入学学生 のみ履修可。	
DC0B	英語学特殊講義	山岡 洋	2	N311S0	英語学特殊講義	×	2年		
DC0C	英米文学演習A	鈴木 ふさ子	1	N404S0	英米文学演習Ⅰ	×	3年	・文学専攻（英文学）のみ申 込可。 ・Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させ るのか充当科目コードを必 ず記入してください。	
				N405S0	英米文学演習Ⅱ				
				N406S0	英米文学演習Ⅲ				
DC0D	哲学演習Ⅰ・Ⅱ	小山 英一	1	P401S0	哲学演習Ⅰ	×	3年	・哲学専攻のみ申込可。 ・Ⅰ、Ⅱのいずれに該当させ るのか充当科目コードを必 ず記入してください。	
				P402S0	哲学演習Ⅱ				
DC0E	史学概論	古川 隆久	2	Q30100	史学概論		2年		
DC0F	観光事業論	東 徹	2	S32000	観光事業論		2年		
DC0G	教育原論/ 教育の思想A	宮島 健次	2	T10200	教育原論	×	2年	・スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	
				T10300	教育の思想				
DC0H	教育の方法・技術論	古賀 徹	2	T21700	教育の方法・技術論	×	2年	・スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	
DC0J	博物館教育論	岡部 幹彦	2	Y20900	博物館教育論	×	2年	・スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	×

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔総合科目〕

根岸 良征

◆**授業概要** 最初のコンピュータから現代のパソコンまでの変遷を通して、コンピュータの仕組み、インターネットの仕組みを講義する。また、近年対策が強く求められている情報セキュリティの基礎知識を講義する。IT 企業における IT 基礎教育の実務経験、IT システムの開発、運用経験を踏まえて、近年の実務的な動向を取り入れた講義を行う。

◆**学修到達目標** ・情報技術について基礎的な知識を習得し、パソコンを有意義に利用できるようになる。
・メディア授業を受講するためにはどのような機器を用意すればよいかを自らで情報収集でき、判断できる。
・情報セキュリティの基本とその対策について理解し、実践することができる。

◆**授業方法** 授業は適宜映像資料を用いながら、講義中心に行う。また、パソコンを操作してケーススタディも行う。情報セキュリティについては、自らで情報を収集して、内容をまとめる。毎回授業中に小課題を出題する。教科書は講義で利用するので必ず持参すること。参考書に示した文献は受講前に目を通しておくことが好ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容: パソコン開発史① 計算機の開発、電話網の開発とコンピュータ 事前学修: 計算する道具はいつの時代から存在していたのかを調べる 事後学修: 講義と資料の内容をノートにまとめ、年表を作成する
2 回	授業内容: パソコン開発史② 計算機から情報処理装置への変遷 事前学修: ホストコンピュータとはなにかを調べる 事後学修: 講義と資料内容をノートにまとめ、年表を作成する
3 回	授業内容: パソコン開発史③ 電卓開発とマイクロコンピュータの登場 事前学修: 真空管、トランジスタ、リレーについて、役割を中心に調べる 事後学修: 電卓の開発競争でなにが起きたのかをまとめる
4 回	授業内容: パソコン開発史④ パソコンの登場とインターネット 事前学修: 1980 年ごろのパソコンについて、どのようなメーカーが、どのような機器を販売していたのかを調べる 事後学修: パソコンの普及のきっかけをまとめる
5 回	授業内容: コンピュータにおける情報表現、データの種類について 事前学修: パソコンで扱えるデータには、どのような種類があるのかを調べる 事後学修: 文字、画像、音声のデータ表現についてまとめる
6 回	授業内容: パソコンのハードウェア（CPU、メモリ、補助記憶装置、入出力）の種類と役割 事前学修: 自宅で利用しているパソコンのスペック（仕様）を調べる 事後学修: パソコンのハードウェアの種類と役割をノートに整理する
7 回	授業内容: ソフトウェアの種類と役割（OS、アプリケーションソフトウェア） 事前学修: 自分で利用しているパソコンやスマートホンの OS の名称を調べる。 事後学修: OS とアプリケーションの違いをわかりやすくノートにまとめる
8 回	授業内容: ファイル管理入門、フォルダを利用した分類、圧縮・伸張 事前学修: パソコンの基本的な操作（キーボード、マウス操作など）を習得しておく 事後学修: 自分の PC に保存してあるファイルを整理する
9 回	授業内容: インターネットの仕組み（TCP/IP、ルータ）、インターネットの利用 事前学修: インターネットの始まりを調べる 事後学修: インターネットの発展と普及の流れを、インターネットのサービスとともにまとめる
10 回	授業内容: 情報セキュリティ① 情報セキュリティとはなにか 事前学修: 教科書第 1 章、第 2 章（p. 2～24）を読む。参考書に指定した Web サイトの冊子を大雑把に通読し、キーワードを拾い上げる。 事後学修: 授業中に配布したプリント資料を完成させ、情報セキュリティの意味を理解する
11 回	授業内容: 情報セキュリティ② 「様々な脅威」～ウイルス、標的型攻撃～ 事前学修: 教科書第 3 章（p.26～62）を読む 事後学修: 授業中に配布したプリント資料を完成させ、具体的なウイルスの種類を知る
12 回	授業内容: 情報セキュリティ③ 「セキュリティ対策」～ウイルス対策、ファイアウォール～ 事前学修: 教科書第 3 章（p.90～94）を読む 事後学修: 授業中に配布したプリント資料を完成させ、具体的な対策法を知る
13 回	授業内容: 情報セキュリティ④ 「スマートホンのセキュリティ」「組織的な取り組み（ISMS）」 事前学修: 教科書第 4 章（p.64～76）を読む 事後学修: 授業中に配布したプリント資料を完成させ、組織としての対策を理解する
14 回	授業内容: 情報技術についての総まとめとレポート作成 事前学修: 第 1 回から第 9 回までの資料の内容を見直す 事後学修: 情報の表現方法について確実に理解する
15 回	授業内容: 情報セキュリティについての総まとめとレポート作成 事前学修: 第 10 回から第 13 回までの資料の内容を見直す 事後学修: 標的型攻撃の特徴と対策法について確実に理解する

◆**教科書** 丸沼『情報セキュリティ読本「IT 時代の危機管理入門」』情報処理推進機構（IPA）著 五訂版 実教出版（ISBN978-4407347753）

◆**参考書** ネットワークビギナーのための情報セキュリティハンドブック
<https://www.nisc.go.jp/security-site/handbook/index.html>

◆**成績評価基準** 授業への参加度（各回の小課題の評価）による評価が 40%、最終課題の内容による評価が 60%。
なお、最終課題は最終試験の位置づけとする。最終課題を提出しない場合には成績評価をつけない。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 A〕

上島 美佳

- ◆**授業概要** Arthur Conan Doyle の Sherlock Holmes を読みます。進み具合を見つつ、できれば2作品を購読する。
- ◆**学修到達目標** 本授業では比較的優しい英語で書きなおされたテキストを使用します。確実に英文を理解する事、少しでも英語の文章を読めるようになる事を目標とします。
- ◆**授業方法** ・ 演習形式で行います。該当箇所を音読し、和訳してもらいます。必要事項は逐次説明を加えていきます。また映像化された作品を鑑賞することによって、当時のイギリス社会及び文化を認識し、作品の理解を深めます。
・ 受講者の様子を見ながら進行します。辞書とノートは必ず持参してください。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ガイダンス、授業の進め方、テストについての説明、事前プリント講読、発表 事前学修：事前プリントに目を通しておいてください。 事後学修：ノート作成
2回	授業内容：事前プリント講読、発表 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：ノート作成
3回	授業内容：テキスト購読（pp.1-3）、発表 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：ノート作成
4回	授業内容：テキスト購読（pp.4-6）、発表 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：ノート作成
5回	授業内容：DVD鑑賞 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：ノート作成
6回	授業内容：テキスト購読（pp.7-9）、発表 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：ノート作成
7回	授業内容：テキスト購読（pp.10-12）、発表 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：ノート作成
8回	授業内容：テキスト購読（pp.13-15）、発表 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：ノート作成
9回	授業内容：テキスト購読（pp.16-18）、発表 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：ノート作成
10回	授業内容：テキスト購読（pp.19-21）、発表 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：ノート作成
11回	授業内容：DVD鑑賞 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：ノート作成
12回	授業内容：テキスト購読（pp.22-24）、発表 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：ノート作成
13回	授業内容：テキスト購読（pp.25-27）、発表 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：ノート作成
14回	授業内容：質疑応答 自習 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：ノート作成
15回	授業内容：テスト 事前学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など） 事後学修：講読した範囲の復習（単語・和訳・文法など）

- ◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 当日プリントを配布します。
〔事前資料送付〕 事前にプリントを配布します。分からない単語等は調べておいてください。
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 出席・発表・試験により、総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

4月
期
東
京5月
期
東
京6月
1期
東
京6月
2期
東
京5月
期
札
幌5月
期
福
岡7月
1期
名古屋7月
2期
大
阪月
曜
日
夜
間火
曜
日
夜
間水
曜
日
夜
間木
曜
日
夜
間金
曜
日
夜
間付
録

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英語 B】

桑山 啓子

- ◆**授業概要** 語学を学習する上で言語の4技能 (reading, listening, writing, speaking) 全ての力がバランスよく習得出来る語学力が向上するのである。この授業では4技能のうち Reading の力を付けることで小説、新聞、書類などを正確に読めるようになっていく。また英文を正確に読めるようになるために必要な文法事項も説明していく。
- ◆**学修到達目標** 英文を読むのに必要となる基礎的な文法知識を身につけ、reading の力を向上させて、英文を正確に読めるようになる。
- ◆**授業方法** 昨年度用いたテキストの後半部分 (Unit 7-Unit 12) を授業で読む。Exercise の答えを確認しながら本文の内容全体を確認する。その後で本文の英文を一文ずつ和訳する。本文の和訳と Exercise の答えは学生が発表して、間違えたところの説明を教師が行う。クラスの人数と受講した学生の實力に応じて授業方法を変更することもある。その場合には必ず前もって授業の中で知らせる予定である。本授業の事前学修、事後学修は各2時間を目安とする。
- ◆**授業計画 [各 90 分]**

1 回	授業内容 ガイダンス：スクーリング期間に行うこと、授業の進め方、成績評価などの説明、シャーロックホームズについての説明 Unit 7- 1: 本文を英文和訳する。その上で内容の確認、重要な語句、英文等の意味の確認、Exercise の答え合わせ	事前学修 Unit 7- 1: Exercise の問題を解きながら本文の内容を確認する。分からない語 (句) を辞書で調べて本文を和訳する。	事後学修 事前学修した内容を授業で確認して間違っていたところをもう一度見直す。本文の英文をもう一度読み、内容を確認して、解釈を間違えたところを復習する。
2 回	授業内容 Unit 7- 2: 本文の内容の確認と Exercise の答え合わせ。重要な語 (句) や英文の説明。7- 3 の Listening Script (p.51) の CD を聴いて英文の内容を確認したうえで p.49 の質問の答え合わせ。Preparation for the next story! の答え合わせと英文の内容の確認。	事前学修 Unit 7- 2 の英文を和訳して Exercise を解く。Preparation for the next story! の英文の①～⑩に語群から選んだ語を入れて、英文を和訳する。Listening Script の下線部分に入る語 (句) を予想する。英文の分からない語を辞書で調べる。	事後学修 事前学修した内容を授業で確認して間違っていたところをもう一度見直す。本文、Preparation for the next story! と Listening Script の英文をもう一度読み直す。
3 回	授業内容 Unit 7 の本文の内容を確認。Unit 8- 1 の本文の内容の確認と和訳。Exercise の表に入る答えを確認。Unit 8- 2 の英文を和訳。	事前学修 Unit 8- 1 と 2 の本文を和訳する。8- 1 の英文の内容を確認して p.53 の Exercise の表を完成させる。8- 2 の英文を和訳する。	事後学修 事前学修した Unit 8- 1, 2 の本文の和訳と Exercise で間違えたところを復習。単語、語句、英文の復習する。
4 回	授業内容 Unit 8- 2 の英文の内容を確認。Exercise の答え合わせ。P.57 の Listening Script の CD を聴いて穴埋め問題を解いた後、答え合わせをする。Preparation for the next story! の答え合わせと英文の内容の確認。	事前学修 Unit 8- 2 の英文を再度読み、Exercise の問題を解く。Listening Script (p.19) の分からない単語を辞書で調べる。Preparation for the next story! の英文の①～⑩に語群から選んだ語を入れて英文を完成させ、英文を和訳する。	事後学修 Unit 8- 2 の英文を再度読み、Exercise と Preparation for the next story! の復習。Listening Script の内容を確認して音読練習する。
5 回	授業内容 Unit 9- 1 の本文の和訳。P.59 の Exercise の答え合わせ。9- 2 (p.63) の Listening Script を聴いて下線部に入る語の答え合わせと内容の確認。その後で 9- 2 (p.60) の質問の答え合わせをする。	事前学修 Unit 9- 1 の本文の和訳。P.59 の Exercise を解いて、p.63 の Listening Script の英文の分からない語を辞書で調べる。	事後学修 事前学修した Unit 9- 1 の本文の和訳と Exercise の間違えたところを中心に復習する。Listening Script を音読練習。
6 回	授業内容 Unit 9- 3 の本文の和訳と Exercise の答え合わせ。Preparation for the next story! の答え合わせと英文の内容の確認。(時間があれば p.63 の Listening Script の音読練習)	事前学修 Unit 9- 3 の本文を和訳して Exercise を解く。Preparation for the next story! の英文の①～⑩に語群から選んだ語を入れて英文を完成させて、英文を和訳する。	事後学修 Unit 9- 3 の本文、Exercise、Preparation for the next story! を事後学修で間違えたところ、分からないところを中心に復習する。
7 回	授業内容 Unit 10- 1 の本文の和訳と Exercise の答え合わせ。10- 2 の英文を和訳して、時間があれば Exercise の答え合わせをする。	事前学修 Unit 10- 1 と 10- 2 の本文を和訳して Exercise を解く。	事後学修 Unit 10- 1 と 10- 2 の本文と Exercise を分からない英文や事前学修で間違えたところを中心に復習する。
8 回	授業内容 Unit 10- 2 の本文と Exercise の内容の確認。Exercise の答え合わせ。10- 3 の Listening Script の CD を聴いて穴埋め部分と p.67 の質問の答え合わせ。Preparation for the next story! の①～⑩に入る語を答え合わせして英文の内容の確認。	事前学修 Unit 10- 3 Listening Script の本文の分からない語を辞書で調べる。Preparation for the next story! の英文の①～⑩に語群から選んだ語を入れて英文を完成させて英文を和訳する。	事後学修 授業で学んだ部分を復習する。特に事前学修で分からなかった部分、間違えたところを中心に音読をしながら復習。
9 回	授業内容 Unit 11- 1 の本文の和訳。P.59 の Exercise の答え合わせ。11- 2 の本文の和訳。11- 1, 2 の重要な語句や英文の確認。	事前学修 Unit 11- 1, 2 の英文の分からない語 (句) を調べて和訳する。	事後学修 Unit 11- 1 と 11- 2 の本文と Exercise を分からない英文や事前学修で間違えたところを中心に復習する。
10 回	授業内容 11- 2 の本文の内容を確認して Exercise の答え合わせ。11- 3 の Listening Script の CD を聴いて穴埋め部分と p.73 の質問の答え合わせ。Preparation for the next story! の①～⑩に入る語を答え合わせして英文の内容の確認。	事前学修 Unit 11- 3 Listening Script の本文の分からない語を辞書で調べる。Preparation for the next story! の英文の①～⑩に語群から選んだ語を入れて英文を完成させて英文を和訳する。	事後学修 1- 2 の本文、11- 3 の Listening Script、Preparation for the next story! の英文を音読しながら復習する。
11 回	授業内容 Unit 12- 1 の本文の和訳と Exercise の答え合わせ。12- 2 の本文の和訳。12- 1, 2 の重要な語句や英文の確認。	事前学修 Unit 12- 1 と 2 の英文の分からない語 (句) を調べて和訳する。	事後学修 Unit 12- 1 と 12- 2 の本文と Exercise を分からない英文や事前学修で間違えたところを中心に復習する。
12 回	授業内容 12- 2 の本文の復習をしてから Exercise の答え合わせ。12- 3 の Listening Script の CD を聴いて穴埋め部分と p.79 の質問の答え合わせ。Preparation for the next story! の①～⑩に入る語を答え合わせして英文の内容の確認。	事前学修 12- 2 の本文の復習をしてから Exercise を解く。Listening Script の本文の分からない語を辞書で調べる。Preparation for the next story! の英文の①～⑩に語群から選んだ語を入れて英文を完成させて英文を和訳する。	事後学修 Unit 12- 2 の英文、Exercise、Listening Script、Preparation for the next story! の英文を事前学修で分からなかったところや間違えたところを中心に復習。
13 回	授業内容 Unit 12- 1, 2 の本文、Listening Script の英文の内容の確認。シャーロックホームズ「ぶな屋敷の怪事件」の DVD を見てテキストで読んだ内容を確認する。	事前学修 Unit 12- 1, 2 の本文、Listening Script の英文を再度読み直す。	事後学修 Unit 12 全体を復習
14 回	授業内容 Unit 7- Unit 12 の復習。	事前学修 Unit 7- Unit 12 の重要な英文、語 (句) をテキストから書き出して和訳する。重要な語句を覚える。	事後学修 Unit 7- Unit 12 の授業で学んだことを復習する。
15 回	授業内容 試験及び解説	事前学修 Unit 1- Unit 6 までの英文、Exercises、Preparation for the next story!、Listening Script の英文を見なおして分からないところは再度和訳する。覚えていない単語、熟語は覚えて試験に備える。	事後学修 試験に出題された問題を中心にテキストを再度見直す。

- ◆**教科書** 丸沼『Mystery Tour with Sherlock Holmes』上村・山科共著 第9刷 センゲージラーニング 2017年
- ◆**参考書** 丸沼『英文法解説』江川泰一郎著 金子書房
丸沼『総合英語 Forest』石黒昭博監修 桐原書店
- ◆**成績評価基準** 3日間出席することを前提に評価します。(評価内容：授業への取り組みや授業時に行う予習確認や復習の小テスト等 20%、授業時の発表状況 20%、試験 60%)

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

(民法Ⅳ)

加藤 雅之

◆**授業概要** 本講義は民法のうち、講学上「債権各論」と呼ばれる分野(契約、事務管理、不当利得および不法行為)を対象とする。もっとも、対象分野について網羅的に取り上げることはせず、いくつかの現代的問題について、民法の規定の理解を基礎として、判例や立法の動向を踏まえて検討することを主たる内容とする。なお、本講義を受講するにあたっては、事前に民法Ⅰを受講しておくことが望ましい。

◆**学修到達目標** (1)債権各論に関する基本的概念や諸規定を理解し、制度・規定が設けられた趣旨を理解し説明できる。
(2)解釈上の問題について、基本的な最上級審の立場(判例)を理解し、説明できる。
(3)上記(1)および(2)を踏まえて、具体的問題について、法律の規定に基づいて論理的に解答できる。

◆**授業方法** 講義形式を基本とするが、受講生の理解度を高めるために演習問題を用いた対話形式やグループワーク形式の時間も設ける。

◆授業計画 (各 90 分)

1 回	授業内容:【基本編】ガイダンス、債権各論の全体像 事前学修: 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修: 配布資料中の確認問題の検討を通じて、「債権各論」においてどのような問題を検討するのかが確認する。
2 回	授業内容:【基本編】契約法総論—契約の成立、契約の効力、契約の解除— 事前学修: 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修: 配布資料中の確認問題の検討を通じて、契約法総論部分に関する基本的知識の定着を図る。
3 回	授業内容:【基本編】契約法各論—各種の契約類型とその特徴— 事前学修: 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修: 配布資料中の確認問題の検討を通じて、契約法各論部分に関する基本的知識の定着を図る。
4 回	授業内容:【基本編】不法行為法 事前学修: 事前配布資料を参考に、①六法で条文を確認し、②専門用語の意味を理解する。 事後学修: 配布資料中の確認問題の検討を通じて、不法行為法部分に関する基本的知識の定着を図る。
5 回	授業内容:【応用編】契約法に関する解釈上の問題①契約の不適合に対する救済の問題 事前学修: 事前配布資料中の事例問題について、民法の規定や判例等を参考にし、自分なりの解答を準備する。 事後学修: 講義内容を踏まえて、事前学習で作成した解答を見直して、再度解答を作成する。
6 回	授業内容:【応用編】契約法に関する解釈上の問題②賃貸借契約など継続的契約をめぐる問題 事前学修: 事前配布資料中の事例問題について、民法の規定や判例等を参考にし、自分なりの解答を準備する。 事後学修: 講義内容を踏まえて、事前学習で作成した解答を見直して、再度解答を作成する。
7 回	授業内容:【応用編】不法行為法に関する解釈上の問題 他人の行為による不法行為の問題 事前学修: 事前配布資料中の事例問題について、民法の規定や判例等を参考にし、自分なりの解答を準備する。 事後学修: 講義内容を踏まえて、事前学習で作成した解答を見直して、再度解答を作成する。
8 回	授業内容: 授業内試験 (これまでの内容を踏まえて、論述式試験で理解度を確認する) 事前学修: これまでの授業内容を整理し、不明な点を参考書等で補っておく。 事後学修: 試験後に配布する「解答・解説」を参考にし、理解を深める。
9 回	授業内容: 授業内試験の解説 事前学修: 第 8 回で行った試験問題を再確認し、ポイントを整理しておく。 事後学修: 返却された答案および解説講義を参考に、自らの理解を深める。
10 回	授業内容:【発展編】契約法に関する現代的問題 事前学修: 契約法分野に関する基本的事項を整理し、配布資料中の問題について、参考資料を収集し、解答を準備しておく。 事後学修: 講義内容を踏まえて、事前学習で作成した解答を見直して、再度解答を作成する。
11 回	授業内容:【発展編】不法行為法に関する現代的問題 事前学修: 不法行為法分野に関する基本的事項を整理し、配布資料中の問題について、参考資料を収集し、解答を準備しておく。 事後学修: 講義内容を踏まえて、事前学習で作成した解答を見直して、再度解答を作成する。
12 回	授業内容: 授業内試験 (第 10 回・第 11 回の内容についての試験を行い、理解度を確認する) 事前学修: これまでの授業内容を整理し、不明な点を参考書等で補っておく。 事後学修: 試験後に配布する「解答・解説」を参考にし、理解を深める。
13 回	授業内容: 授業内試験の解説 事前学修: 第 12 回で行った試験問題を再確認し、ポイントを整理しておく。 事後学修: 返却された答案および解説講義を参考に、自らの理解を深める。
14 回	授業内容:【発展編】民法の現代的意義と将来 事前学修: 配布資料で示された問題について、予め検討をする。 事後学修: 授業内で配布する確認問題の検討を通じて、理解を深める。
15 回	授業内容: 授業内試験および解説 基本的事項の確認を中心として試験を行う 事前学修: これまでの授業内容を整理し、不明な点を参考書等で補っておく。 事後学修: 講義内容および試験の解説などを通じて、講義全体について再確認する。

◆**教科書** 事前資料送付

◆**参考書** 丸沼『契約法』中田裕康 有斐閣 2017 年
 丸沼『不法行為法—民法を学ぶ 第 2 版』窪田充見 有斐閣 2018 年

◆**成績評価基準** 授業内を行う試験の結果(複数回の結果を総合する) 80%
 授業への参画(質疑応答、グループワークへの参加等) 20%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
 ※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔税法〕

本村 大輔

◆**授業概要** 昨今、我が国の税制は、経済の多様化とグローバル化により、めまぐるしく変化しています。この変化は、毎年の税制改正として現れ、我々納税義務者をとりまく環境は絶えず変化し、複雑化しています。ただ、税法の基礎理論や納税者の権利は、いかに経済社会が複雑化しようとも変化することはありません。そこで、本講義では、我が国が抱える税法問題を考え、税法の基礎理論を学習していきます。

◆**学修到達目標** 税法に関する具体的問題を考えながら、税法の基礎理論の修得を目指します。つまり、我が国が抱える税法の問題を理解した上で、問題の解決にどのようにアプローチできるのかを考えます。そこで、講義においては、各人が税法に関する問題を理解し、判断できるだけの基本的知識および考え方の修得を目指します。

◆**授業方法** 授業は、基本的に講義形式で行います。講義内容は、税に関する基礎知識の整理、税法をめぐる具体的問題について学習していきます。また、授業内で税法の問題に関する質問をしますので、回答はリアクション・ペーパーに記載していただきます。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容 我が国の税財政の課題を確認し、我が国が抱える税法問題を考える。 事前学修 財務省の HP を確認し、我が国の税財政状況や税制改正の現状について事前に調べておくこと。 事後学修 授業で配布した資料を復習しておくこと。
2 回	授業内容 ビジネスモデルの発展と我が国の税制—シェアリングビジネスを題材として— IT 技術の発達に伴うビジネスモデル発展に対して、我が国の税制と課税取扱いの問題を考察する。 事前学修 インターネット等を利用し、シェアリングビジネスについて事前に調査しておくこと。 事後学修 授業で配布した資料を復習しておくこと。
3 回	授業内容 税法学の特質—税法学と隣接法学との関係および法認識論と法実践論の異同— 税法と隣接する近接する法領域すなわち行政法や民法ひいては財政学との関係を考察することにより、税法学の多角的検討の必要性を学ぶ。 事前学修 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 事後学修 法認識論と法実践論の違いをしっかりと理解した上で、税法学のあり方を考えること。
4 回	授業内容 「租税」の法的概念(1)理論的背景 我が国の基本的税法に「租税」を定義した規定は存在しない。そこで、「租税」の従来の定義と日本国憲法下における定義とに分け、「租税」の特質について検討する。 事前学修 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 事後学修 教科書を読みながら、「租税」の要素をまとめておくこと。
5 回	授業内容 「租税」の法的概念(2)事例研究 「租税」の定義に関わる裁判例を確認し、その定義づけの重要性を考察する。 事前学修 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 事後学修 最判平成 18 年 3 月 1 日民集 60 巻 2 号 587 頁の論点を確認し、判示内容を理解しておくこと。
6 回	授業内容 租税法律主義(1)—租税法律主義の憲法規定— 明治憲法と日本国憲法との異同に触れつつ、租税法律主義が導かれる憲法上の根拠を確認する。 事前学修 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 事後学修 日本国憲法が何故に税に関する規定を二つ設けているのかを確認し、授業内容をノートまとめておくこと。
7 回	授業内容 租税法律主義(2)—租税法律主義の法理とその基本的機能— 租税法律主義における法理的要請について確認、検討を加えていく。 事前学修 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 事後学修 租税法律主義の法理的要請は、税法の基本的問題を理解する上で極めて重要であるので教科書及び授業内容をしっかりとノートにまとめておくこと。
8 回	授業内容 租税法律主義(3)—基本的道具概念としての租税法律主義— 人々の経済社会が多様化し、税制が複雑化する中で、租税法律主義はどのような役割を有するのか、租税法律主義の現代的展開を検討する。 事前学修 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 事後学修 租税法律主義の役割は、税法の基本的問題を理解する上で極めて重要であるので、前回の授業内容も含めて教科書及び授業内容をしっかりとノートにまとめておくこと。
9 回	授業内容 租税法律主義(4)事例研究—応用的法実践論— 租税法規不遡及の原則にかかる裁判例の法的問題を検討する。 事前学修 授業で配布した資料を熟読し、裁判例の論点を確認しておくこと。 事後学修 裁判例の論点を再確認し、憲法 84 条の意義をしっかりと理解しておくこと。
10 回	授業内容 本来的租税条例主義—地方税の基礎原理とはなにか— 地方自治体の課税権にかかる基本原理を確認し、地方税法をめぐる問題を考察する。 事前学修 教科書の該当箇所を熟読しておくこと（合わせて教科書の 21 章も読んでおくこと）。 事後学修 教科書の該当箇所を読み、ノートを整理しておくこと。
11 回	授業内容 実質課税の原則—実質課税の原則の指向とその虚構性— 実質課税の原則を租税法律主義の観点から検討することにより、現行法下で成立しうるのかを確認する。 事前学修 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 事後学修 教科書の該当箇所を読み、ノートを整理しておくこと。
12 回	授業内容 租税回避行為とは何か—節税行為と脱税行為との違い— 租税回避行為の定義および要件を確認した上で、節税・脱税行為との異同を確認する。 事前学修 教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 事後学修 租税回避行為の定義およびその問題点をまとめて、節税行為と脱税行為との違いを理解しておくこと。
13 回	授業内容 国際的租税回避と何か—巨大 IT 企業の国際的租税回避とデジタル課税— 巨大 IT 企業は、インターネット上のプラットフォームを活用し世界中にサービスを提供する一方、新たな課税問題を創出している。このような現状に対して、どのような課税論が展開できるのかについて検討する。 事前学修 インターネット等を利用し、巨大 IT 企業の国際的租税回避行為の手段につき調査しておくこと。 事後学修 授業時に配布した資料を熟読し、理解しておくこと。
14 回	授業内容 理解度の確認およびまとめ これまでの授業内容を復習し、各論点ごとのポイントをノートに整理しておくこと。 事前学修 各論点と税法理論の結びつきを教科書とノートを使用し、再確認しておくこと。 事後学修 各論点と税法理論の結びつきを教科書とノートを使用し、再確認しておくこと。
15 回	授業内容 試験及び解説 これまでの論点ごとのポイントを復習しておくこと。 事前学修 これまでの論点ごとのポイントを復習しておくこと。 事後学修 税法理論と裁判例を相互的に復習し、税法に係る問題にどのようにアプローチするか考える。

◆**教科書** 〔教材〕『税法 K31500』通信教育教材（教材コード 000410）

◆**参考書** 〔丸沼〕『納税者の権利』北野弘久 岩波新書 1981 年

〔丸沼〕『現代税法入門塾』石村耕治編 第 10 版 清文社 2020 年 4 月刊行予定

〔丸沼〕『租税判例百選』中里実ほか編 第 6 版 有斐閣 2016 年

◆**成績評価基準** 成績の評価は、授業の最後に行う論述試験（80%）、これに平常点（20%）を加味します。なお、平常点は、リアクションペーパーが評価対象です。論述試験については、テキスト・自筆のノート・配布資料の持ち込みを許可します。当然、電子機器等の持ち込みは認められません。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔法哲学〕

高須 則行

◆**授業概要** 法哲学とは、法（法解釈学）を対象として、全体的、根源的に考察するものとされる。今回の講義は、法哲学のひとつの研究領域である法的思考（法解釈学方法論）を対象として、それがどのような思考方法であるかを、いくつかの具体的事例を取り上げて解説しようとする。

- ◆**学修到達目標**
- ①法的思考の構造を理解し、説明することができる。
 - ②法的思考における法の種類を理解し、説明することができる。
 - ③様々な法解釈の方法の特徴と機能を、およびその相互関係を理解し、説明することができる。
 - ④法的決定を導くときの理由づけ（推論）の構造を理解し、説明することができる。

◆**授業方法** 講義形式で行いますが、その都度、受講生の皆さんに質問し、自らの考えを述べてもらいたいと思っています。そのような双方向の授業を心掛けていきたいと思っております。受講者の人数にもよりますが、ゼミ形式で授業を進めることも考えています。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：法哲学へのいざない：法哲学と法解釈学 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
2 回	授業内容：自然法と実定法、成文法と不文法 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
3 回	授業内容：社会規範の種類（法・道徳・慣習・マナー・戒律）と制定法の種類（憲法・条約・法律・命令・規則・条例） 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
4 回	授業内容：法と道徳の関係(1)：法の外面性と道徳の内面性 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
5 回	授業内容：法と道徳の関係(2)：J.S. ミルの危害原理 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
6 回	授業内容：法と道徳の関係(3)：法的モラリズム 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
7 回	授業内容：法と道徳の関係(4)：法的パターナリズム 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
8 回	授業内容：法的三段論法 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
9 回	授業内容：言葉の構造（内包と外延） 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
10 回	授業内容：文理解釈と拡張解釈 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
11 回	授業内容：文理解釈と縮小解釈 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
12 回	授業内容：文理解釈と反対解釈 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
13 回	授業内容：文理解釈と類推解釈 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
14 回	授業内容：目的論的解釈 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
15 回	授業内容：法解釈の要請：法的安定性と具体的妥当性 事前学修：資料の該当部分参照 事後学修：授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと

◆**教科書** 特になし。レジュメを配布する。

◆**参考書** 因沼『法哲学』平野仁彦・亀本洋・服部高宏 有斐閣アルマ 2002

◆**成績評価基準** ①試験結果（50%）②授業参加度（30%）③レポート（20%）

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔行政学〕

山田 光矢

- ◆**授業概要** 人類社会の時代的な変化と、各時代の国家や地方公共団体の役割の変質を、W.W.ロストローの「take offの原理」手がかりに分析し、近世からポスト・モダンまでの国家変質と、行政需要の拡大がもたらして行政機構の肥大化と財政赤字の増大に対して、そして今後どのように対応すべきかを、行（財）政改革の実態やあるべき方向性について、行政機構改革や財政改革の実際の例を手がかりに分析していく。
- ◆**学修到達目標** 日本の行（財）政が抱える問題点と、そうした事由が発生した理由やそれへの対応策の適否を分析し、日本の行（財）政改革のあるべき方向性について自分の考えを述べられるようにする。
- ◆**授業方法** 講義形式を中心に基礎的な事項の理解を高めるとともに、項目ごとに討論や質疑応答を行い、各自の考えを確立できるように進めていく。
- ◆**履修条件** やる気さえあればその他の条件は特にありません。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：行政とはどのようなものなのかを、法律学（三権分立）と政治学（五権分立）から説明する 事前学修：行政や国家や政治といったものがどのようなものかを考えてくる 事後学修：政治学と法律学における行政に対する考え方の相違について理解する
2回	授業内容：人類の歴史と文化や文明の変化と国家・政治・行政の変質を説明する 事前学修：教科書の第1章を読んで、W.W.ロストローの「take offの原理」を軸に、人類の歴史について考えてくる 事後学修：人類の歴史と文化や文明、国家・政治・行政の時代的な変質を理解する
3回	授業内容：絶対主義王政下の政治と行政 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：イギリス、フランスの絶対主義的特質と、イギリスのエリザベス教養法を理解する
4回	授業内容：行政学前史：三十年戦争と官房学・警察学、資本主義の萌芽とシュタイン行政学 事前学修：教科書第1章と配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：官房学・警察学・シュタイン行政学の特徴を理解する
5回	授業内容：アメリカ行政学誕生の背景：アメリカ建国とジャクソニアンデモクラシー 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：アメリカの独立後の歴史とアメリカ政治の特質を理解する
6回	授業内容：アメリカ行政学の誕生と発展：W.ウィルソンとアメリカ行政学 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：W.ウィルソンの行政学の特質を整理する
7回	授業内容：アメリカ行政学の展開：官僚制擁護論と行政学 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：M.ウェーバー、フェイヨール、テラー、ギューリックらの理論を整理する
8回	授業内容：アメリカ行政学の変質：行政管理論・ホーソン実験と人間関係論 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：ホーソン実験がアメリカ行政学やアメリカ社会に与えた影響を整理する
9回	授業内容：世界大恐慌とニューディール政策とケインズ革命 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：修正資本主義が政治と行政の関係に与えた影響を整理する
10回	授業内容：行政国家と行財政改革：新自由主義・新保守主義 事前学修：配布資料の関係する部分を読んでくる 事後学修：大きな政府と小さな政府の特徴と問題点を理解する
11回	授業内容：明治維新と大日本帝国憲法下の日本の行政改革の特色と流れ 事前学修：教科書第14章の関係する部分を読んでくる 事後学修：戦前の日本の行政改革の流れを理解する
12回	授業内容：日本国憲法制定と新しい行政制度の特徴 事前学修：教科書第14章の関係する部分を読んでくる 事後学修：戦後日本の行政改革の流れを理解する
13回	授業内容：橋本行革・小泉改革・安倍内閣の行（財）政改革の特徴 事前学修：教科書第14章の関係する部分を読んでくる 事後学修：平成の行（財）政改革の特色と目的について理解する
14回	授業内容：年金制度から見てくる日本の行（財）政改革の実態と問題点 事前学修：現在の日本における年金制度の問題点を調べてくる 事後学修：年金問題から見てくる日本の行（財）政の問題点と改革のあるべき方向性を理解する
15回	授業内容：これまでの講義内容の整理 事前学修：これまでの講義の内容を整理してくる 事後学修：行政学と行政改革の関係を理解する

- ◆**教科書** 〔丸〕『政治学』吉野篤編・山田光矢他著 弘文堂
〔当日資料配布〕山田光矢著「行政改革の理論と実態」日本大学法学会編『政経研究』（41-1）
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 試験を60%、平常点を20%、小テストやレポート等を20%程度で評価する。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学史Ⅰ〕

加藤 清

- ◆**授業概要** 上代文学から中古文学までの文学の流れを概観したうえで、各時代の文学様式や作品発生と展開について講義します。
- ◆**学修到達目標** 奈良から平安までの時代を概観しながら、日本文学の歴史の変遷・展開の基礎的な知識をもつことを目標としています。また、そのような展望から、特に韻文（歌謡・和歌）を中心に各作品の特質を考察することにより、自らが興味をもつ個々の文学作品についても、それらが有する諸問題の基礎的な知識が得られるようになることを目標としています。
- ◆**授業方法** 講義形式での授業となります。文学史ではあるが、授業ではできるだけ作品にふれ講読（解釈と解説）を加えながら、その特色と変遷を考えます。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：「文学史の立場（はじめに）」。「文学史とはどのような学問であるかを考えます。各作品と時代との関わりはどのように捉えられるかについて講義します。 事前学修：国文学のおおまかな流れを確認しておくこと。 事後学修：文学史を学ぶことの意義を確認しておくこと。
2 回	授業内容：「文学史の視点」。「文学史的視点の基礎となる、「ジャンル」と「様式」について講義します。 事前学修：「韻文」「散文」の概観について確認しておくこと。 事後学修：各作品の関係性をどう捉えるか整理しておくこと。
3 回	授業内容：「ウタの発生」。「紀歌謡を参考に定型和歌以前の韻文について概観します。文学発生の諸説を理解し、文学ジャンルの展開の基礎を学びます。 事前学修：「古事記」「日本書紀」に記載されている歌謡の概観を確認しておくこと。 事後学修：
4 回	授業内容：「歌体の成立」。「定型和歌の確立とそこに内在する「叙事」と「抒情」の問題について講義します。 事前学修：定型和歌とくに「旋頭歌」の歌体について理解しておくこと。 事後学修：「景」がひろく「心」という問題について理解しておくこと。
5 回	授業内容：「文字と文学の交流」。「文字の獲得による文学の変質について考えます。口承文学から記載文学へと展開する過程の諸問題を理解し、古典文学の基礎的留意点を学びます。 事前学修：上代文学の特色として「仮名文字」以前であることを理解しておく。 事後学修：ウタを聞くことから読むことへ、その変質を整理しておくこと。
6 回	授業内容：「万葉集とその時代①」。「150 年の上代和歌の流れを概観します。和歌の変遷を、「万葉集」から具体的にとりあげて理解することにより、文学史の視点を習得します。 事前学修：「万葉集」の概観を確認しておくこと。 事後学修：時代の変遷と和歌の変遷との関係について理解しておくこと。
7 回	授業内容：「万葉集とその時代②」。「柿本人麻呂の歌を取り上げ、その時代性と特色について講義します。 事前学修：歴史事項として「壬申の乱」について調べておくこと。 事後学修：時代の要請が文学としてどう成立しているか理解しておくこと。
8 回	授業内容：「様式の展開①」。「万葉集」「風土記」のなどにみられる、国見様式の特色とその展開について講義します。 事前学修：「風土記」の概観を調べておくこと。 事後学修：「韻文」「散文」が共通する「様式」のうえにあることを確認しておくこと。
9 回	授業内容：「様式の展開②」。「万葉集」「古事記」などにみられる、英雄伝承の特色とその展開について講義します。 事前学修：「ヤマトタケル」「雄略天皇」の歴史的事項を確認しておくこと。 事後学修：作品における人物造形と「様式」の関わりについて理解しておくこと。
10 回	授業内容：「大伴家持と万葉の終焉」。「家持とその「時代思潮」にふれます。作家の個と時代という問題から、歴史と文学作品との関わりをどのように捉えるかを講義します。 事前学修：「律令制度」とはどのような歴史事項であるか調べておくこと。 事後学修：「時代思潮」と個性との相克がその後の文学史とどう関わるか理解しておくこと。
11 回	授業内容：「菅原道真と中国文学」。「国風暗黒時代」といわれる時代と漢詩文についてみます。ジャンルをこえ、作家の個と時代という問題から歴史と文学作品の関わりについて講義します。 事前学修：平安時代の文学作品の概観を調べておくこと。 事後学修：「律令制度」と漢詩文の関わりについて理解しておくこと。
12 回	授業内容：「紀貫之と古今集」。「新たな文学としての和歌の台頭とその特色について概観します。 事前学修：「勅撰和歌集」について概観を調べておくこと。 事後学修：新たな「文学思潮」の展開が平安文学にどのように関わっているかを理解します。
13 回	授業内容：「紀貫之と土佐日記」。「土佐日記」における貫之の手法とその特色について講義します。 事前学修：紀貫之の生涯について概観しておくこと。 事後学修：「土佐日記」の成立とその時代性について理解しておくこと。
14 回	授業内容：「日記文学の成立と展開」。「仮名文字の普及による「女流文学」の展開と特色について講義します。 事前学修：平安時代の女流作家の作品について概観しておくこと。 事後学修：「日記文学」の特色と「自省」という時代性について理解しておくこと。
15 回	授業内容：まとめ。試験。 事前学修：授業内容や配付資料を整理して、試験に備えておくこと。 事後学修：自身が興味を持っている文学作品に対して文学史の視点から理解すること。

- ◆**教科書** 〔当日資料配布〕プリントを配布します。
- ◆**参考書** 必要があれば紹介します。
- ◆**成績評価基準** 皆出席を前提とします。試験（100%）で評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
 ※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔かな書法〕

山本 まり子

◆**授業概要** 書・文字に関する歴史的・文化的事項について理解を深める。芸術性のみならず、実社会・実生活において活かせる書についても学び、毛筆・硬筆による実践を通して書写力の向上を図る。
中学校（国語科）の学習内容において「正しい」とされている字形、筆遣い等の確認を行った上で学校教育現場で「書写」を指導するために必要な基礎的知識・技能を学び、基礎固めを行う。

◆**学修到達目標** 1) 授業中取り上げる書・文字に関する歴史的・文化的事項、基礎知識の習得

- ① 文字・書体の誕生とその変遷
- ② 平安時代の名筆

2) 毛筆・硬筆による表現技術の習得

- ① 仮名のいわゆる単体・連綿
- ② 漢字
- ③ 漢字仮名交じり

3) 学校教育現場で「書写」を指導するために必要な基礎的知識、技能の習得

- ① 中学校の学習内容において「正しい」とされている字形・筆遣いについて
- ② 書きにくい（不安定な字形になりがちな）漢字について

◆**授業方法** 規範とされる書のいくつかを取り上げ、それを中心に講義・実践を行う。各自、指定の「提出作品」を制作する（「提出作品」の内容は担当者作成のプリントに記載）。課題の中には受講生自作の俳句の毛筆による作品化もある（自作俳句は原則、事前に＜開講前＞メールにて回収する）。授業後半には映像の鑑賞を行う。分析的、感覚的鑑賞を行い、受講生自らの言葉でそれについて説明・表現する時間も設ける。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 ガイダンス 事前学修 資料A「ガイダンスプリント」・資料C No.25 に目を通す。 事後学修 資料A「ガイダンスプリント」・資料C No.25 再読
2回	授業内容 文房四宝（筆・墨・硯・料紙）に関する基礎知識 事前学修 資料A No.1 ①に目を通す。 事後学修 資料A No.1 ①再読
3回	授業内容 仮名の「単体」 事前学修 資料A No.1 ②をもとに各自、毛筆による模写を行う。 事後学修 授業中、指摘した平安時代の書の特徴について復習を行う。
4回	授業内容 仮名の「単体」、中学「書写」学習指導要領の主旨。 事前学修 資料A No.1 ②をもとに毛筆による模写を行う。 事後学修 授業中、指摘した平安時代の書の特徴についてノートに整理し、各自定着を図る。
5回	授業内容 熨斗袋の表書き、資料A No.8（当該内容は授業中、指示する）。 事前学修 資料A No.3を手本とし、毛筆による学習を行う。 事後学修 授業中指摘した個々の字形、筆遣いの特徴について言葉で説明できるようにノートに纏め、整理する。
6回	授業内容 仮名の「連綿」 事前学修 資料A No.2（両面2枚）に目を通し、字母の確認を行う。 事後学修 授業中の解説内容（「右寄法」「省略法」、それに伴う変体仮名の書き方）について確認を行う。
7回	授業内容 和歌を書く（資料A No.5）。映像の視聴。 事前学修 資料A No.5の筆路について確認を行う。 事後学修 資料A No.5の筆路について復習を行い、要点をノートに纏める。
8回	授業内容 資料A No.5の清書を行う。資料A No.8：「正しい」字形・筆遣いについて考える。 事前学修 資料A No.5の筆路について再度復習を行う。資料B No.18に目を通す。 事後学修 資料A No.5の筆路についての復習、資料A No.8記載の「正しい」字形・筆遣いについての復習を行う。
9回	授業内容 小テスト（持ち込み不可。20分間）の実施。 事前学修 第1日目に予告する小テストに関する必要事項について確認を行う。 事後学修 授業中の指摘事項についてノートに纏める。
10回	授業内容 「散らし書き」の基礎 事前学修 自作俳句を漢字仮名交じりで書す。 事後学修 漢字仮名交じりで書した自作俳句の散らし方について再検討を行う。
11回	授業内容 漢字の書体の変遷 事前学修 資料B No.11・14に目を通す。 事後学修 授業中指摘した漢字の書体に関する基礎知識をノートに纏める。
12回	授業内容 平安時代の古筆に見られる筆遣い、上下に位置する文字の関係について。 事前学修 資料B No.17裏に目を通す。その他、粘葉本和漢朗詠集に関する基礎知識を各自得ておく。 事後学修 映像の書を指摘事項を踏まえ、再度、毛筆にて表現する。
13回	授業内容 映像の書を指摘事項を踏まえ、再度、毛筆にて表現する。 事前学修 資料B No.13に目を通す。 事後学修 資料B No.13の再読。主に「万葉仮名」「草仮名」「変体仮名」に関する説明事項を纏める。
14回	授業内容 寸松庵色紙の鑑賞と臨書 事前学修 資料A No.9、資料B No.10・No.12に目を通す。 事後学修 資料A No.9、資料B No.10・No.12の再読、及び復習。
15回	授業内容 寸松庵色紙に関する基礎知識、及び総括。 事前学修 再度、資料A No.9の筆路・作品構成、及び資料B No.10・No.12について復習を行う。 事後学修 資料B No.10・No.12の再読。

◆**教科書** **事前資料送付** 事前にプリント送付（資料A・B・Cの束に分かれている）。
書道用具一式、及び新聞紙を5枚程、各自持参されたい。それが不可能な場合は事前送付資料記載のアドレス宛に期日までにメールにて相談のこと。

◆**参考書** 丸沼『別冊太陽』191 名児耶明監修 小学館

◆**成績評価基準** 受講状況（授業中の課題への取り組み方・積極性等）50%、授業成果30%、授業内テスト20%

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語文学概説 / 英米文学概説〕 オープン受講：不可

野口 肇

- ◆**授業概要** 19 世紀末から 20 世紀にかけて、ヨーロッパから世界各地に広まった近代劇の歴史を一瞥し、その代表的な作品を取り上げます。講義の後半では、アメリカの主な劇作家の代表的な作品を取り上げます。
- ◆**学修到達目標** 英米文学を学ぶ学生として、近代劇について最低限必要と思われる作家、時代背景・及びその作品等について学んで欲しいと思います。
- ◆**授業方法** 近代劇の歴史について講義し、その後、代表的な作家の作品を取り上げます。講義の後半では、アメリカ演劇について述べます。作品のいくつかは映像で観て、そのレポートを提出していただきます。
- ◆**履修条件** 令和元年度東京スクーリング（5 月期第 1 期）「英語文学概説 / 英米文学概説」（野口肇）とは積み重ね不可。
- ◆**授業計画（各 90 分）**

1 回	授業内容：ガイダンス 近代劇について 事前学修：配布したプリントを読んでおくこと 事後学修：講義内容の復習
2 回	授業内容：近代劇の歴史 事前学修：近代劇に関する参考書を探して読んでおくこと 事後学修：講義の内容から近代劇の歴史をまとめておくこと
3 回	授業内容：ヘンリック・イブセンの人と作品 事前学修：ヘンリック・イブセンについて、予め調べておくこと 事後学修：ヘンリック・イブセンのとなりをまとめておくこと
4 回	授業内容：ヘンリック・イブセンの『人形の家』について 事前学修：ヘンリック・イブセンについての作品の一つ読んでおくこと 事後学修：ヘンリック・イブセンの作品についてまとめておくこと
5 回	授業内容：イギリス演劇について バーナード・ショー、ジョン・ゴールズワージー 事前学修：イギリス演劇について参考書を探して読んでおくこと 事後学修：イギリス演劇についてまとめておくこと
6 回	授業内容：イギリス演劇について オスカー・ワイルド 事前学修：イギリス演劇の作品の一つ読んでおくこと 事後学修：イギリス演劇についてまとめておくこと
7 回	授業内容：アメリカ演劇について 事前学修：アメリカ演劇の歴史を調べておくこと 事後学修：アメリカ演劇について興味を持ったことをまとめておくこと
8 回	授業内容：ユージン・オニールの人と作品 事前学修：ユージン・オニールについて、予め調べておくこと 事後学修：ユージン・オニールの作品の一つ読むこと
9 回	授業内容：テネシー・ウィリアムズの人と作品 事前学修：アメリカ演劇と南部の劇作家について、予め調べておくこと 事後学修：アメリカ演劇と、テネシー・ウィリアムズの関係について、考えておくこと
10 回	授業内容：テネシー・ウィリアムズの『ガラスの動物園』 事前学修：テネシー・ウィリアムズについてまとめておくこと 事後学修：テネシー・ウィリアムズの作品の一つ読んでおくこと
11 回	授業内容：テネシー・ウィリアムズの『欲望という名の電車』 事前学修：テネシー・ウィリアムズの作品に見られる南部女性のイメージについて、考えておくこと 事後学修：テネシー・ウィリアムズの世界についてまとめておくこと
12 回	授業内容：アーサー・ミラーの人と作品 事前学修：アーサー・ミラーについて、予め調べておくこと 事後学修：アーサー・ミラーの作品の一つ読むこと
13 回	授業内容：アーサー・ミラーの『セールスマンの死』 事前学修：アーサー・ミラーとその時代について調べておくこと 事後学修：アーサー・ミラーとアメリカ演劇についてまとめておくこと
14 回	授業内容：アーサー・ミラーの『みんなわが子』 事前学修：アーサー・ミラーの魅力について、予め調べておくこと 事後学修：アーサー・ミラーの現代性について、考えておくこと
15 回	授業内容：まとめ・筆記試験 事前学修：前回までの学修内容を復習しておくこと 事後学修：今まで学修した内容の復習、これからも英米文学の作品に親しんでください。

- ◆**教科書** **事前資料送付** プリント配布
- ◆**参考書** 配布したプリント参照
- ◆**成績評価基準** 試験（70%）、レポート（30%）を総合的に判断します。4 日間の出席が条件です。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

4 月 期 東 京

5 月 期 東 京

6 月 1 期 東 京

6 月 2 期 東 京

5 月 期 札 幌

5 月 期 福 岡

7 月 1 期 名古屋

7 月 2 期 大 阪

月 夜 曜 日 間

火 夜 曜 日 間

水 夜 曜 日 間

木 夜 曜 日 間

金 夜 曜 日 間

付 録

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語学特殊講義〕

山岡 洋

- ◆**授業概要** 日本の英語教育においては、従来より「5文型」が文構造理解の基本とされてきた。最近は5文型偏重の傾向は少なくなっているが、それはあくまでも、学習指導要領の改訂によるところがおおいが、この講義では、5文型がどのようなものであるのかという基本から説明を始め、5文型を十分に理解した上で、5文型の功罪について考えていく。
- ◆**学修到達目標** 英語の文構造を理解していく上で、日本の英語教育で伝統的に活用されてきた5文型の基本を理解しながら、その5文型のどこに利点があり、どこに問題があるかを理解できるようになることを目標とする。その上で、5文型の欠点を補うべく提案されている7文型を理解し、さらにその7文型の問題点もどこにあるのかを理解できるようにする。
- ◆**授業方法** 原則として、教員側からの講義の形式で行っていく。但し、教員側からできるだけ頻繁に学生側に対して疑問を投げ掛け、極力「双方向的な」授業にしていく。質問は、授業中でもしてもらいたい。素朴な質問は、質問者本人だけでなく、他の受講生、ひいては担当教員のためにもなることが多い。なお、予めテキストの該当箇所には目を通しておくこと。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容: Course Introduction: The Difference Between Word Classes and Sentence Functions 事前学修: 教科書 pp. 2-12 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 2-12 を見ながら再確認する。
2 回	授業内容: Course Introduction: Types of Sentences, Parts-of-Speech 事前学修: 教科書 pp. 65-87 と pp. 2-12 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 65-87 と pp. 2-12 を見ながら再確認する。
3 回	授業内容: Course Introduction: Sentence Patterns, Sentence Functions 事前学修: 教科書第 1 章を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 13-31 を見ながら再確認する。
4 回	授業内容: 文型の理解を定着させるための初級英文分析 事前学修: 教科書第 1 章を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書第 1 章を見ながら再確認する。
5 回	授業内容: 文型の理解を定着させるための初級英文分析 事前学修: 教科書第 1 章を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書第 1 章を見ながら再確認する。
6 回	授業内容: 文型の理解を定着させるための初級英文分析 事前学修: 第 3 回目の授業の復習と教科書第 1 章を読んでおく。 事後学修: 第 3 回目の授業の復習と教科書第 1 章を見ながら再確認する。
7 回	授業内容: 文型の理解を定着させるための初級英文分析 事前学修: 第 4 回目の授業の復習と教科書第 1 章を読んでおく。 事後学修: 第 4 回目の授業の復習と教科書第 1 章を見ながら再確認する。
8 回	授業内容: Trial Quizzes とその解説 事前学修: 第 1 回目から第 7 回目までの内容を復習し、Trial Quizzes に備える。 事後学修: Trial Quizzes で理解度を確認し、最終試験に備えて理解不十分な部分を修正する。
9 回	授業内容: 文型の理解を定着させるための中級英文分析 事前学修: 教科書第 4 章、第 5 章を読んでおく。 事後学修: 授業中の分析を、教科書第 4 章、第 5 章を見ながら再確認する。
10 回	授業内容: 文型の理解を定着させるための中級英文分析 事前学修: 第 3 回目の授業の復習と教科書 pp. 13-31 を読んでおく。 事後学修: 授業中の分析を、教科書 pp. 13-31 を見ながら再確認する。
11 回	授業内容: 文型の理解を定着させるための中級英文分析 事前学修: 第 4 回目の授業の復習と教科書第 1 章を読んでおく。 事後学修: 授業中の分析を、教科書第 1 章を見ながら再確認する。
12 回	授業内容: 総合的な文型分析 事前学修: 第 5 回目から第 11 回目までの授業の復習をしておく。 事後学修: 授業中の分析を、第 5 回目から第 11 回目までの授業の復習を見ながら再確認する。
13 回	授業内容: 理解度確認 事前学修: これまでの授業の内容を改めて見直し、特に文型分析を確認する。 事後学修: 試験に備えて、例文における文型分析を確認する。
14 回	授業内容: 最終試験とその解説 事前学修: 前回の理解度確認を改めて読み直し、新たな英文で自分の理解度を再度確認する。 事後学修: 自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。
15 回	授業内容: 最終試験の解説 事前学修: 自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。 事後学修: 授業内容を確認して、自分の単文の構造に関する理解が適切かどうかを再確認する。

- ◆**教科書** 丸沼『新英文法概説』山岡洋 開拓社 2014
〔当日資料配布〕当日配付資料あり
- ◆**参考書** 丸沼『英文法解説』江川泰一郎 金子書房 1991
丸沼『ロイヤル英文法』綿貫陽・宮川幸久・須貝猛敏・高松尚弘・マークピーターセン 改訂新版 旺文社 2001
丸沼『ジーニアス総合英語』中邑光男・山岡憲史・柏野健次 大修館 2017
丸沼『英語の文型—文型がわかれば、英語がわかる』安藤貞雄 開拓社 2008
丸沼『英文法総覧』安井稔 改訂版 開拓社 1996
- ◆**成績評価基準** 授業参加度: 20% (半日欠席につき 10 点マイナス。遅刻は 5 点マイナス)
最終試験: 80% (教科書・参考図書・ノート・電子辞書持ち込み可)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」[学生番号] および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英米文学演習 A〕

鈴木 ふさ子

◆**授業概要** イギリス19世紀末を代表するオスカー・ワイルドの*The Picture of Dorian Gray*を味わいながら、作者の生涯及びこの時代の背景や思潮についての知識を習得する。さらに、作者ワイルドが追求した「美」が作品の中でどのような形で表れているのか、グループでのディスカッションなどを通して分析・批評する。

◆**学修到達目標** イギリス19世紀末を代表するオスカー・ワイルドの*The Picture of Dorian Gray*を味わいながら、作者の生涯及びこの時代の背景や思潮についての知り、作者ワイルドが追求した「美」が作品の中でどのような形で表れているのか、分析・批評できる。

◆**授業方法** オスカー・ワイルドの*The Picture of Dorian Gray*を原文で味わい、翻訳、作品解釈、発表と批評文のまとめをしていただきます。基本的には下記授業計画に沿ってテキストの和訳、音読、作品解釈を行います。その上で、グループ発表、フロアとの議論を展開していただきます。最終的に、ワイルドという人物、19世紀末という時代背景や唯美主義、キリスト教の問題と作品の関連性についてまとめる。

◆**授業計画 (各90分)**

1回	授業内容: ガイダンス (授業の進め方・成績評価の方法の確認・発表のためのグループ分け・オスカー・ワイルドについて) 事前学修: オスカー・ワイルドについて調べる。 事後学修: 授業時にとったノートを見直し、オスカー・ワイルドについての知識を整理する。
2回	授業内容: イントロダクション (オスカー・ワイルドと19世紀末について映像やプリントを用いて解説) 事前学修: イギリスの19世紀末について調べてくる。 事後学修: 授業時にとったノートを見直し、19世紀末についての知識を整理する。
3回	授業内容: <i>The Picture of Dorian Gray</i> の"Prefais," Chapter1について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。 事前学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> の"Prefais," Chapter1について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。 事後学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> の"Prefais," Chapter1について授業時にとったノートを見直し、復習する。
4回	授業内容: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter2について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表準備 (グループごとに分かれ、作品について議論をし、発表の手順などの打ち合わせを行います。) 事前学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter2について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。 事後学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter2について授業時にとったノートを見直し、復習する。
5回	授業内容: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter3, 4について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 事前学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter3, 4について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 事後学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter3, 4について授業時にとったノートを見直し、復習する。
6回	授業内容: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter5, 6について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 事前学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter5, 6について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 事後学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter5, 6について授業時にとったノートを見直し、復習する。
7回	授業内容: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter7, 8について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 事前学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter7, 8について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 事後学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter7, 8について授業時にとったノートを見直し、復習する。
8回	授業内容: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter9, 10について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 事前学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter9, 10について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 事後学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter9, 10について授業時にとったノートを見直し、復習する。
9回	授業内容: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter11について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 事前学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter11について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 事後学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter11について授業時にとったノートを見直し、復習する。
10回	授業内容: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter12, 13について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 事前学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter12, 13について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 事後学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter12, 13について授業時にとったノートを見直し、復習する。
11回	授業内容: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter14, 15について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 事前学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter14, 15について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 事後学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter14, 15について授業時にとったノートを見直し、復習する。
12回	授業内容: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter16, 17について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 事前学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter16, 17について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 事後学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter16, 17について授業時にとったノートを見直し、復習する。
13回	授業内容: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter18, 19について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。 事前学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter18, 19について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。グループ発表の準備。 事後学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter18, 19について授業時にとったノートを見直し、復習する。
14回	授業内容: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter20について指名された方々に音読・翻訳・作品解釈をしていただく。グループ発表。作品全体について考える。全体のまとめ。 事前学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter20について辞書をひいて訳す。内容の概要を説明できるようにする。作品全体について考える。グループ発表の準備。 事後学修: <i>The Picture of Dorian Gray</i> のChapter20について授業時にとったノートを見直し、復習する。作品全体についてクラスメイトの意見を参考に、自分の考えをまとめる。
15回	授業内容: 試験と解説 事前学修: スクーリング中で学んだことを総復習し、作品全体を貫く美やキリスト教の問題について自分の意見をまとめる。 事後学修: 試験でできなかったところを確認し、作品全体をもう一度振り返り、今後の英文学とのつながりになるように周辺の文学を読む。

◆**教科書** 『*The Picture of Dorian Gray*』 Oscar Wilde Penguin

◆**参考書** 『オスカー・ワイルドの曖昧性』 鈴木ふさ子著 開文社

◆**成績評価基準** 予習・積極性 (20%)、グループ発表・ディスカッション (20%) 筆記試験 (60%)

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

4月
期 東京5月
期 東京6月
1期 東京6月
2期 東京5月
期 札幌5月
期 福岡7月
1期 名古屋7月
2期 大阪月曜
日 夜間火曜
日 夜間水曜
日 夜間木曜
日 夜間金曜
日 夜間付
録

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔哲学演習Ⅰ・Ⅱ〕

小山 英一

- ◆**授業概要** ハイデガールの『存在と時間』は哲学を学ぶ者としてぜひ読んでおきたい著作である。『存在と時間』は現代哲学、現代思想の出発点であり、源流でもある。自分の日常的なあり方とその乗り越えを考える上で、さらに自分の人生と死を考える上でも重要である。ハイデガールの独特で、難解な用語・概念を乗り越えながら理解していこう。
- ◆**学修到達目標** 現代哲学、現代思想の一つの大きな思潮であるハイデガールの考え方（『存在と時間』）の基本を理解し、自身の内に取り込み、哲学的な思考をする際の道具の一つとすることができる。ハイデガールの用語・概念を使って、自分のあり方、自分ともの（世界）との関係、自分の日常とその超克、他者のあり方、自分と他者の関係を深く考えることができるようになる。
- ◆**授業方法** 授業は演習形式。演習参加者に下記の教科書・テキストの一部をあらかじめ割り振り、担当者を定める。担当者は、指定された箇所（梗概と注解も含む）を読み、まとめ（簡単なレジュメ）と説明（発表）を行う。その後、意見交換を行う。（受講すると決めた学生は早めに、振込用紙を受け取らなくても、下記のアドレスにアクセスしてください。担当箇所をお知らせします。なお、ネットにアクセスできない人は教務課に問い合わせてください。担当箇所を指定されて発表しないと、単位は取得できません。）
・担当部分については、「担当箇所を適宜音読→レジュメ（要旨と図解）→説明・解説→自分の意見の発表→自分が司会となって全体での意見の交換」の流れを想定して学習しておくこと。
・難しいと思っても、精一杯挑戦してみてください。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容	存在の意味への問いを提示することとは。存在の問いには必然性があり、それなりの構造があり、その問いには優位性がある。 存在への問いを明示的に反復することには必然性があるとは。
	事前学修	教科書・テキストの71頁～82頁を読んでおくこと。
	事後学修	存在への問いを明示的に反復することには必然性があるかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
2回	授業内容	存在の意味への問いを提示することとは。存在の問いには必然性があり、それなりの構造があり、その問いには優位性がある(2)。 存在への問いの形式的な構造とは。
	事前学修	教科書・テキストの82頁～100頁を読んでおくこと。
	事後学修	存在への問いの形式的な構造とはどのようなものかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
3回	授業内容	存在の意味への問いを提示することとは。存在の問いには必然性があり、それなりの構造があり、その問いには優位性がある(3)。 なぜ存在への問いには存在論的な優位性があるのか。
	事前学修	教科書・テキストの100頁～111頁を読んでおくこと。
	事後学修	存在への問いに存在論的な優位性があるとはどういうことかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
4回	授業内容	存在の意味への問いを提示することとは。存在の問いには必然性があり、それなりの構造があり、その問いには優位性がある(4)。 なぜ存在への問いには存在論的な優位性もあるのか。
	事前学修	教科書・テキストの111頁～125頁を読んでおくこと。
	事後学修	存在への問いには存在論的な優位性があるとはどういうことかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
5回	授業内容	存在の問いを仕上げるさいに二重の課題があり、その探求方法とは（概略） 存在一般の意味を解釈するための地平を発掘することとは、現存在の存在論的分析に繋がることについて。
	事前学修	教科書・テキストの126頁～143頁を読んでおくこと。
	事後学修	なぜ存在一般の意味を解釈するための地平を発掘することが、現存在の存在論的分析に繋がるのかについて押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
6回	授業内容	存在の問いを仕上げるさいに二重の課題があり、その探求方法とは（概略）(2) 存在論の歴史を破壊するという課題とは。
	事前学修	教科書・テキストの143頁～171頁を読んでおくこと。
	事後学修	存在論の歴史を破壊するとはどういうことかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
7回	授業内容	存在の問いを仕上げるさいに二重の課題があり、その探求方法とは（概略）(3) 存在への問いの探究に現象学的方法を使う意義とは。
	事前学修	教科書・テキストの171頁～220頁を読んでおくこと。
	事後学修	存在への問いの探究に現象学的方法を使うにはどのような意義があるのかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
8回	授業内容	時間性へと向けて現存在を解釈することとは、また存在への問いの超越論的な地平として時間を解明することとは。そのための現存在の予備的な基礎的分析とはどのような分析か。現存在の予備的分析の課題を示すこと。そして現存在の分析論の主題とは何か。
	事前学修	教科書・テキストの221頁～238頁を読んでおくこと。
	事後学修	現存在の分析論の主題とは何かを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
9回	授業内容	時間性へと向けて現存在を解釈することとは、また存在への問いの超越論的な地平として時間を解明することとは。そのための現存在の予備的な基礎的分析とはどのような分析か。現存在の予備的分析の課題を示すこと。(2) 人間学、心理学、生物学に対して、現存在の分析論を境界づけることとは。
	事前学修	教科書・テキストの239頁～257頁を読んでおくこと。
	事後学修	人間学、心理学、生物学に対して、現存在の分析論を境界づけることとはどういうことかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
10回	授業内容	時間性へと向けて現存在を解釈することとは、また存在への問いの超越論的な地平として時間を解明することとは。そのための現存在の予備的な基礎的分析とはどのような分析か。現存在の予備的分析の課題を示すこと。(3) 実存論的分析論と未開の現存在解釈とは違うこと、「自然的世界概念」を獲得するのは困難なこと。
	事前学修	教科書・テキストの258頁～264頁を読んでおくこと。
	事後学修	どのように実存論的分析論と未開の現存在解釈とは違うのか、なぜ「自然的世界概念」を獲得するのは困難なのか、を押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
11回	授業内容	現存在の根本体制としての世界内存在一般とは何か。内存在そのものに方向づけることにもとづいて、世界内存在をあらかじめ素描するとは。
	事前学修	教科書・テキストの264頁～294頁を読んでおくこと。
	事後学修	内存在そのものに方向づけることにもとづいて、世界内存在をあらかじめ素描するとは一体どういうことか、を押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
12回	授業内容	現存在の根本体制としての世界内存在一般とは何か。(2) 或る基盤づけられた様態による、内存在を範例化とは。そこで捉えられる世界認識とは。
	事前学修	教科書・テキストの294頁～308頁を読んでおくこと。
	事後学修	内存在の範例化によって捉えられる世界認識とはどのような認識なのかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
13回	授業内容	世界が世界であることとは。そこで、世界一般の世界性の理念とは。
	事前学修	教科書・テキストの309頁～324頁を読んでおくこと。
	事後学修	世界一般の世界性の理念とはどのような理念なのかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
14回	授業内容	世界が世界であることとは。(2) 周囲世界性と世界一般とを分析するとは。周囲世界のうちで出会われる存在者の存在とは。
	事前学修	教科書・テキストの324頁～349頁を読んでおくこと。
	事後学修	周囲世界のうちで出会われる存在者の存在とはどのようなものかを押さえておくこと。該当箇所の発表者の内容を整理しておくこと。自分の見解、考えをまとめておくこと。
15回	授業内容	演習で行われた議論の理解度を測るための試験とその試験の解説をする。
	事前学修	1回から14回までの演習内容を整理しておくこと。教科書・テキストと発表者の内容を整理しておくこと。全体についての自分の見解をまとめておくこと。
	事後学修	試験を通じてハイデガールの考え方（存在論）と演習の内容を再確認し、深めること。

- ◆**教科書** 丸沼『存在と時間（一）』ハイデガー著（熊野純彦訳）岩波文庫（33-651-1）、岩波書店 2013
- ◆**参考書** 丸沼『存在と時間（二）～（四）』ハイデガー著（熊野純彦訳）岩波文庫（33-651-2,3,4）、岩波書店
丸沼『ハイデガー哲学入門「存在と時間」を読む』仲正昌樹 講談社現代新書
丸沼『ハイデガー「存在と時間」入門』轟孝夫 講談社現代新書
丸沼『文学部唯野教授・最終講義 誰にでもわかるハイデガー』筒井康隆 河出書房新社
- ◆**成績評価基準** 試験（80%）、記述式2問、発表、レジュメ作成、授業参加度（20%）により総合的に評価する。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」[学生番号] および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔史学概論〕

古川 隆久

◆**授業概要** 大学で学ぶ歴史学とは何を学べる学問なのか？高校までとどう違うのか？歴史は何の役にも立たないという人もいるが本当だろうか？大河ドラマや司馬遼太郎の小説は歴史を学ぶ手段になるのか？歴史学とは何か、歴史とは何かについて、様々な観点からの議論を通して考えていく。

◆**学修到達目標** 授業計画に示した 14 の問いについて予習してきた上で受講者の間で討論していただくことによって、歴史学の対象、方法、学問史、歴史認識についての問題の所在、歴史学や歴史の社会的役割を知り、歴史学とはどのような学問なのか、人類社会に対しどのような役割を担っているのかについて説明できるようにする。

◆**授業方法** 授業時の討論の材料として、授業計画に示した 14 の問いについて、教科書や参考書、その他自分で探した文献（インターネット情報は不可）を参考にしつつ、自分の考えと、考えた理由を、それぞれの問いごとに 200 字前後で文章にまとめてくる（準備レポート）。個々の論点についての典拠もわかるように書くこと。準備レポートは各日授業終了後回収する（例：1 日目の分は 1 日目の授業終了後に回収）ので控えをとっておくこと（試験の際に困る）。史学概論という科目の特性上、扱う事例は異なっても、全体の趣旨は前年度と同じであることに留意されたい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：歴史という言葉の意味は何か？ 事前学修：教科書、参考書、国語辞典を使って、上記の問いについて、用例（身近な例でも可）も含め 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
2 回	授業内容：歴史に興味・関心を持つ人の心理は何か？ 事前学修：教科書、参考書、その他の文献で上記の問いについて 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
3 回	授業内容：研究テーマはどうやって決めるのか？ 事前学修：教科書、参考書、その他の文献（歴史学者の著書の「あとがき」など）で上記の問いについて 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
4 回	授業内容：どのように研究するのか？ 事前学修：教科書、参考書、その他の文献で上記の問いについて 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
5 回	授業内容：歴史学の歴史から何が学べるか？ 事前学修：教科書、参考書、その他の文献で上記の問いについて 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
6 回	授業内容：歴史の「事実」と「真実」の関係は？ 事前学修：教科書、参考書、その他の文献で上記の問いについて 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
7 回	授業内容：なぜ時代を区切るのか？ 事前学修：教科書、参考書、その他の文献で上記の問いについて 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
8 回	授業内容：学校で歴史を学ぶのはなぜか？ 事前学修：教科書、参考書、その他の文献で上記の問いについて 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
9 回	授業内容：歴史小説や大河ドラマで歴史を学べるか？ 事前学修：教科書、参考書、その他の文献で上記の問いについて 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
10 回	授業内容：歴史学は学問の王様か？ 事前学修：教科書、参考書、その他の文献で上記の問いについて 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
11 回	授業内容：素人の書く歴史書はなぜダメか？ 事前学修：教科書、参考書、その他の文献で上記の問いについて 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
12 回	授業内容：歴史と歴史学、どちらが社会の役に立つ？ 事前学修：教科書、参考書、その他の文献で上記の問いについて 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
13 回	授業内容：歴史学とはどのような学問なのか？ 事前学修：前回までの事前学修や授業をふまえ、上記の問いについて 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
14 回	授業内容：歴史学や歴史とどう向き合ったらよいのか？ 事前学修：前回までの事前学修や授業をふまえ、上記の問いについて 200 字程度で考えをまとめる。 事後学修：授業での討論内容を整理して理解しておく。
15 回	授業内容：試験とその解説。試験は電子機器以外持ち込み可の論述形式で行なう。 事前学修：前回までの内容を復習しておく。 事後学修：試験についての解説をもとに足りない部分を復習する。

◆**教科書** 教材『史学概論 Q30100』 通信教育教材（教材コード 000574）

〈この本は『歴史学ってなんだ』（PHP 新書）と同じです〉

丸沼『歴史を社会に活かす』 歴史学研究会編 東京大学出版会 2017 年

◆**参考書** 丸沼『歴史的に考えるととはどういうことか』 新塚信吾・小谷汪之編著 ミネルヴァ書房 2019 年

丸沼『歴史学事典』全 16 巻 榊山紘一ほか編 弘文堂 1994～2009 年（本学図書館、公共図書館等で利用すること）

丸沼『歴史学入門』 浜林正夫・佐々木隆爾編 有斐閣 1992 年

◆**成績評価基準** 準備レポート（14 問分）、授業参画度（自発的な発言の度合い）、テスト、各 100 点満点を合算（300 点満点）して 3 で割り、100 点満点に換算して評価する。毎回出席することを前提として評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔観光事業論〕

東 徹

◆**授業概要** 今日わが国では、国の成長戦略においても、地方創生にとっても観光が重要な役割を果たすことが期待されています。2018年の訪日外国人旅行者数は3119万人、日本人の海外旅行者数は1895万人と、ともに史上最多を記録し、一見「順風満帆」に見えるものの、観光を受け入れる観光地や観光を支えるビジネスは多くの課題を抱えています。この授業では、観光および観光事業の基礎的理解を図るとともに、観光の動向をふまえながら、観光地づくりや観光ビジネスが直面する今日的課題について考えていきます。

◆**学修到達目標** 観光および観光事業とはいかなるものであり、現代社会においてどのような役割を果たすことが期待されているのかについて理解を深めるとともに、観光の最新動向をふまえながら、観光に関わる様々な事象を読み解き、問題を発見する力、さらには今日観光地づくりや観光を支えるビジネスが直面する課題について考える力を養います。

◆**授業方法** 毎回のテーマ・講義内容に関する「書き込み式のプリント」を配布し、それによって講義を行います。理解を容易にするため、随時事例を交えながら解説していきます。随時、授業内容に関するリアクションペーパー（授業内小レポート）を課すことによって授業の理解度を確認する機会を設けるとともに、毎日の授業終了後に質問・相談時間を設け、疑問の解消を図ります。

◆授業計画〔各90分〕

1回	<p>授業内容 平成時代の観光を振り返る～平成の30年で日本の観光はどう変わったのか～（◆アウトバウンド振興からインバウンド振興へ◆大規模リゾート開発から「観光まちづくり」へ）</p> <p>事前学修 各種メディアを通じて、観光に関する様々なトピックスにふれ、関心をもって授業に臨むようにしてください。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「平成時代に日本の観光がどのように変わったのか」、復習を通じて理解を深めましょう。</p>
2回	<p>授業内容 期待される観光の役割～成長戦略と地方創生～（◆日本はなぜ「観光立国」をめざすのか◆成長するインバウンド観光）</p> <p>事前学修 各種メディアを通じて、観光に関する様々なトピックスにふれ、関心をもって授業に臨むようにしてください。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「わが国の政策課題によって観光がどのような役割を果たすことが期待されているのか」、復習を通じて理解を深めましょう。</p>
3回	<p>授業内容 観光のとりえ方（◆旅行からみた観光◆休暇からみた観光◆観光の影響と効果）</p> <p>事前学修 配布資料や参考書に目を通し、様々な観光のとりえ方、観光がもたらす影響・効果について予習し、関心をもって授業に臨みましょう。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「旅行や休暇等様々な視点から見た観光のとりえ方、観光が人々の暮らしや地域の社会・経済に対してどのような影響や効果を及ぼすのか」、復習を通じて理解を深めましょう。</p>
4回	<p>授業内容 観光客の行動と心理（◆観光の動機◆観光客のタイプと心理状態）</p> <p>事前学修 配布資料や参考書に目を通し、観光客の行動と心理について予習し、関心をもって授業に臨みましょう。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「人々が観光を行う動機や観光客がおかれた心理状態等、観光行動の様々な側面について」、復習を通じて理解を深めましょう。</p>
5回	<p>授業内容 地域振興における観光の役割～なぜ観光による地域振興が求められるのか～（◆交流人口の獲得による地域振興◆外需獲得型地域経済活性化）</p> <p>事前学修 配布資料や参考書に目を通し、地域振興における観光の役割について予習し、関心をもって授業に臨みましょう。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「なぜ地域振興が求められるのか、観光が地域振興にとってどのような役割を果たすことが期待されているのか」、復習を通じて理解を深めましょう。</p>
6回	<p>授業内容 「観光まちづくり」とは（◆バブル時代のリゾート開発の問題点◆「観光まちづくり」の理念）</p> <p>事前学修 配布資料や参考書に目を通し、「観光まちづくり」という考え方や取り組みについて予習し、関心をもって授業に臨みましょう。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「観光まちづくり」という考え方や取り組みがどのような時代背景の中で形成されてきたのか、それが観光・地域振興にとってどのような意味をもつのか等」、復習を通じて理解を深めましょう。</p>
7回	<p>授業内容 観光と地域ブランド（◆地域ブランドとは◆地域ブランド構築に向けた観光の役割）</p> <p>事前学修 配布資料や参考書に目を通し、観光と地域ブランドについて予習し、関心をもって授業に臨みましょう。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「地域ブランド構築の意義、地域ブランド構築に向けて観光がどのような役割を果たすのか等」、復習を通じて理解を深めましょう。</p>
8回	<p>授業内容 観光・地域振興とDMO、地域商社の役割（◆DMOの役割◆地域商社の役割）</p> <p>事前学修 配布資料や参考書に目を通し、観光・地域振興においてDMOや地域商社の果たす役割について予習し、関心をもって授業に臨みましょう。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「観光・地域振興に向けてDMOと地域商社がどのような役割を果たすことが期待されているのか」、復習を通じて理解を深めましょう。</p>
9回	<p>授業内容 旅行業の社会的役割と諸形態（◆旅行業の存在意義◆旅行業の仕組みと業態）</p> <p>事前学修 配布資料や参考書に目を通し、旅行業が果たす社会的役割や様々な旅行ビジネス等について予習し、関心をもって授業に臨みましょう。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「旅行業の存在意義、旅行業の仕組みと様々な業態等、「旅行業」というビジネスについて」、復習を通じて理解を深めましょう。</p>
10回	<p>授業内容 旅行市場と旅行業のビジネスモデル（◆旅行市場の成長とビジネスモデルの形成◆旅行市場の質的変化（成長期から成熟期へ））</p> <p>事前学修 配布資料や参考書に目を通し、旅行市場と旅行業のビジネスモデルの変化について予習しておくとともに、様々なメディアを通じて、旅行業に関する様々なトピックスを検索し、旅行業の今日的課題について関心をもって授業に臨みましょう。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「旅行市場の成長期において形成されたビジネスモデルの特徴、成熟期を迎えた旅行市場がどのような質的変化を遂げつつあるのか等について」、復習を通じて理解を深めましょう。</p>
11回	<p>授業内容 宿泊業の展開（◆宿泊業小史◆様々な宿泊業態）</p> <p>事前学修 配布資料や参考書に目を通し、宿泊業の歴史や様々な宿泊業態について予習し、関心をもって授業に臨みましょう。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「宿泊業がどのように発達してきたのか、多様化する宿泊業態等について」、復習を通じて理解を深めましょう。</p>
12回	<p>授業内容 宿泊業の今日的課題（◆新たな宿泊サービスとしての民泊◆宿泊業の経営課題）</p> <p>事前学修 配布資料や参考書に目を通し、今日宿泊業が直面する課題について予習しておくとともに、様々なメディアを通じて、宿泊業に関する様々なトピックスにふれ、宿泊業の今日的課題について関心をもって授業に臨みましょう。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「近年注目されている民泊ビジネスをめぐる様々な問題点、今日宿泊業が直面する状況や経営課題について」、復習を通じて理解を深めましょう。</p>
13回	<p>授業内容 観光と交通ビジネス（◆交通機関による観光地キャンペーン◆LCCのビジネスモデル）</p> <p>事前学修 配布資料や参考書に目を通し、観光を支える交通機関の役割について予習しておくとともに、様々なメディアを通じて、鉄道や航空などに関する様々なトピックスにふれ、交通サービスの動向等に関心をもって授業に臨みましょう。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「観光を支える交通機関の役割をはじめ、交通機関はなぜ観光地キャンペーンに取り組みのか、近年登場してきたLCCのビジネスモデル等、観光と交通について」、復習を通じて理解を深めましょう。</p>
14回	<p>授業内容 これからの観光に向けた課題を考える（◆オーバーツーリズム◆観光を支える人材の育成等）</p> <p>事前学修 配布資料や参考書に目を通し、観光の現状と課題について予習しておくとともに、様々なメディアを通じて、観光に関する様々なトピックスにふれ、現代社会における観光のあり方について関心をもって授業に臨みましょう。</p> <p>事後学修 授業時に配布したプリントやノートを手がかりに、講義内容を振り返り、「観光の現状と様々な課題、とりわけ世界的に注目を集めている「オーバーツーリズム」あるいは「観光公害」とはどのような現象であり、何が問題なのか、これから観光を支えていく人材を育成する上でどのような課題があるのか等、今日観光が直面する課題について」、復習を通じて理解を深めるとともに、将来に向けた望ましい観光のあり方について考えてみましょう。</p>
15回	<p>授業内容 試験と解説</p> <p>事前学修 試験に臨むに当たり、授業時に配布したプリントやノートを手がかりとして、これまでの講義内容全体を振り返りながら十分に復習し、自らの理解度を確認するとともに、参考書の該当箇所目を通すなどして理解が十分でないところを補っておきましょう。</p> <p>事後学修 授業全体を振り返り、観光、観光ビジネス、観光と地域づくり等に関して得られた知識と自らの理解度を確認しておきましょう。せっかく観光について学んだのですから、今後も観光について関心を持ち続けてほしいと思います。</p>

◆**教科書** 〔当日資料配布〕プリントを配布します。

◆**参考書** 〔丸沼〕『新現代観光総論（第3版）』前田勇編著 学文社 2019年

◆**成績評価基準** 試験80%、リアクションペーパー（授業内で行う小レポート）20%

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔教育原論 / 教育の思想 A〕

宮島 健次

◆**授業概要** 周知のとおり、2020年の学習指導要領の改訂から、従来の「学校教育」が大きく変わります。しかし、そもそもなぜそのような変革が必要なのでしょう。本授業では、まずこのような問いから始め、現代教育にそのような変革が必要になった理由を、そもそも「教育」とは何か、という側面と「学校教育制度」の成立という側面から考えていくと同時に、21世紀を迎えた知識基盤社会における教育のあり方をアクティブ・ラーニングの手法を使って考えていきます。

◆**学修到達目標** 本授業の学修到達目標は以下の5点です。

- ①「教育」の本質及び目標を理解して自分のことばで説明することができる。
- ②現代教育の系譜として近代教育思想を理解して自分のことばで説明することができる。
- ③「教育」「学習」の本質的な意味を理解して自分のことばで説明することができる。
- ④「近代教育制度」の成立やその意味、影響を理解して自分のことばで説明することができる。
- ⑤以上の4点をふまえて、現代教育学科帰りの問題の本質を理解して自分のことばで説明することができる。

◆**授業方法** 授業は2部構成とします。第1部では、基本的にテキストやサブノートを活用した講義形式で授業を進めていきます。第2部は、受講生を中心としたディスカッションやグループ発表形式で授業を進めていくつもりです。ただし、受講人数によっては、多少の変更があります。それぞれ、ひとまとまりの内容を終えた後は、内容理解を深めるためにまとめレポートを課します。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容: ガイダンス、授業のテーマ・内容・方法・評価について説明する。事前学習、事後学習、質問などがある場合の連絡方法など。 事前学修: 指定教科書の精読(序章・1章・2章) 事後学修: 指定教科書の精読(3章・4章・5章)
2回	授業内容: 現代教育の課題と教育思想を学ぶ意味と課題 事前学修: 指定教科書の精読(6章・7章・8章) 事後学修: 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
3回	授業内容: 教育の思想や歴史から見た教育思想の系譜(1)古代を中心に 事前学修: 指定教科書の精読(9章・10章・11章) 事後学修: 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授業内容: 教育の思想や歴史から見た教育思想の系譜(2)中世を中心に 事前学修: 指定教科書の精読(12章・終章) 事後学修: 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
5回	授業内容: 教育の思想や歴史から見た教育思想の系譜(3)近代を中心に 事前学修: これまでに配布した資料を確認し、授業で問いかげられた「問い」について自分なりの意見や見解をもっておくこと。 事後学修: 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授業内容: 現代教育の課題(1)近代子ども観の功罪 事前学修: これまでに配布した資料を確認し、授業で問いかげられた「問い」について自分なりの意見や見解をもっておくこと。 事後学修: 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
7回	授業内容: 現代教育の課題(2)近代学校制度の功罪 事前学修: これまでに配布した資料を確認し、授業で問いかげられた「問い」について自分なりの意見や見解をもっておくこと。 事後学修: 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
8回	授業内容: 現代教育の課題(3)知識基盤社会の功罪 事前学修: これまでに配布した資料を確認し、授業で問いかげられた「問い」について自分なりの意見や見解をもっておくこと。 事後学修: 授業内容を自分なりに整理し、教科書の内容と配布資料をよく読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授業内容: グループディスカッション—現代教育の課題を紐解く(1) 事前学修: これまでに配布した資料を確認し、授業で問いかげられた「問い」について自分なりの意見や見解をもっておくこと。 事後学修: グループディスカッションを通して得られた新たな気づきを整理し、課題解決のための方策について考え、必要に応じて調査しておくこと。
10回	授業内容: グループディスカッション—現代教育の課題を紐解く(2) 事前学修: これまでのグループディスカッションで得られたグループおよび個人としての知見を整理し、さらなるディスカッションのための準備をしておくこと。 事後学修: グループディスカッションを通して得られた新たな気づきを整理し、課題解決のための方策について考え、必要に応じて調査しておくこと。
11回	授業内容: グループディスカッション—現代教育の課題を紐解く(3) 事前学修: これまでのグループディスカッションで得られたグループおよび個人としての知見を整理し、さらなるディスカッションのための準備をしておくこと。 事後学修: グループディスカッションを通して得られた新たな気づきを整理し、課題解決のための方策について考え、必要に応じて調査しておくこと。
12回	授業内容: グループディスカッション—現代教育の課題を紐解く(4) 事前学修: これまでのグループディスカッションで得られたグループおよび個人としての知見を整理し、さらなるディスカッションのための準備をしておくこと。 事後学修: グループディスカッションを通して得られた新たな気づきを整理し、課題解決のための方策について考え、必要に応じて調査しておくこと。
13回	授業内容: グループディスカッション—現代教育の課題を紐解く(5)グループ発表 事前学修: これまでのグループディスカッションで得られたグループおよび個人としての知見を整理し、クラスでの発表に備えておくこと。 事後学修: クラス発表を通して得られた気づきをふりかえり、グループおよび個人としてのさらなる課題を理解すること。
14回	授業内容: 授業の総括(1)現代教育の課題と教育思想 事前学修: これまでに配布した資料を確認し、グループ発表等を通して得られた自分なりの意見や見解を整理しておくこと。 事後学修: 授業内容を自分なりに整理し、確認・理解しておくこと。
15回	授業内容: 授業の総括(2)現代教育の課題と教育思想 事前学修: これまでに配布した資料を確認し、グループ発表等を通して得られた自分なりの意見や見解を整理しておくこと。 事後学修: 授業内容を自分なりに整理し、確認・理解しておくこと。

◆**教科書** 丸岡『教育思想のルーツを求めて—近代教育論の展開と課題』関川悦雄・北野秋男 啓明出版

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 授業への参画度(50%)、第1部まとめレポート(20%)、第2部まとめレポート(30%)により総合的に評価します。レポートの形式については、授業開始後、改めて受講生に伝えます。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔教育の方法・技術論〕

古賀 徹

◆**授業概要** この授業は、教員としての授業実践力を修得することを目的としています。授業が成り立つ条件を理解するために、先ず歴史や諸外国の実践例を学ぶことから始めます。次には「読む・書く・きく・話す」等の技能を伸ばすための技術・指導法を学び、実際に活用できるレベルへ高めていく。カリキュラム構成の基礎を身につけ、指導計画をデザインできるようになるまでがゴールです。ICT活用の学習形態についても考え深めていきます。

◆**学修到達目標** 学修者は次の事項について理解を深め、技能・指導技術を身につけることができる。①教授法の歴史の変遷を理解する。②ヴィゴツキーの「発達の最近接領域」等の最新の学習概念を理解する。③アクティブ・ラーニング形式の学習について理解し、実践するアイデアを出す。④カリキュラム構成の基礎を身につけ、学習目標に沿って学習内容・活動を展開するイメージをまとめることができる。⑤ICT活用やeラーニング等の学習形態について、その課題や可能性も含めて把握することができる。⑥教育評価の方法を身につける。①から⑥の知識・技能を身につけ、授業やカリキュラムをデザインすることができる。

◆**授業方法** 講義形式に加えて、ワークショップ形式、グループワーク、ロールプレイなどアクティブ・ラーニング型の方式をとり入れる。能動的学習の形式としては、単純グループワーク（バス学習）、ジグソー法、シミュレーション学習、プロジェクト学習、完全修得学習、模擬授業と相互評価、ウェビングを予定している。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：「教育方法」とは何か？「教える」と「学ぶ」こと。 事前学修：教職課程における学習内容（各科目）について意味を調べておく。 事後学修：学習指導要領の「ねらい」について調べ、説明文としてまとめる。
2回	授業内容：教育方法論の歴史（西洋教育方法史）。 事前学修：コメニウス、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイについて文献を読む。 事後学修：本日の学修内容についてレポート作成（次回提出）。
3回	授業内容：教育方法論の歴史（日本の教育方法・内容論の変遷）。 事前学修：日本特有の教育方法について、イメージすることを複数メモしておく。 事後学修：日本と西洋の「近代化」の関係性について、短い文章でまとめる。
4回	授業内容：新しい「学習」概念（ヴィゴツキーの活動理論と現在の学習）。 事前学修：「PISA型学力」等の新しい学力観について資料を通読しておく。 事後学修：講義で体験的学習により学んだ内容を言語化して説明文としてまとめる。
5回	授業内容：授業形態を個別化に対応させる（バス学習、T.T、完全習得学習）。 事前学修：個別の差（個人）への対応という難しさについて意見をまとめておく。 事後学修：世界各国の地域差からくる教育観の違いについて説明文を書く。
6回	授業内容：問題解決学習と系統学習。 事前学修：自身の体験的な学びについて具体例をあげ、その効果について記す。 事後学修：自身の担当科目における能動的な学習を設計する。
7回	授業内容：指導技術：「はなす」ことと「きく」こと。 事前学修：自身のキャリア教育体験について他者に説明できるようまとめておく。 事後学修：ウェビング、KJ法等の可視化技能を高めるよう自身で練習する。
8回	授業内容：「はなす・きく・かく・まとめる」（言語活動・技能の習得）。 事前学修：各科目において必須とされる技能について調べ、まとめる。 事後学修：本を数冊読み、その内容をウェビングで記す。
9回	授業内容：カリキュラム構成の方法（「ねらい」のある学習をつくる）。 事前学修：学習指導要領でカリキュラムマネジメントの箇所を読んでメモしておく。 事後学修：カリキュラム構成方法を応用して「ある学校」のプランをつくる。
10回	授業内容：シミュレーション学習、プロジェクト学習。 事前学修：学校数校のホームページ等をみてカリキュラム構成を確認しておく。 事後学修：自身の科目においてどのようにプロジェクト学習が組めるか構想する。
11回	授業内容：一時間の学習指導案を構成する。 事前学修：自身の科目ごとに自由に範囲を選び、授業を構想しておく。 事後学修：指導案（学習指導計画）を複数構想する（次回提出）。
12回	授業内容：学習実践のロールプレイ。 事前学修：一冊以上の本を読み「朝読書」指導案を考案する。 事後学修：既習のウェビング、カリキュラム、指導案を組み合わせ授業設計を行う。
13回	授業内容：ICT機器を活用した新しい学習法。 事前学修：メディア授業を試聴しレポートを用意する。 事後学修：新しい時代のメディア教材や、その功罪についてレポートをまとめる。
14回	授業内容：教材研究・教育評価の方法。 事前学修：これまでの授業内容について、自身でまとめる（授業で使用）。 事後学修：逆向きの設計から「自身の科目で習得する力」を設定。
15回	授業内容：「主体的・対話的で深い学び」の構成方法。 事前学修：最終講義の課題について、自身で資料を集め、まとめておく。 事後学修：様々な授業形態により授業をデザインできるようトレーニングを継続する。

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 丸沼 学習指導要領

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行わない。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔博物館教育論〕 オープン受講：不可

岡部 幹彦

◆**授業概要** 博物館教育の目的とその特性を理解し、基本となる理論と実践方法に関する知識と方法を修得する。これにより博物館の教育機能に関する基礎能力を養い、《学びの契機の提供》《学びのサポート》《学びのサイクルの創出》に必要な知識・能力を身につける。また、博物館教育と学校教育との関係を理解し連携事業を推進する能力を養う。博物館学芸員としての経験を活かし、内外の優れた事例を紹介するとともに博物館教育に必要なコミュニケーション能力について学び、博物館教育事業の企画力・実践力を身につける。

◆**学修到達目標** 1. 博物館教育に携わる学芸員として多様で魅力的な教育事業を企画・実践する基礎能力を身につけるとともに、あらゆる博物館事業を教育的視点から捉えることができる。2. 市民の学びをサポートするために必要なコミュニケーション能力について理解し育むことができる。3. 他の機関や組織、市民グループ等と連携して地域の学びをサポートすることを説明できる。

◆**授業方法** 毎回の授業時に資料を配付し、スライドを用いて講義形式で進行することを基本とするが、積極的な学修姿勢と理解を促すため、事前学習課題ほか適宜テーマを設けて発言を求める。博物館教育に係る映像資料や実物資料を用いて多様な視点を提供するとともに、教育事業の企画書の作成を体験する。また、各授業終了時に必要に応じ要点確認レポートの提出を求める。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：《ガイダンス》授業の進め方と留意点、博物館の定義・機能と博物館教育 事前学修：博物館の教育事業についてどのような事業が実施されているか種類の異なる館について調べておくこと 事後学修：博物館法・ICOMの定義を理解し、博物館教育の目的等について整理しておくこと
2回	授業内容：博物館教育の特質、博物館ならではの教育とは、教育・学習と自由な学び 事前学修：博物館以外の社会教育施設について調べ理解しておくこと 事後学修：博物館ならではの教育事業の事例を調べ、その概要をまとめておくこと
3回	授業内容：モノから学ぶこと モノの意味、歴史的価値・学術的価値・芸術的価値、観察と鑑賞 事前学修：観察という行為と認識について調べておくこと 事後学修：1点の有形の文化遺産を例として、これに係るモノ・コト・ヒト・環境などの要素を書き出して理解を深めること
4回	授業内容：展示と教育 展示テーマと学び、展示と資料情報の提供—内外の事例から 事前学修：博物館の展示を観覧しどのようなかたちで資料情報が提供されているか調べておくこと 事後学修：1点の資料・作品を選び、講義内容を踏まえた解説を作成すること
5回	授業内容：学びの契機の提供と学びのサポートから学びのサイクルの創出へ 事前学修：博物館と良好な関係を保ち活動する自主的な学習団体について調べ、その概要をノートに整理しておくこと 事後学修：事前学修で調べた学習団体について当該博物館が行うサポートを整理すること
6回	授業内容：学びの手法 ワークショップ本来の意味から学びの手法を考える、主体的な学びとファシリテーターの役割、気づきと気づきの共有を通じて学ぶ 事前学修：ワークショップの歴史と本来の意味を調べ理解しておくこと 事後学修：ワークショップを企画・立案し、企画書を作成すること
7回	授業内容：事例に学ぶ(1) 教育事業の企画と実践 事前学修：博物館の子ども向け教育事業について調べておくこと 事後学修：教育事業を企画する際に考慮すべき点について整理して理解すること
8回	授業内容：事例に学ぶ(2) 多様な博物館教育、ICTツールと博物館教育 事前学修：博物館のウェブ上の学習コンテンツを調べ利用すること 事後学修：事前学修で調べた学習コンテンツについて講義を踏まえて評価すること
9回	授業内容：博物館を学ぶ 博物館を学ぶプログラム、博物館リテラシー、人材育成 事前学修：博物館リテラシーについて調べておくこと 事後学修：博物館を学ぶプログラムの事例を調べ博物館機能との関係を整理し理解すること
10回	授業内容：学びとコミュニケーション、知識・情報の伝達から理解の共有へ 事前学修：「コミュニケーション能力」とは一般にどのようなものとされているか調べておくこと 事後学修：興味・関心の深化を促すためのコミュニケーションについて整理しておくこと
11回	授業内容：博物館と学校教育(1) 学校教育と博物館教育、総合的な学習の時間と博学連携 事前学修：総合的な学習の時間について各自の体験を整理し、評価しておくこと 事後学修：博物館教育と学校教育との関係を整理しておくこと
12回	授業内容：博物館と学校教育(2) 博学連携事業の現状と課題、授業科目と博物館利用 事前学修：博学連携事業について各自の経験を整理し、評価しておくこと 事後学修：講義で取り上げた事例以外の優れた博学連携事業を調べ評価すること
13回	授業内容：市民の学習活動と博物館 生涯学習と博物館 ボランティアと学び 事前学修：生涯学習の本質と意義について整理しておくこと 事後学修：学習に係わるボランティア活動の事例を調べその概要を整理し、評価すること
14回	授業内容：内外の博物館教育 社会の課題と博物館教育 事前学修：ESD（持続可能な開発のための教育）について調べておくこと 事後学修：博物館に係る1960年のユネスコ勧告について要点を整理しておくこと
15回	授業内容：まとめ 博物館教育の可能性と学芸員の果たすべき役割 【試験】 事前学修：博物館の各種事業における教育・学習要素を整理しておくこと 事後学修：講義を踏まえ博物館教育に求められる学芸員像を整理しておくこと

◆**教科書** 当日資料配布◆**参考書** 教材『博物館概論 Y20300』（教材コード00092）◆**成績評価基準** 授業への取り組み（20%）、要点確認レポート（20%）、試験（60%）

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 開講講座表及び講座内容（シラバス）

東京

5月期

日	程	授業時間	備考
5月9日	土	13:00～18:30	※日曜日は時間内に 昼休みを設けます。
5月10日	日	9:00～16:30	
5月16日	土	13:00～18:30	
5月17日	日	9:00～16:00 <試験も含む>	

※以下の5月期開講の講座から1講座を選択してください。

講座コード	開講講座名	担当講師名	単開 位数講	充 当 科 目		併 用	制 限・注 意		受 オ ー プ ン 講
				科 目 コード	科 目 名		配当 学年	受 講 条 件	
DD01	心 理 学	須永 範明	2	B12100	心 理 学		1年		
DD02	英 語 C	天 野 暁子	1	C10100	英 語 I		1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	
				C10200	英 語 II		2年		
				C10300	英 語 III				
				C10400	英 語 IV				
DD03	民 法 V	大杉 麻美	2	K30400	民 法 V		2年		
DD04	国 際 法	渡部 茂己	2	K31100	国 際 法		2年		
DD05	外 交 史	柑本 英雄	2	L30700	外 交 史		2年		
DD06	国 文 学 概 論	近藤 健史	2	M20200	国 文 学 概 論		※	・ 文学専攻（国文学）のみ1 学年以上申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申込 可。	
DD07	イギリス文学史I	野呂 有子	2	N20100	イギリス文学史I		1年		
DD08	英 語 学 概 説	真野 一雄	2	N30700	英 語 学 概 説		2年		
DD09	英 語 学 演 習 A	吉良 文孝	1	N401S0	英 語 学 演 習 I	×	3年	・ 文学専攻（英文学）のみ申 込可。 ・ I～IIIのいずれに該当させる のか充当科目コードを必ず 記入してください。	
				N402S0	英 語 学 演 習 II				
				N403S0	英 語 学 演 習 III				
DD0A	哲 学 概 論 A	齋藤 隆	2	P30300	哲 学 概 論		2年		
DD0B	日 本 史 特 講 II	八馬 朱代	2	Q30900	日 本 史 特 講 II		2年		
DD0C	経 済 地 理 学 / 経 済 地 理	清水 和明	2	R32600	経 済 地 理 学		2年	・ 法／文理／経済学部のみ申 込可。	
				S32200	経 済 地 理			・ 商学部のみ申込可。	
DD0D	証 券 市 場 論	佐藤 猛	2	S30800	証 券 市 場 論		2年		
DD0E	金 融 機 関 論	谷川 孝美	2	S311S0	金 融 機 関 論		2年		
DD0F	中 小 企 業 論	山本 篤民	2	S32700	中 小 企 業 論		2年		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講 座 コード	開講講座名	担当講師名	単開 位 数	充 当 科 目		併 用	制 限 ・ 注 意		受 オ ー プ ン 講
				科 目 コード	科 目 名		配当 学年	受 講 条 件	
DD0G	法 学 通 論 / 法 律 学 概 論 (国際法を含む)	遠 藤 清 臣	2	T22600	法 学 通 論		2 年	・ 哲学／史学専攻のみ申込可。	
				T22700	法 律 学 概 論 (国際法を含む)			・ 経済／商学部のみ申込可。	
DD0H	生徒指導・進路指導論	渡 辺 典 子	2	T30500	生徒指導・進路指導論	×	2 年	・ スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	

4 東
月 京
期5 東
月 京
期6 東
月 京
1 期6 東
月 京
2 期5 札
月 幌
期5 福
月 岡
期7 名
月 古
1 期 屋7 大
月 阪
2 期月 夜
曜 間
日火 夜
曜 間
日水 夜
曜 間
日木 夜
曜 間
日金 夜
曜 間
日付
録**注意**

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔心理学〕

須永 範明

◆**授業概要** 心理学は、人間のこころの動きを科学的に研究する学問です。この講義では、社会行動とポジティブ心理学について解説します。社会行動は、他者がいることで起こる行動や他者に働きかける行動、他者からの働きかけに応じて起こる行動です。他者がなんらかの形で関わる行動と言えます。ポジティブ心理学は幸福や心身の健康といった「よい状態」を達成し維持することを旨とする心理学の領域です。

◆**学修到達目標** 1. 社会行動について基礎的知識をいくつか説明することができる。
2. 「よい状態」を達成・維持するために重要な要因や方法をいくつか述べることができる。

◆**授業方法** もっぱら講義の形式を取ります。パワーポイントで要点をスクリーンに表示しながら、授業を進めていきます。必要に応じて補足資料を配布します。また、簡単なデモンストレーションを交えることや、ビデオを映すことがあります。随時、質問にお答えします。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 オリエンテーション 授業の内容・進め方を説明します。次に、科学である心理学の定義、特質、主たる研究領域を解説します。	事前学修 図書館やインターネットなどで、心理学がどのような学問であるか調べておいてください。	事後学修 授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、理解した内容を確認してください。
2回	授業内容 他者の存在から受ける影響 社会的促進・社会的抑制・社会的手抜きを解説します。	事前学修 社会的促進・社会的抑制・社会的手抜きについて、図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、3つの現象の特徴と差異を確認してください。
3回	授業内容 集団から受ける影響 同調という現象について解説します。	事前学修 同調について図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、同調の特徴を確認してください。
4回	授業内容 権威の影響 服従という現象について解説します。	事前学修 服従について図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、服従の特徴を確認してください。
5回	授業内容 対人認知 他者の人柄等を私たちがどのように判断するのか解説します。	事前学修 対人認知について図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、対人認知の特徴を確認してください。
6回	授業内容 原因帰属 行動の原因を私たちがどのように判断するのか解説します。	事前学修 原因帰属について図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、原因帰属の特徴を確認してください。
7回	授業内容 人間関係の形成 他者と知り合いになるうえで重要な要因について解説します。	事前学修 人間関係の形成について図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、人間関係の形成の要因を確認してください。
8回	授業内容 人間関係の深化 他者と親密になるうえで重要な要因について解説します。	事前学修 人間関係の深化について図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、人間関係の深化の要因を確認してください。
9回	授業内容 援助 他者を助けるという行動に関わる要因について解説します。	事前学修 他者を助けるという行動について図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、他者を助けるという行動の特徴を確認してください。
10回	授業内容 災害時の行動 災害に遭遇したときの行動について解説します。	事前学修 災害時の行動について図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、災害時の行動の特徴を確認してください。
11回	授業内容 ポジティブ心理学① Well-being（健康、幸福、よい状態）という概念について解説します。	事前学修 Well-being（健康、幸福、よい状態）という概念について図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、この概念がどのようなものが確認してください。
12回	授業内容 ポジティブ心理学② ストレスとは何であるか解説します。	事前学修 ストレスとは何であるかについて図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、ストレスについて確認してください。
13回	授業内容 ポジティブ心理学③ 幸福（well-being）に関わる要因について解説します。	事前学修 幸福（well-being）に関わる要因について図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、どのような要因が幸福（well-being）を高めるのが確認してください。
14回	授業内容 ポジティブ心理学④ ストレスに対処し、幸福（well-being）を高める方法について解説します。	事前学修 ストレス対処と幸福（well-being）を高める方法について図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、ストレス対処と幸福（well-being）を高める方法について確認してください。
15回	授業内容 ポジティブ心理学⑤ 最新の研究で明らかにされた幸福（well-being）を高める方法・工夫について解説します。	事前学修 幸福（well-being）を高める方法について図書館やインターネットなどで調べておいてください。	事後学修 配付資料を精読し、幸福（well-being）を高める方法・工夫について確認してください。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 丸沼『ポジティブ心理学の挑戦“幸福”から“持続的幸福”へ』マーティン・セリグマン ディスカヴァー・トゥエンティワン
丸沼『幸せを科学するー心理学からわかったこと』大石繁宏 新曜社

◆**成績評価基準** 課題（50%）と試験（50%）に基づいて評価します。課題は、1日目から3日目の最終の授業時間に課す予定です。なお、原則、毎回出席することは、成績評価の前提となります。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 C〕

天野 暁子

◆**授業概要** 優れた英文を読むことがよい英語を書くことに結びつくことを実感しながら、音読と合わせることで英語力を総合的に高めていく。比較的容易な練習問題を繰り返し学習し、基本的な英語の構造を修得することを旨とする。

◆**学修到達目標** 英語力向上の基本はリーディングです。テキストにある基本的な英単語・英文の構造を修得し、英語での表現力を高めることを目標とします。また、読む・書くことに音読を加えることでスピーキングやリスニング力も養成できるように努めていきます。

◆**授業方法** 演習授業です。基本的に2週分で1章の割合で進む予定。学習予定範囲の予習・復習を前提として、章ごとに単語小テスト、テキストの内容を基にした英作文の課題を行います。スクーリング最終日には、リーディングの英文などをグループで口頭発表できるようにします。本授業の事前・事後学習は、合わせて1時間の学習を目安とします。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容: ガイダンス・自己紹介 (進度は受講生の習熟度により調整します) 授業の進め方, 課題, 各章毎の小, または2~3章の中テスト, 評価について説明。授業の事前・事後学習時間は個人差がありますので、各自で調整して下さい。
	事前学修: 【事前学習】シラバスを熟読し、英語で自己紹介できるように準備しておく。
	事後学修: 【事後学習】テキスト学習範囲の予習, 分からない単語を調べておく。
2回	授業内容: Chap. 1-1 Fast Food: Nothing New Under the Sun! "Why" の使い方
	事前学修: 【事前学習】テキスト学習範囲の予習, 分からない単語を調べておく。
	事後学修: 【事後学習】当日の学習箇所を復習し、英文を作成する。
3回	授業内容: Chap. 1-2 Fast Food: Nothing New Under the Sun! "Why" の使い方
	事前学修: 【事前学習】テキスト学習範囲の予習, 分からない単語を調べておく。
	事後学修: 【事後学習】当日の学習箇所を復習し、英文を作成する。
4回	授業内容: Chap. 2-1 Famous Dogs, "who, whom" の使い方
	事前学修: 【事前学習】テキスト学習範囲の予習, 分からない単語を調べておく。
	事後学修: 【事後学習】当日の学習箇所を復習し、英文を作成する。
5回	授業内容: Chap. 2-2 Famous Dogs "who, whom" の使い方
	事前学修: 【事前学習】テキスト学習範囲の予習, 分からない単語を調べておく。
	事後学修: 【事後学習】当日の学習箇所を復習し、英文を作成する。小テスト準備。
6回	授業内容: Chap. 3-1 When Was it Invented? "when" の使い方, 小テスト1 (Chap. 1)
	事前学修: 【事前学習】小テスト準備。テキスト学習範囲の予習, 分からない単語を調べておく。
	事後学修: 【事後学習】当日の学習箇所を復習し、英文を作成する。
7回	授業内容: Chap. 3-2 When Was it Invented? "when" の使い方
	事前学修: 【事前学習】テキスト学習範囲の予習, 分からない単語を調べておく。
	事後学修: 【事後学習】当日の学習箇所を復習し、英文を作成する。小テスト準備。
8回	授業内容: Chap. 4-1 Never Give Up: An Anti-Bullying Song "how" の使い方, 小テスト2 (Chap. 2)
	事前学修: 【事前学習】テキスト学習範囲の予習, 分からない単語を調べておく。
	事後学修: 【事後学習】当日の学習箇所を復習し、英文を作成する。中テスト準備。
9回	授業内容: Chap. 4-2 Never Give Up: An Anti-Bullying Song "how" の使い方, 中テスト (Chap. 1~3)
	事前学修: 【事前学習】中テスト準備。テキスト学習範囲の予習, 分からない単語を調べておく。
	事後学修: 【事後学習】当日の学習箇所を復習し、英文を作成する。
10回	授業内容: Chap. 5-1 The Migration of the Monarch Butterflies "where" の使い方
	事前学修: 【事前学習】テキスト学習範囲の予習, 分からない単語を調べておく。
	事後学修: 【事後学習】当日の学習箇所を復習し、英文を作成する。
11回	授業内容: Chap. 5-2 The Migration of the Monarch Butterflies "where" の使い方
	事前学修: 【事前学習】テキスト学習範囲の予習, 分からない単語を調べておく。
	事後学修: 【事後学習】当日の学習箇所を復習し、英文を作成する。小テスト準備。
12回	授業内容: Chap. 6-1 New Food from the New World "what" の使い方, 小テスト2 (Chap. 4)
	事前学修: 【事前学習】小テスト準備。テキスト学習範囲の予習, 分からない単語を調べておく。
	事後学修: 【事後学習】当日の学習箇所を復習し、英文を作成する。最終発表の準備をする。
13回	授業内容: Chap. 6-2 New Food from the New World "what" の使い方
	事前学修: 【事前学習】テキスト学習範囲の予習, 分からない単語を調べておく。
	事後学修: 【事後学習】授業内試験の範囲の英単語, 表現を復習しておく。最終発表用の内容を確認する。
14回	授業内容: 授業内試験と解説1, 最終発表1。
	事前学修: 【事前学習】授業内試験の範囲の英単語, 表現を復習しておく。最終発表用の内容を確認する。
	事後学修: 【事後学習】授業内試験箇所, 発表内容を復習しておく。
15回	授業内容: 復習・解説2, 最終発表2。
	事前学修: 【事前学習】授業内試験箇所, 発表内容を暗唱できるようにしておく。
	事後学修: 【事後学習】これまでの学習, 発表内容を復習しておく。

◆**教科書** 丸沼『Read Well, Write Better』Joan McConnell, 武田修一他著 成美堂 2018

◆**参考書** テキストは必ず事前に準備して予習しておいてください。中型英和辞書を必ず持参してください。(電子辞書可、授業中は携帯辞書アプリの使用はできません)。その他は初回授業時に案内します。

◆**成績評価基準** 授業内最終テスト (50%), 授業参加度 (10%), 小・中テスト (20%), 発表 (10%), レポート (10%)
 授業参加度は毎回の予習・復習・英作文の課題で評価、授業内最終テストは、スクーリング最終日に行う筆記試験です。無遅刻・無欠席を前提とし、総合的に評価します。積極的な授業参加が求められます。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
 ※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔民法V〕

大杉 麻美

◆**授業概要** 家族は時代の発展とともに、様々に変容し発展を続けている。また家族を取り巻く社会事象も複雑になり、家族にかかわるルールを理解することは、家族間の紛争を未然に防止する役割も担っている。本講義では、民法第4編・第5編の「家族法」と呼ばれる分野につき、社会現象を理解するとともに、条文の構造を理解し、個別の紛争に条文がどのように適用され、どのような結果が導き出されているかにつき学ぶ。講義中では、新聞などでも取り上げられる現代的課題も取り上げ、多角的視点から家族にかかわる問題を理解することができることを目指す。

◆**学修到達目標** ・新聞等で取り上げられる家族にかかわる問題を理解し、説明することができる。
・民法第4編、第5編に規定されている条文に書かれている言葉を理解し、説明することができる。
・民法第4編、第5編に規定されている条文の内容を簡単に説明することができる。
・判例にあげられる具体的な事例の事実関係及び結論を知り、理解することができる。

◆**授業方法** 講義は、主に家族法に関する基礎的な事柄を説明した後、具体的紛争に関する事例を取り上げ解説する。また、講義内において、自ら具体的紛争に関する事例をまとめ、自らの考えを小レポートとして作成する機会を設ける。小レポートについては講義中に解説をしフィードバックをする（なお受講人数によっては授業方法が変更されることもある）。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安とする。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容: 婚約, 婚姻の形式的要件, 婚姻の実質的要件, 婚姻の効果 事前学修: 教科書「II婚姻」を事前に読み、分からない単語の意味を調べておくこと。 事後学修: 教科書「II婚姻」を再度読み返し、授業内容を理解しておくこと。
2回	授業内容: 参考書「03 配偶者の不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権（最判平成8・3・26）」を考える。 事前学修: 参考書「03 配偶者の不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権（最判平成8・3・26）」を事前に読んでおくこと。 事後学修: 参考書「03 配偶者の不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権（最判平成8・3・26）」を再度読んで、事実の概要と判旨をまとめておくこと。
3回	授業内容: 婚姻と親子関係, 認知, 生殖補助医療, 養子制度 事前学修: 教科書「III親子」を事前に読み、分からない単語の意味を調べておくこと。 事後学修: 教科書「III親子」を再度読み返し、授業内容を理解しておくこと。
4回	授業内容: 親権, 子ども虐待, 親権の喪失と制限 事前学修: 教科書「IV 親子関係の権利義務」を事前に読んで、分からない単語の意味を調べておくこと。 事後学修: 教科書「IV 親子関係の権利義務」を再度読み返し、授業内容を理解しておくこと。
5回	授業内容: 参考書「11 代理出産と親子関係（最決平成19・3・23）」を考える。 事前学修: 参考書「11 代理出産と親子関係（最決平成19・3・23）」を事前に読んでおくこと。 事後学修: 参考書「11 代理出産と親子関係（最決平成19・3・23）」を再度読んで、事実の概要と判断を理解しておくこと。
6回	授業内容: 協議離婚, 具体的離婚原因, 抽象的離婚原因, 財産分与 事前学修: 教科書「V離婚」を事前に読んで、分からない単語を調べておくこと。 事後学修: 教科書「V離婚」を再度読んで、授業内容を理解しておくこと。
7回	授業内容: 親権, 面会交流, 養育費 事前学修: 教科書「VI離婚と子ども」を事前に読んで、分からない単語を調べておくこと。 事後学修: 教科書「VI離婚と子ども」を再度読んで、授業内容を理解しておくこと。
8回	授業内容: 参考書「05 有責配偶者による離婚請求」を考える。 事前学修: 参考書「05 有責配偶者による離婚請求」を事前に読んでおくこと。 事後学修: 参考書「05 有責配偶者による離婚請求」を再度読み、事実の概要と判断につきまとめておくこと。
9回	授業内容: 老親扶養, 成年後見制度 事前学修: 教科書「VII扶養と後見」を読んで、分からない単語を事前に調べておくこと。 事後学修: 教科書「VII扶養と後見」を再度読んで、授業内容を理解しておくこと。
10回	授業内容: 相続のしくみ, 相続欠格, 相続廃除, 相続人不存在 事前学修: 教科書「IX相続の開始と相続人」を事前に読んで、分からない単語を事前に調べておくこと。 事後学修: 教科書「IX相続の開始と相続人」を再度読んで、授業内容を理解しておくこと。
11回	授業内容: 参考書「17 推定相続人の廃除（東京高決平成4・12・11）」を考える。 事前学修: 参考書「17 推定相続人の廃除（東京高決平成4・12・11）」を事前に読んでおくこと。 事後学修: 参考書「17 推定相続人の廃除（東京高決平成4・12・11）」を再度読んで、事実と判旨をまとめておくこと。
12回	授業内容: 相続財産の共有, 相続財産の管理, 相続登記 事前学修: 教科書「X相続財産の確定」を事前に読んで、分からない単語を調べておくこと。 事後学修: 教科書「X相続財産の確定」を再度読んで、授業内容を理解しておくこと。
13回	授業内容: 遺言, 遺産分割, 遺留分 事前学修: 教科書「XI遺言」を読んで、分からない単語を調べておくこと。 事後学修: 教科書「XI遺言」を再度読んで、授業内容を理解しておくこと。
14回	授業内容: 参考書「26 遺言の解釈（最判昭和58・3・18）」を考える。 事前学修: 参考書「26 遺言の解釈（最判昭和58・3・18）」を考える。 事後学修: 参考書「26 遺言の解釈（最判昭和58・3・18）」を考える。
15回	授業内容: 授業確認テストと授業の振り返り 事前学修: 授業で解説した判決を復習しておくこと。 事後学修: 教科書と条文を再度読みなおし、授業内容を理解しておくこと。

◆**教科書** 丸沼『よくわかる家族法』本澤巳代子・大杉麻美・高橋大輔・付月 ミネルヴァ書房 2014年

◆**参考書** 丸沼『民法⑥親族・相続 判例30!』青竹美佳・金子敬明・幡野弘樹 有斐閣 2017年

◆**成績評価基準** 試験（100%）。毎回出席することを前提として評価する。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国際法〕

渡部 茂己

◆**授業概要** 「国際社会」を規律する法規範としての「国際法」（国際公法）は、どのような形で存在しているのか（法源の意義と種類）、どのようにして定立されるのか（立法）、もし守らない場合にはどのような制裁を受けるのか（適用・執行）、また、国際法主体（当事者）としての国家や国際社会の裁判所である国際司法裁判所などの基本的な事項を学び、国内法や国際私法との違いを理解する。国際法や国際機構の教材や研究書や出版し本講義の教科書として用いており、国連決議・翻訳校閲チームとして決議や規則の翻訳を担当した経験も踏まえて授業を進める。

◆**学修到達目標** 「国際法」はどのような形で存在しているか（法源）、だれがどのようにして定立するのか、また、国際法の適用や執行について説明できる。そして、国際法主体としての国家や国際社会の裁判所について要点を説明できる。

◆**授業方法** 教科書や配布プリント、パワーポイントを用いた講義を中心に、課題についての小論文作成、討議も併用する。視聴覚教材も用いることがある。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：国際法（国際公法）と国際私法（国際取引における準拠法決定）、国際法の起源（および沿革）と国際私法の起源 事前学修：教科書第 1 章 5～7 頁を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
2 回	授業内容：国際法の意義・基本原理と諸分野、国際社会の特質、国内社会（の法）との違い 事前学修：教科書第 1 章 2～5 頁を読んで理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
3 回	授業内容：国際法の法源の意義と種類（形式的法源と実質的法源、条約と国際慣習法） 事前学修：教科書第 2 章を熟読する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
4 回	授業内容：国際法と国家 I（国家の成立、国家承認の理論と実際の事例） 事前学修：教科書第 3 章を精読する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
5 回	授業内容：国際法と国家 II（国家の国際交渉機関、国家の国際責任） 事前学修：教科書第 4 章、5 章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
6 回	授業内容：国家の領域、海洋法 事前学修：教科書第 6 章、7 章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
7 回	授業内容：国際公域（南極、深海底、宇宙） 事前学修：教科書第 8 章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
8 回	授業内容：国際紛争の平和的解決 事前学修：教科書第 14 章を一読する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
9 回	授業内容：国際裁判法（国際司法裁判所）、視聴覚教材 事前学修：教科書第 14 章の 202 頁以降を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
10 回	授業内容：国際安全保障（人間の安全保障、国際人道法を含む） 事前学修：教科書第 15 章を一読する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
11 回	授業内容：国家以外の国際法主体、国際法と個人 事前学修：教科書第 1 章 9 頁、第 9 章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
12 回	授業内容：基本的人権の国際的保護（国際人権法） 事前学修：教科書第 9 章に目を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
13 回	授業内容：国際法と地球環境（国際環境法） 事前学修：教科書第 10 章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
14 回	授業内容：国際法と国際経済（国際経済法） 事前学修：教科書第 11 章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。
15 回	授業内容：国際法と国際機構・国連（国際機構法と国際組織法）、条約の締結手続と効力（条約法） 事前学修：教科書第 12 章、13 章を読み理解する。 事後学修：同上の箇所およびその前後を復習する。

◆**教科書** 教材『国際法 第 2 版』通信教育教材（教材コード 000462）（市販の『国際法・第 3 版』渡部茂己・喜多義人編（弘文堂）と同じ。第 2 版でもかまいません。）

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 授業内で作成する課題についての小論文や質疑を含む授業参画度（50%）、論述試験（50%）

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔外交史〕

柑本 英雄

- ◆**授業概要** ジョセフ・ナイのテキストを使いながら、国際関係の成り立ちを歴史的に分析し、国家間の政治的関係について考察していきます。国際関係の理論を学び、国際社会の「現実」「事実」を「理論的な立場（一般化）」から分析する力を養うことを目標とする。
- ◆**学修到達目標** この授業の目的は、歴史の理解を通じて、国際社会の全体像を理解することにある。到達目標は、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。
- ◆**授業方法** PowerPointのプレゼンテーションなどを利用した講義形式を基本とする。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容	イントロダクション：なぜ国際関係理論が重要なのか
	事前学修	教科書に目を通すほか、ニュースフィード系のウェブサイトを利用して、その週の世界の主要な国際政治・経済の出来事をフォローしておく。
	事後学修	授業中に出てきた用語や内容について、理解度を確認する。
2回	授業内容	世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか？
	事前学修	「第1章 世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか？」(p.1-p.48)を、国際政治の意味を考えながら読む。
	事後学修	国際政治の意味について考える。
3回	授業内容	紛争と協調を説明する一知の技法
	事前学修	「第2章 紛争と協調を説明する一知の技法」(p.49-p.101)を、パラダイムの意味を考えながら読む。
	事後学修	国際政治のパラダイムについて考える。
4回	授業内容	ウェストファリアから第一次世界大戦まで
	事前学修	「第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで」(p.103-p.143)を、バランス・オブ・パワー・システムの意味を考えながら読む。
	事後学修	第一次世界大戦が起こった要因について考える。
5回	授業内容	集団安全保障の興亡
	事前学修	「第4章1 集団安全保障の興亡」(p.145-p.157)を、国際連盟の意味を考えながら読む。
	事後学修	集団安全保障とバランス・オブ・パワーとの違いについて考える。
6回	授業内容	第二次世界大戦の起源
	事前学修	「第4章2 第二次世界大戦の起源」(p.157-p.178)を、国際連盟の意味を考えながら読む。
	事後学修	第二次世界大戦は不可避だったのか考える。
7回	授業内容	冷戦
	事前学修	「第5章1 抑止と封じ込め」、「第5章2 冷戦を説明する」(p.179-p.201)を、封じ込めの意味を考えながら読む。
	事後学修	冷戦の歴史的意味について考える。
8回	授業内容	封じ込めの実践—ヴェトナム戦争
	事前学修	「第5章3 封じ込めの実践」、「第5章4 その後の冷戦」(p.201-p.235)を、核抑止の意味を考えながら読む。
	事後学修	国際政治における核兵器の存在について考える。
9回	授業内容	紛争の管理
	事前学修	「第6章 冷戦後の紛争と協調」(p.237-p.255)を、紛争の意味を考えながら読む。
	事後学修	現在世界で起こっている紛争について調べる。
10回	授業内容	冷戦後の軍事紛争
	事前学修	「第6章 冷戦後の紛争と協調」(p.256-p.274)を、介入の意味を考えながら読む。
	事後学修	国際法と国内法の違いについて考える。
11回	授業内容	現代における分裂と騒乱
	事前学修	「第7章 現在の引火点」(p.278-p.319)を、最近の東ヨーロッパ、中東情勢を考えながら読む。
	事後学修	最近の紛争に関する最近の新聞記事を探して読む。
12回	授業内容	アジアの引火点
	事前学修	「第7章 現在の引火点」(p.319-p.338)を、最近のアジア情勢を考えながら読む。
	事後学修	今日の世界における国家間紛争を取り上げ、その引火点や現状をまとめる。
13回	授業内容	グローバル化と相互依存
	事前学修	「第8章 グローバリゼーションと相互依存」(p.339-p.374)を、グローバル化の意味を考えながら読む。
	事後学修	グローバル化の功罪について考える。
14回	授業内容	情報革命と脱国家的主体
	事前学修	「第9章 情報革命と脱国家的主体」(p.375-p.411)を、インターネットの意味を考えながら読む。
	事後学修	情報革命が世界政治に与えた影響について考える。
15回	授業内容	未来に何を期待できるか？
	事前学修	「第10章 未来に何を期待できるか？」(p.413-p.453)を、新しい世界秩序の意味を考えながら読む。
	事後学修	今日の世界における様々な問題を整理する。

- ◆**教科書** 丸沼『国際紛争—理論と歴史』ジョセフ・ナイ 原書第10版 有斐閣 2017
- ◆**参考書** 特になし。ただし、最終試験に使用する引用文献は、各自時間をかけて用意すること。
- ◆**成績評価基準** 全15回の授業をすべて受講していること。理解度チェック問題をすべて解いていること。受講状況、理解度チェック、最終試験の総合点により評価する。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学概論〕

近藤 健史

- ◆**授業概要** 大学のある千代田区番町麹町周辺は、江戸時代の旗本屋敷の面影がわずかながら残っている。このあたりには、かつて文人たちが多く住んでいた。本講義では、テキストに登場する主な「文人」スポットと関連のある作家・作品について講義する。内容的には、国文学のさまざまなジャンルにわたって概説する。
- ◆**学修到達目標** 国文学のさまざまなジャンルの作家や作品に触れ、それぞれの文学観を身に付けることを目標とする。また、そこから各自が個々の作品と向いあったとき、作品の読解力や国文学に対する理解を深めるようになることを目標とする。
- ◆**授業方法** 講義形式を中心に行う。映像やプリントを用意して、作品の理解を深める。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：「国文学概論」について。「文人のまち番町麹町」について。 事前学修：御邸町・文人通りという土地柄について学んでおくこと。 事後学修：東京の真ん中に「幻の文人町」があったことを理解する。
2 回	授業内容：有島家をめぐる「白樺派」の文人たち 事前学修：有島家の長男、次男、四男、白樺派について学んでおくこと。 事後学修：有島邸と大正リベラリズムの関わりについて理解する。
3 回	授業内容：番町時代の泉鏡花 事前学修：泉鏡花について調べておくこと。 事後学修：番町時代の鏡花の作品を理解する。
4 回	授業内容：島崎藤村と「明治女学校」 事前学修：佐藤輔子との恋について調べておくこと。 事後学修：島崎藤村の文学や雑誌「文学界」の文学者たちを理解する。
5 回	授業内容：番町で産声をあげ武者小路実篤と女たち 事前学修：武者小路実篤について調べておくこと。 事後学修：番町時代の実篤と作品について理解する。
6 回	授業内容：麹町と樋口一葉 事前学修：樋口一葉について調べておくこと。 事後学修：番町麹町界隈と一葉の文学との関わりを理解する。
7 回	授業内容：『明星』創刊の地、番町 事前学修：与謝野鉄幹、晶子について調べておくこと。 事後学修：『明星派』の人学者と作品を理解する。
8 回	授業内容：番町麹町界隈の詩人・歌人・俳人たち 事前学修：蒲原有明、高浜虚子、島木赤彦、吉井勇などについて調べておくこと。 事後学修：番町麹町が「詩人のまち」と呼ばれたことを理解する。
9 回	授業内容：番町界隈で過ごした放蕩無頼の文人たち 事前学修：永井荷風、小山内薫、武林無想庵について調べておくこと。 事後学修：交友関係や文藝雑誌について理解する。
10 回	授業内容：国木田独歩の恋と番町麹町界隈 事前学修：国木田独歩について調べておくこと。 事後学修：恋する女性をモデルとした作品を理解する。
11 回	授業内容：吉行エイスケと内田百閒の見た番町 事前学修：吉行家の作家たち、内田百閒について調べておくこと。 事後学修：作品に記録された「戦争」などを理解する。
12 回	授業内容：岡本綺堂の描いた番町麹町の風景 事前学修：岡本綺堂について調べておくこと。 事後学修：劇作家、小説家としての魅力を理解する。
13 回	授業内容：番町麹町を愛した作家たち 事前学修：邦枝完二、坪内逍遙、寺田寅彦、大町桂月、武田麟太郎などについて調べておくこと。 事後学修：番町麹町が「文人町」たるゆえんを理解する。
14 回	授業内容：気骨ある言論人たちの住んだ町 事前学修：中江兆民、島田三郎、三宅雪嶺、平塚らいてう、山川菊栄などについて調べておくこと。 事後学修：番町麹町ゆかりの明治期における作家、ジャーナリスト、評論家、思想家を理解する。
15 回	授業内容：先進的な女性を多数輩出した「明治女学校」 事前学修：「明治女学校」の創立について調べておくこと。 事後学修：文学と関わる「明治女学校」教師と生徒たちを理解する。

- ◆**教科書** 『文人たちのまち 番町麹町』 新井巖 言視舎 2019 年
- ◆**参考書** テキストの巻末に I 「主な参考文献」がある。
- ◆**成績評価基準** 試験 80%、授業への参加回数 20%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔イギリス文学史Ⅰ〕

野呂 有子

- ◆**授業概要** 指定テキストおよび配付資料を基にしながら、教師が個々の作家と作品について、伝統と作家個人の独創性について説明する。特に個々の作家および作品の特徴的な部分を具体的に提示し、それを音読・吟味しながら理解を深める。単なる作家と作品リストの羅列としてではなく、生きた作家、と、生きた時代から「生命」を与えられて誕生した作品として捉え、その生命的躍動の流れを追うことを主眼とする。
- ◆**学修到達目標** 1. 受講学生が、『ペイオウルフ』から始まりイギリスロマン派以前に至る大きな流れの中で、伝統と作家個人の独自性および文学の独自性という観点から、個々の作家と作品について鑑賞し、理解することによって、英文学の全体像を把握し、英文学を学ぶ意義を理解し、それについて説明できる。2. 受講学生自身が興味を持つ作家や作品の位置を理解し、それについて説明できる。3. 国際共通語としての英語の母胎についての知見を深め、取得した知識と技能を運用し、中学校・高等学校における英語の授業で教鞭を取る際に、学習者が正確な発音、リズム、抑揚を身につけるように配慮しながら指導するとともに、文学の楽しさ、英語の語法に親しませる技能を取得できる。
- ◆**授業方法** ターン前半はテキストに沿いながら広く英文学の歴史の基本的知識を解説する。ターン後半は必要に応じて資料を配付して、個々の英文学作品の具体的な内容を部分的に鑑賞する。各授業の最終部で、当該授業の主要テーマに関するリアクションペーパーの提出を求める場合がある。また、その内容について後続の授業で、本人の許可を得た上で、一部公開し、疑問点などに具体的に応答するなど、フィードバックを行う場合がある。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 事前学修 事後学修	授業の進め方、オリエンテーション、英文学と英文学史の意義を説明し、その背景を解説する。導入を行う。 テキストおよび事前資料を最初から最後まで概観し、全体の流れと構成を把握しておくこと。 各自、授業内容を手書きノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いて、質問されたらすぐ答えられるようにしておくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	Chapter 1 映画『ペイオウルフ』を通して、当該作品と七王国時代について学ぶ。 テキスト第一章七王国時代を読み、必要と判断される箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出ししておくこと。自分が授業で学ぶ内容について前もって概括しておくこと。授業で行っている内容の半分はあらかじめ把握しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	映画『エクスカリバー』を通して、アーサー王伝説がイギリス文学の中で宮廷と命脈を保ち、現代のハリウッド映画やゲームにまで影響を与えていることを理解する。 テキスト第二章アーサー王を読み、必要と判断される箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出ししておくこと。自分が授業で学ぶ内容について前もって概括しておくこと。授業で行っている内容の半分はあらかじめ把握しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	1066年のノルマン・コンクエストとそれに続く、大きな英語の変容について理解し、その上で、ジェフリー・チョーサー作『カンタベリー物語』の歴史的、社会的、言語学的、市民的意義について確認する。 テキスト第二章中世前期を読み、必要と判断される箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出ししておくこと。自分が授業で学ぶ内容について前もって概括しておくこと。授業で行っている内容の半分はあらかじめ把握しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	サー・トマス・マロリー作『アーサー王の死』について学び、本作品が中世後期の、ほら戦争の中で誕生した理由について考察し、理解する。また、これまでの作品すべてを貫く『キリスト教的思想と言葉づかい』について整理する。 テキスト第二章中世後期を読み、必要と判断される箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出ししておくこと。自分が授業で学ぶ内容について前もって概括しておくこと。授業で行っている内容の半分はあらかじめ把握しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	英国で公式には、ウィクトリアより行われ、『欽定訳聖書』において、一定の決着を見る、聖書の英語翻訳の歴史について整理し、理解する。 事前配付資料の指定箇所について、指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出ししておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。 授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。テキストおよび配付された資料を読み直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	第6回目の授業を踏まえ、英国の複雑な宗教事情、すなわちカトリック→英国国教会→カトリック→英国国教会と いう大まかな図式があることを理解する。そして、その原因がヘンリー8世の離婚問題に端を発していることを理解し、 迫害と宗教的闘争の中で、スペンサー、シェイクスピア、ミルトンといった偉大な文学者が誕生してくるようになった経緯を 把握する。 テキスト第四章テューダー王朝について、ヘンリー8世からジェーン・グレイまでを読み、必要と判断される箇所をノートに転記し、 英語語彙を辞書で調べて書き出ししておくこと。自分が授業で学ぶ内容について前もって概括しておくこと。授業で行っている内容の半 分はあらかじめ把握しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	エリザベス女王の統治のもとで、優れた文人が台頭してきた事実を確認する。また、国王が女性であったことから、文学作 品にフェミニズムの要素が多く認められること、さらに、すべた女性の文学者たちが舞台の表に姿を見せた事実についても も確認する。 テキスト第四章テューダー王朝について、エリザベス一世からコラム、宗教問題と無敵艦隊の襲撃までを読み、必要と判断される箇所 をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出ししておくこと。自分が授業で学ぶ内容について前もって概括しておくこと。授業で行 っている内容の半分はあらかじめ把握しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	英語の土台となるソネット（14行詩）について学ぶ。サー・トマス・ワイアットやサレー伯、エリザベス女王、シェイク スピア作のソネットも鑑賞する。さらにその基底をなす弱強五歩脚（アイアンピック・ペンタミター）のリズムを習得する。 これが現在に至る、英語の抑揚の基本となるからである。 事前配付資料の指定箇所について、指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出ししておくこと。この作業を通して、自 分 が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。 授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。テキストおよび配付された資料を読み直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	第9回目習得した弱強五歩脚のリズムを踏まえて、シェイクスピアの劇作品について学ぶ。悲劇と喜劇、歴史劇について それぞれ一部を取り上げて鑑賞する。時間が許せば映画で作品鑑賞を行う。 テキスト第四章テューダー王朝について、シェイクスピア、コラム、シェイクスピアの生涯および、メアリー・スチュアートを読み、必要 と判断される箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出ししておくこと。自分が授業で学ぶ内容について前もって概括してお くこと。授業で行っている内容の半分はあらかじめ把握しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。 授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。テキストおよび配付された資料を読み直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	エリザベス女王亡き後の英国の政治的風土について、ジェームズ一世、チャールズ一世に焦点を当てて考察する。この風土 からジャコブ・アンドラマと呼ばれる退廃的演劇が台頭し、人心を退廃させたこと、それとは対照的に、宮廷仮面劇が隆盛 を極め、国庫を食いつぶし、やがて両者が相まってイングランド革命へと繋がっていくことを理解する。時間が許せば映像鑑 賞を行う。 事前配付資料の指定箇所について、指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出ししておくこと。この作業を通して、自 分 が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。 授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。テキストおよび配付された資料を読み直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	英国が世界に誇る、革命叙事詩人ジョン・ミルトンとその作品『楽園の喪失』を中心にイングランド革命と英国ピューリタ ニズムの本質に迫る。ここが野呂の専門であり、本領となるので、他では決して得られない授業内容が提供されるものと理 解してほしい。 テキスト第五章「17世紀から、植民地、ピューリタン革命まで」を読み、必要と判断される箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で 調べて書き出ししておくこと。自分が授業で学ぶ内容について前もって概括しておくこと。授業で行っている内容の半分はあらかじ め把握しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	英国が世界に誇る、革命叙事詩人ジョン・ミルトンと、彼が当時の国際共通語ラテン語で執筆した『イングランド国民のた めの弁護論』を中心にイングランド革命と英国ピューリタニズムの本質に迫る。ここが野呂の専門であり、本領となるので、 他では決して得られない授業内容が提供されるものと理解してほしい。 事前配付資料の指定箇所について、指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出ししておくこと。この作業を通して、自 分 が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。 授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。テキストおよび配付された資料を読み直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	王政復古から、植民地主義、英国階級制度の確立までを概観し、そうした土壌から、市民階層の教育が進み、小説が誕生し、 挿絵文化が発展したさまを理解する。 テキスト第五章「チャールズ2世、貴族の生活、コラム」「ジェントリ」と「ジェントリ」、第6章「18世紀、英国と植民地、七年 戦争、イギリス海軍、アメリカの独立」中・上流階級までを読み、必要と判断される箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べ て書き出しおくこと。自分が授業で学ぶ内容について前もって概括しておくこと。授業で行っている内容の半分はあらかじめ把握して おくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	試験および解説 授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。テキストおよび配付された資料を読み直して、授業内容を確認し理解しておくこと。 前回までの授業で学んだイギリス文学作品の歴史的文脈と内容に関して理解し、しっかりと手書きノートにまとめておくこと。 授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。自分のイギリス文学史理解が適切か否かを再確認すること。

- ◆**教科書** 丸沼『映画で楽しむイギリスの歴史』 吉田徹夫他 金星堂
【事前資料配付】 授業担当教師が事前に、本授業際して必要と判断した配付した資料を配付する。
【当日資料配付】 授業の進捗や受講学生の興味に応じて、適宜、授業担当教師が適切だと判断した資料を配付する
- ◆**参考書** 丸沼『楽園の喪失』、『楽園の回復』 関辻サムソン 新井明訳 大修館書店
丸沼『イングランド国民のための第一弁護論』および第二弁護論 新井明・野呂有子訳 聖学院大学出版会
丸沼『詩篇翻訳から「楽園の喪失」へ』 野呂有子著 富山房インターナショナル
- ◆**成績評価基準** 授業参加意識の高さ（20%）、授業時に行うミニ・リポート（20%）、最終日に行う本試験（受講学生自身による手書きノートのみ持込可。コピー類は一切不可；60%）の三点を基にして総合的に評価する。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語学概説〕

真野 一雄

- ◆**授業概要** 英語学の根幹をなす音韻論・形態論・統語論について基礎的・一般的な分野から専門的な事項まで幅広く概観します。
- ◆**学修到達目標** 英文学専攻の学生として必要な英語学の知識を修得し、英語学とは何か、音韻論・形態論・統語論とは何か、詳細に説明できるようになる。
- ◆**授業方法** テキスト本文の解説、補足説明を行います。「設問」の解答は事前に準備しておいてください。また、必要に応じて担当講師が用意する練習問題も行います。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：第1章 音韻論 1 母音と母音体系 2 子音と子音体系 事前学修：テキスト p. 1 - p. 10 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
2回	授業内容：第1章 音韻論 3 形態音素交替 4 音節とモーラ 事前学修：テキスト p. 10 - p. 17 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
3回	授業内容：第1章 音韻論 5 アクセント 6 文アクセントとイントネーション 事前学修：テキスト p. 17 - p. 28 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
4回	授業内容：第2章 形態論 1 形態論とは 2 派生形態論の主な仕組み 事前学修：テキスト p. 32 - p. 41 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
5回	授業内容：第2章 形態論 3 派生形態論のその他の仕組み 4 派生と複合に課される一般的な条件 事前学修：テキスト p. 41 - p. 56 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
6回	授業内容：第2章 形態論 5 複合名詞の意味について 事前学修：テキスト p. 56 - p. 59 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
7回	授業内容：第3章 統語論 生成文法 1 句構造 事前学修：テキスト p. 62 - p. 72 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
8回	授業内容：第3章 統語論 生成文法 2 名詞句 事前学修：テキスト p. 72 - p. 78 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
9回	授業内容：第3章 統語論 生成文法 3 移動 事前学修：テキスト p. 78 - p. 85 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
10回	授業内容：第3章 統語論 生成文法 4 生成文法の企て 事前学修：テキスト p. 85 - p. 87 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
11回	授業内容：第4章 統語論 機能的構文論 1 はじめに 事前学修：テキスト p. 90 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
12回	授業内容：第4章 統語論 機能的構文論 2 文の情報構造(1) 事前学修：テキスト p. 90 - p. 97 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
13回	授業内容：第4章 統語論 機能的構文論 2 文の情報構造(2) 事前学修：テキスト p. 97 - p. 103 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
14回	授業内容：第4章 統語論 機能的構文論 3 視点 事前学修：テキスト p. 103 - p. 115 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
15回	授業内容：試験とその解説 事前学修：1章～4章の総復習をしておく。 事後学修：1章～4章のまとめをし、理解を完璧にする。

- ◆**教科書** 教材『英語学概説 N30700』通信教育部教材（教材コード000567）
〈この本は『日英対照 英語学の基礎』（くろしお出版）と同じです〉
- ◆**参考書** 丸沼『明解言語学辞典』三省堂
丸沼『最新英語学・言語学辞用語典』開拓社
その他の英語学入門書、概説書なら何でも結構です。
- ◆**成績評価基準** 全出席を前提に、試験100%で評価の予定。（試験は途中退出なしです）

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英語学演習 A】

吉良 文孝

- ◆**授業概要** 英語法助動詞に関する基礎的な知識を身につけ、そこからさらに一歩踏み込んだ内容を、使用するテキストを熟読することによって修得します。本講座を通して、関係領域の英語学知識を修得すると同時に、英語の文献（テキスト）をしっかりと読みこなす力を養成することにもなります。
- ◆**学修到達目標** 当該領域において定評のあるテキストを熟読することによって、英語を精読することの意味合いを理解・実感するとともに、英語法助動詞の基本的、かつ重要な意味特徴を理解し、個々の法助動詞の振る舞いの違い、ならびに、法助動詞の意味体系全体における個々の法助動詞の相補的な意味役割を理解し、(人)に説明することができます。
- ◆**授業方法** 講座の冒頭、テキストの精読に役立つように英語法助動詞の意味特徴についての俯瞰的な話をします。そのあとで、G. Leech 著の *Meaning and the English Verb* を輪読します。アトランダムに指名しますので、指名された人は音読のあと、和訳をします（なお、和訳は、紙に書いておくことをお勧めします）。それに続いて、教員が内容の確認、解説をします。具体的には、テキストの第5章「英語法助動詞」(p. 72) から読み進めていきます。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容: 授業の進め方・オリエンテーション。 事前学修: § 114 の第 1 段落を熟読する。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
2 回	授業内容: 英語法助動詞の意味特徴(1)—J. Coates (1983) の「曖昧集合理論」について。 事前学修: § 114 の第 1 段落以降を熟読する。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
3 回	授業内容: 英語法助動詞の意味特徴(2)—E. Stweetser (1990) の「比喩的写像」について。 事前学修: § 114 の第 1 段落以降 (最後まで) を熟読する。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
4 回	授業内容: 英語法助動詞の意味特徴(3)—英語法助動詞の意味的相補分布について。 事前学修: § 114 の最後までを熟読する。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
5 回	授業内容: Can (1)— possibility 事前学修: § 115A の熟読。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
6 回	授業内容: Can (2)— ability 事前学修: § 115B の熟読。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
7 回	授業内容: Can (3)— permission 事前学修: § 115C の熟読。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
8 回	授業内容: May (1)— possibility 事前学修: § 116A の熟読。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
9 回	授業内容: May (2)— permission 事前学修: § 116B の熟読。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
10 回	授業内容: May (3)— quasi-subjunctive uses 事前学修: § 116C の熟読。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
11 回	授業内容: Must (1)— obligation/requirement 事前学修: § 117A/B の熟読。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
12 回	授業内容: Must (2)— logical necessity 事前学修: § 117C の熟読。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
13 回	授業内容: Have to (1)— obligation/requirement 事前学修: § 118A/B の熟読。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
14 回	授業内容: Have to (2)— logical necessity 事前学修: § 118C の熟読。 事後学修: 授業内容を整理し、自らのことばでそれを説明解説できるようにする。
15 回	授業内容: 試験、及びその解説。 事前学修: 学修内容全体を整理・暗記し、試験に備える。 事後学修: 試験解説による自身の学修度の再確認。

- ◆**教科書** 丸沼『Meaning and the English Verb』(第3版) G. Leech 著・澤田治美注訳 ひつじ書房 2004 年
- ◆**参考書** 丸沼『英文法解説 (改訂3版)』江川泰一郎著 金子書房 1991 年
- ◆**成績評価基準** 試験 (60%)、授業への参画度 (40%) により総合的に判断します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔哲学概論 A〕

齋藤 隆

- ◆**授業概要** 古代・中世の哲学者たちの思想を、存在論を中心に分かりやすく解説する。日本神話を例にとりミュートス的思考の特徴を理解する。それとある意味対照的なロゴス的思考の二つの形態、哲学と科学について、その異同を理解する。そのあとでソクラテス、プラトン、アリストテレスを中心に西洋古代哲学の展開を学び、さらにアウグスティヌス、トマス・アクイナスの偉大な中世哲学の体系の理解に努める。
- ◆**学修到達目標** 古代・中世の哲学者たちの思想を学ぶことにより、「哲学とは何か」を自分なりに感じ取り、その歴史的展開や体系的理解など、より一層の学習の旅を始める縁（よすが）となることを目指す。初めて哲学を学ぶ学生にとっては分かりにくい学術用語が多いと思われるが、何度も関連文献を読むことによって必ず理解の光が差し込んでくることを信じて努力してもらいたい。
- ◆**授業方法** テキストと印刷物を用いて、講義中心に授業を進める予定である。疑問や質問にはできるだけその場で答えるつもりであるが、それにはまずテキストと印刷物の当該箇所を読んだうえでの質問であることが望ましい。どの科目の学問を学ぶことにも共通なことであるが、予習復習は必要不可欠である。本授業の事前学習・事後学習の時間はそれぞれ1～2時間を目安としてください。
- ◆**履修条件** 平成30年と令和元年の5月の「東京スクーリング」の「哲学概論」との積み重ね不可。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ミュートスからロゴスへ、日本神話 事前学修：事前送付の印刷物の当該箇所を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
2回	授業内容：哲学以前 事前学修：事前送付の印刷物の当該箇所を2～3回読む。疑問点を確認する。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
3回	授業内容：ソクラテス以前の哲学者たちの思想(1) 事前学修：テキストのP.13～18を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
4回	授業内容：ソクラテス以前の哲学者たちの思想(2) 事前学修：テキストのP.19～23を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
5回	授業内容：ソクラテスとソフィストの思想 事前学修：テキストのP.24、P.96～99を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
6回	授業内容：プラトンの思想(1) アイデア論 事前学修：テキストのP.25～31を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
7回	授業内容：プラトンの思想(2) 倫理思想・理想国家論 事前学修：テキストのP.187～188を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
8回	授業内容：アリストテレスの思想(1) 存在論 事前学修：テキストのP.32～39を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
9回	授業内容：アリストテレスの思想(2) 学問の分類・倫理思想 事前学修：テキストのP.100～102、P.189～190を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
10回	授業内容：ヘレニズム期の哲学と新プラトン学派 事前学修：テキストのP.193～199を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
11回	授業内容：キリスト教と前期教父の思想 事前学修：テキストのP.42～46、P.200～204を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
12回	授業内容：アウグスティヌスの思想 事前学修：テキストのP.47～48、P.106～107を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
13回	授業内容：前期スコラの哲学者たちの思想 事前学修：テキストのP.49～52を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
14回	授業内容：トマス・アクイナスの思想 事前学修：テキストのP.53～56、P.108～109を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
15回	授業内容：存在論・形而上学についての概論的説明 事前学修：事前送付の印刷物の当該箇所を2～3回読む。 事後学修：講義ノートを見ながら授業内容を確認する。

- ◆**教科書** 教材『哲学 B10700』通信教育教材(教材コード000404)
事前資料送付 事前配布資料
- ◆**参考書** 丸沼『西洋古代・中世哲学史』
丸沼 岩波文庫の関連図書
- ◆**成績評価基準** 全出席を前提とし、最終回に行う試験によって判断する。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本史特講Ⅱ〕

八馬 朱代

- ◆**授業概要** 9～11世紀における天皇・貴族の神祇信仰について、石清水八幡宮を中心に考察し、政治と宗教との関わりについて説明していく。八幡神は古代・中世にかけて伊勢神宮と並び「宗廟」と称され、天皇・貴族・武士の人々に信仰された神社である。日本固有の神祇信仰が平安時代において、どのような役割を果たし、崇敬されたのかについて解説していく。平安時代の国家と神祇信仰の関係について説明できることを目標とする。
- ◆**学修到達目標** 平安時代中期は主に摂関政治が行われていた時代とされ、摂政・関白をつとめた藤原氏が主体として政治史が語られることが多いが、この時期の天皇と摂関がどのような関係性であったのか、皇位継承問題や宗教と政治との関わりを見ることで学んでいく。この時期の天皇と摂関との関係、国家と宗教との関係について知り、説明することができる。
- ◆**授業方法** 配布したプリントを使用して講義を行います。適宜、授業で史料を読むので、史料の読み方を学んでもらいたい。また、授業で参考文献や史料を紹介するので、各自、図書館で手にとってみるように心がけてください。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容	授業の進め方、オリエンテーション・平安時代の政治と宗教との関係について考える。 最初に授業の進め方を説明し、次に神社と寺院との関係や政治と宗教との関わりについて説明する。
	事前学修	平安時代の政治史について高校日本史程度の知識を持っておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
2回	授業内容	文徳天皇の皇位継承について 文徳天皇の後継についてどのような問題があったのかを考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	授業内容や当該期の人間関係をノートに整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
3回	授業内容	石清水八幡宮の創立について 八幡信仰や石清水八幡宮の創立と皇位継承問題との関わりについて考える。
	事前学修	八幡信仰について辞書等で調べておくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。
4回	授業内容	神祇制度の変質について 平安時代の国家祭祀としての神祇信仰について考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、ノートを整理しておくこと。授業内でわからない用語は辞書等で調べておくこと。
5回	授業内容	御霊信仰について 平安時代に度々行われた御霊会などについて、当時の人々の信仰について考える。
	事前学修	辞書等で御霊信仰について調べておくこと。配布資料を読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。
6回	授業内容	承平・天慶の乱と石清水八幡宮について 承平・天慶の乱について説明し、内乱に対して朝廷がどのような対応したのかを考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。辞書等で承平・天慶の乱について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
7回	授業内容	10世紀の皇位継承について 当該期の天皇と藤原氏との関係や皇位継承、摂関政治について考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。辞書等で当該期の人物について調べておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
8回	授業内容	円融天皇と石清水八幡宮について 円融天皇の皇位継承問題と石清水八幡宮への信仰について考える。
	事前学修	配布資料と『日本の歴史』などの概説書の平安時代の部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。
9回	授業内容	一条天皇と石清水八幡宮について 一条天皇の行った神社行幸と一条天皇と藤原氏との関係について考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。辞書等で当該期の人物について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
10回	授業内容	藤原氏の神祇信仰について 皇位継承と深い関わりのある藤原氏がどのような神社を信仰し、それが国家祭祀へ編入されることについて考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。辞書等で春日社や大原野社、北野社について調べておくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、ノートを整理しておくこと。授業内でわからない用語は辞書等で調べておくこと。
11回	授業内容	女院の石清水八幡宮・住吉社・四天王寺行啓について 一条天皇の生母の東三条院、後一条、後朱雀天皇の生母上東門院の神社行啓について考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。辞書等で当該期の人物について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
12回	授業内容	後一条天皇以降の皇位継承について 後一条天皇以降の皇位継承について、天皇家と藤原氏との関係を踏まえて考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
13回	授業内容	白河天皇の即位と石清水八幡宮について 白河天皇の即位とその後の皇位継承について、白河天皇の石清水八幡宮・賀茂社への信仰について考える。
	事前学修	配布資料と『日本の歴史』などの概説書の院政期の部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。
14回	授業内容	理解度の確認
	事前学修	配布した資料を熟読し、重要な部分についてノートをまとめておくこと。
	事後学修	要点を再確認し、授業内容をノートに整理しておくこと。
15回	授業内容	試験及び解説
	事前学修	前回の授業で指摘した部分をノートにまとめておくこと。
	事後学修	授業内容を確認して、試験の内容についてプリントやノートで再確認しておくこと。

◆教科書 〔当日資料配布〕

◆参考書 授業中に適宜紹介します。

◆成績評価基準 最終試験 70%、平常点・小テスト 30% ※毎回出席することを前提として、総合的に評価します。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済地理学 / 経済地理〕

清水 和明

◆**授業概要** 経済地理学は、地表面上のあらゆる経済現象の地理的な広がりを対象とする学問である。本授業では、経済地理学の研究領域の中でも産業立地に関する領域を扱う。とくに、古典的な立地論を取り上げ、その特徴について理解を深めるとともに、現実世界への適用可能性について検討していく。また、特定の産業や地域を事例に、経済現象の地理的な差異が生じる要因について解説する。

◆**学習到達目標** 経済地理学の研究領域について理解を深め、その学問的な意義を専門用語を駆使して説明できるようになる。古典的な立地論の特徴について、自らの言葉で説明できるようになる。産業立地に関わる理論を応用して、現実の産業立地の要因を考察できるようになる。

◆**授業方法** 教科書の内容に基づいて、講義形式で進める。パソコンのプレゼンテーションソフトを利用する。随時、受講者に質問を行うとともに、理解度を確認するための小テストを実施する。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容 経済地理学とはどのような学問か 授業の進め方を説明する。近代地理学の歴史を説明し、経済地理学が登場した背景を解説する。合わせて、各時代の経済地理学の潮流についても解説する。	事前学修 テキストを一読し、経済地理学が対象とする領域について大まかな知識を得ておくこと。	事後学修 授業の内容をノートに整理するとともに、配布資料を読み直し、経済地理学が対象とする領域を理解しておくこと。
2 回	授業内容 農業立地の理論と実際(1)チューネンの農業立地論の概要 産業立地論の基礎をなすチューネンの農業立地論の概要について、「経済地代」の概念を中心に解説する。	事前学修 テキストの該当箇所を読み、チューネンの農業立地論が登場する背景（特にヨーロッパ農業の展開過程）を把握しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、チューネンの農業立地論の特徴を整理しておくこと。
3 回	授業内容 農業立地の理論と実際(2)チューネンの農業立地論の意義と応用 チューネンの農業立地論の学問的な意義について解説する。合わせて、現実の農業立地を理解するにあたっての有効性と限界についても説明する。	事前学修 前回の授業のノートを確認し、いわゆる「チューネン圏」の成立に関わる要点を整理しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、農業立地に関する理論の長所と短所を整理しておくこと。
4 回	授業内容 農業立地の理論と実際(3)日本の農業の地域的な展開 第二次大戦後の日本農業がいかに展開してきたのか農業政策の変遷を踏まえて説明する。また、具体的な事例として、特定の農産物産地を取り上げ、近年の動向および課題を解説する。	事前学修 日本の農業に関する最近の動向について情報収集しておくこと。	事後学修 任意の農産物産地を対象に、その現状と課題を調べること。
5 回	授業内容 農業立地の理論と実際(4)アグリビジネスと地域（小テスト含む） アグリビジネスの特徴について説明する。その上で、特定の企業の行動が地域に及ぼす影響を与えたのか解説する。	事前学修 「食」や「農」に関わる企業について情報収集しておくこと。	事後学修 任意のアグリビジネスを対象に、その地理的な展開を調べること。
6 回	授業内容 工業立地の理論と実際(1)ウェーバーの工業立地論の概要とその意義 ウェーバーの工業立地論について、「輸送費指向論」、「労働費指向論」、「工業集積論」を中心に解説する。	事前学修 チューネンの農業立地論の概要を整理するとともに、農業と工業の違いを整理しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、ウェーバーの工業立地論の特徴を整理しておくこと。
7 回	授業内容 工業立地の理論と実際(2)ウェーバーの工業立地論の適用事例 ウェーバーの工業立地論の現実への適用事例について解説する。	事前学修 前回の授業のノートを確認し、ウェーバーの工業立地論の特徴を整理しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、ウェーバーの工業立地論の長所と短所を整理しておくこと。
8 回	授業内容 工業立地の理論と実際(3)日本の工業立地の変化 第二次大戦後の日本工業がいかに展開してきたのか、具体的な工業地域を事例に解説する。	事前学修 日本の主要な工業地域についてその位置および各地域の特徴的な部門を調べておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、日本の主要な工業地域の特徴を整理しておくこと。
9 回	授業内容 工業立地の理論と実際(4)企業内地域間分業構造の展開 企業内の分業構造について解説した上で、地域への影響を具体的な事例を交えつつ説明する。	事前学修 高度経済成長期を通してみられた地域問題（都市・農村に関する問題）について情報収集しておくこと。	事後学修 大企業の工場が進出した任意の地域を対象に、工場の進出によって生じた効果および問題を調べておくこと。
10 回	授業内容 産業立地に関する理論と実際(5)立地調整と地域（小テスト含む） 企業が事業展開を行っていく上で行う施設・機能の新設または再編がいかなる理由の下で展開しているのか、具体的な事例を踏まえて解説する。	事前学修 工業立地に関わる授業で取り上げた諸概念について整理しておくこと。	事後学修 任意の企業を対象に、1980年代から今日に至るまでの立地調整の展開を調べておくこと。
11 回	授業内容 中心地の立地理論とその応用(1)クリスタラーの中心地理論の概要とその意義 中心地理論の概要について「財の到達範囲」の概念を中心に解説する。都市の立地や階層性についても解説する。	事前学修 テキストの該当箇所を読み、中心地理論に関わるキーワードを整理しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料の内容を確認し、中心地理論の特徴を整理しておくこと。
12 回	授業内容 中心地の立地理論とその応用(2)中心地理論に関する実証的研究 中心地理論が現実の経済活動を説明できることを小売業・サービス業を事例に解説する。	事前学修 中心地理論の重要なポイントをノートに要約しておくこと。	事後学修 任意の小売業・サービス業を対象に、店舗立地の特徴を調べておくこと。
13 回	授業内容 オフィス立地の理論と実際 オフィス立地に関する理論について説明する。企業の本社立地が特定の地域に集中する理由について解説する。	事前学修 テキストの該当箇所を読んでおくこと。授業の終了が近いので、これまでの授業内容を再確認しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料の内容を確認し、オフィス立地の特徴を整理しておくこと。
14 回	授業内容 授業のまとめと理解度の確認 これまでの授業で扱った内容を熟読し、重要な点をノートに要約しておくこと。	事前学修 テキストと配布資料を利用して、授業で扱った内容を整理しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、授業で扱った内容を整理しておくこと。
15 回	授業内容 試験および解説 これまでの授業で扱った内容を熟読し、重要な点をノートに要約しておくこと。	事前学修 これまでの授業で扱った内容を熟読し、重要な点をノートに要約しておくこと。	事後学修 授業の内容を確認・理解し、経済地理学とはどのような学問か、再確認すること。

◆**教科書** 丸沼『新版 地域と産業—経済地理学の基礎—』富田和暁著 原書房 2006年
〔当日資料配布〕必要に応じて配布する。

◆**参考書** 丸沼『日本経済地理読本 第9版』竹内淳彦・小田宏信編著 東洋経済新報社 2014年
丸沼『新版 経済地理学入門—地域の経済発展—』山本健児著 原書房 2005年
丸沼『現代の立地論』松原宏編著 古今書院 2013年
丸沼『キーワードで読む経済地理学』経済地理学会編 原書房 2018年
丸沼『経済地理学キーコンセプト』青山裕子・ジェームズ・T・マーフィー・スーザン・ハンソン著 小田宏信・加藤秋人・遠藤貴美子・小室謙訳 古今書院 2014年

◆**成績評価基準** 試験の結果（70%）、授業内を行う課題の結果（30%）。毎時間出席することを前提として評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔証券市場論〕

佐藤 猛

- ◆**授業概要** 授業は証券市場の金融プレーヤー（家計、政府（国債）、企業）を視点に、各プレーヤーの証券理論と証券市場の状況を説明する。家計ではポートフォリオ、政府では債券と為替、企業ではエージェンシー理論を中心に講義する。特に上場制度は実務観点から講義する。
- ◆**学修到達目標** 日本経済新聞及び週刊経済誌（週刊エコノミスト、週刊ダイヤモンド、週刊東洋経済）内容を各プレーヤーの立場から理解できるようにする。また投資判断（特に企業価値－株価）として会社四季報が理解できるようにする。
- ◆**授業方法** パワーポイントで授業を行う。必要に応じて練習問題を行う。また大きなテーマ（または各日の）終了時にはコメントを提出してもらいます。事前学修では教科書または参考書を利用してください。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：総論：証券市場－発行市場と金融プレーヤー 事前学修：教科書：43－58 頁、113－115 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：金融プレーヤーについて図で整理しよう。
2 回	授業内容：総論：リスクとリターン 事前学修：教科書：107－109 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：リスクとリターンの3つの類型で復習しよう
3 回	授業内容：総論：証券の種類 事前学修：教科書：29－38 頁、86－87 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：各証券の特徴を整理しよう
4 回	授業内容：家計：日米のポートフォリオ比較 事前学修：教科書：123－125 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：日米のポートフォリオを比較してまとめよう
5 回	授業内容：家計：運用委託 ファンド（ヘッジ+ベンション） 事前学修：教科書：39－42 頁、63－67 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：証券市場のファンドの位置づけを整理しよう
6 回	授業内容：政府：債券（国債）のファンダメンタルズ 事前学修：教科書：91－95 頁、116－117 頁、121－123 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：債券の格付けを理解しよう
7 回	授業内容：政府：国債（財政）とユーロ問題 事前学修：EU の歴史を調べておこう 事後学修：ユーロ問題の要点を整理しよう
8 回	授業内容：企業：上場企業 事前学修：企業の歴史を事前に調べておこう 事後学修：ダウ工業株 30 種の上場企業名を調べよう。
9 回	授業内容：企業：上場システム（+コーポレート・ガバナンス） 事前学修：教科書：83－85 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：コーポレート・ガバナンス・コードの事例を調べよう
10 回	授業内容：企業：ベンチャー企業（IPO-リクルート問題） 事前学修：具体的なベンチャー企業について調べておこう 事後学修：最近上場した IPO を調べよう
11 回	授業内容：企業：株価指数（最適ポートフォリオ）CAPM 事前学修：教科書：155－158 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：CAPM の計算問題を解こう
12 回	授業内容：企業：株式のファンダメンタルズ 事前学修：教科書：88－90 頁、95－98 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：理論株価の計算問題を解こう
13 回	授業内容：企業：企業価値の増殖（財務戦略） 事前学修：教科書：113－115 頁を事前に読んでおくこと 事後学修：CAR についてその構造を復習しよう
14 回	授業内容：企業：企業価値の増殖（経営戦略） 事前学修：ペプレンの暖簾とシュンペーターのイノベーションの概念を調べておこう 事後学修：企業価値の増殖の経営戦略を体系化しよう
15 回	授業内容：総復習 事前学修：いままでの配布資料から不明の点をピックアップしておこう 事後学修：発行市場と金融プレーヤーから日本の証券市場の特徴を整理しよう

- ◆**教科書** 教材『証券市場論 0829』通信教育教材（教材コード 000185）
- ◆**参考書** 丸沼『証券理論の新体系』税務経理協会（授業中は使用しないが事前学修には参考になる。キンドル版利用可能）。その他の参考書でも可。
- ◆**成績評価基準** 授業内小テスト（コメント）4回（各 25 点）

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔金融機関論〕

谷川 孝美

◆**授業概要** 金融取引が行われる金融市場では、銀行などの金融機関が重要な役割を果たしています。この講義では金融機関の役割、機能などに焦点をあて、金融取引およびその基礎理論等を解説します。具体的には貨幣の機能、金利などの金融論の基礎および金融機関の基本的な機能などを概説します。さらに、フィンテックなどの技術革新や規制緩和などの環境変化が金融機関に与える影響などを考察することで、金融機関、金融制度の今後を考える基礎を養うことを目的としています。なお、この講義では金融論の基礎を理解していることが望ましい。

◆**学修到達目標** 日常生活では決済、貯蓄や投資、借入等の金融取引が行われています。決済や金融取引には銀行、証券会社等の多様な金融機関が関係しています。また、近年では、フィンテック等の技術革新など金融機関の環境が変化しています。金融機関論では、以上を踏まえ次のことを目標とします。

1. 貨幣の定義、金利等の金融の基本的な事柄などを学び、説明できるようになる。
2. 銀行、証券会社等の金融機関が果たしている機能、役割を理解し、説明できるようになる。
3. さまざまな金融機関、金融市場を含めた我が国の金融システムなどを理解し、考察できるようになる。

◆**授業方法** 授業計画にそって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では、基本的な事柄を中心に、全体的かつ平易な解説をする予定です。授業計画を開講日数にあわせて分けますが、講義の進行状況によっては前後することもあります。また、理解度を確認するための小テストを実施する予定です。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：授業の進め方・オリエンテーション・金融機関論で学ぶことやその対象を解説する。 事前学修：テキスト『金融論』の「はじめに」、事前配付資料、シラバスをよく読んでおくこと。 事後学修：授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。
2 回	授業内容：金融機関を理解するための金融取引、貨幣の定義 事前学修：テキスト第 1 章をよく読んでおくこと。 事後学修：講義内容の確認として、貨幣の定義、金融取引を再確認すること。
3 回	授業内容：長期、短期の指標金利およびその決定 事前学修：テキスト第 2 章をよく読んでおくこと。 事後学修：講義内容や講義で紹介する事例などを確認すること。
4 回	授業内容：情報の非対称性問題、逆選択、モラルハザード、金融機関の情報生産を考える。 事前学修：テキスト第 3 章をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
5 回	授業内容：日本の資金の流れ、資金循環 事前学修：テキスト第 6 章をよく読むこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
6 回	授業内容：直接金融、間接金融、市場型間接金融 事前学修：テキスト第 6 章をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
7 回	授業内容：預金取扱金融機関としての銀行の機能と役割 事前学修：テキスト第 7 章第 1 節および配付資料をよく読んでおくこと。 事後学修：講義で紹介する銀行など、預金取扱金融機関について参考文献などで確認すること。
8 回	授業内容：直接金融における証券会社の機能と役割 事前学修：テキスト第 7 章第 2 節および配付資料をよく読んでおくこと。 事後学修：講義時に紹介するウェブサイト、参考文献などで証券会社の現状等を確認すること。
9 回	授業内容：保険会社の機能と役割 事前学修：テキスト第 7 章第 3 節および配付資料をよく読んでおくこと。 事後学修：生命保険会社、損害保険会社を参考文献および講義時に紹介する資料などで確認すること。
10 回	授業内容：消費者金融、リース会社などノンバンクの機能と役割 事前学修：配付資料をよく読んでおくこと。 事後学修：講義時に紹介する資料などで、ノンバンクの現状等を確認すること。
11 回	授業内容：公的金融機関の機能と役割 事前学修：配付資料をよく読んでおくこと。 事後学修：講義時に紹介する資料などで、公的金融機関の現状等を確認すること。
12 回	授業内容：金融機関に対する規制、監督 事前学修：配付資料をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料や講義時に紹介する資料などで、講義内容を確認すること。
13 回	授業内容：FinTech などの金融機関を取り巻く環境変化 事前学修：配付資料をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料や講義時に紹介する資料などで、講義内容を確認すること。
14 回	授業内容：理解度の確認 事前学修：配布された資料を熟読し、内容を確認しておくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書などで、講義内容をよく確認し理解すること。
15 回	授業内容：試験および解説 事前学修：前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。 事後学修：今回の授業内容を再確認し、理解を深めること。

◆**教科書** 選材『金融論 R31800』通信教育教材（教材コード 000540）

事前資料送付

〔当日資料配布〕必要に応じてプリントを配布予定

◆**参考書** 丸沼『ベーシックプラス 金融論 第 2 版』家森信善 中央経済社 2018 年
講義時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、最終試験を中心に授業への取り組み、小テストや平常点などにより総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔中小企業論〕

山本 篤民

◆**授業概要** 日本の企業数の99%以上は、「中小企業」です。個々の中小企業の規模は小さいながらも、中小企業を1つの層として捉えた場合、日本の経済や産業において大きな位置を占めています。また、戦前・戦後の各時代において中小企業は、日本の経済の発展や人々の暮らしを支える役割を果たしてきました。本授業では、中小企業が日本の経済や社会において果たしている役割を理論的・歴史的な視点から分析する能力を身につけます。

◆**学習到達目標** (1)中小企業を日本の経済や産業構造のなかに位置づけ、その役割を説明することができる。
(2)日本経済の発展過程のなかに中小企業の果たしてきた役割を説明することができる。
(3)「中小企業研究」の問題視点を説明できる。

◆**授業方法** 講義形式の授業が中心となりますが、授業中に意見や感想などの発言を求めます。授業中に小レポートを実施します。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 イントロダクション（授業の概要、到達目標、授業の進め方、成績評価）、中小企業の定義と構成—中小企業の定義・中小企業の数・割合 中小企業基本法にもとづく中小企業の定義や各国の中小企業の定義について解説する。	事前学修 テキスト第3章を参照し中小企業の定義等を確認しておくこと。	事後学修 配布したレジュメをもとに中小企業の定義や数・割合を理解する。
2回	授業内容 中小企業問題の推移(1)—戦後復興期 1940年代後半から1950年代の中小企業問題を取り上げる。	事前学修 テキスト第4章第1節を参照し戦後復興期における「中小企業問題」を確認しておくこと。	事後学修 配布したレジュメをもとに戦後復興期における「中小企業問題」を理解する。
3回	授業内容 中小企業問題の推移(2)—高度成長期：大企業体制の確立と中小企業の独立創業—小レポートを実施予定（中小企業の独立創業について）	事前学修 テキスト第4章第2節を参照し高度成長期における「中小企業問題」を確認しておくこと。	事後学修 小レポートの課題を通して「金の卵」たちの独立創業の実態や背景を理解する。
4回	授業内容 中小企業問題の推移(3)—安定成長期 1970年代から80年代にかけての中小企業問題を取り上げる。	事前学修 テキスト第4章第3節を参照し安定成長期の「中小企業問題」を確認しておくこと。	事後学修 配布したレジュメをもとに安定成長期における「中小企業問題」を理解する。
5回	授業内容 中小企業問題の推移(4)—バブル崩壊期以降—小レポートを実施予定（中国企業の台頭）	事前学修 テキスト第4章第4節を参照しバブル崩壊以降の日の中の中小企業の実態を確認しておくこと。	事後学修 小レポートの課題を通して中小企業の国際競争について理解する。
6回	授業内容 「中小企業研究」の展開(1)—中小企業存立条件論 中小規模の企業が存立する理由や根拠を論じた研究を解説する。	事前学修 テキスト第2章を参照し中小企業の存立の条件等について確認しておくこと。	事後学修 配布したレジュメをもとに中小企業の存立に関する学説を理解する。
7回	授業内容 「中小企業研究」の展開(2)—「下請問題」と「二重構造論」 「下請」と「二重構造論」をめぐる学説や論争を解説する。	事前学修 テキスト第4章第1・2節を参照し「下請問題」と「二重構造論」とは何かを確認しておくこと。	事後学修 配布したレジュメをもとに「下請」や「二重構造論」に関する学説を理解する。
8回	授業内容 「中小企業研究」の展開(3)—「中堅企業論・ベンチャービジネス論」 「中堅企業論」や「ベンチャービジネス論」が唱えられるようになった背景や理論を解説する。	事前学修 テキスト第5章第2節を参照し「中堅企業・ベンチャービジネス」とは何かを確認しておくこと。	事後学修 配布したレジュメをもとに「ベンチャービジネス論」等の学説を理解する。
9回	授業内容 産業集積と中小企業(1)—産業集積の類型・理論 工業立地の理論や集積のメリットに関する学説を解説する。	事前学修 テキスト第6章第3節を参照し産業集積について確認する。	事後学修 配布したレジュメをもとに産業集積の理論に関する学説を理解する。
10回	授業内容 産業集積と中小企業(2)—大都市産業集積 東京都大田区を事例として大都市産業集積の構造を解説する。	事前学修 テキスト第6章第3節を参照し産業集積について確認する。	事後学修 配布したレジュメをもとに東京都大田区の産業集積について理解する。
11回	授業内容 産業集積と中小企業(3)—産地型集積—小レポートを実施予定（産地型集積の中小企業）	事前学修 テキスト第6章第3節を参照し各地域の産業集積について確認する。	事後学修 小レポートの課題を通して今治などの産地型集積の現状と課題を理解する。
12回	授業内容 中小商業の存立(1)—中小小売業を取り巻く環境変化と流通政策の変遷 中小小売業の経営環境と大規模小売店舗法等の変遷を解説する。	事前学修 テキスト第8章を参照し中小小売業の現状と流通政策の変遷を確認する。	事後学修 配布したレジュメをもとに百貨店法・大店法を理解する。
13回	授業内容 中小商業の存立(2)—商店街の現状と課題、コンビニエンスストアの実態—小レポートを実施予定（コンビニエンスストアの実態）	事前学修 テキスト第9章を参照し商店街の現状を確認する。	事後学修 配布したレジュメをもとに商店街の現状と振興策を理解する。
14回	授業内容 中小企業政策の展開(1)—戦後中小企業政策のはじまりと旧中小企業基本法 1940年代半ばから1960年代にかけての中小企業政策がどのように展開したかを解説する。	事前学修 テキスト第11章第1節を参照し旧中小企業基本法を確認する。	事後学修 配布したレジュメをもとに戦後復興期の中小企業政策を理解する。
15回	授業内容 中小企業政策の展開(2)—知識集約化政策と中小企業基本法改正 1970年代以降の中小企業政策の展開と中小企業基本法が改正された意図・目的を解説する。	事前学修 テキスト第11章第2～5節を参照し知識集約化とは何かを確認する。	事後学修 配布したレジュメをもとに知識集約化政策と中小企業基本法を理解する。

◆**教科書** 丸沼『21世紀中小企業論 第3版』渡辺幸男他編著 有斐閣
〔当日資料配布〕当日プリントを配布

◆**参考書** 丸沼『よくわかる中小企業』関智宏編著 ミネルヴァ書房 2020年

◆**成績評価基準** 小レポート 30%、試験 80%。授業内の発言・発表も成績に加え。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔法学通論 / 法律学概論（国際法を含む）〕

遠藤 清臣

◆**授業概要** 憲法改正の論議が進んでいる。この論議に参加するには、日本国憲法に対する最低限の理解が必要である。法学＝法に対する基本的理解、を下敷きにして、国際社会と日本国憲法の関係、日本国憲法の歴史的意義、日本国憲法の解釈について、改めて考察してみたい。受講者は、授業前にこれまでの憲法に対する知識や考え方を整理しておくとともに、授業後、改めて憲法について再考してもらいたい。

◆**学修到達目標** 授業概要で述べた通り、日本国憲法を素材としてはいるが、あくまでも法学・法律学についての講座であるから、法の意義、解釈などの方の一般理論を理解してもらいたい。とりわけ、法が存在形式や法の解釈を身に付けることは、憲法議論その他の法律上の考え方について、受講者の役に立つものと思う。

◆**授業方法** 科目の性質上、原則として、講師が一方的に講義する形式にならざるを得ない。受講者の人数や、講義の進捗状況を見ながら、可能な限り、受講者との質疑や簡単な討論を含めたいと考えている。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：簡単なガイダンス、法の本質と性格、法における平等の概念 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
2 回	授業内容：法の基礎にある社会正義、日本国の法の沿革 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
3 回	授業内容：日本国における近代憲法の成立 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
4 回	授業内容：社会のなかで成立する法と、国家の定める法、成文法と不文法 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
5 回	授業内容：法の解釈の役割、法の解釈方法 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
6 回	授業内容：国際法の形式と成立、国際法の解釈、国際法の効力、国際私法 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
7 回	授業内容：権利の意義、権利と義務、権利と義務の関係 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
8 回	授業内容：権利の社会的制限 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
9 回	授業内容：権利の主体と客体 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
10 回	授業内容：日本国憲法の基本的人権、基本的人権の総論規定 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
11 回	授業内容：日本国民の定義、外国人の人権、社会権の意義、日本国憲法の定める社会権規定の解釈 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
12 回	授業内容：議会制民主主義の課題と選挙制度、二院制の問題点 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
13 回	授業内容：行政の形式、大統領制と議院内閣制の課題 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
14 回	授業内容：現行裁判制度の概要と、その問題点 事前学修：不要、当日の講義に集中すること。 事後学修：プリントによる講義内容の復習、確認
15 回	授業内容：筆記試験 事前学修：プリント、配布物により講義の重要ポイントの総復習 事後学修：法の役割と、日本国憲法のあり方について、講義を受けて感じたことや、疑問点を整理し再考すること。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕教科書は特に指定しない。講義当日プリントを配布する。

◆**参考書** 〔選材〕『法学 B11500』通信教育部教材（教材コード 000515）

〔丸涸〕『現代法学入門』三浦隆・石川信編著 北樹出版

〔丸涸〕『ポケット六法』その他の簡易な六法（参考書はいずれも必要があれば入手すればよく、講義当初に持参する必要はない。）

◆**成績評価基準** 筆記試験の成績による。場合により講義中の課題、質疑内容を評価に加えることがある。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔生徒指導・進路指導論〕

渡辺 典子

◆**授業概要** 個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることをめざし、学校の教育活動全体を通して行われる生徒指導と、生徒が将来の進路を選択・計画し能力を伸ばせるよう長期的展望に沿った人間形成をめざす進路指導の理論と方法を中心に学ぶ。その際、子どもの個性を尊重することにつながるジェンダー視点をを用いることができるよう、ジェンダーに関する学習を取り入れる。

◆**学修到達目標** ①生徒指導・進路指導論に関する基礎的な知識を身につけることができる。

②ジェンダーに関する基礎的な知識を身につけることができる。

③指導の際に、ジェンダー視点をを用いることができる。

◆**授業方法** 主な授業方法は教科書に沿った講義形式であるが、できるだけ視聴覚教材を用い、またグループワークも取り入れる予定である。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 イントロダクション 事前学修 テキスト「はじめに」 p.11 - 12, 151 - 152 を読んでおくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
2回	授業内容 ジェンダー視点とは 事前学修 テキスト p.141 - 150 を読んでおくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
3回	授業内容 生徒指導の意義と原理 事前学修 テキスト p.13 - 23 を読んでおくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
4回	授業内容 進路指導の意義と原理 事前学修 テキスト p.69 - 76 の要点を把握しておくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
5回	授業内容 生活指導と進路指導の法律と政策 事前学修 テキスト第3章を読んでおくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
6回	授業内容 ジェンダーと学校 事前学修 テキスト p.152 - 161 を読んでおくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
7回	授業内容 多文化と学校 事前学修 テキスト第7章の要点を把握しておくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
8回	授業内容 児童及び生徒全体への指導 事前学修 「1 児童生徒全体への指導」「生徒指導提要」を読んでおくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
9回	授業内容 ガイダンスとしての指導 事前学修 「集団指導の方法原理」「生徒指導提要」を読んでおくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
10回	授業内容 カウンセリングとしての指導 事前学修 「個別指導の方法原理」「生徒指導提要」を読んでおくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
11回	授業内容 個別の課題その1 - 不登校 - 事前学修 テキスト第4章の要点を把握しておくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
12回	授業内容 個別の課題その2 - いじめ - 事前学修 テキスト第5章の要点を把握しておくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
13回	授業内容 個別の課題その3 - 学級崩壊 - 事前学修 テキスト第8章の要点を把握しておくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
14回	授業内容 個別の課題を抱える児童及び生徒への指導 事前学修 11 - 13 回の授業内容を確認しておくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。
15回	授業内容 まとめ 事前学修 これまでの授業内容を確認しておくこと。 事後学修 授業の内容を整理し理解しておくこと。

◆**教科書** 丸沼『新しい生活指導と進路指導』 高橋陽一・伊東毅編 武蔵野美術出版局

◆**参考書** 丸沼『生徒指導提要』 文部科学省

◆**成績評価基準** 試験（70%）、適宜貸す感想文などの課題（30%）

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

MEMO

4 東
月 京
期

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

5 東
月 京
期

6 東
月 京
1 期

6 東
月 京
2 期

5 札
月 幌
期

5 福
月 岡
期

7 名
月 古
1 期 屋

7 大
月 阪
2 期

月 夜
曜 間
日 間

火 夜
曜 間
日 間

水 夜
曜 間
日 間

木 夜
曜 間
日 間

金 夜
曜 間
日 間

付
録

◆ 開講講座表及び講座内容（シラバス）

東京 6月期 第1期

日	程	授業時間	備考
6月6日	土	13:00～18:30	※日曜日は時間内に 昼休みを設けます。 ※「体育実技」は授 業時間及び会場が 異なります。本誌 6ページを参照し てください。
6月7日	日	9:00～16:30	
6月13日	土	13:00～18:30	
6月14日	日	9:00～16:00 <試験も含む>	

※以下の第1期開講の講座から1講座を選択してください。

講座 コード	開講講座名	担当講師名	単 開 位 数	充 当 科 目		併 用	制 限・注 意		受 オ ー プ ン 講
				科 目 コード	科 目 名		配 当 学 年	受 講 条 件	
DE01	法 学	水野 正	2	B11500	法 学		1年		
DE02	英 語 D	アレックス ブラウン	1	C10100	英 語 I		1年	・ I～IVのいずれに該当させる のか充当科目コードを必 ず記入してください。	×
				C10200	英 語 II		2年		
				C10300	英 語 III				
				C10400	英 語 IV				
DE03	英 語 E	賀美 真之介	1	C10100	英 語 I		1年	・ I～IVのいずれに該当させる のか充当科目コードを必 ず記入してください。	
				C10200	英 語 II		2年		
				C10300	英 語 III				
				C10400	英 語 IV				
DE04	体 育 実 技	高橋 正則	1	J101S0	体 育 実 技 I	×	1年	・ スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。 ・ 開講日程が異なります。詳 しくは本誌6ページを参照 してください。	×
				J102S0	体 育 実 技 II				
DE05	商 法 III	大久保 拓也	2	K30700	商 法 III		2年		
DE06	国文学講義VI (現代)	竹田 志保	2	M31000	国文学講義VI (現代)		2年		
DE07	英文法A	真野 一雄		N20200	英 文 法		※	・ 文学専攻（英文学）のみ1 学年以上申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申込 可。	
DE08	英米文学演習B	野口 肇	1	N404S0	英米文学演習I	×	3年	・ 文学専攻（英文学）のみ申 込可。 ・ I～IIIのいずれに該当させ るのか充当科目コードを必 ず記入してください。	×
				N405S0	英米文学演習II				
				N406S0	英米文学演習III				
DE09	英米事情II	石川 勝	2	N31600	英米事情II	×	2年	・ スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	
DE0A	倫理学概論	江川 晃	2	P30500	倫理学概論		2年		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座 コード	開講講座名	担当講師名	単開 位数講	充 当 科 目		併 用	制 限 ・ 注 意		受 講 オ ー プ ン
				科 目 コード	科 目 名		配当 学年	受 講 条 件	
DE0B	日本史入門	小川 雄	2	Q20100	日本史入門		※	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	×
DE0C	経済学史/ 経済学説史	塚本 隆夫	2	L31300	経済学説史		2年	・法学部のみ申込可。	×
				R30100	経済学史			・文理/経済/商学部のみ申込可。	
DE0D	金融論	谷川 孝美	2	R31800	金融論		2年		
DE0E	会計学	青木 隆	2	S32800	会計学		2年		×
DE0F	人文地理学概論	小倉 眞	2	T22200	人文地理学概論		2年	・法学部/史学専攻/経済学部のみ申込可。	
DE0G	国語科教育法 I	野澤 拓夫	2	T20300	国語科教育法 I	×	2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	

4月期 東京

5月期 東京

6月1期 東京

6月2期 東京

5月期 札幌

5月期 福岡

7月1期 名古屋

7月2期 大阪

月曜日 夜間

火曜日 夜間

水曜日 夜間

木曜日 夜間

金曜日 夜間

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

付
録

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔法学〕

水野 正

- ◆**授業概要** 複数の人が存在するとお互いの求めるものの違いにより、そこに問題が生ずる。そこで、人の社会生活上の問題を解決するための基礎となる基本的な価値観（＝法）を理解し、互いの権利を尊重し、義務を果たすことの重要性を学ぶ。
- ◆**学修到達目標** ある人々の間に生じた問題は、法律を基に互いの考えを示し、法律を基に相手の考えを理解し、互いが納得することにより解決される。そのような解決ができるよう、法律を正しく理解する為の方法を理解し、法律に基づいた自分の考えを示すことができるようになることを目標とする。また、インターネットに関する法律を知り、自己の権利を守り、相手の権利を侵害しないように行動できるようにする事を目標とする。
- ◆**授業方法** いわゆる講義形式で行う。まず、テキストに沿った内容で広義の法律について、正しく解釈する為の規則や手段について説明します。その知識に基づいてコンピュータ、インターネットに関わる諸問題について、どのような問題点があるかを説明し、その解決を現行法でできるのか否かを考えていくことにします。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容: ガイダンス 法とは何かを考える。 事前学修: 法学を学ぶことの意味を考え、法という言葉から何を連想するかを確かめておくこと。 事後学修: 論理的思考と説明を理解し、法は社会生活を営む人により作られることを理解する。
2 回	授業内容: 日本の法制度 継受法 固有法 事前学修: 日本の法制度を日本史から考えてみる。 事後学修: 他国との関係から日本の法制度がどのように変化してきたかを理解する。
3 回	授業内容: 法と他の社会規範 1 法と道德の違い 事前学修: 人の生活を律する法以外のものは? テキスト「法と他の社会規範」部分を読むこと。 事後学修: 法と道德の区別ができるように理解すること。
4 回	授業内容: 法と他の社会規範 2 法と宗教、法と慣習（習俗）との違い 事前学修: 法と他の社会規範との違い。テキスト「法と他の社会規範」部分を読んでおくこと。 事後学修: 法と宗教、慣習（習俗）との区別ができるように理解すること。
5 回	授業内容: 法の目的 法と正義 事前学修: 法は何を実現しようとするのか。テキスト「法の目的」部分を読んでおくこと。 事後学修: 法のいうところの正義とはどのようなものを理解すること。
6 回	授業内容: 法源 1 法源とは何か 成文法と不文法の特徴 成文法 事前学修: 法を知る手がかりとなるものは何であるか。テキスト「法源」部分を読んでおくこと。 事後学修: 現代は成文法が中心的役割を担っていること。成文法の種類と特徴を理解すること。
7 回	授業内容: 法源 2 法源としての不文法 事前学修: 不文法について、テキスト「不文法」部分を読んでおくこと。 事後学修: 裁判所の判決は、不文法であることを理解すること。
8 回	授業内容: 法の分類 普通法（一般法）と特別法、強行法と任意法、公法、私法、社会経済法 等 事前学修: 法の適用には順番があることを確認する。テキスト「法の分類」部分を読んでおくこと。 事後学修: 法の適用には順番があること、どの法（条文）が優先するのか正しく理解する。
9 回	授業内容: 法の効力範囲 時間的効力範囲、地理的効力範囲、人的効力範囲 事前学修: 日本の法律の効力が及ぶ範囲を考える。テキスト「法の効力範囲」部分を読んでおくこと。 事後学修: 国境のないインターネットの世界では、どこかの法律が適用されるのか考えてみる。
10 回	授業内容: 法の解釈と適用 1 事実認定 推定、擬制 事前学修: 脳死と判定されたドナーの心臓にナイフを刺して心停止にすると何罪になるのか。 事後学修: どの条文が推定の規定か、犠牲の規定か確認しておく。
11 回	授業内容: 法の解釈と適用 2 有権解釈 学理解釈 論理解釈 事前学修: テキスト「法の解釈と適用」部分を読んでおくこと。 事後学修: 解釈のそれぞれの分類の意味を正しく理解すること。
12 回	授業内容: デジタル万引きと犯罪の成否 事前学修: 「いわゆるデジタル万引きと犯罪の成否」水野正 国土館法学 45 号を読んでおくこと。 事後学修: 法の解釈と適用について具体的に考え、様々な場合を考える。
13 回	授業内容: 不正アクセス行為とウイルスの作成と供用 事前学修: 「不正指令電磁的記録に関する罪の一考察」水野正 国土館法学 46 号を読んでおくこと。 事後学修: ネット社会を保護するための法律について、その解釈と適用の難しさを理解する。
14 回	授業内容: グーグルストリートビューとプライバシーの保護 事前学修: 「道路周辺映像サービスの問題点」水野正 日本法学 81 巻 2 号を読んでおくこと。 事後学修: 利便性とプライバシーの保護と公開される者の意思との関係を考えてみる。
15 回	授業内容: インターネットと忘れられる権利 事前学修: 「個人情報保護の為の検索結果に対する削除権」水野正 日本法学 82 巻 1 号を読むこと。 事後学修: 様々なシーンでの個人情報の保護の重要性を考えてみる。

- ◆**教科書** 教材『法学 B11500』通信教育教材（教材コード 000515）
- ◆**参考書** 丸沼『インターネット法』松井他編 有斐閣
丸沼 小型の六法 但し、定額制でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット PC）を使用できる学生は、それらの機器を持参すれば六法は不要。
授業計画記載の国土館法学は（<https://kokushikan.repo.nii.ac.jp/>）、日本法学は（<http://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/law.html>）から無料でダウンロード可
- ◆**成績評価基準** 論述式の筆記試験で評価する。問題は講義の範囲内から複数問出題し、その中から 1 問選択して回答する形式とする。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」[学生番号] および「氏名」を記入のこと。例: 「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英語 D】 オープン受講：不可

アレックス ブラウン

◆**授業概要** In this course, we will study and discuss scenes from the movie, I Am Sam, starring Sean Penn and Michelle Pfeiffer. Vocabulary building and role playing of dialogue from the movie will be key components of the course.

◆**学修到達目標** The goals of the course are to improve listening comprehension and to build vocabulary through the study of the dialogue. Discussion of themes in the movie will also take place.

◆**授業方法** Class time will be spent studying vocabulary within the dialogue and role playing parts in the film. The teacher will provide handouts of activities as well as portions of the script. Your answers will be reviewed throughout the course.

◆**履修条件** The course is open to all students of various levels. Students are expected to try their best to use English as much as possible.

◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容 : Search I Am Sam on IMDB's site. 事前学修 : Orientation and film viewing (1st half). 事後学修 : Skim through the first two scenes of your script.
2 回	授業内容 : Study the names of the characters in the film. 事前学修 : Word power for Scene 1. Viewing and Q&A. 事後学修 : Review the vocabulary.
3 回	授業内容 : Prepare to use the key vocab in your role play. 事前学修 : Showtime in large groups. Scene 2 viewing and Q&A. 事後学修 : Finish the vocab matching for Scene 2.
4 回	授業内容 : Prepare to share your answers. 事前学修 : Various activities for Scene 2. 事後学修 : Review the script for Scene 3.
5 回	授業内容 : Talk about your favorite Beatles songs. 事前学修 : Soundtrack research and discussion. Scene 3 Q&A. 事後学修 : Research one of the many artists featured on the soundtrack.
6 回	授業内容 : Prepare to present a soundtrack artist and discuss their body of work. 事前学修 : Group discussion on soundtrack. Role play scenes from 1, 2 and 3. 事後学修 : Read over Scene 4.
7 回	授業内容 : Familiarize yourself with Scene 4 vocabulary. 事前学修 : Scene 4 Viewing and Q&A. 事後学修 : Complete Scene 4 activities.
8 回	授業内容 : Prepare answer check for Scene 4. 事前学修 : Scene5 Viewing with Q&A. 事後学修 : Review key points of Scene 5.
9 回	授業内容 : Prepare for Scene 5 discussion. 事前学修 : Scene 6 viewing with Q&A. 事後学修 : Complete Scene 6 activities.
10 回	授業内容 : Prepare yourself to role play Scene 6. 事前学修 : Showtime in large groups, Scenes 4,5 and 6. 事後学修 : Read over Scene 7 in the script.
11 回	授業内容 : Circle unknown/unsure vocab for Scene 7. 事前学修 : Scene 7 with Q&A. 事後学修 : Complete Scene 7 activities.
12 回	授業内容 : Prepare to present your answers. 事前学修 : Scene 8 viewing and script reading with Q&A. 事後学修 : Review scene work.
13 回	授業内容 : Look up foster parent and adoption and prepare to discuss. 事前学修 : Scene 9 viewing with Q&A and discussion. 事後学修 : Review Scenes 7,8 and 9.
14 回	授業内容 : Prepare to review all scenes. 事前学修 : Test review. 事後学修 : Study for the test.
15 回	授業内容 : Be familiar with the vocabulary sections. 事前学修 : Final Exam. 事後学修 : Congratulations on completing the course.

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 当日資料配布

◆**成績評価基準** Grades are based on participation (70%). A final exam (20%) and a report (10%).

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

選 講
定 座
の

4 東
月 京
期

5 東
月 京
期

6 東
月 京
期

6 東
月 京
期

5 札
月 幌
期

5 福
月 岡
期

7 名
月 古
期 屋

7 大
月 阪
期

月 夜
曜 曜
日 日
間 間

火 夜
曜 曜
日 日
間 間

水 夜
曜 曜
日 日
間 間

木 夜
曜 曜
日 日
間 間

金 夜
曜 曜
日 日
間 間

付
録

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 E〕

賀美 真之介

◆**授業概要** 基礎的な英文法を確認し、練習問題の解説を遠いして、知識の定着を図る。できる限り網羅的に英文法を確認し、文法項目ごとの関連性をも理解できるように、テキストとそれを補完する配布資料を用いて説明する。

◆**学修到達目標** テキストの練習問題には、知識の定着を確認する、基本的な英作文の問題も用意されている。この問題の例文を基礎として、それに修飾する要素を付加すれば、より高度な英文が完成する。この前段階として、まずは、修飾要素が最小限の基礎的な英文を書けるようになることを第一目標とする。

◆**授業方法** 各項目（Part 1）について、解説、演習（練習問題）を行う。

◆**履修条件** 令和元年度夜間スクーリング（秋季）『英語 H』（賀美真之介）とは積み重ね不可。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：1. 文の種類 ～ 5. 文の種類とその特徴 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
2 回	授業内容：1. 文の種類 ～ 5. 文の種類とその特徴 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
3 回	授業内容：6. 文を構成する要素(1) ～ 10. 進行形 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
4 回	授業内容：6. 文を構成する要素(1) ～ 10. 進行形 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
5 回	授業内容：11. 完了形(1) ～ 15. 助動詞(3) 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
6 回	授業内容：11. 完了形(1) ～ 15. 助動詞(3) 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
7 回	授業内容：16. 受動態(1) ～ 20. 不定詞(2) 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
8 回	授業内容：16. 受動態(1) ～ 20. 不定詞(2) 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
9 回	授業内容：21. 不定詞(3) ～ 25. 動名詞(1) 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
10 回	授業内容：21. 不定詞(3) ～ 25. 動名詞(1) 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
11 回	授業内容：26. 動名詞(2) ～ 30. 関係詞(2) 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
12 回	授業内容：26. 動名詞(2) ～ 30. 関係詞(2) 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
13 回	授業内容：31. 関係詞(3) ～ 35. 仮定法(2) 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
14 回	授業内容：31. 関係詞(3) ～ 35. 仮定法(2) 事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 事後学修：テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
15 回	授業内容：総復習と期末試験 事前学修：試験範囲の学習をしておくこと。 事後学修：授業を通じて、理解できない点があった場合は、e-mail 等で質問すること。

◆**教科書** 〔丸〕『英文法の総復習とワンクラス上の英作文』 野村忠夫・菅野悟・野村美由紀・外池滋生 第 2 版 DTP 出版 2014

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 期末試験 6 割 授業への参画度 4 割

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔体育実技〕 オープン受講：不可

高橋 正則

◆**授業概要** 現代の高齢社会において、健康を維持・増進するためには、適度な運動習慣を生活習慣に取り込むことが求められます。そこで、まず自己の体力の現状を把握し、身体運動の継続的な必要性について認識を高めます。そして、年齢や体力レベルに応じた運動参加への具体的な方法を理解し、スポーツ実践に取り組みるとともに、それらを通して、他者とコミュニケーションを活発に図ることでの社会的スキルも養います。そのためにも、日頃より 1 日 20 分以上の連続歩行や軽い柔軟運動の実施を心がけ、コンディションの維持が大切となります。特に、トレーニングコーチ（日本オリンピック委員会強化スタッフ・医科学）として体カトレーニングやメンタルトレーニングの指導実績を生かし、実践的で効果的な方法論を実技に反映させています。

◆**学修到達目標** 多くの運動やスポーツの実践を通して、その楽しさや具体的な方法を他者とともに学び、自らが身体活動を継続して実施することの重要性を認識できるようになる。また、スポーツを通して、他者とのコミュニケーションを深め、社会的スキルを向上させることができるようになる。

◆**授業方法** 原則、天候に左右されない体育館内（アリーナおよび卓球場）での授業とし、いくつかの小グループに分かれ、体力測定をはじめとする様々な運動や、ネット型スポーツやニュースポーツを中心としたスポーツを体験します。体力測定結果については、性や年齢に応じた基準値と比較照合して、自己評価を実施します。また、各グループでのネット型スポーツやニュースポーツでは、学生個々の年齢や体力レベルに配慮するとともに、入念なウォーミングアップとクールダウンを徹底して行います。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は各 2 時間を目安としています。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス：集中授業における運動の効果とリスク・施設の使用法・注意事項の説明、グループ分けと準備体操の実施。 前日までに各自で体力の維持・向上を図り、コンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	体力測定の実施と評価：5 種目（閉眼片足立ち、握力、長座体前屈、上体起こし、反復横跳び）、具体的な説明の実施。測定後、各測定項目の基準値と比較照合し、自己評価する。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	卓球：用具の理解、フォアハンドとバックハンド、サーブ、ボールの回転とショットとの関係、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	卓球：ダブルスにおけるペアとのコンビネーション（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	卓球：ルールの理解、ダブルスの試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	バドミントン：用具の理解、フォアハンドとバックハンド、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	バドミントン：サーブ、ハイクリアー、ダブルスにおけるペアとのコンビネーション（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	バドミントン：ルールの理解、ダブルスの試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	ミニテニス：用具の理解、フォアハンドとバックハンド、ボールの回転とショットとの関係、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	ミニテニス：サーブ、ダブルスにおけるペアとのコンビネーション（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	ミニテニス：ルールの理解、ダブルスの試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	バレーボール：用具の理解、アンダーハンドおよびオーバーハンドパス、レシーブ、ラリー（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	バレーボール：ルールの理解、パスワーク、チームビルディング、試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	ソフトバレーボール：ルールの理解、パス、サーブ、チームビルディング、試合（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	グループ別対抗ソフトバレーボール大会：4 コートに分かれ、各コート内でグループ別に総当たり戦を行う（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）。 前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。 運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。

◆**教科書** なし

◆**参考書** 〔丸沼〕『健康・スポーツ教育論』日本大学文理学部体育学研究室編 八千代出版

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（貢献度）および自己の体力に合った運動への理解と遂行の程度によって、総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商法Ⅲ〕

大久保 拓也

◆**授業概要** 個人や企業が売買代金の支払いを行う際、現金で支払う、クレジット・カードで支払う、銀行振込を利用する、手形・小切手を利用する等さまざまな方法が考えられる。支払決済の中心に位置するのが、銀行をはじめとする金融機関である。本講義では、企業取引の決済手段に関する法知識の理解を目指す。古くからある手形・小切手に限らず、電子記録債権等新しい決済方法についても学ぶことで、企業取引の決済手段が理解できることを心がける。

◆**学修到達目標** 個人や企業が契約を結び、代金の支払いをする。支払をすることで代金を支払うという義務（債務）が消滅する。これを支払決済というが、どのような場合に債務が消滅するのか。代金を現金で支払った場合とクレジット・カードや銀行振込による場合とでどう違うのか。企業取引で使われる手形・小切手による決済はどういう仕組みか。このようなことについて詳しく知り、説明することができるようになる。

◆**授業方法** 講義形式で行う。講義においては、現金、小切手、約束手形・為替手形等従来から利用されている決済手段と、電子マネー、クレジット・カード、電子記録債権等の最新の法制度まで幅広く取り扱うこととする。その理解のためにはきちんと出席することが必要である。また、ただ漫然と授業に出席しているだけでは知識が身につかないと思うので、講義時に小テストを行い理解度をチェックする。そのため、予習・復習も必須となる。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としている。

◆授業計画〔各90分〕

1回	<p>授業内容 講義の進捗に合わせて、以下の内容には変更がありうる。 手形・小切手の基本的仕組みについて学ぶ。支払決済という制度が、有価証券の意義等について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第1編 支払決済の意義」「第2編 有価証券法総論」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
2回	<p>授業内容 約束手形の記載事項には何があるかについて学ぶ。必要的記載事項、署名等について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第3編」「第2章 約束手形の記載事項」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
3回	<p>授業内容 振出とはどういう制度であるかについて学ぶ。約束手形の振出と交付、権利外観法理、手形行為と民法・商法の適用等について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第3編」「第3章 約束手形の振出」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
4回	<p>授業内容 振出とはどういう制度であるかについて学ぶ。手形の代理等について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第3編」「第3章 約束手形の振出」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
5回	<p>授業内容 裏書とはどういう制度であるかについて学ぶ。裏書の効力、裏書の連続等について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第3編」「第4章 手形上の権利の移転」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
6回	<p>授業内容 裏書とはどういう制度であるかについて学ぶ。裏書の効力、裏書の連続等について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第3編」「第4章 手形上の権利の移転」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
7回	<p>授業内容 裏書に関わる特別な規制について学ぶ。善意取得、特殊の裏書等について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第3編」「第4章 手形上の権利の移転」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
8回	<p>授業内容 手形上の権利の請求とはどういう制度であるかについて学ぶ。請求の効力、手形の呈示、善意免責等について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第3編」「第5章 手形上の権利の請求」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
9回	<p>授業内容 手形抗弁とはどういう制度であるかについて学ぶ。抗弁の意義、物的抗弁・人的抗弁等について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第3編」「第6章 抗弁による対抗」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
10回	<p>授業内容 約束手形の利用方法について学ぶ。手形不渡制度、手形行為独立の原則等について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第3編」「第7章 手形上の支払の確保」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
11回	<p>授業内容 手形の支払確保について学ぶ。手形保証、手形割引、手形貸付、白地手形等について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第3編」「第8章 様々な約束手形の利用」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
12回	<p>授業内容 約束手形の喪失、時効について学ぶ。公示催告、除権決定、時効、利得償還請求権について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第3編」「第9章 手形の喪失」「第10章 手形の時効」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
13回	<p>授業内容 為替手形や小切手とはどういう有価証券であるかについて学ぶ。為替手形と小切手について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第4編 為替手形と小切手」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
14回	<p>授業内容 手形・小切手の電子化、ファクタリング等について学ぶ。でんさい、電子記録債権等について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第5編 手形・小切手の電子化と新たな決済制度」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。</p>
15回	<p>授業内容 銀行取引、資金決済法による新たな資金決済制度について学ぶ。銀行振込、暗号資産（仮想通貨）について解説する。</p> <p>事前学修 日刊新聞紙の経済面を読んでおくこと。教科書「第6編 銀行取引と新たな資金決済制度」を予習する。</p> <p>事後学修 授業で取り扱われた教科書の該当部分を要約する。配付資料があればノートにまとめる。授業全体のまとめをする。</p>

◆**教科書** 関沼『支払決済法講義（仮）』松嶋隆弘・大久保拓也編 中央経済社 近刊
六法を支持すること（民法（債権関係、相続関係）改正が成立したため、最新版（2020（令和2）年版）が望ましい）

◆**参考書** 関沼『手形小切手判例百選（第7版）』別冊ジュリスト222号 神田秀樹・神作裕之編 有斐閣 2014年

◆**成績評価基準** ①授業中に行う「小テスト」（20%）、②授業中にふれた重要な事項から出題する「試験問題」（80%）。毎回出席することを前提として評価する。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学講義Ⅵ（現代）〕

竹田 志保

◆**授業概要** 大正期から戦後に書けて活躍した女性坂・吉屋信子の作品を読む。吉屋信子の小説、エッセイ等の読解を通じて、小説の基本的な分析方法を学ぶ。また、合わせて、周辺の作家達との関係、時代背景との関連、特に女性をめぐる恋愛や職業、階級などの問題について考察する。

◆**学修到達目標** ・小説テキストの読解・分析の方法を学び、自ら考察できるようになる。・小説の物語内容と、歴史的・社会的背景とを関連づけて考察し、それぞれについての理解を深める。

◆**授業方法** ・基本的にプリントを用いて講義を進める。授業内で扱う小説作品については、絶版等で入手困難なものが多いため、必要なものは授業内で配布・紹介する。各日でコメントシートなどの提出を求める。最終日には授業の内容理解を確認する小論文の提出を求める。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容: 授業の進め方・オリエンテーション・吉屋信子について まずは、本授業の進め方を説明する。次に、吉屋信子という作家について紹介する。
	事前学修: 可能であれば参考書で挙げた作品に目を通しておくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んでこれからの授業内容の確認をすること
2回	授業内容: 吉屋信子と少女小説 吉屋信子のデビュー作「花物語」を読むために、少女小説というジャンルの成立について学ぶ
	事前学修: 可能であれば参考書で挙げた作品に目を通しておくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んで少女小説の特性、女学校文化などの時代背景について理解すること
3回	授業内容: 吉屋信子「花物語」を読む① 初期の作品の特徴 吉屋信子「花物語」の初期作品を読んで、その特徴を捉える
	事前学修: 吉屋信子「花物語」に目を通しておくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んで吉屋信子「花物語」初期作品の内容を理解する
4回	授業内容: 吉屋信子「花物語」を読む② 中期～後期の作品の特徴 吉屋信子「花物語」の中期～後期作品を読んで、その特徴を捉える
	事前学修: 吉屋信子「花物語」に目を通しておくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んで吉屋信子「花物語」中期～後期作品の内容を理解する
5回	授業内容: 吉屋信子と通俗小説 大正期から昭和期に流行した通俗小説というジャンルの特性について学ぶ
	事前学修: 可能であれば参考書で挙げた作品に目を通しておくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んで通俗小説の特性について理解すること
6回	授業内容: 吉屋信子「良人の貞操」を読む① 社会現象的なブームについて 大ヒットした「良人の貞操」の需要の背景にどのような文脈があるのかを考察する
	事前学修: 事前に配布したテキストを読んでおくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んで吉屋信子「良人の貞操」の基本的内容を理解する
7回	授業内容: 吉屋信子「良人の貞操」を読む② 当時の良妻賢母思想について 主人公・邦子の判断について、そこにどのような社会的背景があるのかを考察する
	事前学修: 事前に配布したテキストを読んでおくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んで吉屋信子「良人の貞操」の物語と当時の社会的言説との関係を理解する
8回	授業内容: 吉屋信子と戦争 日中戦争から太平洋戦争下に置いて、作家たちがどのような立場を担ったのかを知る
	事前学修: 事前に配布したテキストを読んでおくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んで戦時下の作家の戦争協力について理解すること
9回	授業内容: 吉屋信子の戦時下作品・報告文を読む 実際の戦地報告文や、小説作品において、戦争がどのように表現されているかを考察する
	事前学修: 事前に配布したテキストを読んでおくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んで戦時下の表現の問題について理解すること
10回	授業内容: 吉屋信子の戦後① 伝記・歴史小説 終戦後の時代の変化と、戦後に吉屋が新たに手がけた作品のいくつかの特徴を概観する
	事前学修: 事前に配布したテキストを読んでおくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んで戦後の時代背景について理解すること
11回	授業内容: 吉屋信子の戦後② 文学史の試み 吉屋信子手がけた周辺の作家達についての回想的伝記から、時代や文壇の状況を読む
	事前学修: 事前に配布したテキストを読んでおくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んで時代と作家たちとの関係を理解すること
12回	授業内容: 吉屋信子「鶴」を読む 戦後の短篇小説「鶴」について、昔話のパロディ、男女の転換の問題、語り手の問題について考察する
	事前学修: 吉屋信子「鶴」に目を通しておくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んで吉屋信子「鶴」の基本的内容を理解する
13回	授業内容: 吉屋信子「鬼火」を読む 戦後の短篇小説「鬼火」について、男女、貧富の関係と、幻想性のもつ意味について考察する
	事前学修: 吉屋信子「鬼火」に目を通しておくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んで吉屋信子「鬼火」の基本的内容を理解する
14回	授業内容: 吉屋信子「もう一人の私」を読む 戦後の短篇小説「もう一人の私」について、分身を通じて描かれる意識と無意識について考察する
	事前学修: 吉屋信子「もう一人の私」に目を通しておくこと
	事後学修: 当日配付資料を読んで吉屋信子「もう一人の私」の基本的内容を理解する
15回	授業内容: 小論文
	事前学修: これまでの授業内容を確認しておくこと
	事後学修: 授業内容を振り返って、自分の考えを整理すること

◆**教科書** 〔当日資料配布〕「花物語」吉屋信子（部分）
〔当日資料配布〕「良人の貞操」吉屋信子（部分）
〔当日資料配布〕「鶴」吉屋信子（部分）
〔当日資料配布〕「鬼火」吉屋信子（部分）
〔当日資料配布〕「もう一人の私」吉屋信子（部分）

◆**参考書** 丸沼『花物語』上・下 吉屋信子 河出文庫 2009年
丸沼『鬼火・底の抜けた柄杓』吉屋信子 講談社文芸文庫 2003年
丸沼『吉屋信子研究』竹田志保 翰林書房 2018年

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（コメントシートなど）：50% 小論文：50%

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英文法 A】

真野 一雄

◆**授業概要** 準動詞 形容詞 名詞句と文構造の多様性 代用表現 関係詞 特殊構文 について、テキストの解説、練習問題を通して英文構造を深く理解する。

◆**学修到達目標** 英文学専攻の学生として必要な英文法知識を基礎的及び全般的に修得し、正確な英語の文法解釈ができるようになる。

◆**授業方法** テキスト本文の解説、補足説明を行います。設問、練習問題も行います。必要に応じて別途、練習問題を行うこともあります。章末の応用問題は時間の関係で割愛します(解答はポータルに掲載します)。

◆授業計画 [各 90 分]

1 回	授業内容	テキスト本文の解説、補足説明を行います。設問、練習問題も行います。必要に応じて別途、練習問題を行うこともあります。章末の応用問題は時間の関係で割愛します(解答はポータルに掲載します)。
	事前学修	テキスト p. 105-p. 111 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
2 回	授業内容	第 7 章 準動詞 7.4 準動詞の意味上の主語 7.5 準動詞の表す「時」
	事前学修	テキスト p. 111-p. 117 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
3 回	授業内容	第 7 章 準動詞 7.6 準動詞の形容詞的用法 7.7 不定詞と動名詞の意味の相違
	事前学修	テキスト p. 117-p. 122 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
4 回	授業内容	第 8 章 形容詞 8.1 形容詞の定義 8.2-3 形容詞の意味的特性
	事前学修	テキスト p. 124-p. 132 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
5 回	授業内容	第 8 章 形容詞 8.4 形容詞を含む複雑な構造 8.5 比較構文
	事前学修	テキスト p. 132-p. 137 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
6 回	授業内容	第 8 章 形容詞 8.6 形容詞に相当する表現 8.7 「形容詞」の全体像
	事前学修	テキスト p. 137-p. 138 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
7 回	授業内容	第 9 章 名詞句と文構造の多様性 9.1 名詞句の主要部 9.2 同格 9.3 文名詞句
	事前学修	テキスト p. 140-p. 144 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
8 回	授業内容	第 9 章 名詞句と文構造の多様性 9.4 間接疑問と潜伏疑問 9.5 語法 9.6 句読法
	事前学修	テキスト p. 145-p. 150 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
9 回	授業内容	第 10 章 代用表現 10.1 代名詞 10.2 代用形
	事前学修	テキスト p. 151-p. 160 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
10 回	授業内容	第 10 章 代用表現 10.3 省略
	事前学修	テキスト p. 160-p. 162 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
11 回	授業内容	第 11 章 関係詞 11.1-5 関係詞の機能と種類 など
	事前学修	テキスト p. 164-p. 172 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
12 回	授業内容	第 11 章 関係詞 11.6-10 独立関係節など
	事前学修	テキスト p. 172-p. 179 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
13 回	授業内容	第 12 章 特殊構文 12.1 特殊構文とは 12.2 文法的な仕組みとしての特殊構文
	事前学修	テキスト p. 181-p. 189 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
14 回	授業内容	第 12 章 特殊構文 12.3 音声的な仕組み 12.4 特殊構文の存在理由
	事前学修	テキスト p. 189-p. 190 の問題点を整理し、練習問題の解答を用意しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
15 回	授業内容	試験とその解説
	事前学修	第 7～12 章の総復習をし、重要事項を正確に理解しておく。
	事後学修	第 7～12 章の総まとめをし、英文構造の理解を徹底させる。

◆**教科書** 『大学生のための現代英文法』[大学生のための現代英文法] 開拓社 開拓社

◆**参考書** 『現代英文法講義』 安藤貞雄 開拓社
『英文法解説』 江川泰一郎 金子書房
『ジーニアス総合英語』 大修館書店

◆**成績評価基準** 全出席を前提に、試験 100%で評価の予定。(試験は途中退場なしです)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英米文学演習 B】オープン受講：不可

野口 肇

- ◆**授業概要** 単に英文を読んで日本語にするだけではなく、感性や想像力、人生経験などを働かせながら行間を読み、小説の楽しさ、面白さを味わってもらえたらと思います。
- ◆**学修到達目標** アメリカ南部作家のフラナリー・オコナーの“A Good Man Is Hard to Find”を読みますが、作品を通して英語の読み方を学ぶと同時に、合わせて南部の歴史や宗教、風土などについて学んで、異質な世界があることを知って欲しいと思います。
- ◆**授業方法** 予習を前提として、授業を進めていきます。受講生の数にもよりますが、テキストを音読して訳してもらい場合があります。
- ◆**履修条件** 令和元年度東京スクーリング（6月期）「英米文学演習 B」（野口肇）とは積み重ね不可。
- ◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：フラナリー・オコナーについて 事前学修：アメリカぶんがくについて、予め調べておくこと 事後学修：フラナリー・オコナーについて思ったことをまとめておくこと
2回	授業内容：アメリカ南部の歴史 作品講読 pp.65-66 事前学修：アメリカ南部について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 アメリカ南部の特殊性について、予め調べておくこと
3回	授業内容：アメリカ南部について 作品講読 pp.68-70 事前学修：アメリカ南部の文学について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 アメリカ南部について、考えをまとめておくこと
4回	授業内容：フラナリー・オコナーが伝える聖書のイメージ 作品講読 pp.70-72 事前学修：アメリカ南部の宗教風土について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 アメリカ南部の宗教風土について、考えをまとめておくこと
5回	授業内容：オコナーの世界と聖書 作品講読 pp.72-74 事前学修：聖書について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 聖書について、考えをまとめておくこと
6回	授業内容：アメリカ南部の宗教風土について 作品講読 pp.75-78 事前学修：アメリカ南部の宗教について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 アメリカ南部の宗教について、考えておくこと
7回	授業内容：作品に見られる音楽について 作品講読 事前学修：オコナーと音楽について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 作品と音楽との関係について、考えをまとめておくこと
8回	授業内容：作品に見られる南部の貴族社会について 作品講読 事前学修：南部社会の貴族性について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 南部の貴族社会について、考えをまとめておくこと
9回	授業内容：作品に見られる人種差別 作品講読 pp.85-87 事前学修：南部の人種差別について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 南部の人種差別について、考えをまとめておくこと
10回	授業内容：作品に見られる人種差別 作品講読 pp.87-89 事前学修：人種差別の具体例について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 新聞等から、人種差別の具体例を調べておくこと
11回	授業内容：作品にみられる南部英語 作品講読 pp.89-91 事前学修：南部英語について、予め調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 南部英語の例を、フラナリー・オコナーの他の作品から探してみる
12回	授業内容：作品に見られる南部方言 作品講読 pp.91-92 事前学修：南部英語の源流の源流について、予め調べておくこと 作品講読 事後学修：講読部分の復習 他の南部作家から、南部英語を探してみる
13回	授業内容：南部文学とフラナリー・オコナー 作品講読 事前学修：南部文学について、調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 南部文芸復興について、まとめておくこと
14回	授業内容：南部文芸復興について 作品講読 事前学修：南部文芸復興の作家について、調べておくこと 事後学修：講読部分の復習 南部文芸復興の作家の作品の一つ読んでおくこと
15回	授業内容：まとめ・筆記試験 事前学修：前回までの学修内容を復習しておくこと 事後学修：今まで学修した内容の復習、これからも英米文学の作品に親しんでください。

- ◆**教科書** 丸沼『Contemporary American Southern Writers』（現代アメリカ南部作家選）中島時哉・小倉太一・田中保他編注 南雲堂
- ◆**参考書** 丸沼『フラナリー・オコナーの南部』文化書房博文社
丸沼『アメリカ南部の宗教風土』文化書房博文社
丸沼『見えるもから見えざるものへ——フラナリー・オコナーの小説世界』文化書房博文社
- ◆**成績評価基準** 筆記試験の成績（70%）、予習及び授業への取り組み（30%）などにより、総合的に評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英米事情Ⅱ〕

石川 勝

- ◆**授業概要** アメリカの経済、金融の知識をもとに、それが歴史と文化にどのような影響を及ぼしたのかを学ぶ。特に中央銀行設立をめぐる英米の攻防が中心となる。
- ◆**学修到達目標** アメリカが経済的にどのように形成されていったかを理解し、それが文化（特に文学）にどのような影響を及ぼしたかを理解できるようになることを目標とする。
- ◆**授業方法** 講義形式で授業を行う。しっかりとノートを取り、積極的に質問してほしい。スクーリングの前にアメリカの文学作品（翻訳でもよい）を一つ以上読んでおくこと。最終日に授業の内容と自分が読んだ作品を結びつけて論じてもらう。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	資本主義の成立
	事前学修	英米の文学作品を読んでおく。
	事後学修	ノートの整理
2 回	授業内容	独立戦争の背景
	事前学修	独立戦争の基本的な点は調べておく。
	事後学修	講義内容について考察する。
3 回	授業内容	フランス革命
	事前学修	フランス革命について調べておく。
	事後学修	独立戦争との違いを理解する。
4 回	授業内容	合衆国銀行の成立をめぐる
	事前学修	文学作品を読んでいない学生は読んでおく。
	事後学修	講義の内容と文学との関係について考えてみる。
5 回	授業内容	南北戦争の背景
	事前学修	南北戦争について調べておく。
	事後学修	中央銀行と南北戦争の関わりについて理解する。
6 回	授業内容	明治維新におけるアメリカの影響
	事前学修	黒船来航について調べておく。
	事後学修	国際金融が明治維新に及ぼした影響を理解する。
7 回	授業内容	アメリカンルネッサンス
	事前学修	できればアメリカンルネッサンスの作品を読んでおく。
	事後学修	講義の内容と読んだ作品の関係について考える。
8 回	授業内容	国際金融と自由民権運動
	事前学修	これまでの講義の内容を復習しておく。
	事後学修	自由民権運動の背景を理解する。
9 回	授業内容	リアリズム
	事前学修	アメリカ文学のリアリズムについて調べておく。
	事後学修	講義の内容と自分が読んだ作品との関係を考える。
10 回	授業内容	金本位制
	事前学修	これまでの講義の復習をしておく。
	事後学修	金本位制の理解を深める。
11 回	授業内容	FRB の成立
	事前学修	FRB について調べておく。
	事後学修	ノートの整理
12 回	授業内容	第一次大戦
	事前学修	第一次大戦について調べておく。
	事後学修	第一次対戦の本質を理解する。
13 回	授業内容	ロストジェネレーション
	事前学修	ロストジェネレーションの作品を読んでおく。
	事後学修	試験の準備
14 回	授業内容	世界恐慌
	事前学修	世界恐慌について調べておく。
	事後学修	ノートの整理
15 回	授業内容	第二次大戦
	事前学修	試験の準備
	事後学修	講義全体の復習

- ◆**教科書** なし
- ◆**参考書** 初日に案内する。
- ◆**成績評価基準** 最終日の試験で評価を決める。試験（100%）

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔倫理学概論〕

江川 晃

◆**授業概要** まず、古代ギリシアから現代に至る倫理学の基本的思想を学ぶ。さらに、現代の倫理的問題である環境倫理、生命倫理、技術倫理へと応用・発展させて、現代において何が問題であるのか、また、それはどこから生じているのか、深く、議論しながら皆さんと考察していく。

◆**学修到達目標** 科学・技術と人間社会との間に生じた摩擦が、新たな倫理的問題を惹き起こしている。そこで、現代の応用倫理である環境倫理、生命倫理、特に、クローン、ES細胞、iPS細胞におけるヒト胚、カメラの問題等、さらにはトランス・サイエンスについて具体的に考察・議論することで、「技術と社会の間に生じてきた倫理的問題」を深く洞察する批判的能力を養うことができる。

◆**授業方法** 毎回、皆さんの質問・感想・意見等を書いていただきます。次の授業で、それについてコメントし、討論をしましょう。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：ガイダンス 1 倫理学とは何か 事前学修：シラバスと教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：配布プリントの倫理学の意味について復習すること。
2回	授業内容：2 倫理学の基本思想 (1)徳倫理学 ①ソクラテスの徳の定義 事前学修：配布プリントのソクラテスをよく読んでおくこと。 事後学修：ソクラテスの徳の定義について復習しておくこと。
3回	授業内容：②プラトンの正義論と③アリストテレスの倫理的徳 事前学修：配布プリントのプラトンとアリストテレスをよく読んでおくこと。 事後学修：正義論と倫理的徳について説明できるようにしておくこと。
4回	授業内容：(2)功利主義（ベンサムとミル） 事前学修：「功利主義のトロッコ問題」について考えておこう。 事後学修：功利主義の問題点を理解しておこう。
5回	授業内容：(3)義務論（カントの倫理学） 事前学修：配布プリントの動機と善なる行為をよく理解しておくこと。 事後学修：配布プリントの具体的問題を復習すること。
6回	授業内容：(4)正義論とリパタリアニズム 事前学修：配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：ロールズとノージックの考えをまとめておこう。
7回	授業内容：3 環境倫理 (1)環境破壊と成長の限界 事前学修：教科書と配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：配布プリントの具体的問題を復習すること。
8回	授業内容：(2)世代間倫理と自然の権利 事前学修：配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと 事後学修：配布プリントの具体的問題を復習すること。
9回	授業内容：4 生命倫理 (1)ヒトゲノム、AID、代理母、出生前診断 事前学修：配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと 事後学修：配布プリントの具体的問題を復習すること。
10回	授業内容：(2)脳死・臓器移植 事前学修：教科書と配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：配布プリントの具体的問題を復習すること。
11回	授業内容：(3)安楽死と緩和医療 事前学修：教科書と配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：配布プリントの具体的問題を復習すること。
12回	授業内容：(4)クローン、ES細胞にけるヒト胚問題 事前学修：教科書と配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：配布プリントの具体的問題を復習すること。
13回	授業内容：(5) iPS細胞におけるキメラ（ヒト動物集合胚）問題 事前学修：配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：配布プリントの具体的問題を復習すること。
14回	授業内容：5 トランス・サイエンスと技術倫理 事前学修：配布プリントの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修：配布プリントの具体的問題を復習すること。
15回	授業内容：試験と解説 事前学修：今までの重要箇所をまとめておくこと。 事後学修：試験に出た箇所について復習しよう。

◆**教科書** 丸沼『生命倫理について考える』江川晃・嘉吉純夫・霞田光三著 文真堂
〔当日資料配布〕パワポプリントを配布します。

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 試験（50%）、授業状況（50%）

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本史入門〕 オープン受講：不可

小川 雄

◆**授業概要** 日本史の流れを通観する「日本史概説」に対して、日本史に関する史料の選択・読解に必要な方法論の修得を目指します。

◆**学修到達目標** 1 自己の関心に沿い、日本史についての史料を収集できるようになる。
2 史料を読み込んで、実証的な論証ができるようになる。

◆**授業方法** 講義形式を基本として、日本史研究の方法（史料の選択・読解）を解説して、各自の関心に沿った方法を構想してもらいます。プリント配布と板書を中心に授業を進めていきますが、区切りごとに質問も受け付けます。場合によっては、受動的に聴講するだけでなく、実習もおこないます。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：ガイダンス 事前学修：日本史に関する一般書・専門書を任意に講読して、自分なりのイメージをつくる。 事後学修：配布資料・板書の内容をノートに整理して、自己の方法論をイメージする。
2 回	授業内容：問題設定の方法論 事前学修：ガイダンスの配布資料をよく読んでおく。 事後学修：授業の内容をノートに整理して、自己の方法論をイメージする。
3 回	授業内容：先行研究と史料の探し方 事前学修：前回の授業のプリント・ノートを確認しつつ、配布資料をよく読んでおく。 事後学修：授業の内容をノートに整理して、自己の方法論をイメージする。
4 回	授業内容：邪馬台国の史料を読む 事前学修：前回の授業のプリント・ノートを確認しつつ、配布資料をよく読んでおく。 事後学修：授業の内容をノートに整理して、自己の方法論をイメージする。
5 回	授業内容：近現代の史料を読む（口語体） 事前学修：前回の授業のプリント・ノートを確認しつつ、配布資料をよく読んでおく。 事後学修：授業の内容をノートに整理して、自己の方法論をイメージする。
6 回	授業内容：近現代の史料を読む（文語体） 事前学修：前回の授業のプリント・ノートを確認しつつ、配布資料をよく読んでおく。 事後学修：授業の内容をノートに整理して、自己の方法論をイメージする。
7 回	授業内容：前近代の史料を読む（近代寄り） 事前学修：前回の授業のプリント・ノートを確認しつつ、配布資料をよく読んでおく。 事後学修：授業の内容をノートに整理して、自己の方法論をイメージする。
8 回	授業内容：前近代の史料を読む（古代寄り） 事前学修：前回の授業のプリント・ノートを確認しつつ、配布資料をよく読んでおく。 事後学修：授業の内容をノートに整理して、自己の方法論をイメージする。
9 回	授業内容：外国語史料を読む（漢文） 事前学修：前回の授業のプリント・ノートを確認しつつ、配布資料をよく読んでおく。 事後学修：授業の内容をノートに整理して、自己の方法論をイメージする。
10 回	授業内容：外国語史料を読む（欧文） 事前学修：前回の授業のプリント・ノートを確認しつつ、配布資料をよく読んでおく。 事後学修：授業の内容をノートに整理して、自己の方法論をイメージする。
11 回	授業内容：絵画史料を読む 事前学修：前回の授業のプリント・ノートを確認しつつ、配布資料をよく読んでおく。 事後学修：授業の内容をノートに整理して、自己の方法論をイメージする。
12 回	授業内容：日本語史料と外国語史料の組み合わせ（欧文） 事前学修：前回の授業のプリント・ノートを確認しつつ、配布資料をよく読んでおく。 事後学修：授業の内容をノートに整理して、自己の方法論をイメージする。
13 回	授業内容：日本語史料と外国語史料の組み合わせ（漢文） 事前学修：前回の授業のプリント・ノートを確認しつつ、配布資料をよく読んでおく。 事後学修：授業の内容をノートに整理して、自己の方法論をイメージする。
14 回	授業内容：整理と質疑 事前学修：一連の授業のプリント・ノートを熟読する。 事後学修：日本史研究のあり方について、これまでの授業の内容をノートに整理する。
15 回	授業内容：試験と解説 事前学修：これまでの授業内で説明した日本史研究の方法論を整理しつつ、自分なりの構想を準備する。 事後学修：授業内容を振り返り、日本史研究に関する構想が適切かどうかを考察する。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔丸沼〕日本史について、自分が興味のあるテーマに合った書籍を 1・2 冊を任意に講読する。
※判断に迷う場合は、『日本の歴史』全 26 巻（講談社〈学術文庫としても刊行〉）か『全集 日本の歴史』全 17 巻（小学館）の中から選んでください。また、購入義務はありませんので、図書館等を利用していただいても大丈夫です。

◆**成績評価基準** 授業内テスト（80%）、授業参画度（20%）
※全授業に出席した学生にのみ、最終試験の受験資格を認める。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済学史 / 経済学説史〕 オープン受講：不可

塚本 隆夫

◆**授業概要** 17世紀のイギリスで展開された「重商主義」から、19世紀の「古典派経済学」までの経済学の歴史的展開過程を考察する。「経済学」は、一見すると時代や地域を超越した普遍性があるよう思われる。しかし経済学には、それが構築された時代や地域から有形・無形の制約を被っている。このことが経済学に様々な「学派」を生み出す大きな理由の一つである。本講では、経済学が構築された17世紀から19世紀前半までのイギリスとフランスを中心に、経済学と時代との関係を解き明かす。経済学者たちがどのように時代の問題に取り組み、「経済学」を構築してきたのかを考察する。

◆**学修到達目標** 経済学の歴史を辿ることで受講生は、経済学者たちが自分の時代の「経済問題」に取り組み、その知的格闘の成果として「経済学」が結実したものであることを、理解できるようになる。換言すれば、経済学と時代との関係を説明できることを目標とする。これを通して、経済学の「科学性」とはどのような意味なのか、を受講生が考察できることを目指す。

◆**授業方法** 授業の進行に応じ、受講生との討議を行う。この討議を通じて受講生は、自ら考察し、講義内容の理解を深めることができる。講義資料を配布する。毎回、「課題」等を課す。なお受講生の理解度に応じて、授業の進行を調整する。

◆**履修条件** 令和元年東京スクーリング（6月期1期）「経済学史 / 経済学説史」との積み重ねは不可。ミクロ・マクロ経済理論の基礎を学習していること。

◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：経済学が成立するための条件とは：市場経済体制の形成とその特質 事前学修：テキストを読了しておく。テキスト288～295ページの国民所得決定論を予習しておくこと。市場経済の特質、貨幣の役割、社会的分業について調べる。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
2回	授業内容：重商主義が成立する条件とは：貨幣の機能と17～18世紀のイギリスの時代背景 事前学修：テキスト1～42ページを再読しておく。貨幣の役割を予習する。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
3回	授業内容：重商主義の貿易理論：3つの「貿易差額説」 事前学修：テキスト43～65ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
4回	授業内容：重商主義の貿易差額説への批判と反批判 事前学修：参考文献等で「重商主義」を研究しておくこと。「貨幣数量説」を調べる。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
5回	授業内容：フランス重商主義：コルベール政策の功罪 事前学修：テキスト66～71ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
6回	授業内容：フランス啓蒙思想のインパクト：自然法と自然秩序の思想 事前学修：テキスト71～74ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
7回	授業内容：フランス重農主義：ケネーの「経済表」を読み解く 事前学修：テキスト75～84ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
8回	授業内容：アダム・スミスの時代背景：18世紀のイギリスの社会経済問題とは 事前学修：テキスト86～89ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
9回	授業内容：スミスの富とは：分業論と交換論 事前学修：テキスト89～93ページを再読。参考書で関連事項を研究する。ミクロ経済学の消費者行動分析を確認しておく。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
10回	授業内容：スミスの労働価値説と価格論 事前学修：テキスト93～98ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
11回	授業内容：スミスの経済成長論 事前学修：テキスト98～106ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
12回	授業内容：マルサスの「人口原理」 事前学修：テキスト106～115ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。PPF(生産可能性境界線)曲線の分析を予習する。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
13回	授業内容：マルサスとリカードの「穀物法論争」 事前学修：テキスト115～121ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。マクロ経済学 AS・AD 分析を予習する。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
14回	授業内容：リカードの「差額地代」と経済成長論 事前学修：テキスト121～133ページを再読。参考文献等で関連事項を研究する。 事後学修：配布された講義資料とノートを整理し、「課題」に答える。
15回	授業内容：最終試験を実施し、受講生の授業理解度を把握する。 事前学修：これまでの授業内容を整理し、不明な点を授業時質問できるようにしておくこと。 事後学修：4日間の授業内容を整理・確認し、経済学と時代との関係を理解できるようにする。

◆**教科書** 選材 『経済学史 R30100/ 経済学説史 L31300』 通信教材（教材コード000160）
〔当日資料配布〕 授業時に講義資料・課題等を配布します

◆**参考書** 丸沼『コアテキスト 経済学史』 井上義朗 新世社 2004年刊行
丸沼『入門経済思想史 世俗の思想家たち』 ハイルブローナー ちくま学芸文庫 2001年刊
丸沼『反・経済学入門：経済学は生き残れるのか—経済思想史からの警告—』 有江大介 創風社 2019年刊
丸沼『やりなおす経済史』 蔭山克秀 ダイアモンド社 2014年刊

◆**成績評価基準** 授業時の小テスト・課題および最終試験を総合的に判断し、成績を評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【金融論】

谷川 孝美

◆**授業概要** 金融取引が行われる場を金融市場と言います。また、金融取引では銀行などの金融機関が重要な役割を果たしています。この講義では、金融に関する基本的な知識、理論を学び、多様な金融市場、金融機関の機能を理解し、また、戦後日本の金融制度の変遷を知ることで、現代の金融問題を考える基礎を養うことを目的とします。

◆**学修到達目標** この講義では、わが国の金融制度を理解することを目指し、具体的には以下のことを目標とする。

1. 貨幣の定義、金利の決定などの基礎的な事柄を学び、説明できるようになる。
2. 情報の非対称性、エージェンシー理論などを理解し、銀行などの金融仲介機関を説明できるようになる。
3. 多様な金融市場を理解し、説明できるようになる。
4. 日本における戦後の金融制度の変遷を理解し、説明できるようになる。

◆**授業方法** 授業計画にそって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では、基本的な事柄を中心に、全体的かつ平易な解説をする予定です。授業計画を開講日数にあわせて分けますが、講義の進行状況によっては前後することもあります。また、理解度を確保するための小テストを実施する予定です。なお、この講義では中央銀行、金融政策は取り扱いません。

◆**履修条件** 令和元年東京スクーリング（10月期）『金融論』との積み重ね不可とはしませんが、同様の講義となります。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	授業の進め方・オリエンテーション・金融、金融市場とは何か
	事前学修	事前配布資料、シラバスおよびテキストの「はじめに」をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。
2 回	授業内容	貨幣の定義
	事前学修	事前配布資料およびテキスト第 1 章、第 1、2 節をよく読んでおくこと。
	事後学修	配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
3 回	授業内容	貨幣供給と貨幣需要
	事前学修	テキスト第 1 章、第 3 節貨幣の定義をよく読み、確認しておくこと。
	事後学修	配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時紹介する資料を確認すること。
4 回	授業内容	金利の基本概念
	事前学修	テキスト第 2 章、第 2、3 節をよく読むこと。
	事後学修	配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、実際に金利計算をして理解を深めること。
5 回	授業内容	金融における情報の非対称問題（情報生産、フリーライド、重複問題）
	事前学修	テキスト第 3 章、第 3、4 節をよく読み、情報生産、フリーライド、重複問題を確認すること
	事後学修	配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
6 回	授業内容	資金循環から見た日本の金融制度の特徴
	事前学修	テキスト第 6 章、第 2 節をよく読むこと。
	事後学修	配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
7 回	授業内容	銀行の機能と役割
	事前学修	テキスト第 7 章、第 1 節銀行をよく読み、確認しておくこと。
	事後学修	配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
8 回	授業内容	信用創造とは何か
	事前学修	テキスト第 7 章、第 1 節銀行をよく読むこと。また、第 2 回、第 5 回の講義内容を良く確認し理解しておくこと。
	事後学修	配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、実際に信用乗数を計算して理解を深めること。
9 回	授業内容	日本の金融市場 1（インターバンク市場、短期金融市場）
	事前学修	テキスト第 5 章、第 1、2 節をよく読むこと。
	事後学修	配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
10 回	授業内容	日本の金融市場 2（長期金融市場）
	事前学修	テキスト第 5 章、第 1、2 節をよく読むこと。
	事後学修	配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
11 回	授業内容	日本の金融市場 3（金融派生商品市場、外国為替市場）
	事前学修	テキスト第 5 章、第 1、2 節をよく読むこと。
	事後学修	配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
12 回	授業内容	金融制度の戦後史 1（競争制限的規制）
	事前学修	テキスト第 6 章、第 3 節日本の金融システムの歴史をよく読むこと。
	事後学修	配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
13 回	授業内容	金融制度の戦後史 2（金融の自由化、規制緩和、日本版ビッグバン）
	事前学修	テキスト第 6 章、第 3 節日本の金融システムの歴史をよく読むこと。
	事後学修	配布資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
14 回	授業内容	理解度の確認
	事前学修	配布された資料を熟読し、内容を確認しておくこと。
	事後学修	配布資料やテキスト、参考書などで、講義内容をよく確認し理解すること。
15 回	授業内容	試験および解説
	事前学修	前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容を再確認し、理解を深めること。

◆**教科書** **事前資料送付**

【当日資料配布】必要に応じてプリント配布予定

【教材】『金融論 R31800』通信教育教材（教材コード 000540）

◆**参考書** 丸沼『ベーシックプラス 金融論 第 2 版』家森信善 中央経済社 2018 年

丸沼『日本の金融制度 第 3 版』鹿野嘉昭 東洋経済新報社 2013 年

講義時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、最終試験を中心に授業への取り組み、平常点などにより総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔会計学〕 オープン受講：不可

青木 隆

◆**授業概要** この授業は、会計学の入門編として財務会計の基礎を学修します。財務会計とは、企業外部の利害関係者（株主・債権者等）を報告対象とする会計領域であり、その報告内容は、主に貸借対照表や損益計算書といった財務諸表です。この財務諸表の作成過程が複式簿記です。そのため、会計学の理論的な側面だけでなく、複式簿記における実際の仕訳例なども示しながら、計算的な側面でも理解できるように授業を進めていきます。簿記論Ⅰを履修済みまたは履修中であることが望ましい。

◆**学修到達目標** 1. 財務会計に関する基本的な考え方が理解できるとともに、それを説明できるようになる。
2. 財務会計の理論的な側面と計算的な側面を相互に連繋させて説明できるようになる。
3. 財務諸表の種類およびその内容について説明できるようになる。

◆**授業方法** まずテキストおよび当日配布資料をもとに、財務会計の基本的な考え方を具体的な仕訳例なども用いながら解説します。次に、各単元終了後、出欠の確認のため、当日の講義内容に基づく確認テストを行います。講義最終日に試験を実施します。

◆**履修条件** 簿記論Ⅰを履修済みまたは履修中であることが望ましい。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 ガイダンス 財務会計の概要と基礎的前提 財務会計とは何か、また財務会計を学修するうえで必要不可欠な基礎的な前提を説明します。 事前学修 (テキスト) 3～13 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
2 回	授業内容 財務諸表の種類とその概要 複式簿記の基礎 貸借対照表や損益計算書といった主要財務諸表の概要を説明し、その作成プロセスとなる複式簿記の概要を説明します。 事前学修 (テキスト) 13～40 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
3 回	授業内容 貸借対照表の様式と分類基準 貸借対照表の能力と評価 貸借対照表の表示の仕方や分類を説明したうえで、貸借対照表に表示される項目や金額の要件などを説明します。 事前学修 (テキスト) 41～56 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
4 回	授業内容 流動資産の会計 貸借対照表の資産のうちで比較的短期間に現金化される流動資産の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 56～70 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
5 回	授業内容 有形固定資産の会計 貸借対照表の資産のうちで使用や投資に用いる固定資産の中で、具体的な存在形態を有する有形固定資産の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 70～84 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
6 回	授業内容 無形固定資産・投資その他の資産と繰延資産の会計 貸借対照表の資産のうちで使用や投資に用いる固定資産の中で、具体的な存在形態を有しない無形固定資産や投資その他の資産、さらに資産の中では異質な特徴を有する繰延資産の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 84～96 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
7 回	授業内容 流動負債と固定負債の会計 貸借対照表の負債のうち、引当金を除く流動負債および固定負債の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 96～103 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
8 回	授業内容 引当金の会計 引当金の要件や根拠、各種引当金の概要について説明します。 事前学修 (テキスト) 103～115 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
9 回	授業内容 純資産の会計(1)―資本金と資本剰余金の会計 貸借対照表の純資産の中で、株主に帰属する株主資本のうち、株主が払い込んだ部分を構成する資本金および資本剰余金の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 115～133 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
10 回	授業内容 純資産の会計(2)―利益剰余金等の会計 貸借対照表の純資産の中で、株主に帰属する株主資本のうち、過去の利益の蓄積額である利益剰余金、また株主資本以外の純資産を構成する評価・換算差額等、新株予約権の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 133～152 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
11 回	授業内容 損益計算書の分類と営業損益の計算 損益計算書の分類を概観したうえで、主たる営業活動から生じる損益である営業損益の計算について説明します。 事前学修 (テキスト) 153～174 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
12 回	授業内容 営業外損益・特別損益・当期純損益の計算 主たる営業活動以外の活動から生じる損益である営業外損益、特別損益および当期純利益の計算について説明します。 事前学修 (テキスト) 174～183 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
13 回	授業内容 損益計算に対する基本思考 損益計算に対する基本的考え方について説明します。 事前学修 (テキスト) 183～190 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
14 回	授業内容 企業会計原則における一般原則 財務諸表の作成指針となる一般原則としての立場を有する、企業会計原則における一般原則について説明します。 事前学修 (テキスト) 203～207 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
15 回	授業内容 授業のまとめおよび試験 これまでの講義の総括を行った後に試験を行います。 事前学修 これまでの講義内容を整理しておいてください。 事後学修 試験の内容を整理してください。

◆**教科書** 丸沼『基礎財務会計（最新版）』五十嵐邦正 森山書店
【事前資料送付】

◆**参考書** 丸沼『演習財務会計（最新版）』五十嵐邦正 森山書店
丸沼『会計法規集（最新版）』中央経済社

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提に確認テスト（30%）と試験（70%）により総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔人文地理学概論〕

小倉 眞

- ◆**授業概要** 地理学は自然環境と社会との関係について分析・整理する学問であることを念頭に置き、環境条件としての気候、地域社会の自然的特徴、人口の偏在性と食料との関係、農村の地域的展開過程、工業発展と地域条件、都市化と都市構造などについて、地理学的視点から理解・整理できるように心掛ける。また、本年度は地形図の読図や地図作業も取り入れて学修する。
- ◆**学修到達目標** 環境（自然・社会）の地域的特徴や変動と、これに対応しながら展開する世界や日本の地域社会の多様性と社会発展について分析・整理し、地域が持つ特質を位置づけることによって、地理学の基本的視角について学修することができる。同時に教科としての教育視点について修得することができる。
- ◆**授業方法** 配布するレジュメおよび資料（地図・統計・写真等）を用いて授業を進める。授業は基本的には講義形式で行うが、特定テーマについては発表・討議の時間を設定する。
*色鉛筆（赤・橙・黄・緑等）を準備すること
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	人文地理学はどのような学問か — 地理学における位置づけを中心として —
	事前学修	地理学の構成（自然地理学・人文地理学）について事前に調べる。
	事後学修	レジュメに基づいて系統地理学の位置づけや「地域」の関係について整理する。
2 回	授業内容	なぜ赤道地域が熱帯なのか？ 気候分布のメカニズムとその特徴について解説する — 世界の気候と自然環境の特徴 —
	事前学修	レジュメを見て世界の大気候区について整理する。
	事後学修	気候区分図に基づいて、サバナ気候区や西岸海洋性気候区の分布と気候の特徴についてまとめ、レポートを作成する。
3 回	授業内容	アジアに人口が集中する要因について農業との関係で考える — 世界の人口と分布の偏在性について —
	事前学修	事前に世界人口の現況や人口構成の特徴、及びアジアとヨーロッパで展開する農業の基本構造について調べてみる。
	事後学修	食料と人口収容力との関係について、ノート・レジュメ等により整理する。
4 回	授業内容	日本の農村の成立とその特質について考察する — 律令国家成立時の条里水田村の例 —
	事前学修	条里制農村成立の意味やその特質について調べてみる。
	事後学修	配布資料の地形図を利用して、条里地割の特徴、分布構造などについて整理する。地形図に水田区割りを色分けして分析する。
5 回	授業内容	日本農村の発展過程に関して「自然と社会との関係」の視点で考察する — 扇状地地形の特色と地域 — 地形図の読図を学修する
	事前学修	扇状地地形の特色や土地利用について、三角州と対比して整理してみる。
	事後学修	授業で学修した内容に基づいて、地形図の読図作業をし、その特徴について整理する。（レポート作成の準備をする）
6 回	授業内容	黒部川扇状地地域を事例に近世・近代の農村開発について考察する。
	事前学修	近世における藩政村の対応・特色について事前に調べてみる。
	事後学修	日本海側に位置する地域に関して、自然的特徴（気候等）や社会的位置づけについて整理する。
7 回	授業内容	近代から現代に至る農村の展開過程について、自然条件の足かせやその条件故の利点について分析・考察する（発表・討議あり）
	事前学修	地形的特徴と社会の発展、技術の進歩などの関係について考えてみる。（レポート提出のための作業をする）
	事後学修	社会の状況変化や社会発展と地域の展開について、討議内容を整理しながら整理する。
8 回	授業内容	資源の偏在と工業立地・立地移動について検証する
	事前学修	レジュメを見て資源産出量の特に多い地域・国を整理してみる。
	事後学修	とくにレアメタル等の工業的利用と産出国についてまとめる。
9 回	授業内容	産業革命早期のイギリスにおける工業立地と自然的・社会的関係について考察する。
	事前学修	イギリス西海岸地域における綿織物工業の立地要因について調べてみる。
	事後学修	イギリスの資源分布と工業立地の関係、とくに立地移動について整理する。
10 回	授業内容	日本における高度経済成長の牽引力となった鉄鋼業の立地移動と、現在の工業立地について考察する
	事前学修	配布資料の「日本の工業」の立地状況及びその特色について検証する。
	事後学修	日本における資源賦存状況と高度経済成長下の工業立地の特色について整理する。
11 回	授業内容	アメリカ合衆国における資源の賦存と鉱業・工業の立地、及び現代の工業立地移動と工業地域の特色を考察する
	事前学修	五大湖沿岸地域の工業立地の内容と、サンベルト地帯への立地移動について調べてみる。
	事後学修	アメリカ合衆国におけるハイテク産業地域の発展についての要因と展開状況を整理する。
12 回	授業内容	オーストラリアの資源と産業立地、経済構造の特色について考察する。
	事前学修	オーストラリアの資源分布と鉱業立地について調べる。
	事後学修	ノート・レジュメを見て、オーストラリアの産業立地・都市の配置と経済の基本構造について整理する。
13 回	授業内容	都市化の定義と都市化過程について考察する — 日本の都市化と都市問題 —
	事前学修	レジュメを見て、都市の高度化・拡大と、都市化との関係について調べてみる。
	事後学修	日本における急速な都市化と土地利用規制策・促進策などについて整理し、その問題点についてまとめる。
14 回	授業内容	都市中心部の展開過程について「都市内部構造論」の観点から考察する
	事前学修	都心地域周辺にスラム地区がなぜ形成されるか資料を調べ、考えてみる。
	事後学修	各「都市内部構造論」の提起内容を整理し、理論的特徴と問題点についてまとめる。
15 回	授業内容	試験及び解説
	事前学修	試験範囲を中心にまとめる。
	事後学修	地域の諸現象と地理学の関係について確認する。

- ◆**教科書** **当日資料配布** 当日資料等のプリントを配布する。
丸沼 地図帳（高等学校等で使用の地図帳）
- ◆**参考書** **通材**『人文地理学概論 T22200』通信教育教材（教材コード 000422）
- ◆**成績評価基準** テスト 75%、レポート 15%、授業の参画度（10%）により総合的に評価する。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国語科教育法Ⅰ〕

野澤 拓夫

◆**授業概要** 「学習指導要領」の趣旨や構造について学ぶことを通して、国語科教育の意義と内容を理解する。また、カリキュラム・マネジメントについても理解する。それらの理論をふまえて、どのようにしたらそれを具現化できるか、具体的な教材に即して検討する。具体的事例としては高校1年生を対象とした『国語総合』を教材にして、現代文・古文・漢文の模擬授業を演習形式で行い、その適否について質疑と討論を重ねて考察・評価できるようにする。

◆**学修到達目標** 「学習指導要領」が求める新しい時代における国語科教育の在り方について、具体的事例を基に考察・討論することで、その理解を自分のものにすることができる。グループによる模擬授業によって疑似トレーニングを積むことで、教育現場で用いられているさまざまな指導法について知ることができる。また、教育実習を想定した具体的な取り組みについても取り上げるので、教育実習に臨む準備ができる。

◆**授業方法** 初日の理論を基に2日目からグループごとに効果的な授業方法を検討・選択して模擬授業を実施する。その具体的な展開例から全体で討論を重ね、指導法の適否についての考察・評価を行う。ディベート・学習ゲームなどの教育実践例（DVD）を紹介し、これらについても検討を行う。模擬授業・教育実践例に対して、個人に評価シートの提出を求める。

◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容	ガイダンスとして授業の進め方を説明する。グループを編成し、本シラバスに提示した現代文・古文・漢文の3分野9教材を用いた模擬授業の分担（グループ・発表者）を決める。よい模擬授業の実現に向けて、「授業評価」の観点を参照しつつ、その条件について討議する。
	事前学修	本シラバスに提示した現代文・古文・漢文の3分野9教材を読んでおくこと。また「よい授業」の条件について考えておくこと。「評価」の意味について考えておくこと。
	事後学修	討議内容を整理するとともに、授業内容と配布資料とを確認し、理解を深めておくこと。
2回	授業内容	『国語科教育法Ⅰ』のテキストにより、国語科教育の意義と内容について解説する。また、「学習指導要領」が求める新しい時代の国語科教育の在り方とカリキュラム・マネジメントについて解説する。
	事前学修	テキストと「学習指導要領解説」に目を通しておくこと。
	事後学修	授業内容と配布資料を確認し、国語科教育に求められている事項を理解しておくこと。
3回	授業内容	教育実践例「伝統的な言語文化を授業する」(DVD)を紹介、解説し、模擬授業展開上の留意点を解説する。グループごとに担当する教材による模擬授業の準備に入り、配布された指導案のフォームを用いて、「よい指導案」づくりに取り組む。
	事前学修	指導案を作成するうえでの留意点をインターネット等であらかじめ調べておくこと。
	事後学修	授業内容をふまえて、各グループごとに担当する模擬授業の指導方法について検討、決定しておくこと。
4回	授業内容	現代文 詩「わたしが一番きれいだったとき」(75～77頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
	事前学修	当該教材を読んで、適切と思われる指導方法を考え、授業プランを立てておくこと。 ※当該教材による模擬授業を担当するグループについては、発表者を中心に協働して教材のジャンルや性格に適した指導方法・授業形態を選択し、意欲的な授業プランを立てること。それに基づいた学習指導案を作成し、必要に応じてワークシートなどを用意すること。
	事後学修	授業内容を確認し、詩教材の扱い方について整理し、教育現場で求められる指導力について把握しておくこと。 ※模擬授業を担当したグループについては、授業内容をふまえて、ふりかえりを行い、その成果を共有しておくこと。
5回	授業内容	古文 説話「児のそら寝」(236～237頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
	事前学修	当該教材を読んで、古文・説話という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
	事後学修	授業内容を確認し、古文教材の扱い方について整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。
6回	授業内容	漢文 故事「蛇足」(308～309頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
	事前学修	当該教材を読んで、漢文・故事という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
	事後学修	授業内容を確認し、漢文教材の扱い方を整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。
7回	授業内容	現代文 小説「羅生門」(156～172頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
	事前学修	当該教材を読んで、小説という教材の性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
	事後学修	授業内容を確認し、小説の扱い方について整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。
8回	授業内容	古文 俳諧紀行文・奥の細道「旅立ち」(276～277頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
	事前学修	当該教材を読んで、前の古文で学んだ留意点を活かした授業プランを立てておくこと。
	事後学修	授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。
9回	授業内容	漢文 史伝「晏子の御者」(314～315頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
	事前学修	当該教材を読んで、前の漢文で学んだ留意点を活かした授業プランを立てておくこと。
	事後学修	授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。
10回	授業内容	現代文 評論「水の東西」(126～132頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
	事前学修	当該教材を読んで、評論という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
	事後学修	授業内容を確認し、評論教材の扱い方について整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。
11回	授業内容	アクティブラーニングのひとつである「学習ゲーム」(作文に関するもの)をDVDで紹介し、それを国語科教育に活用する必要性と意義について解説する。
	事前学修	「学習ゲーム」とは何かについて調べ、それが必要な理由について考えておくこと。
	事後学修	授業内容をふまえて「学習ゲーム」をどのように授業に活かしたらよいかについて考えておくこと。
12回	授業内容	古文 伊勢物語「芥川」(288～289頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
	事前学修	当該教材を読んで、古文・物語という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
	事後学修	授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。
13回	授業内容	漢文 唐詩「江雪・涼洲詩」(321～322頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
	事前学修	当該教材を読んで、漢詩という教材の性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
	事後学修	授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。
14回	授業内容	教育実践例として「ディベートの授業」をDVDで紹介し、解説する。また、「ディベート教育」が日本で進まない理由と現状とを解説し、それが本当に必要な授業形態なのか、また日本に根づいていくものなのかについて検討する。
	事前学修	ディベートとは何かについて調べ、ディスカッションとの違いについて考えておくこと。
	事後学修	授業内容をふまえて、「ディベート」をどのようにしたら授業に活かせるのかを考えておくこと。
15回	授業内容	試験
	事前学修	14回の授業のふりかえりを行い、試験のための準備をしておくこと。
	事後学修	試験問題（課題）について、正しい理解と適切な解答ができたかを確認しておくこと。

◆**教科書** 『新版 中学校 高等学校国語科教育法』野路潤家・湊吉正 おうふう
『新編 国語総合』高校1年教科書 教育出版 17教出 国総343
『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』文部科学省
『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』文部科学省

◆**参考書** 国語・古語・漢和の各辞書
『国語科 重要用語事典』高木まさき他 明治図書

◆**成績評価基準** 授業参画度(30%)、提出物(30%)、試験(40%)により総合的に評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 開講講座表及び講座内容（シラバス）

東京
6月期
第2期

日	程	授業時間	備考
6月27日	土	13:00～18:30	※日曜日は時間内に 昼休みを設けます。
6月28日	日	9:00～16:30	
7月4日	土	13:00～18:30	
7月5日	日	9:00～16:00 <試験も含む>	

※以下の第2期開講の講座から1講座を選択してください。

講座コード	開講講座名	担当講師名	単開 位数講	充 当 科 目		併 用	制 限・注 意		受 オ ー プ ン 講
				科 目 コード	科 目 名		配当 学年	受 講 条 件	
DF01	美術史	森下 和貴子	2	B11400	美術史		1年		
DF02	英語F	齊藤 雄介	1	C10100	英語 I	×	1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	
				C10200	英語 II				
				C10300	英語 III		2年		
				C10400	英語 IV				
DF03	民法I	野中 貴弘	2	K20200	民法 I		※	・ 法律学科のみ1学年以上申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申込可。	
DF04	労働法	新谷 真人	2	K31300	労働法		2年		
DF05	地方自治論	山田 光矢	2	L30800	地方自治論		2年		
DF06	漢文学I	青木 隆	2	M31500	漢文学 I		2年		
DF07	アメリカ文学史	北原 安治	2	N30200	アメリカ文学史		2年		
DF08	英語学演習B	真野 一雄	1	N401S0	英語学演習 I	×	3年	・ 文学専攻（英文学）のみ申込可。 ・ I～IIIのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	
				N402S0	英語学演習 II				
				N403S0	英語学演習 III				
DF09	放送英語	マイケル ギルロイ	2	N31300	放送英語	×	2年	・ スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	
DF0A	新聞英語	桑山 啓子	2	N31400	新聞英語	×	2年	・ スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	
DF0B	東洋思想史II	梅川 純代	2	P30700	東洋思想史II		2年		
DF0C	考古学概説	山本 孝文	2	Q30500	考古学概説		2年		
DF0D	古文書学	渡邊 浩史	2	Q31700	古文書学		2年		
DF0E	経済学概論	続橋 孝行	2	R20300	経済学概論		※	・ 経済学部のみ1学年以上申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申込可。	
DF0F	貿易論	松原 聖	2	S30400	貿易論		2年		×
DF0G	英語科教育法II	市川 泰弘	2	T21000	英語科教育法II	×	2年	・ スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔美術史〕

森下 和貴子

◆**授業概要** 日本美術史について学びます。仏教美術を中心に古代から近世まで、各時代を代表するような彫刻や絵画の名品を取り上げ、作品の技法や様式、作品が生まれ出された時代背景などを学ぶことにより、日本美術史の流れを理解することを目的とします。

◆**学修到達目標** 日本美術の基礎知識を学び、美術作品が制作された歴史や背景を知ることによって、実際に博物館や美術館などへ行って実作品を鑑賞するときに、自分が楽しむだけでなく、ほかの人にも説明できるようになる。

◆**授業方法** 講義形式で行います。取り上げた作品が作られた時代の歴史を概説した上で、スクリーンに作品を映写しながら鑑賞のポイントを解説します。各自、作品を注意深く観察することにより、講義で指摘したポイントを自分の目で確認し理解することが重要です。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：オリエンテーション① 仏像鑑賞のための基礎知識を学ぶ。 事前学修：教科書の付録 212～213, 228～241 ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2 回	授業内容：オリエンテーション② インドにおける仏像の誕生について学ぶ。 事前学修：教科書の学習指導書を読んで、全体を把握しておくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
3 回	授業内容：飛鳥時代の美術① 飛鳥時代の歴史と美術について学ぶ。 事前学修：教科書 22～28 ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
4 回	授業内容：飛鳥時代の美術② 白鳳時代の歴史と美術について学ぶ。 事前学修：教科書 28～36 ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
5 回	授業内容：奈良時代の美術① 天平前期の歴史と美術について学ぶ。 事前学修：教科書 38～41 ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
6 回	授業内容：奈良時代の美術② 天平盛期の歴史と美術について学ぶ。 事前学修：教科書 41～44, 49～52 ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
7 回	授業内容：奈良時代の美術③ 天平後期の歴史と美術について学ぶ。 事前学修：教科書 44～45 ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
8 回	授業内容：平安時代の美術① 平安前期の歴史と美術について学ぶ。 事前学修：教科書 54～65 ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
9 回	授業内容：平安時代の美術② 平安後期の歴史と彫刻作品について学ぶ。 事前学修：教科書 70～75 ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
10 回	授業内容：平安時代の美術③ 平安後期の歴史と絵画作品について学ぶ。 事前学修：教科書 75～84 ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
11 回	授業内容：鎌倉時代の美術① 鎌倉時代の歴史と彫刻作品について学ぶ。 事前学修：教科書 86～90 ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
12 回	授業内容：鎌倉時代の美術② 鎌倉時代の絵画作品について学ぶ。 事前学修：教科書 90～100 ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
13 回	授業内容：南北朝時代と室町時代の美術 事前学修：教科書 102～116 ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
14 回	授業内容：江戸時代の美術 事前学修：教科書 118～127 ページを読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
15 回	授業内容：総まとめ 事前学修：配布プリントを読んで、これまでに受けた授業内容を確認し理解しておくこと。 事後学修：教科書を一読し、日本美術史の流れをつかむこと。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 当日プリント配布

〔通材〕『美術史 B11400』 通信教育教材（教材コード 000310）

〈この教材は市販の『カラー版 日本美術史』辻惟雄監修（美術出版社）と同一です〉

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 4日間を通じて出席することを前提とし、平常点と筆記試験により総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 F〕

齊藤 雄介

◆**授業概要** 本科目では、TOEIC の Reading Part を題材として基本的な英文法を学ぶことを目標とします。基本的な英文法を理解することは、英語の技能を全体的に向上させることにつながります。

◆**学修到達目標** 英語の基本的な文法を習得することを目標とします。

◆**授業方法** 受講者には一人一問ずつ問題に解答し、その英文の意味を考えてもらいます。ただし、受講者の力量に応じて授業方法を若干変更する可能性があります。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	名詞：英語の名詞には可算名詞と不可算名詞があり、それらの差異について説明し、その区別について学びます。 テキストの File 1 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	代名詞：英語の代名詞を扱い、それらが文中の何を受けているのかを見分けることを学びます。 テキストの File 2 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	動詞：英語の動詞の時制について学びます。 テキストの File 3 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	動詞句：主に動詞を用いた熟語表現について学びます。固定表現を覚えましょう。 テキストの File 4 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	助動詞：一語の助動詞だけではなく 2 語以上のもも扱い、それぞれがどのような場合に使用されるのかを学びます。 テキストの File 5 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	時制：今回は英語の相について学びます。過去形と完了形の区別を中心に取り上げます。 テキストの File 6 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	冠詞：日本人には特に難関であると言われる冠詞について学びます。a と the の区別について考えましょう。 テキストの File 7 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	関係詞：英語の関係代名詞を扱い、先行詞と関係代名詞の格について学びます。 テキストの File 8 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	不定詞と動名詞：一見同じに見える不定詞と動名詞の用法もありますが、それらには差異があります。今回は不定と動名詞の用法の差異について学んでいきます。 テキストの File 9 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	受動態：日本語と同様であるかに見える英語の受動態の特徴について学びます。 テキストの File 10 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	分詞：今回は現在分詞と過去分詞の特性について学びます。 テキストの File 11 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	分詞構文：現在分詞を用いる分詞構文の様々な用法について学びます。 テキストの File 12 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	名詞節：文において主語や補語になることのできる that 節を用いた表現について学びます。 テキストの File 13 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	形容詞：同じ意味になる形容詞の使い分けを中心に、英語の形容詞について学んでいきます。 テキストの File 14 の部分に解答しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	学習内容のまとめ及び最終試験 File 1 から File 14 までの内容を復習しておくこと 授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること

◆**教科書** 丸沼『Basic Reading for the TOEIC test』 Makoto Hayasawa・Laura MacGregor・Akio Yamamoto・Mami Okazaki・Kazuo Nakajima SEIBIDO 2004

◆**参考書** 英和辞典を持参してください。

◆**成績評価基準** 授業参加度（10%）、最終試験（90%）＊毎回出席していることを前提に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」[学生番号] および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

(民法 I)

野中 貴弘

- ◆**授業概要** この講座では、民法典の第1編「総則」に定められたルールについて学ぶ。具体的には、民法の適用場面をおさえた後、民法における登場人物についてのルール、納得のいかない意思表示をしてしまった場合の当事者間の利益調整のあり方、他者を使って取引等をする場合の代理制度、さらには永続した事実状態を尊重する制度としての時効制度を学ぶ。これらの説明にあたっては、担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げる。
- ◆**学習到達目標** 私法の基本法たる民法の総則を通して、その後の物権法や債権法の学習に必要な法的知識を修得するとともに、法的思考方法を養成することを目指す。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方(仕組み)を他者に論理的に説明できるようにすること、及び具体的事例(現代社会が直面している問題)の中から法的問題を発見できるようにすることを目指す。
- ◆**授業方法** 基本的にはレジュメを使用して講義形式で行うが、定期的に行う演習(全3回を予定)の際には、数分の検討時間をとった後に、受講生を指名して回答を求めるとして理解度を確認しながら進めていく(ただし、受講人数によっては、授業方法を変更することもある)。なお、第14回に授業内試験を行い、フィードバックとしてその後解説・講評を行う。また、本授業の事前学習・事後学習の時間は各2時間を目安としている。
- ◆**授業計画 (各 90分)**

1回	授業内容 事前学習 事後学習	民法の構造と民法における民法総則の位置づけ 講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、教科書や参考書の紹介を含めて、民法総則の学習方法について説明し、そのうえで学生が民法をはじめとした法学を学ぶ意味を一緒に考える 自分「なぜ民法を学びたいのか」「なぜ学ぶ必要があるのか」と整理してみる レジュメを再度読み直しておくこと
2回	授業内容 事前学習 事後学習	民法の全体像①(民法とは何か、民法の全体像) 民法がどのような場面において適用される法律であるのかを理解したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する レジュメあるいは参考書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと レジュメを読み直し、挙げられている条文について実際に六法を開いて読むこと
3回	授業内容 事前学習 事後学習	民法の全体像②(民法の基本概念) 民法における諸原則をはじめとし、善意・悪意や承継取得・原始取得といった法律用語の意味を学ぶ レジュメあるいは参考書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと 第3回講義は、第2回の講義内容の続きになるので、第2回レジュメを読み直してから受講すること レジュメを再度読み直しておくこと 所有権の取得方法として、原始取得と承継取得の意味を自分の言葉で具体例を挙げて説明できるようにしておくこと 第5回講義の際に扱う演習(第1回)の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる
4回	授業内容 事前学習 事後学習	権利の主体(人) 権利能力、意思能力、行為能力といった3つの能力概念を学び、それぞれどのような差があり、それぞれの能力を欠いてしまった法律行為の効力をおさえる。また、行為能力が十分でない者を保護する制度としての制限行為能力者制度についても学ぶ。 レジュメあるいは参考書の「第3章 人」を読んでおくこと レジュメを再度読み直しておくこと 制限行為能力者制度につき、民法が用意している4つの類型をおさえるとともに、こうした制限行為能力者と取引をした相手方保護の必要性とその手段について一連の流れをおさえる。 第5回講義の際に扱う演習(第1回)の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる。
5回	授業内容 事前学習 事後学習	権利の客体(物)、演習(第1回) 民法上の権利の客体となる物概念について学んだあと、第2回以降の講義内容の復習を兼ねた演習を行う レジュメあるいは参考書の「第5章 物」を読んでおくこと あらかじめ演習(第1回)の問題を全問検討してくる レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する
6回	授業内容 事前学習 事後学習	法律行為と意思表示①(法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈、心裡留保) 隣地者間における意思表示はいつたいつ効力が生じるのか、契約をしたものの両当事者が表示に込めた意味にずれ違いがあった場合にはどのような内容で効力が生じるのか、一方当事者が相手をだますつもりで契約の申込みをし、相手方が信じ切っていた場合にその契約の効力は生じるのか、といったことを学ぶ レジュメあるいは参考書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、「法律行為と意思表示の関係」「意思表示の到達と受領」「法律行為と意思表示の解釈」「心裡留保の箇所」を読んでおくこと レジュメを再度読み直しておくこと 意思表示や契約の解釈に関し、講義中で紹介した客観的解釈説と規範的解釈説の相違を整理する 第8回講義の際に扱う演習(第2回)の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる
7回	授業内容 事前学習 事後学習	法律行為と意思表示②(通謀虚偽表示、錯誤) 契約当事者が、真に譲渡する意思がないにもかかわらず、示し合わせて形だけの契約がなされたとき、この契約にはどのような効力があるか。契約締結にあたり、一方当事者に勘違いがあった場合はどうか レジュメあるいは参考書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、「通謀虚偽表示と錯誤の箇所」を読んでおくこと レジュメを再度読み直しておくこと 講義で出てきた94条2項の類推適用とは、94条2項が直接適用される場面とどこが異なるかを考えてみる 第9回講義の際に扱う演習(第2回)の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる
8回	授業内容 事前学習 事後学習	法律行為と意思表示③(詐欺、強迫)、演習(第2回) 契約締結にあたり契約の相手方が詐欺または強迫をしていた場合、詐欺や強迫の被害者はどのような主張が可能か 第三者が詐欺していた場合に何か違いがあるか、詐欺と強迫で違いがあるか レジュメあるいは参考書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち詐欺と強迫の箇所を読んでおくこと あらかじめ演習(第2回)の問題を全問検討してくる レジュメを再度読み直しておくこと 96条2項と96条3項を学んだだけで、当事者関係図が書けるように整理する 演習問題の回答を整理する
9回	授業内容 事前学習 事後学習	法律行為の自由と制約、無効と取消し、条件と期限 取締規定に反する契約は全て効力が生じないか。そもそも無効と取消しは、どのような違いがあるのか。条件と期限にはどのような差があるか。 レジュメあるいは参考書の「第7章 法律行為の自由と制約」「第8章 無効と取消し」「第9章 条件・期限」を読んでおくこと レジュメを再度読み直しておくこと これまで学んできた民法の条文がそれぞれ強行規定なのか任意規定なのかを考えてみる 第11回講義の際に扱う演習(第3回)の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる
10回	授業内容 事前学習 事後学習	代理①(代理の基本的仕組みと機能、代理権、代理行為) 第三者を使って法律行為をする場面である代理制度につき、その効果が生じる要件を整理して学習する レジュメあるいは参考書の「第10章 代理」のうち、第1節から第3節までを読んでおくこと レジュメを再度読み直しておくこと なぜ署名代理も顕名として許されているのかにつき、顕名が求められている趣旨に遡って考えてみる 第12回講義の際に扱う演習(第3回)の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみる
11回	授業内容 事前学習 事後学習	代理②(無権代理、表見代理)、演習(第3回) 代理行為の効果は本人に帰属するの原則であるが、代理の要件を満たしていなかった場合には、例外となる。そうした例外的局面における相手方保護の在り方について学ぶ レジュメあるいは参考書の「第10章 代理」のうち、第4節および第5節を読んでおくこと あらかじめ演習(第3回)の問題を全問検討してくる レジュメを再度読み直しておくこと 109条の表見代理は、どのような場面で相手方を保護するものか。条文を見て具体例が挙げられるようにしておくこと 演習問題の回答を整理する
12回	授業内容 事前学習 事後学習	時効①(取得時効) 永続した事実状態を尊重する制度としての取得時効について、その法的仕組みを学ぶ レジュメあるいは参考書の「第12章 時効」のうち、第1節を読んでおくこと レジュメを再度読み直しておくこと 自分の身のある物で、実は取得時効が完成している物がないか考えてみる
13回	授業内容 事前学習 事後学習	時効②(消滅時効、時効の共通原則、時効制度の意義と類似の制度) 「権利の上に眠る者は保護に値しない」制度としての消滅時効について、2017年の民法改正での影響も含め学習する。また、前回の取得時効にも共通する原則や、時効制度と似た除斥期間制度についても学ぶ。 レジュメあるいは参考書の「第12章 時効」のうち、第2節～第4節を読んでおくこと 日本民法では、時効の効果を受容するには時効の援用が必要だが、この援用はなぜ必要なのか、自分の言葉で説明できるようにしておくこと これまでのレジュメを全て整理し、次回の授業内試験に備える。分からない箇所があれば、教科書やレジュメ、さらには図書館にある文献も参照しながら整理する
14回	授業内容 事前学習 事後学習	質疑応答(30分)、授業内試験(60分) これまでのレジュメあるいは参考書を読み直し、理解の不十分な箇所をあらかじめ明らかにして質問できるようにしておくこと 試験において十分に理解していなかった部分の復習をする
15回	授業内容 事前学習 事後学習	授業内試験の解説・講評 授業内試験における疑問点や不明点を質問できるように整理しておく これまでのレジュメを整理するとともに、民法総則の総復習をする

- ◆**教科書** [当日資料配布] ※初回講義時に全回分の講義レジュメ(演習問題を含む)を配付する。
- ◆**参考書** [丸瀧]『民法入門・総則 エッセンシャル民法1』永田眞三郎ほか 第5版 有斐閣 2018年
[丸瀧]『リーガルベイス民法入門』道垣内弘人 第3版 日本経済新聞出版社 2019年
- ◆**成績評価基準** 第14回に授業内試験を行い、基礎知識を前提とした問題発見能力・論理的思考力が身についているかを判定する。問題形式としては、正誤問題(50%)と簡易記述式問題(50%)とを予定している。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔労働法〕

新谷 真人

- ◆**授業概要** 労働法は、生まれながらにして労働者保護を目的とした法律である。しかし、現実の労使関係においては、賃金未払い、長時間労働、不当な解雇などのトラブルが絶えない。本講義では、労働法の基礎を学ぶことによって、労使双方が守るべき労働法のルールを理解できるように心掛ける。
- ◆**学修到達目標** 労働法の体系における労働組合の役割を理解する。労働契約の重要私性を理解し、労働条件は対等な立場での合意に基づき決定すべきことを学ぶ。
- ◆**授業方法** 教科書とシラバスに従い、講義形式で授業を行う。本年度は、教科書の後半から始める。随時 DVD 等の映像資料を用いる。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 (確認は教科書に対応。) 第 11 章 団結権保障と労働組合法 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
2 回	授業内容 第 12 章 不当労働行為制度 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
3 回	授業内容 第 13 章 団体交渉と労働協約 (第 14 章は省略) 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
4 回	授業内容 第 1 章 労働法の原理 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
5 回	授業内容 第 2 章 労働基準法の理念と労働契約 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
6 回	授業内容 第 3 章 就業規則と労働契約 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
7 回	授業内容 第 4 章 配転・出向・転籍 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
8 回	授業内容 第 5 章 賃金の保護 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
9 回	授業内容 第 6 章 労働時間の規制 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
10 回	授業内容 第 7 章 休憩・休日・年次有給休暇 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
11 回	授業内容 第 8 章 労働災害の予防と災害補償 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
12 回	授業内容 第 9 章 女性・非正規労働者と労働法 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
13 回	授業内容 第 10 章 雇用の終了 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
14 回	授業内容 全体の復習、補足。 事前学修 教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学修 スライド資料等により授業内容を確認する。
15 回	授業内容 試験。 事前学修 試験範囲を復習する。 事後学修 自己採点してみる。

- ◆**教科書** 丸沼『労働法・第 12 版』新谷真人編著 弘文堂 2019 年
[当日資料配布]
- ◆**参考書** 丸沼『労働判例百選・第 9 版』ジュリスト 有斐閣 2016 年
- ◆**成績評価基準** 最終授業時の論述試験 (100%)。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔地方自治論〕

山田 光矢

- ◆**授業概要** 人類の歴史から、家族や集落や地域組織や国家の誕生と発展、地方自治制度の歴史と現状などを、ヨーロッパ諸国と日本の比較や、主権と自治権と人権の関係と地方自治制度の本質の分析を通じて、明治維新から現在までの日本の地方自治制度の確立と変遷を理解してもらい、日本の地方自治制度改革の歴史、目的、政策の特徴などの分析を通じて、日本の地方分権改革の現状と今後のあり方を解説する。
- ◆**学修到達目標** 日本の地方自治制度の現状を、明治維新以降の日本の地方自治制度改革の歴史から理解し、現状を維持すべきとするならその理由を、改革すべきとするならどこをどのように改革すべきかについて、自分の考えを確立する。
- ◆**授業方法** 講義形式を中心に基礎的な事項の理解を高めるとともに、項目ごとに討論や質疑応答を行い、各自の考えを確立できるように進めていく。
- ◆**履修条件** やる気さえあればその他の条件は特にありません。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：地方自治制度を国と地方の関係から解説する 事前学修：国家とほどのようなものか、地方公共団体とほどのようなものかを考えてくる 事後学修：国家と地方の関係に関する自分の考えを確認する
2 回	授業内容：自治権の理論を解説する 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：固有権説、伝來說、制度的保障説、団体主権論の相違を理解する
3 回	授業内容：日本とヨーロッパ主要国の地方自治制度の相違を解説する 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：日本の地方自治制度の特色をヨーロッパ諸国との比較から理解する
4 回	授業内容：地方政府の形態を解説する 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：委員会制、首長制、議院内閣制、市支配人制の相違を理解する
5 回	授業内容：明治維新・大日本帝国憲法と日本の地方自治制度を解説する 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：明治維新後の廃藩置県と行政村等、三新法下の自治制度、明治の大合併後の地方自治制度を理解する
6 回	授業内容：日本国憲法と地方自治制度（制限列举方式、概括例示方式） 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる。日本国憲法第 8 章の内容を考えてくる 事後学修：地方自治の本旨に関する自分の考えを確立する。自治権の種類や独立規制（行政）委員会制度等を再確認する
7 回	授業内容：戦後の地方自治制度改革の歴史と特徴を解説する 事前学修：ドッジ・ラインやシャープ勅告、地方公共団体の種類等を中心に、教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：戦後の地方自治制度改革の内容・普通地方公共団体・特別地方公共団体の種類や特徴を理解する
8 回	授業内容：昭和大合併とその後の第一次から第七次までの全国総合開発計画と広域行政の展開 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：広域市町村圏、地方生活圏、一部事務組合、広域連合等について理解する
9 回	授業内容：平成の大合併と国土形成計画・新国土形成計画および定住自立圏・地域自治組織・連携中枢都市圏等を解説する 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：広域行政（定住自立圏、連携中枢都市圏等）と身近な行政（地域自治組織等）の特徴と望ましいあり方について理解する
10 回	授業内容：地方財政制度の特徴と問題点を解説する 事前学修：教科書の関連した部分を読んでくる 事後学修：地方交付税交付金と国庫支出金（補助金）と三位一体の改革等の目的と内容等について理解する
11 回	授業内容：イギリスと日本の地方自治制度の共通点と異質点について、歴史を踏まえて解説する 事前学修：配布資料の関連部分に目を通してくる 事後学修：両国の広域行政と身近な行政に関する考え方と改革の特徴について理解する
12 回	授業内容：イギリスの地方自治制度改革の方向性について解説する 事前学修：配布資料の関連部分に目を通してくる 事後学修：イギリスの四地域の広域自治体、原則一層制の基礎自治体、パリッシュやコミュニティによる身近な準自治体について理解する
13 回	授業内容：日本の地方自治制度改革の方向性について解説する 事前学修：配布資料の関連部分に目を通してくる 事後学修：日本の広域行政制度の種類と特徴と、身近な行政の不十分さ等について理解する
14 回	授業内容：日本とイギリスの地方自治制度改革の共通性と相違点等について解説する 事前学修：配布資料を再度読み直してくる 事後学修：日本の身近な行政の望ましい方向性について、地域自治組織や地域運営組織等を中心に理解する
15 回	授業内容：これまでの講義の総括 事前学修：これまでの講義の内容を整理してくる 事後学修：日本の地方自治制度改革の歴史を理解する

- ◆**教科書** 丸沼『地方自治論』 福島康仁編・山田光矢他著 弘文堂
〔当日資料配布〕山田光矢著「日本とイギリスの冷戦終焉期以降の地方自治改革の歴史と日本の今後」
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 試験を 60%、平常点を 20%、小テストやレポート等を 20%程度で評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【漢文学Ⅰ】

青木 隆

◆**授業概要** 長編歴史小説『三国志演義』の名場面を講義形式で鑑賞する。その際、本授業が国語教員免許の必修科目であることに鑑み、訓読漢文から読み下し文を作成する実習形式を組み合わせることにより、漢和辞典の使い方および漢文訓読法の仕組みを学ぶ。本授業では、現代日本語訳として講談社学術文庫版『三国志演義』（全四巻）を用いる。講談社学術文庫版のほか、岩波文庫版『完訳三国志』（全八巻）、平凡社版『三国志演義』（上下）のいずれかの該当箇所を読んでいただくと助かります。

◆**学修到達目標** ①漢文訓読法により中国古典文を読むときに用いる漢和辞典の特徴を把握し、使いこなすことができる。②送り点・送りがなつき訓読文から漢文書き下し文を作成することができる。③漢文訓読法により『三国志演義』の名場面の本文を読んで楽しみ、現代中国に通じる近世中国の人々のものの考え方を・感じ方を理解し、説明することができる。

◆**授業方法** ①漢文訓読法の基礎的事項について演習をまじえて解説する。②漢和辞典を駆使して漢文訓読法により読み下し文作成の演習を行なう。その際、質疑応答を適宜行なう。③読み下し文作成後は、出席者に一文ずつ書き下し文を朗読することを求めつつ、質疑応答をまじえながら、原文の意味用法や訓読文法、名場面から浮かび上がる中国近世の社会背景などを講義する。その際、歴代の版画挿絵、現代中国の大河テレビドラマを用いて『三国志演義』の魅力を解説する。④振り仮名・送り仮名・送り点の有無により難易度の異なる幾つかのコースが用意されている。出席者は、新しい課題演習に望む際に、自分の実力にふさわしいコースを選ぶことができる。これにより、漢文は初めてという方にも、かなり自身のある方にもできるだけ対応することができる。コースを選ぶ際に教員からも助言を行なうことがある。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：漢文訓読法と漢和辞典の基礎知識―漢文訓読の仕組みと漢和辞典から得られる情報について 事前学修：自分の漢和辞典の凡例を熟読し、漢和辞典の引き方を知っておくこと。 事後学修：ノートを整理することによって授業の内容を確認し、理解しておくこと。
2回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）①「呂布の丁原殺し」（第三回）―演習と質疑 事前学修：『三国志演義』第三回の現代日本語訳を読んでおくこと。 事後学修：演習時に感じた疑問点などをノートに整理しておくこと。
3回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）①「呂布の丁原殺し」（第三回）―解説と質疑 事前学修：書き下し文例等の配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：演習の難易度、講義の内容理解度から判断して次のコースを決定すること。
4回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）②「虎牢関の戦い」（第五回）―演習と質疑 事前学修：『三国志演義』第五回の現代日本語訳を読んでおくこと。 事後学修：演習時に感じた疑問点などをノートに整理しておくこと。
5回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）②「虎牢関の戦い」（第五回）―解説と質疑 事前学修：書き下し文例等の配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：演習の難易度、講義の内容理解度から判断して次のコースを決定すること。
6回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）③「呂布、貂蝉を待つ」（第八回）―演習と質疑 事前学修：『三国志演義』第八回の現代日本語訳を読んでおくこと。 事後学修：演習時に感じた疑問点などをノートに整理しておくこと。
7回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）③「呂布、貂蝉を待つ」（第八回）―解説と質疑 事前学修：書き下し文例等の配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：演習の難易度、講義の内容理解度から判断して次のコースを決定すること。
8回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）④「呂布の董卓殺し」（第九回）―演習と質疑 事前学修：『三国志演義』第九回の現代日本語訳を読んでおくこと。 事後学修：演習時に感じた疑問点などをノートに整理しておくこと。
9回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）④「呂布の董卓殺し」（第九回）―解説と質疑 事前学修：書き下し文例等の配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：演習の難易度、講義の内容理解度から判断して次のコースを決定すること。
10回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）⑤「呂布、月夜に徐州を襲う」（第一四回）―演習と質疑 事前学修：『三国志演義』第一四回の現代日本語訳を読んでおくこと。 事後学修：演習時に感じた疑問点などをノートに整理しておくこと。
11回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）⑤「呂布、月夜に徐州を襲う」（第一四回）―解説と質疑 事前学修：書き下し文例等の配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：演習の難易度、講義の内容理解度から判断して次のコースを決定すること。
12回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）⑥「呂布、弓で戟を射る」（第一六回）―演習と質疑 事前学修：『三国志演義』第一六回の現代日本語訳を読んでおくこと。 事後学修：演習時に感じた疑問点などをノートに整理しておくこと。
13回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）⑥「呂布、弓で戟を射る」（第一六回）―解説と質疑 事前学修：書き下し文例等の配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：演習の難易度、講義の内容理解度から判断して次のコースを決定すること。
14回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）⑦「呂布、下邳籠城」（第一九回）―演習（レポート作成）と質疑 事前学修：『三国志演義』第一九回の現代日本語訳を読んでおくこと。 事後学修：演習時に感じた疑問点などをノートに整理しておくこと。
15回	授業内容：『三国志演義』の名場面（呂布特集）⑦「呂布、下邳籠城」（第一九回）―解説と質疑 事前学修：書き下し文例等の配布資料に目を通しておくこと。 事後学修：演習・講義を振り返りかえって漢文訓読における漢和辞典の役割を再確認すること。

◆**教科書** **【当日資料配布】** 難易度の異なる訓読テキストからご自分にあったものをお選びいただけます。

◆**参考書** 教室に必ず漢和辞典をお持ちになってください。

【丸沼】『漢辞海』 戸川芳郎監修 第四版 三省堂 2017年

授業ではこの辞書を用います。ふだんお使いの漢和辞典があればそれを教室にお持ちになってください。

◆**成績評価基準** 難易度別の課題コースの演習と発表（75%）、最終日に作成するレポート（25%）。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

(アメリカ文学史)

北原 安治

- ◆**授業概要** アメリカの建国から20世紀までのアメリカ文学の流れを学び、各作家の特徴を理解できるようになる。
- ◆**学修到達目標** テキストを最初から読んで行きます。文法構造を把握して、英文がしっかり読めるようになる。映像資料を活用などして米文学史の全体的な流れを把握できるようになる。村上春樹の新訳のフィッツジェラルドの『華麗なるギャツビー』のDVDなど事前に見ておけば良い。28章のヘミングウェイまでは行きたい。
- ◆**授業方法** 予習テストと予習ノート検査(教科書の書き込みだけでは不可)をする場合がある。テキストの英文を手書きでノートに写す。手書き以外は不可。理想として28章まで予習。40人すべて予習してもよい。和訳を付ける。テキストの最後に参考文献があるので予習の参考にする。抜き打ちの実力テストをやる場合があるので辞書必携。試験は持ち込み無し。毎回テキストを間違う学生がいるので注意。薄手のテキスト。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆授業計画 [各90分]

1回	授業内容: 映像資料, アメリカ先住民の文学およびジョン・スミス 事前学修: 『アメリカ・インディアン』(1977年)(中公新書)金関寿夫著参照 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
2回	授業内容: 映像資料, 『プリマス植民地』のブラッドフォードとアメリカ最初の詩人のブラッドストリート 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
3回	授業内容: 映像資料, 『大いなる目覚め』のエドワーズと『ヤンキーズム』のフランクリン 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
4回	授業内容: 映像資料, ゴシック小説の先駆者のブロックデン・ブラウンと『リップ・ヴァン・ウィンクル』のアーヴィング 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。アーヴィングの映画『スリーピー・ホロウ』を見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
5回	授業内容: 映像資料, 歴史ロマンスのクーパーとロマン派の詩人プライアント 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。クーパーの映画『モヒカン族の最後』を見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
6回	授業内容: 映像資料, 怪奇・推理小説のポウと『超絶主義』のエマーソン 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。ポウの怪奇短編映画『世にも奇妙な物語』などを見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
7回	授業内容: 映像資料, 『ウォールデン』のソーローとピューリタニズム批判のホーソン 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。ホーソンの映画『緋文字』を見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
8回	授業内容: 映像資料, 『白鯨』のメルヴィルと米代表詩人のホイットマン 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。映画『白鯨』を見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
9回	授業内容: 映像資料, 孤独な心境を詠ったディッキンソンとリアリズムのトウェイン 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
10回	授業内容: 映像資料, 心理主義のジェイムズと自然主義のクレイン 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。ジェイムズの映画『ある貴婦人の肖像』を見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
11回	授業内容: 映像資料, 環境決定論のドライサーとシカゴ・グループのサンドバーグ 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。ドライサーの映画テキスト『陽の当たる場所』を見ておく。47ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
12回	授業内容: 映像資料, 深層心理のアンダソンと自然を詠ったフロスト 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
13回	授業内容: 映像資料, ハーレム・ルネッサンスのヒューズと『バターソール』のウィリアムズ 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
14回	授業内容: 映像資料, 『偉大なギャツビー』のフィッツジェラルドとノーベル賞作家ヘミングウェイ 事前学修: 英文の自分なりの和訳をしておく。映画『偉大なギャツビー』を見ておく。ヘミングウェイの映画『老人と海』など見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修: 講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
15回	授業内容: アメリカ文学史の全体的まとめと試験 事前学修: 講義の復習。正しい和訳と小論文の準備。 事後学修: アメリカ文学史の全体的な復習。

◆**教科書** 丸沼『An Outline of American Literature (アメリカ文学概観)』セメスターシリーズ 井上謙治編著 南雲堂 全48ページの薄いテキスト

◆**参考書** 丸沼『アメリカ小説入門』井上謙治著 研究社 1995年
この本は講義では使いません。図書館で参照。

◆**成績評価基準** 小テスト、試験などによる総合評価。手書きノート検査あり。必ず手書き。テキスト間違いや不携帯は不可。試験はテキストの和訳(テキスト全体からだ分量が多いので、講義中に指定する限定個所の和訳)と小論文(和訳がある程度できなと、小論文がいくらできてても不可とする)。試験用紙裏面すべてに小論文を当てる。1000字以上書くこと。試験時間は100分ほどの予定。小論文タイトルは「ポーとメルヴィルのふたりの特徴と作品を論じる」。この2作家以外のことを書いてはいけない。書き方として全体論でも作品論でもよい。全体論は上の参考書の『アメリカ小説入門』にあるような2作家の全体的特徴と複数の代表作の説明を1,000字以上使い、浅く広く書くものである。作品論は二人の作品からひとつずつ選び(短編でも長編でもよい)。例えばポーの短編とメルヴィルの『白鯨』の2冊に集中して深く論ずるものである(500字以上ずつ合計1,000字以上)。どちらの論じ方でもよい。事前にまとめておくこと。辞書やノートなどの持ち込みなし。2作家の作品名や登場人物名は日本語でよい。作品名はヒントとして試験の問題文に印刷しておく。無遅刻、皆出席を望む。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語学演習 B〕

真野 一雄

- ◆**授業概要** 英語学の根幹をなす音韻論・形態論・統語論について基礎的・一般的な分野から専門的な事項まで幅広く概観します。毎回、テキストを読み、理解できるところ、できないところを自覚しておいてください。練習問題の解答も用意しておいてください。
- ◆**学修到達目標** 「ことば」について、すなわち英語学・言語学（・日本語学）の基礎的知識を修得し、言語について自ら考察できるようにする。
- ◆**授業方法** テキスト本文の解説、補足説明を行います。必要に応じて担当講師が用意する練習問題を行います。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 序章 ことばの世界を鳥瞰する 事前学修 テキスト p.3 - p.8 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
2回	授業内容 第1章 世界のことば(1) 分類と特徴 事前学修 テキスト p.9 - p.17 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
3回	授業内容 第1章 世界のことば(2)日本語と英語の比較 事前学修 テキスト p.17 - p.19 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
4回	授業内容 第2章 ことばと音声(1)英語の音と日本語の音 事前学修 テキスト p.21 - p.27 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
5回	授業内容 第2章 ことばと音声(2) リズム、連結、同化 事前学修 テキスト p.27 - p.32 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
6回	授業内容 第3章 ことばと語(1) 複合 事前学修 テキスト p.33 - p.38 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
7回	授業内容 第3章 ことばと語(2) 派生 事前学修 テキスト p.38 - p.43 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
8回	授業内容 第4章 ことばと文法(1) 統語構造 事前学修 テキスト p.44 - p.50 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
9回	授業内容 第4章 ことばと文法(2) 日本語の節構造 事前学修 テキスト p.50 - p.55 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
10回	授業内容 第5章 ことばと意味(1) 語の意味 事前学修 テキスト p.56 - p.62 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
11回	授業内容 第5章 ことばと意味(2) 文の意味 事前学修 テキスト p.62 - p.65 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
12回	授業内容 第6章 ことばの変化(1) 音韻変化 事前学修 テキスト p.66 - p.71 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
13回	授業内容 第6章 ことばの変化(2) 形態変化、統語変化 事前学修 テキスト p.71 - p.78 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
14回	授業内容 第7章 ことばと社会 様々な英語、ことばの性差 事前学修 テキスト p.79 - p.87 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
15回	授業内容 試験とその解説 事前学修 1章～7章の総復習をしておく。 事後学修 1章～7章のまとめをし、理解を完璧にする。

- ◆**教科書** 『〔入門〕ことばの世界』 大修館書店
- ◆**参考書** 教材 『英語学概説 N30700』（教材コード 000567）
（『日英対照 英語学の基礎』 くらしお出版）
その他の英語学入門書、概説書なら何でも結構です。
- ◆**成績評価基準** 全出席を前提に、試験100%で評価の予定。（試験は途中退出なしです）

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔放送英語〕

マイケル ギルロイ

- ◆**授業概要** An informative, thought-provoking course centering on topics of current interest, including themes such as the environment, health, technology, the arts and entertainment.
- ◆**学修到達目標** To build up student's English language skills through active, even passionate learning, enhancing reading, listening comprehension, writing skills, enlarge vocabulary, and boost general knowledge and self confidence. Leading towards a final presentation.
- ◆**授業方法** Students will work alternatively individually, in pairs and in groups to complete in-class activities. Exercises include reading, writing, role plays and discussions. A final pair presentation will be performed.
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1回	授業内容: Introductions ¥ Getting to know each other / your teacher. 事前学修: Enthusiasm, dictionary, notebook, pens, etc. 事後学修: Be prepared with textbook, dictionary, etc.
2回	授業内容: "Music and the Mind" 事前学修: Text or photocopy. 事後学修: Review Lesson.
3回	授業内容: "Body Language across Cultures" 事前学修: Preview this chapter / unit. 事後学修: Review Lesson.
4回	授業内容: "Turning Waste into Wealth" 事前学修: Preview this unit. 事後学修: Review Lesson 1 2+3.
5回	授業内容: "The Search for other Worlds" 事前学修: Preview this unit. 事後学修: Review Lesson.
6回	授業内容: "Crowdsourcing" 事前学修: Preview this Lesson. 事後学修: Review Lesson.
7回	授業内容: "Urban Landmarks" 事前学修: Preview this unit. 事後学修: Review lesson.
8回	授業内容: "Spending a Fortune" 事前学修: Preview this unit. 事後学修: Review today's 3 units.
9回	授業内容: "Wonders of the Deep" 事前学修: Preview this unit. 事後学修: Review Lesson.
10回	授業内容: "Product Placement" 事前学修: Preview this unit. 事後学修: Review Lessons.
11回	授業内容: "White collar Crime" 事前学修: Preview this unit. 事後学修: Review Lesson.
12回	授業内容: Consolidation of today's units 事前学修: Pre-read all material. 事後学修: Review all of today's units.
13回	授業内容: "Working Disabled" 事前学修: Preview this unit. 事後学修: review unit.
14回	授業内容: Presentation Preparation 事前学修: Ideas / materials for presentation 事後学修: final preparation for presentation
15回	授業内容: Presentation. 事前学修: Poster and notes for presentation. 事後学修: Enjoy Summer

- ◆**教科書** "Reading Fusion 1" Nan Un Do. Andrew E. Beuett
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** Grades will be allocated on the basis of attendance, participation and completed assignments including a final presentation.

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

選 講 座 の 定 の

4 東 京 期

5 東 京 期

6 東 京 期

6 東 京 期

5 札 幌 期

5 福 岡 期

7 名 古屋 期

7 大 阪 期

月 夜 間 日 曜 日

火 夜 間 曜 日

水 夜 間 曜 日

木 夜 間 曜 日

金 夜 間 曜 日

付 録

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔新聞英語〕

桑山 啓子

◆**授業概要** 市販されているテキストを使用して英字新聞の英文を読む。英字新聞の構成や新聞英語の特徴などを説明しながら新聞記事を読んでいく。新聞記事に対する意見を個人、またはグループでまとめて用紙に書いたり発表したりする。また実際の英字新聞の記事を使い、新聞記事の構成、新聞英語の特徴を確認しながら内容をまとめる。

◆**学修到達目標** 英字新聞の記事の構造を理解して、英字新聞の英語の特徴を学び、Japan Times, Japan News, New York Times などの英字新聞を読めるようになる。また、辞書を使わずに新聞記事の内容を把握し、その記事に対する自分の意見を言うようになる。

◆**授業方法** 市販のテキストを用いて 1 課を 2 回の授業で読む。1 回目は Key Expressions 1 - Newspaper English までを答え合わせをしながら、授業で読む新聞記事に必要な情報を得る。その後で Reading の内容を確認する。2 回目は Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認してから段落ごとに英文の内容を確認して、重要な語句や、英文を和訳する。その後で Summary - Comprehension 2 の exercises の答え合わせをする。読んでいく Chapter は順番通りではないので、シラバスを確認しながら事前学修を進めること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容	ガイダンス (授業の進め方、成績評価などについての説明)、英字新聞についての説明。 Chapter 1: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。
	事前学修	Chapter 1: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的な内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。
	事後学修	事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
2 回	授業内容	Chapter 1: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。
	事前学修	Chapter 1: Reading の新聞記事を和訳する。Summary - Comprehension 2 の問題を解く。
	事後学修	Chapter 1: Reading の英文を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
3 回	授業内容	Chapter 2: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。
	事前学修	Chapter 2: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的な内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。
	事後学修	事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
4 回	授業内容	Chapter 2: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。
	事前学修	Chapter 2: Reading の新聞記事を和訳する。Summary - Comprehension 2 の問題を解く。
	事後学修	Chapter 2: Reading の英文を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
5 回	授業内容	Chapter 5: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。
	事前学修	Chapter 5: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的な内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。
	事後学修	事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
6 回	授業内容	Chapter 5: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。
	事前学修	Chapter 5: Reading の新聞記事を和訳する。Summary - Comprehension 2 の問題を解く。
	事後学修	Reading の英文を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
7 回	授業内容	Chapter 6: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。
	事前学修	Chapter 6: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的な内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。
	事後学修	事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
8 回	授業内容	Chapter 6: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。
	事前学修	Reading の新聞記事を和訳する。Summary - Comprehension 2 の問題を解く。
	事後学修	Reading の英文を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
9 回	授業内容	Chapter 7: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。
	事前学修	Chapter 7: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的な内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。
	事後学修	事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
10 回	授業内容	Chapter 7: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。
	事前学修	Reading の新聞記事を和訳する。Summary - Comprehension 2 の問題を解く。
	事後学修	Reading の英文を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
11 回	授業内容	Chapter 11: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。
	事前学修	Chapter 11: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的な内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。
	事後学修	事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
12 回	授業内容	Chapter 11: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。
	事前学修	Chapter 11: Reading の新聞記事を和訳する。Summary - Comprehension 2 の問題を解く。
	事後学修	Reading の英文を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
13 回	授業内容	Chapter 14: Key Expressions 1 - Newspaper English の答え合わせ、Reading の英文を新聞記事の構成 (Headline, Lead, Body) を確認して、それぞれの内容を確認する。
	事前学修	Chapter 14: Key Expressions 1 - Newspaper English の問題を解く。Reading の英文を読み、全体的な内容をまとめる。Headline, Lead, Body に分け、それぞれの部分で書かれていることをまとめる。英文を読みながら分からない単語を辞書で調べて理解できない英文をチェックする。
	事後学修	事前学修で解いた Key Expressions 1 - Newspaper English の間違ったところを復習。Reading の英文で分からなかったところをチェックしておく。
14 回	授業内容	Chapter 14: 段落ごとに英文全体の内容を確認して英文を和訳する。Summary - Comprehension 2 の答え合わせ。
	事前学修	Chapter 14: Reading の新聞記事を和訳する。Summary - Comprehension 2 の問題を解く。
	事後学修	Reading の英文を読み直し、事前学修で分からなかったところを復習。事前学修で解いた Summary - Comprehension 2 の間違えたところを復習。
15 回	授業内容	試験と解説
	事前学修	第 1 回 - 第 14 回で読んだテキストの新聞記事を中心に exercises も含めて復習する。重要な単語、熟語を覚え、英文の内容を確認してテストに備える。
	事後学修	試験に出たところを再度見直す。

◆**教科書** 〔丸〕『Insights 2020』村尾・深山他 2 名編著 金星堂

◆**参考書** 〔丸〕『英字新聞のリーディング』水嶋いづみ編著 研究社

◆**成績評価基準** 4 日間出席をすることを前提として以下の様に評価します。出席することが前提となりますので成績に出席点は入りません。(授業内に行う小テストなど 20%、授業時の発表状況 20%、試験 60%)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔東洋思想史Ⅱ〕

梅川 純代

◆**授業概要** 文化・風俗という親しみやすいものを切り口に、思想・宗教という堅苦しいものを紐解いていきます。特に、文化・風俗・思想・宗教の根底に、人間の生活から切り離せない「性」というものがどのように関わっているのかをみていきます。また、各授業の最後5分を使い、授業内容を各自でまとめて頂きます。

◆**学修到達目標** 誰でも聞いたことがあるような伝説や有名な文学作品、絵画資料を使って、その根底に流れる思想・宗教を探っていきます。中国の思想と宗教を主軸におきますが、日本やインドにおける発展・展開をも考察することで、比較文化的、人類学的な角度からもアプローチを行います。さらに、「性」という忌避されがちなものにフォーカスすることで、思想や宗教、または文化風俗を、通常とは異なるレイヤーから読み解くことを目指します。また、各授業で行う「授業内容のまとめ」では、ノートテイキング力、要約力の向上を狙います。

◆**授業方法** 基本的には講義形式で行います。部分的に、討論やグループワークを取り入れます。最終授業はレポート提出にあてます。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：イントロダクション 講義の進め方の説明、ノートテイキング法の紹介、レポートの書き方の解説 事前学修：特になし 事後学修：ノートテイキングの方法とレポートの書き方を確認する
2 回	授業内容：性と生 事前学修：可能であれば、参考資料に目を通しておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
3 回	授業内容：『春望』に見る気と祖霊概念 事前学修：杜甫の『春望』を一読しておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
4 回	授業内容：神仙バカその1 秦の始皇帝 徐福伝説一方土と神仙 事前学修：徐福伝説について簡単に知っておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
5 回	授業内容：得仙と性 事前学修：西王母について簡単に知っておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
6 回	授業内容：感生帝説と始祖 事前学修：特になし 事後学修：授業内容のまとめを確認
7 回	授業内容：神仙バカその2 漢の武帝 「漢武内伝」にみる武帝と神仙 事前学修：漢の武帝について簡単に情報を集めておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
8 回	授業内容：仏教の発生 事前学修：釈迦について簡単に知っておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
9 回	授業内容：仏教の展開 事前学修：日本仏教の流れを簡単に把握しておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
10 回	授業内容：善書と宝巻 事前学修：特になし 事後学修：授業内容のまとめを確認
11 回	授業内容：文化と思想1 『金瓶梅』に見る明代の女性観 事前学修：『金瓶梅』のあらすじを簡単に把握しておく 事後学修：授業内容のまとめを確認
12 回	授業内容：文化と思想2 春宮画と春画 事前学修：特になし 事後学修：授業内容のまとめを確認
13 回	授業内容：文化と思想3 日中ジェンダー比較 理想の異性観 事前学修：特になし 事後学修：特になし
14 回	授業内容：日中比較 「夜船閑話」に見る仏教と道教 事前学修：特になし 事後学修：特になし
15 回	授業内容：レポート執筆 事前学修：レポート執筆に必要な資料等を収集しておくことが望ましい 事後学修：特になし

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 丸沼『『気』の思想からみる道教の房中術』 坂出祥伸・梅川純代 五曜書房

◆**成績評価基準** 出席とレポートで評価いたします。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔考古学概説〕

山本 孝文

◆**授業概要** 考古学は過去の人類が遺した様々な痕跡である遺構・遺跡から歴史の一片を復元する分野であり、文献史学や自然科学などの様々な分野を複合・応用することで多様な研究方法・解釈が提示できる総合的学問分野でもある。本講義では、まず考古学の学問的特徴についての理解を促し、考古学の学問としての歴史（考古学史）を紹介しながら、世界と日本において考古学がどのように発展してきたのかを概観する。また、日本の考古学の研究の歴史を個別に紐解きながら、旧石器時代、縄文時代、弥生時代などの考古学研究が扱う様々な時代的枠組みを解説する。

◆**学修到達目標** 歴史研究の様々な方法を理解し、その中で考古学の研究が果たしている役割について説明することができるようにする。

考古学の研究法と研究対象を把握し、説明することができるようにする。

過去の社会と現代社会を比較することで過去の人類の文化に触れ、その差を感じることができるようにする。

考古学史を理解し、現在の日本考古学の枠組みがどのようにできあがってきたのかを理解できるようにする。

◆**授業方法** 講義はプロジェクターを用い、写真・図面などを見せながら進める。必要に応じてメモを取り、講義内容の骨子がつかめるようにしておくこと。

リアクションペーパーの作成と同時に講義への質問事項も受け付ける。授業を受けながら内容を理解するとともに、疑問点などを提示できるようにする。

個別テーマに即した発掘調査の事例なども随時紹介する。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 考古学とは何か 考古学と文献史学との違い、研究対象について解説する。	事前学修 考古学の理論と方法論に関する概説書を読んでおく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
2回	授業内容 考古学の様々な種類 考古学研究の多様な方法について解説し、研究方法の多様性を学ぶ。	事前学修 考古学の理論と方法論に関する概説書を読んでおく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
3回	授業内容 過去への関心のはじまり 考古学が近代学問として成立する以前の遺跡や遺物に対する関心、考古学的思考の芽生えについて理解する。	事前学修 各自が興味がある地域・時代の遺跡や発掘調査などの概要を調べてみる。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
4回	授業内容 近代考古学の成立 実証的学問への関心が芽生えた日本の江戸時代の歴史研究と、明治時代に考古学が成立した時代背景・状況を理解する。	事前学修 各自が興味がある地域・時代の遺跡や発掘調査などの概要を調べてみる。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
5回	授業内容 日本人の起源と人種・民族論争 明治時代の考古学・人類学界の大きな論点である日本人の起源と人種・民族に関する論争を知り、現時点での日本人起源論を理解する。	事前学修 各自が興味がある地域・時代の遺跡や発掘調査などの概要を調べてみる。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
6回	授業内容 考古学による時代区分と土器の役割 考古学で最も普遍的かつ重要な資料である土器の特性を知り、土器が考古学・歴史研究に果たした役割を理解する。	事前学修 各自が興味がある地域・時代の遺跡や発掘調査などの概要を調べてみる。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
7回	授業内容 旧石器時代の認識と研究の歴史 日本において旧石器時代の存在が認識されたときの状況とその後の研究の歴史と挫折を理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
8回	授業内容 縄文土器研究とミネルヴァ論争 日本考古学の特徴である精緻な土器編年の研究と、土器編年に関わる論争について理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
9回	授業内容 弥生集落の発掘とイメージ形成 弥生時代を主な例に挙げ、大規模発掘と研究によって各時代のイメージが変化する状況を理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
10回	授業内容 高松塚古墳の発掘と古墳壁画の保存 1970年代以降の考古学ブームの火付け役となった高松塚古墳の調査とその後展開について理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
11回	授業内容 装飾古墳研究の現状と課題 九州や関東・東北を中心に分布するいわゆる装飾古墳とは何かを知り、研究の現状と展望を理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
12回	授業内容 須恵器編年と稲荷山鉄剣の発見 古墳時代研究の枠組みとなっている須恵器の研究状況を知り、古墳時代の年代観の基準資料について理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
13回	授業内容 古代都城研究の現在① 飛鳥時代の歴史に大きく関わる都城遺跡と出土遺物に関する知識を得、古代における考古学研究の現状を理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
14回	授業内容 古代都城研究の現在② 奈良時代の歴史に大きく関わる都城遺跡と出土遺物に関する知識を得、古代における考古学研究の現状を理解する。	事前学修 前回までの授業の内容から、補足説明が必要な点や疑問などをまとめておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。
15回	授業内容 まとめと確認 授業を通じて学んだ内容をまとめ、それぞれのトピックが現在の通史的な考古学研究のどの部分に位置付けられるのか確認する。	事前学修 前回までの内容をノートにまとめ直し、全体の授業の流れが理解できるようにしておく。	事後学修 授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるようにする。

◆**教科書** 当日資料配布

◆**参考書** 丸沼『日本考古学のおゆみ』 勅使河原彰 名著出版 1995年

◆**成績評価基準** 試験 60%、リアクションペーパー 30%、授業参画度 10%

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔古文書学〕

渡邊 浩史

◆**授業概要** 歴史学において必要な広く史料論について講義した上で古文書の様式と機能について講義する。また古文書の写真やweb上で利用できる古文書を使用して古文書の機能の実際を学ぶ。

◆**学修到達目標** 古文書の様式や機能を理解する事で、古文書読解の基礎力を習得する。また、複数の文書がどのように機能するかも学び、卒業論文作成の基本的な能力を身につける。

◆**授業方法** 講義方式で行う。前半ではプリントを中心に講義する。後半ではテキストを指定するが、適宜web上で利用できる古文書のデジタルデータを利用する。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：はじめに 史料論 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
2回	授業内容：史料論 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
3回	授業内容：1. 古文書の様式(1)様式の分類 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
4回	授業内容：(2)公式様文書（詔書・勅旨を中心に） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
5回	授業内容：(2)公式様文書（その他の公式様文書） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
6回	授業内容：(3)公家様文書（宣旨・官宣旨を中心に） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
7回	授業内容：(3)公家様文書（御教書を中心に） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
8回	授業内容：(4)武家様文書（下文を中心に） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
9回	授業内容：(4)武家様文書（下知状を中心に） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
10回	授業内容：(4)武家様文書（その他の武家様文書） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
11回	授業内容：2. 古文書の実際 東寺百合文書に見る古文書の発給過程とその機能（矢野荘の悪党事件） 事前学修：事前にプリントの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
12回	授業内容：桜井家文書とは 事前学修：事前にテキストの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
13回	授業内容：桜井家文書の中世 事前学修：事前にテキストの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
14回	授業内容：桜井家文書の近世 事前学修：事前にテキストの当該部分を読んでおくこと 事後学修：授業で学習したことを自分で整理しておくこと
15回	授業内容：まとめと試験 事前学修：1～14回の内容をよく復習すること 事後学修：試験の内容を含めてよく復習し理解を深めること

◆**教科書** 丸沼『桜井家文書－戦国武士がみた戦争と平和－』 神奈川県立歴史博物館コレクション展図録 神奈川県立博物館 2019年

事前資料送付 プリント資料・史料

◆**参考書** 丸沼『古文書学入門』 佐藤進一 法政大学出版会 2003年
『古文書入門ハンドブック』 飯倉晴武 吉川弘文館 1993年

◆**成績評価基準** 平常点20% 試験80%

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済学概論〕

続橋 孝行

- ◆**授業概要** この授業の目的は、「デジタル経済」の進展にともなって急速に変化している経済を「ミクロ経済学」の分析要素を使って考察することにあります。具体的には、所得格差問題、環境、競争が激しい「外食業界」、企業倒産などを取り上げる予定です。
- ◆**学修到達目標** 経済主体の合理的行動をしっかりと理解し、ミクロ経済学の分析要素を使い、経済現象を正確に分析することができるようにすることです。
- ◆**授業方法** 板書を中心とした授業になりますが、教員が一方向的に説明し続けることは避けたいと思っております。ときおり、学生から質問を受けますし、逆に教員のほうからも学生に質問いたします。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	経済の仕組みを説明する。具体的には、家計、企業、政府を取り上げる。
	事前学修	テキスト 1-5 ページを読んでおくこと。
	事後学修	各経済主体の合理的行動を覚え、理解しておくこと。
2 回	授業内容	市場とは何かを説明する。具体的には、財・サービス市場、労働市場、金融市場を取り上げる。
	事前学修	テキスト 6-12 ページを読んでおくこと。
	事後学修	各マーケットの特徴を理解しておくこと。
3 回	授業内容	需要曲線について学ぶ。
	事前学修	テキスト 54 ページを読んでおくこと。
	事後学修	需要曲線が、なぜ右下がりの曲線になることを理解しておくこと。
4 回	授業内容	供給曲線について学ぶ。
	事前学修	テキスト 55-56 ページを読んでおくこと。
	事後学修	供給曲線が、なぜ右上がりの曲線になるのか理解しておくこと。
5 回	授業内容	市場価格および完全競争市場について説明する。
	事前学修	テキスト 56-59 ページを読んでおくこと。
	事後学修	市場価格で取引が行われると、パレート最適が実現するということを理解しておくこと。
6 回	授業内容	消費者行動について説明する。
	事前学修	前回の授業を確認し、配布資料に目を通しておくこと。
	事後学修	基数的効用の特徴について理解しておくこと。
7 回	授業内容	基数的効用を使って所得格差問題を考察する。
	事前学修	配布資料に目を通しておくこと。
	事後学修	期待効用および期待所得について理解しておくこと。
8 回	授業内容	デジタル経済と所得格差問題を説明する。
	事前学修	配布資料に目を通しておくこと。
	事後学修	労働生産性について理解しておくこと。
9 回	授業内容	生産者行動理論について学ぶ。
	事前学修	テキスト 43-44 ページを読んでおくこと。
	事後学修	生産者の合理的行動について理解しておくこと。
10 回	授業内容	「費用」について学ぶ。
	事前学修	テキスト 44-46 ページを読んでおくこと。
	事後学修	「総費用」は「固定費用」と「変動費用」で構成されるということを覚え、理解しておくこと。
11 回	授業内容	「利益の最大化」について考察する。
	事前学修	テキスト 44-46 ページを読んでおくこと。
	事後学修	限界収入と限界費用が一致したとき、生産者の利益が最大になる、ということを理解しておくこと。
12 回	授業内容	損益分岐点と外食業界について学ぶ。
	事前学修	テキスト 47 ページを読んでおくこと。
	事後学修	損益分岐点では企業の利潤がゼロになるということを理解しておくこと。
13 回	授業内容	企業倒産について考察する。
	事前学修	配布資料に目を通しておくこと。
	事後学修	「債務超過」になれば、倒産の確率が高まるということを理解しておくこと。
14 回	授業内容	環境問題について考える
	事前学修	配布資料に目を通しておくこと。
	事後学修	環境問題を解決する際、政府が重要な役割を果たすということを理解しておくこと。
15 回	授業内容	これまでの授業の「まとめ」と理解度の確認
	事前学修	自筆のノートを整理しておくこと。
	事後学修	分析の要具、専門用語をしっかりと覚え、理解しておくこと。

- ◆**教科書** 丸沼『Next 教科書シリーズ経済学入門』山口正春・楠谷清編 弘文堂 2019 年
- ◆**参考書** 資料を必要に応じて配布します。
- ◆**成績評価基準** 筆記試験 70%、「授業の取り組み」30% で評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔貿易論〕 オープン受講：不可

松原 聖

◆**授業概要** 国際貿易、国際収支、外国為替に関する問題を中心とする日本経済・世界経済の諸問題について、履修者が基礎的な知識を得て、同時に分析能力を養うことを狙いとします。主なトピックは以下の通りです：(1)日本の対外取引の現状、(2)貿易の利益と国内問題、(3)貿易実務の基礎、(4)国際収支、(5)外国為替市場と為替レート、(6)海外直接投資と貿易構造。

◆**学修到達目標** 1. 日本の貿易構造をデータ・理論両面から理解し、比較優位および保護主義の観点からこれらを説明できる。
2. 日本の国際収支および直接投資を理解し、国際経済・マクロ経済の観点からこれらを説明できる。
3. 外国為替市場および為替レートの日本経済への影響を理解し、関連する（貿易）実務の基礎を身に着ける。

◆**授業方法** 講義においては理論の説明だけでなく、統計データや日本経済新聞の記事などを元に、学習到達目標に掲げた点を重視しながら、授業概要に挙げた諸問題を説明します。講義当日の日本経済新聞朝刊を持参すると良いでしょう。教科書と共に、配布資料を適宜使用します。時間が許せば各講義日の最後にその日の講義のまとめなどを行う予定です。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**授業計画（各 90 分）**

1回	授業内容	イントロダクション（講義の概観）：講義の進め方・成績評価の仕方などを説明する。続いて財務省「貿易統計」（資料配布）を参照しながら、日本の貿易の概要（全体的傾向、主な貿易相手国・地域、主な輸出品・輸入品など）を確認する。
	事前学修	教科書第1章を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、配布資料を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授業内容	比較優位の原理Ⅰ：リカードの貿易理論を説明する。
	事前学修	教科書第2章（20ページまで）を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
3回	授業内容	（ミクロ）経済学の基礎である「需要・供給分析」を説明する。
	事前学修	教科書第2章補論を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授業内容	比較優位の原理Ⅱ：ヘクシャー・オリーの貿易理論を説明する。
	事前学修	教科書第3章（34ページまで）を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
5回	授業内容	保護主義に関するいくつかの議論（その1）を説明する。
	事前学修	教科書第4章第3節「戦略的貿易政策」を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授業内容	保護主義に関するいくつかの議論（その2）を説明する。
	事前学修	教科書第4章第4節「産業転換に伴う調整コストや政治的決定からくる制約」を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
7回	授業内容	貿易実務の基礎的な内容（その1）を説明する。
	事前学修	教科書第5章（62ページまで）を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
8回	授業内容	貿易実務の基礎的な内容（その2）を説明する。
	事前学修	教科書第5章（62～70ページ）を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授業内容	国際収支表について説明する。
	事前学修	事前配布資料（国際収支統計及び補足資料）を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容	日本の国際収支の長期的傾向と、マクロ経済との関係について説明する。
	事前学修	教科書第6章（81～90ページ）を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授業内容	外国為替市場について説明する。
	事前学修	為替リスクに関する事前配布資料を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
12回	授業内容	為替レートと日本経済の関係について説明する。
	事前学修	教科書第7章（98～107ページ）を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
13回	授業内容	海外直接投資について説明する。
	事前学修	教科書第8章を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
14回	授業内容	理解度の確認
	事前学修	教科書・ノートを熟読し、特に重要な点を事前にノートにまとめておくこと。
	事後学修	要点項目として講義で挙げたものを再確認し、授業内容をノートに整理しておくこと。
15回	授業内容	試験及び解説
	事前学修	講義内容を偏りなく復習しておくこと。
	事後学修	試験略解を確認・理解して、自身の解答が適切かどうかを再確認すること。

◆**教科書** 教材『貿易論 0822』通信教育教材（教材コード 000439）
〔当日資料配布〕 当日プリント配布

◆**参考書** 丸沼『マンキュー入門経済学（第3版）』N. グレゴリー・マンキュー著・足立ほか訳 東洋経済新報社 2019年
丸沼『徹底解説 国際金融～理論から実践まで』清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著 日本評論社 2016年

◆**成績評価基準** 授業への取組（発言等）・試験により、総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語科教育法Ⅱ〕

市川 泰弘

◆**授業概要** 本講義では英語を教える目的を見据え、日本の英語教育の現状を踏まえながら5つの領域（Reading, Listening, Writing, Speaking, Debating）をどのように指導していくかを実際の現場の状況をとらえながら理解し、また新たに築き上げるための能力を身につけ、さらに今後の英語教育のあり方について対象となる生徒・学生の能力・取り組み意識を心にとめながら考察していく。

◆**学修到達目標** 本講義の目標は、1) 5つの領域（Reading, Listening, Writing, Speaking, Debating）についてそれぞれの具体的なポイントを理解し、2) 各領域の指導方法を理解し、3) 今求められている英語教育の具体的な内容を把握することである。さらに個々の内容は当然学生・生徒のモチベーション・能力の違いによって変化していくものであるから、その変化に対応できる能力および対応の基盤となる英語力を修得し、様々な教えるための方策を作成できるようになることを目指す。

◆**授業方法** テーマを設定し、グループディスカッションを行い、発表をしてもらいます。テーマに関する資料は事前あるいは当日配布し、決められた時間で内容をまとめ、議論を進めていきます。各テーマごとにその日の最後にレポートを作成、提出してもらいます。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	オリエンテーション、5つの領域（Speaking, Listening, Writing, Reading, Presentation）とこれまでの英語教育、従来どのような教育方法を行ってきたかを概観し、長所・短所を明らかにする。テーマディスカッションを行い、最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
2回	授業内容	Inputとしての領域（Listeningとその指導概要）について、教える対象（小学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
3回	授業内容	Inputとしての領域（Listeningとその指導概要）について、教える対象（中学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
4回	授業内容	Inputとしての領域（Listeningとその指導概要）について、教える対象（高等学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
5回	授業内容	Inputとしての領域（Readingとその指導概要）について、教える対象（小学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
6回	授業内容	Inputとしての領域（Readingとその指導概要）について、教える対象（中学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
7回	授業内容	Inputとしての領域（Readingとその指導概要）について、教える対象（高等学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
8回	授業内容	Outputとしての領域（Writingとその指導概要）について教える対象（小学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
9回	授業内容	Outputとしての領域（Writingとその指導概要）について教える対象（中学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
10回	授業内容	Outputとしての領域（Paragraph Writingとその指導概要）について教える対象（中学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
11回	授業内容	Outputとしての領域（Writingとその指導概要）について教える対象（高等学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
12回	授業内容	Outputとしての領域（Paragraph Writingとその指導概要）について教える対象（高等学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
13回	授業内容	Outputとしての領域（Speakingとその指導概要, Presentationとその指導概要）について教える対象（小学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
14回	授業内容	Outputとしての領域（Speakingとその指導概要, Presentationとその指導概要）について教える対象（中学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。
15回	授業内容	Outputとしての領域（Speakingとその指導概要, Presentationとその指導概要）について教える対象（高等学校）に関して具体的に考え、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読む。
	事後学修	配付資料を復習する。

◆**教科書** 資料を作成し、配布するか、使用する資料がダウンロードできるサイトを示します。

◆**参考書** 『行動志向の英語科教育の基礎と実践—教師は成長する—』JACET 教育問題研究会編 三修社 2017年
『英語授業改善のための処方箋：マクロに考えミクロに対処する』金谷憲著 大修館書店
Brown, H.D. *Teaching by Principles - An Interactive Approach to Language Pedagogy* (4th Edition) Longman

◆**成績評価基準** 講義内でのディスカッション・発表（30%）、レポートなど（70%）で総合的に判断します。詳細は第1回目の講義で説明します。特にディスカッションでの Participation は重要となります。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

MEMO

4月期
東京

5月期
東京

6月1期
東京

6月2期
東京

5月期
札幌

5月期
福岡

7月1期
名古屋

7月2期
大阪

月曜日
夜間

火曜日
夜間

水曜日
夜間

木曜日
夜間

金曜日
夜間

付録

MEMO content area with horizontal dashed lines for writing.

Ⅲ 地方スクーリング

1 開催地及び開講日程

開講期		開催地	日程		授業時間
5月期	札幌	5月	30日(土)	10:00～19:00	
			31日(日)	9:00～18:30	
		6月	1日(月)	9:00～16:30 <試験も含む>	
	福岡	5月	30日(土)	9:30～18:30	
			31日(日)	9:00～18:30	
		6月	1日(月)	9:00～16:00 <試験も含む>	
7月期	第1期	名古屋	7月	18日(土)	9:30～18:30
			19日(日)	9:00～18:30	
			20日(月)	9:00～16:00 <試験も含む>	
	第2期	大阪	7月	24日(金)	9:30～18:30
			25日(土)	9:00～18:30	
			26日(日)	9:00～16:00 <試験も含む>	

※いずれの日程も授業時間内に休憩時間を設けます。

※各期から1開催地1講座のみの申込みです。

2 実施会場

開催地別の会場は下表のとおりです。

会場における具体的な授業講堂は、通知にて事前にお知らせするとともに、授業開始初日に会場にて掲示します。

なお、各会場の使用にあたって、以下の事項に注意してください。

【注意事項】

- ・自家用車・バイクの通学を禁止します。
 - ・指定された場所以外での喫煙を禁止します。
 - ・各自、ゴミは持ち帰ってください。
- その他、会場の使用上の注意を守ってください。

開講期		開催地	会場	会場案内
5月期	札幌	かでの2.7	85ページ	
	福岡	リファレンス駅東ビル	89ページ	
7月期	第1期	名古屋	中産連ビルディング株式会社	93ページ
	第2期	大阪	近畿大学東大阪キャンパス	97ページ

※「会場」は後掲の「開講講座表、会場及び講座内容(シラバス)」に開催地別に掲載。

◆ 開講講座表, 会場案内及び講座内容 (シラバス)

地方 5月期 札幌

日	程	授業時間	備考
5月30日	土	10:00～19:00	※時間内に昼休みを設けます。
5月31日	日	9:00～18:30	
6月1日	月	9:00～16:30 <試験も含む>	

※開講式をスクーリング初日の9時20分から行いますので、参加してください。

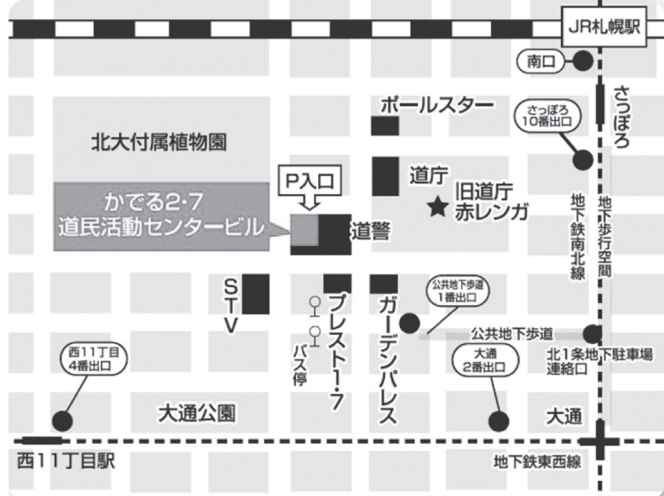
※以下の講座から1講座を選択してください。

講座コード	開講講座名	担当講師名	単開位数	充当科目		併用	制限・注意		受オープン
				科目コード	科目名		配当学年	受講条件	
FAA1	商法Ⅱ	松嶋 康尚	2	K30600	商法Ⅱ		2年		
FAA2	英米文学義	高橋 利明	2	N31200	英米文学義		2年		×
FAA3	商品学	金崎 賢希	2	S30300	商品学		2年		×

札幌

かでの2.7
北海道立道民活動センター
札幌市中央区北2条西7丁目
道民活動センタービル

- JR 札幌駅南口：徒歩 13 分
- 地下鉄
さっぽろ駅 (10 番出口)：徒歩 9 分
大通駅 (2 番出口)：徒歩 11 分
西 11 丁目駅 (4 番出口)：徒歩 11 分
- JR バス北 1 条西 7 丁目 (停留所)：徒歩 4 分
- 中央バス北 1 条西 7 丁目 (停留所)：徒歩 4 分
- 公共地下歩道
(地下歩行空間から北 1 条地下駐車場連絡口をお通りください)



注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商法Ⅱ〕

松嶋 康尚

◆**授業概要** 現代社会において企業（会社）の経済活動は我々の生活に重大な影響を与えている。会社法はその会社がどのようなものであるかを規律する法律である。本授業はその会社法に関する基本的な法知識の習得を目的とする。企業の経済活動において税の与える影響は見逃せないものがあり、税との関わりなど実務に関連する部分も、適宜取り上げていきたい。

◆**学修到達目標** 会社法に関する基本的な法知識（さらなる研究をしていく上での基礎知識）を習得することを目標とする。会社法関連の条文は多いので全ての条文について理解してもらうことは不可能であるが、少なくともどこを調べれば良いか自分で調べられるようになってほしい。

◆**授業方法** 授業は講義形式で行っていく。
条文の確認は適宜行いたいので、六法は必ず持ってくる。
出席は毎回取る。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容: ガイダンス・授業の進め方 事前学修: テキスト第 1 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
2 回	授業内容: 会社制度の存在意義 事前学修: 前回のノートを確認し、第 2 講～第 4 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
3 回	授業内容: 株式会社における株主の地位 事前学修: 前回のノートを確認し、第 5 講～第 8 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
4 回	授業内容: 株式に関する諸問題 事前学修: 前回のノートを確認し、第 9 講～第 12 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
5 回	授業内容: 株主総会 事前学修: 前回のノートを確認し、第 13 講～第 15 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
6 回	授業内容: 取締役・取締役会 事前学修: 前回のノートを確認し、第 16 講～第 19 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
7 回	授業内容: 役員報酬規制 事前学修: 前回のノートを確認し、第 20 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
8 回	授業内容: 監査役・監査役会 事前学修: 前回のノートを確認し、第 24 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
9 回	授業内容: 会計参与・会計監査人、会社の計算 事前学修: 前回のノートを確認し、第 24 講、第 25 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
10 回	授業内容: 指名委員会設置会社、監査等委員会設置会社 事前学修: 前回のノートを確認し、第 21 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
11 回	授業内容: 役員の責任と責任追及 事前学修: 前回のノートを確認し、第 22 講、第 23 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
12 回	授業内容: 持分会社 事前学修: 前回のノートを確認し、第 28 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
13 回	授業内容: 設立と解散 事前学修: 前回のノートを確認し、第 26 講、第 27 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
14 回	授業内容: 組織再編、罰則 事前学修: 前回のノートを確認し、第 29 講、第 30 講に目を通してほしい。 事後学修: 板書をしていくので授業中ノートに写したこととテキストと照らし合わせて整理しておくこと
15 回	授業内容: 復習、試験 事前学修: 整理したノートを見直し書き漏らしたところがないかテキストと照らし合わせて確認しておくこと。 事後学修: ノートとテキストを見直し、自身の会社法に関する知識を再確認すること。

◆**教科書** 〔丸〕『会社法講義 30 講』 松嶋隆弘編著 中央経済社
最新版（2020 年版）六法（出版社は特に指定しない）

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** ①平常点（10%）、及び、②試験の採点結果（90%）を総合して評価をする。
なお、毎回出席することを前提とする。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英米文学特殊講義】オープン受講：不可

高橋 利明

◆**授業概要** ナサニエル・ホーソン (1804 - 64) の代表作『緋文字』(1850) を三つの「処刑台」のシーンを中心に分析・考察することによって、アメリカという国家の成立草創期におけるピューリタン社会の制度と個人の "passion" の対立の意味とその普遍性を理解する。そのために学生は辞書を丹念に引き解釈を深め、キーワードを鋭敏に捉え、自分なりのテーマを把握してゆくと求められる。

◆**学修到達目標** 学生はアメリカ文学、特に 19 世紀のアメリカ・ルネサンス期の代表作であるホーソンの『緋文字』の学修を通して、その作品の文学的な普遍的価値を知り、小論文 (エッセイ) の作成によってさらに理解を深めることができる。

◆**授業方法** 作品の理解を深めるために輪読による読解を中心に授業を進め、適宜、先行研究を紹介してゆく。そして、各自の精読 (close reading) に基づいて提起された問題点などを議論したい。また、原文の音読にも注意を払い、さらにはビデオ鑑賞等によってさらなる解釈の深化を目指す。本授業の事前学修・事後学修の時間は各 2 時間を目安としています。

◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容: ガイダンス、及び『緋文字』解説ビデオ鑑賞 事前学修: 『緋文字』の翻訳を出来るだけ通読しておくこと。 事後学修: 解説ビデオを反芻しながら、作品のテーマに思いをめぐらすこと。
2 回	授業内容: Ch. 1 "The Prison-Door" p.45 精読と議論 (ピューリタン社会の父権制と暗黒面について解説する。) 事前学修: テキストの該当箇所を丁寧に読み込み、自分の解釈を構築すること。 事後学修: 授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと。
3 回	授業内容: Ch. 1 "The Prison-Door" p.46 精読と議論 (アン・ハッチンソンとヘスター・プリンのつながりについて解説する。) 事前学修: テキストの該当箇所を丁寧に読み込み、自分の解釈を構築すること。 事後学修: 授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと。
4 回	授業内容: Ch. 2 "The Market-Place" p.51-52 精読と議論 (ヘスター・プリンの貴婦人的な容姿について解説する。) 事前学修: テキストの該当箇所を丁寧に読み込み、自分の解釈を構築すること。 事後学修: 授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと。
5 回	授業内容: Ch. 2 "The Market-Place" p.54 精読と議論 (第一の処刑台のシーンにおける姦婦ヘスターの聖母性について解説する。) 事前学修: テキストの該当箇所を丁寧に読み込み、自分の解釈を構築すること。 事後学修: 授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと。
6 回	授業内容: Ch. 3 "The Recognition" p.65 精読と議論 (ディムズデル牧師の偽善の始まりについて解説する。) 事前学修: テキストの該当箇所を丁寧に読み込み、自分の解釈を構築すること。 事後学修: 授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと。
7 回	授業内容: 『緋文字』映画ビデオ鑑賞(1) 事前学修: テキストの該当箇所を丁寧に読み込み、自分の解釈を構築すること。 事後学修: 授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと。また、原作と映画の相違について自分なりに考察してみる。
8 回	授業内容: Ch.12 "The Minister's Vigil" p.152 精読と議論 (第二の処刑台のシーンにおけるディムズデル牧師の真夜中の告白のまね事と親子 3 人の生命のつながりについて解説する。) 事前学修: テキストの該当箇所を丁寧に読み込み、自分の解釈を構築すること。 事後学修: 授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと。
9 回	授業内容: Ch.12 "The Minister's Vigil" p.153 精読と議論 (流星の光による罪の解釈の反転について解説する。) 事前学修: テキストの該当箇所を丁寧に読み込み、自分の解釈を構築すること。 事後学修: 授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと。
10 回	授業内容: Ch.12 "The Minister's Vigil" p.154 精読と議論 (New England における自然現象と Providence のつながりについて解説する。) 事前学修: テキストの該当箇所を丁寧に読み込み、自分の解釈を構築すること。 事後学修: 授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと。
11 回	授業内容: Ch.23 "The Revelation of The Scarlet Letter" p.252-53 精読と議論 (ディムズデルの罪の告白について解説する。) 事前学修: テキストの該当箇所を丁寧に読み込み、自分の解釈を構築すること。 事後学修: 授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと。
12 回	授業内容: Ch.23 "The Revelation of The Scarlet Letter" p.255 精読と議論 (ディムズデルの罪の三人称的告白について解説する。) 事前学修: テキストの該当箇所を丁寧に読み込み、自分の解釈を構築すること。 事後学修: 授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと。
13 回	授業内容: Ch.23 "The Revelation of The Scarlet Letter" p.256-57 精読と議論 (ディムズデルの頭とヘスターの胸について解説する。) 事前学修: テキストの該当箇所を丁寧に読み込み、自分の解釈を構築すること。 事後学修: 授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと。
14 回	授業内容: 『緋文字』映画ビデオ鑑賞(2) 事前学修: テキストの該当箇所を丁寧に読み込み、自分の解釈を構築すること。また、原作と映画の相違について自分なりに考察してみる。 事後学修: 授業内容を復習、整理することで理解を深めておくこと。
15 回	授業内容: 授業内試験及び総括 事前学修: これまで読解してきた原文の意味を再確認し、小論文 (2,000 字程度) をまとめておくこと。 事後学修: 授業内容を確認し、ホーソン文学についての自分の理解を再確認すべく、今後、原書全体の精読を目指していただきたい。

◆**教科書** 丸沼『The Scarlet Letter』Nathaniel Hawthorne (Cambridge: The Belknap Press of Harvard UP, 2009) ISBN: 978-0-674-03574-4 (pbk.) Amazonなどで購入可能。

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 試験 (2,000 字程度の日本語による小論文を含む) [70%], 授業参画度 [30%]

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商品学〕 オープン受講：不可

金崎 賢希

◆**授業概要** 技術だけでは商品足りえず、買い手が現れてはじめて商品となる。本講では、売買の対象となる商品について、何をどのように設計するのかを検討する。従来は品質を中心に議論されてきたが、消費者の価値観が多様化している現代において、その評価軸も多様・複雑化している。また近年、商品のコモディティ化が進み、差別化要素を機能的価値以外にも求めなければならない。これら変化を踏まえ、商品設計に新たな視座を取り入れる。

◆**学修到達目標** 商品設計の基本となるマーケティングおよび消費者行動に関する諸理論を理解する。それに加えて、価値と知覚、ブランド、サービス、顧客体験、顧客との絆、社会的責任、グローバル化、デジタル・マーケティングといった諸概念について学び、売買の対象となる「商品」とは何か、その設計にはどのような要素を考慮する必要があるのか、理解を深める。内容は商・経営専攻の大学学部 2、3 年生レベルに相当する。

◆**授業方法** 講義およびケースメソッド形式で授業を行う。その際、下記に指定した教科書を用いる。なお、受講者は、下記の授業計画（事前学修欄）を参照のうえ、指示のある回については、教科書中該当ユニットの冒頭にあるケースを解き、その答えを A 4 用紙 1-2 枚にまとめ、そのコピーを当該授業回の初めに提出すること。（書式は word 形式、40 字×36 行、1 行目タイトル、2 行目学籍番号・氏名、4 行目から本文）

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：消費者行動および購買意思決定に影響を与える諸要因を説明する 事前学修：教科書 Unit 2 と 3 を読み、Unit 2 と 3 のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
2 回	授業内容：マーケティング・リサーチの方法について説明する 事前学修：教科書 Unit 4 を読んでおくこと 事後学修：授業で紹介した事例を復習する
3 回	授業内容：経営環境の把握と STP アプローチについて説明する 事前学修：教科書 Unit 5 と 6 を読み、Unit 5 のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
4 回	授業内容：新商品の開発プロセスについて説明する 事前学修：教科書 Unit 7 と 8 を読み、Unit 8 のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
5 回	授業内容：商品の価格政策について説明する 事前学修：教科書 Unit 9 と 10 を読んでおくこと 事後学修：授業の内容および紹介した事例を復習する
6 回	授業内容：商品のプロモーション政策について説明する 事前学修：教科書 Unit 11 と 12 を読んでおくこと 事後学修：授業の内容および紹介した事例を復習する
7 回	授業内容：商品の流通政策について説明する 事前学修：教科書 Unit 13 と 14 を読んでおくこと 事後学修：授業の内容および紹介した事例を復習する
8 回	授業内容：商品のライフサイクル（とくに誕生期と成長期）について説明する 事前学修：教科書 Unit 16 を読み、Unit 16 冒頭のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
9 回	授業内容：商品のブランディングについて説明する 事前学修：教科書 Unit 20 を読み、Unit 20 冒頭のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
10 回	授業内容：継続的な購買を促す顧客との関係構築について説明する 事前学修：教科書 Unit 21 を読み、Unit 21 冒頭のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
11 回	授業内容：商品としてのサービスについて説明する 事前学修：教科書 Unit 22 を読み、Unit 22 冒頭のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
12 回	授業内容：グローバル化への対応について説明する 事前学修：教科書 Unit 24 を読み、Unit 24 冒頭のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
13 回	授業内容：商品を通じた社会的貢献について説明する 事前学修：教科書 Unit 25 を読み、Unit 25 冒頭のケースに答えること 事後学修：授業およびケースメソッドの内容を振り返り、事前課題をまとめ直す
14 回	授業内容：デジタル化への対応について説明する 事前学修：教科書 Unit 26 を読んでおくこと 事後学修：授業の内容および紹介した事例を復習する
15 回	授業内容：総括 事前学修：14 回目までの内容を整理する 事後学修：各授業内で学んだ内容を確認する

◆**教科書** 丸沼『マーケティングをつかむ 新版』黒岩健一郎・水越康介 有斐閣 2018 年

◆**参考書** 丸沼『1 からのマーケティング 第 4 版』石井淳蔵他 碩学舎 2019 年
丸沼『1 からのデジタル・マーケティング』西川英彦他 碩学舎 2019 年
丸沼『1 からの消費者行動』松井剛他 碩学舎 2016 年
丸沼『コトラー & ケラーのマーケティング・マネジメント 第 12 版』フィリップ・コトラー他 丸善出版 2014 年
丸沼『ゼミナール マーケティング入門 第 2 版』石井淳蔵他 日本経済新聞社 2014 年

◆**成績評価基準** 課題の提出（70%）、発表および授業への貢献度（30%）で評価する。課題は、授業計画に記載の事前学修課題（講義時に提出）と、講義を踏まえたうえでの事後学修課題（講義終了後に郵送で提出）をその内容に基づき評価する。発表および授業への貢献度は、授業中のケースメソッドに対する取り組みを評価する。各回、2 時間の事前事後学修（計 4 時間×15 回）を前提としており、課題の作成には余裕をもって臨むこと。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 開講講座表、会場案内及び講座内容（シラバス）

地方
5月期
福岡

日	程	授業時間	備考
5月30日	土	9:30～18:30	※時間内に昼休みを設けます。
5月31日	日	9:00～18:30	
6月1日	月	9:00～16:00 <試験も含む>	

※開講式をスクーリング初日の9時20分から行いますので、参加してください。

※以下の講座から1講座を選択してください。

講座コード	開講講座名	担当講師名	単開位数	充当科目		併用	制限・注意		受オープン
				科目コード	科目名		配当学年	受講条件	
FAB1	英米文学演習C	新井 英夫	1	N404S0	英米文学演習Ⅰ	×	3年	・文学専攻（英文学）のみ申込可。 ・Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
				N405S0	英米文学演習Ⅱ				
				N406S0	英米文学演習Ⅲ				
FAB2	哲学概論B	江川 晃	2	P30300	哲学概論		2年		
FAB3	東洋史特講Ⅱ	高綱 博文	2	Q31100	東洋史特講Ⅱ		2年		

福岡 リファレンス駅東ビル
福岡市博多区博多駅東1-16-14

JR博多駅（筑紫口）から徒歩5分

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英米文学演習 C〕

新井 英夫

- ◆**授業概要** ノーベル文学賞受賞作家で日系英国人のカズオ・イシグロ (Kazuo Ishiguro 1954-) の『浮世の画家』(An Artist of the Floating World 1986) を読みます。作品を多面的な視点から読み、作品がどのように時代、政治、社会制度等と結びついているのかを考えます。また、読み方の多重性を意識することを通して、小説そのものの読み方の新たな方向性について考察するきっかけとします。
- ◆**学修到達目標** 現代英国において活躍している日系英国人作家カズオ・イシグロの『浮世の画家』を読み、次に掲げる各号の目標を達成しましょう。
 - ①現代英国小説の読解に必要な英語力がどの程度ものであるかを知ることができるようになる。
 - ②作品の構造、人物関係を明確に説明できるようになる。
 - ③臨床社会学における「自己物語論」を作品解釈に応用できるようになる。
 - ④作品のテーマについて説得力のある論を展開できるようになる。
- ◆**授業方法** 演習形式のスタイルを採ります。ただし授業が単なる日本語訳及び感想の発表大会に終わることのないように、結論に至るプロセスを皆さんには大切にしてもらいたと思っています。グループ活動なども取り入れる予定ですので、英語が苦手な方の受講も歓迎です。また「英文を読む」ことと「小説を理解する」ことの差異を学生たちに理解してもらうべく、小説の読み方も丁寧に指導します。英文学科で学ぶ学生たちの「入門講座」となるように授業を展開できればと考えています。
- ◆**履修条件** 2016 年度夏期スクーリング、2019 年度地方スクーリングにおいて、新井が担当する英米文学演習を受講した者は、授業内容が同一のため、履修を認めないこととする。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：【講義】カズオ・イシグロの人物像に迫る。 事前学修：カズオ・イシグロの『浮世の画家』を通読する。 事後学修：講義で解説したカズオ・イシグロの評価について復習する。
2 回	授業内容：【発表】事前学修の成果をグループ内で共有する。 事前学修：カズオ・イシグロの『浮世の画家』を通読し、その感想をまとめる。 事後学修：グループ内の他者の意見と自分の意見の違いを意識する。
3 回	授業内容：【演習&解説】「1948 年 10 月」の範囲を当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：「1948 年 10 月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1948 年 10 月」の内容を復習する。
4 回	授業内容：【演習&解説】「1948 年 10 月」の範囲を当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：「1948 年 10 月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1948 年 10 月」の内容を復習する。
5 回	授業内容：【演習&解説】「1948 年 10 月」の範囲を当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：「1948 年 10 月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1948 年 10 月」の内容を復習する。
6 回	授業内容：【演習&解説】「1949 年 4 月」の範囲を当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：「1949 年 4 月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1949 年 4 月」の内容を復習する。
7 回	授業内容：【演習&解説】「1949 年 4 月」の範囲を当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：「1949 年 4 月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1949 年 4 月」の内容を復習する。
8 回	授業内容：【演習&解説】「1949 年 4 月」の範囲を当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：「1949 年 4 月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1949 年 4 月」の内容を復習する。
9 回	授業内容：【演習&解説】「1949 年 11 月」の範囲を当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：「1949 年 11 月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1949 年 11 月」の内容を復習する。
10 回	授業内容：【演習&解説】「1949 年 11 月」の範囲を当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：「1949 年 11 月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1949 年 11 月」の内容を復習する。
11 回	授業内容：【演習&解説】「1949 年 11 月」の範囲を当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：「1949 年 11 月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1949 年 11 月」の内容を復習する。
12 回	授業内容：【演習&解説】「1950 年 6 月」の範囲を当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：「1950 年 6 月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1950 年 6 月」の内容を復習する。
13 回	授業内容：【演習&解説】「1950 年 6 月」の範囲を当日配布資料に基づきすめる。 事前学修：「1950 年 6 月」の範囲の内容を把握する。 事後学修：講義で解説した「1950 年 6 月」の内容を復習する。
14 回	授業内容：【演習&発表】小論文を作成し、グループ内で発表する。 事前学修：これまでの授業をふりかえり、マズジの成長について考えをまとめる。 事後学修：グループ内の他者の意見と自分の意見の違いを意識する。
15 回	授業内容：【試験&まとめ】試験とこれまでの授業のまとめを行う。 事前学修：これまでの授業内容を復習する。 事後学修：『浮世の画家』以外のカズオ・イシグロの作品を 1 冊読む。

- ◆**教科書** **事前資料送付**
当日資料配布
- ◆**参考書** **丸沼**『浮世の画家』カズオ・イシグロ 早川書房
丸沼『An Artist of the Floating World』Kazuo Ishiguro Faber Fiction Classics
- ◆**成績評価基準** 授業内活動 (40%) + 最終試験 (60%)。欠席者には単位を認定しません。また遅刻は各時限につき 10 点減点とします。遅刻は各時限の授業開始から 15 分までとし、それ以降は欠席扱いとなります。早退は原則として認めません。総得点が 0 点を下回る場合には、0 点として評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔哲学概論 B〕

江川 晃

◆**授業概要** 私たちの生活世界は、科学・技術により支えられている。問題は、科学・技術が人類の幸福に役立つという本来の目的を忘れ、我が物顔で幅を利かしていることにある。私たちは、経済至上主義に基づく科学・技術崇拝に偏らず、科学・技術を社会的かつ個人的にコントロールする哲学力を養う必要がある。そのためには現代哲学を知ることが重要である。

◆**学修到達目標** 近世哲学と現代哲学の中から、合理論、経験論、ドイツ観念論、実存主義、プラグマティズム、分析哲学に焦点を当て、哲学と科学の発展の深い関係を把握し、絶えず現代の科学技術に含まれる問題を考察する。この授業では、AI に依拠する現代文明に振り回されずに、創造的に生き抜く視点（哲学力）を開発することができる。

◆**授業方法** 具体的には、デカルト、ベーコン、ロック、カント、ヘーゲル、キルケゴール、パース、ウィトゲンシュタインについて、参考書とパワポを使い講義し、現代との関連に言及する。また、適宜リアクションペーパーに意見・感想・質問等を書いて頂き、討論する予定である。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：ガイダンス：哲学とは何か（「哲学」の語源と意味） 事前学修：シラバスをよく読んでおくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
2 回	授業内容：古代ギリシアから中世の哲学史 事前学修：配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：中世哲学までの流れを把握しておくこと。
3 回	授業内容：近世哲学と科学革命 事前学修：配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
4 回	授業内容：デカルトの哲学 事前学修：参考書でデカルトについて調べていくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
5 回	授業内容：ベーコンのイドラ 事前学修：参考書、配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
6 回	授業内容：ロックの経験論 事前学修：参考書、配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：参考書、配布プリントを復習しておくこと。
7 回	授業内容：カントの理性批判 事前学修：参考書、配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：参考書、配布プリントを復習しておくこと。
8 回	授業内容：ヘーゲルの弁証法 事前学修：参考書、配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：参考書、配布プリントを復習しておくこと。
9 回	授業内容：現代哲学：キルケゴールの実存主義 事前学修：参考書、配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：参考書、配布プリントを復習しておくこと。
10 回	授業内容：パースの探究の理論 事前学修：配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
11 回	授業内容：パースのプラグマティズム 事前学修：参考書、配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：参考書、配布プリントを復習しておくこと。
12 回	授業内容：科学哲学：ウィトゲンシュタインの写像理論 事前学修：配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
13 回	授業内容：論理実証主義とその崩壊 事前学修：配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
14 回	授業内容：言語ゲームから言語行為論へ 事前学修：配布プリントを予習しておくこと。 事後学修：配布プリントを復習しておくこと。
15 回	授業内容：試験と解説 事前学修：総復習しておくこと。 事後学修：不明確な点を把握しておくこと。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕パワポの教材を配布します。

◆**参考書** 〔教材〕『哲学 B10700』通信教育教材（教材コード 000404）

◆**成績評価基準** 試験（50%）、授業参画度〔発言・リアクションペーパー等〕（50%）

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔東洋史特講Ⅱ〕

高綱 博文

- ◆**授業概要** 本講義のテーマは「アジア主義の交差－孫文と福岡玄洋社」である。孫文の中国革命を頭山滿などの福岡玄洋社の人々が支援したことの歴史を明らかにしながら、関係文献を講読し、その史跡を探訪する。
- ◆**学修到達目標** 本講義では、孫文と玄洋社のアジア主義の歴史的な交差を明らかにしながら近代日中関係史における歴史的な意義を学ぶ。
- ◆**授業方法** テキスト及び配布資料による講義を行うとともに、映像資料を視聴、福岡市内にある玄洋社関係史跡を見学する。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容	アジア主義とは何か（講義1）
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
2回	授業内容	アジア主義とは何か（講義2）
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
3回	授業内容	孫文と中国革命（映像視聴・講義）
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
4回	授業内容	孫文のアジア主義について(1)
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
5回	授業内容	孫文のアジア主義について(2)
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
6回	授業内容	玄洋社とは何か（講義1）
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
7回	授業内容	玄洋社のアジア主義(1)
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
8回	授業内容	玄洋社のアジア主義(2)
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
9回	授業内容	福岡玄洋社の史跡見学(1)
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
10回	授業内容	福岡玄洋社の史跡見学(2)
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
11回	授業内容	近代日中関係史におけるアジア主義（講義2）
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
12回	授業内容	近代日中関係史におけるアジア主義（講義1）
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
13回	授業内容	孫文の中国革命を支援した日本人（映像視聴・講義）
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
14回	授業内容	孫文の中国革命を支援した日本人（映像視聴・講義）
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。
15回	授業内容	まとめ、試験
	事前学修	配布資料を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容の要点を確認しておくこと。

- ◆**教科書** **教材**『東洋史特講Ⅱ Q31100』通信教育部教材（教材コード000508）
事前資料送付 資料『アジアは燃えているか』
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 試験（70%）、平常点（30%）。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 開講講座表、会場案内及び講座内容（シラバス）

地方 7月1期 名古屋

日 程		授 業 時 間	備 考
7月18日	土	9:30～18:30	※時間内に昼休みを設けます。
7月19日	日	9:00～18:30	
7月20日	月	9:00～16:00 <試験も含む>	

※開講式をスクーリング初日の9時20分から行いますので、参加してください。

※以下の講座から1講座を選択してください。

講 座 コ ー ド	開 講 講 座 名	担 当 講 師 名	単 開 位 数 講	充 当 科 目		併 用	制 限 ・ 注 意		受 オ ー プ ン 講
				科 目 コ ー ド	科 目 名		配 当 学 年	受 講 条 件	
F9A1	政 治 学	関根 二三夫	2	B11700	政 治 学		1年		
F9A2	スピーチコミュニ ケーションII	リチャード キャラカー	1	N31000	スピーチコミュニ ケーションII		2年		
F9A3	経 済 原 論 / 経 済 学 原 論	陸 亦 群	2	R20100	経 済 原 論	条件参照		<ul style="list-style-type: none"> ・経済学部は1学年以上申込可。 ・文理・商学部は2学年以上申込可。 	
				L20200	経 済 学 原 論				<ul style="list-style-type: none"> ・政治経済学科は1学年以上申込可。 ・法律学科は2学年以上申込可。

名古屋

中産連ビルディング株式会社

名古屋市中区白壁3-12-13

名鉄瀬戸線「清水駅」徒歩7分

市バス「清水口」徒歩5分



注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔政治学〕

関根 二三夫

- ◆**授業概要** 基礎教育としての講義を行います。政治学の変遷、政治の概念、政治の本質、政治権力、国家、議会政治、立法部と行政部、選挙、政党、圧力団体、コミュニケーション、リーダーシップについて学びます。
- ◆**学修到達目標** 議会や大統領もしくは内閣の動きを見ますと、政治が難しい現象のように思われます。しかし、法律や予算の制定や執行は、国家や社会や個人の発展に寄与するために役立ちます。この講義においては、政治が我々の生活に大きな影響を及ぼすと同時に、我々にとって身近な現象であることを理解できるようにします。
- ◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、政治に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習及び復習が必要になります。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容 政治学の変遷 事前学修 参考書の第1章第2節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
2回	授業内容 政治の概念 事前学修 参考書の第1章第1節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
3回	授業内容 政治の本質 事前学修 テキストの第1章第1節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
4回	授業内容 政治権力 事前学修 テキストの第1章第2節及び参考書の第2章第4節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
5回	授業内容 国家 事前学修 参考書の第3章を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
6回	授業内容 議会政治 事前学修 テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
7回	授業内容 立法部と行政部（議院内閣制） 事前学修 テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
8回	授業内容 立法部と行政部（大統領制） 事前学修 テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
9回	授業内容 選挙（選挙制度及び選挙区） 事前学修 テキストの第3章第3節及び参考書の第5章第1節及び第2節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
10回	授業内容 選挙（代表選出の形態） 事前学修 テキストの第3章第3節及び参考書の第5章第2節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
11回	授業内容 政党（概念・特徴・形態） 事前学修 テキストの第3章第4節及び参考書の第4章第2節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
12回	授業内容 政党（機能・問題点） 事前学修 テキストの第3章第4節及び参考書の第4章第2節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
13回	授業内容 圧力団体 事前学修 テキストの第3章第5節及び参考書の第4章第3節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
14回	授業内容 コミュニケーション 事前学修 参考書の第6章第3節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
15回	授業内容 リーダーシップ 事前学修 参考書の第2章第5節を熟読すること。 事後学修 講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。

- ◆**教科書** 教材『政治学 B11700』通信教育教材（教材コード000279）
- ◆**参考書** 丸沼『改訂版 教養政治学』岩井奉信・黒川貢三郎・関根二三夫他 南窓社 2012年
- ◆**成績評価基準** 試験70%、平常点30% ※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席しないように注意して下さい。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔スピーチコミュニケーションⅡ〕

リチャード キャラカー

- ◆**授業概要** Students will learn the fundamental rules of crafting and delivering an English oral presentation. Topics to be covered will be how to organize a presentation into a speech that incorporates three aspects: a verbal message, a vocal message and a visual message. The students will gain practice reviewing their classmates' written and spoken texts and commenting on them.
- ◆**学修到達目標** Lectures will include warm up discussions and conversations, learning the fundamentals of presentations, watching examples of presentations, practicing each aspect of a presentation, writing and evaluating each other's presentations, and finally delivering the presentations.
- ◆**授業方法** Each class will begin with a discussion of one of the messages necessary for delivering an effective oral presentation. Then examples of presentations which incorporate that message will be observed and commented upon. After that, students will practice the message in a controlled environment. Finally the students will give a presentation on each of the three topics to be covered in the course.
- ◆**履修条件** Oral Communication I
- ◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回	授業内容: Introduction to the Course 事前学修: Read about the Three Vs of an effective oral presentation pages 2-3 事後学修: Review the model speech from The Film <i>The Candidate</i> .
2 回	授業内容: Discuss the most important aspect of an effective oral presentation - The audience 事前学修: Read about the Curse of Knowledge, S-U-C-C-E-S and the Vocal Message pages 2-3. 事後学修: Review the Vocal Message in preparation for the Introduction Speeches.
3 回	授業内容: Students deliver Introduction Speeches 事前学修: Read about the Verbal Message page 5. 事後学修: Review The Verbal Message pages 5-7.
4 回	授業内容: Discuss Unexpected beginnings and hooking the audience. 事前学修: Read about the Hook as a discourse device page 6. 事後学修: Review the different devices to get the audience's attention page 3.
5 回	授業内容: Learn about the Visual Message 事前学修: Read about para-linguistics page 4. 事後学修: Review the Clinton-Bush Debate video and effective para-linguistics.
6 回	授業内容: Understand the importance of Concrete examples within the Verbal Message 事前学修: Read about how to incorporate supporting details into the Verbal Message pages 3 & 6. 事後学修: Review the model speech from the TED Talk "Start with Why."
7 回	授業内容: Students Deliver Hobby Speeches 事前学修: Complete the Hobby Speech outline on page 23 事後学修: Review the Hobby speech and complete the self-evaluation form (Supplementary handout).
8 回	授業内容: Building personal Credibility with your audience 事前学修: Read about the second C in S-U-C-C-E-S why the audience should listen to you. pages 6 事後学修: Review Building Credibility page 6.
9 回	授業内容: Discuss finding a benefit for the audience 事前学修: Read about different techniques to benefit the audience page 16. 事後学修: Review how the Microsoft advertisement benefits the audience page 16.
10 回	授業内容: Brainstorming topics and supporting information for job speeches. 事前学修: Read about the Job speech page 25. 事後学修: Review the job speech topics and decide main points for outline on page 26.
11 回	授業内容: Telling stories to make presentations more concrete 事前学修: Read about storytelling page 3. 事後学修: Review Connecting with your audience through stories page 3.
12 回	授業内容: Discuss Call to Action, Using Visuals, and Questions and Answers 事前学修: Read about how to use slides, and answering questions effectively page 8. 事後学修: Review The Brain Lady Video, "6 Things Everyone needs to know about Oral Presentations".
13 回	授業内容: Students Deliver Job Speeches 事前学修: Read about the Vocal Message page 7. 事後学修: Watch and critically evaluate job speeches using worksheet on page 25
14 回	授業内容: Go over all the information covered in the class until now. 事前学修: Read about the Three Vs of public speaking pages 2-26 事後学修: Review the Three Vs of an effective oral presentation.
15 回	授業内容: Final Examination 事前学修: Read about the three Vs of an effective oral presentation pages 2-26 事後学修: Review your speeches on video

- ◆**教科書** The text will be provided by the instructor.
- ◆**参考書** 丸沼 Made to Stick, Heath
- ◆**成績評価基準** Evaluation will be based on the following: an in-class examination (40%); Introduction Speech (10%); A Hobby Speech (20%); A Job Speech (30%); and class participation.

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

4 月
期 東
京5 月
期 東
京6 月
1 期 東
京6 月
2 期 東
京5 月
期 札
幌5 月
期 福
岡7 月
1 期 名
古屋7 月
2 期 大
阪月 夜
曜 日
間火 夜
曜 日
間水 夜
曜 日
間木 夜
曜 日
間金 夜
曜 日
間付
録

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済原論 / 経済学原論〕

陸 亦群

◆**授業概要** 本講義は現代マクロ経済学入門として位置づける。本講義において、ケインズ経済学の基礎である有効需要原理、流動性選好利率論を説明したうえで、IS=LM 分析とマンデル=フレミング・モデルを中心とするオープンエコノミーを展開し、短期モデルと長期モデルの比較を踏まえて、新古典派経済学の視点から物価水準の決定、インフレとデフレに関する問題を主として学修し、応用・展開科目を学ぶ土台を築く。

◆**学修到達目標** マクロ経済学において、有効需要原理、流動性選好利率論、IS=LM 分析、国際マクロ経済学、短期モデルと長期モデルの比較、物価水準の決定、インフレとデフレを中心に講義を進める。この講義を通じて、マクロ経済学全般の「基礎知識」を習得し、現実のマクロ経済現象に対して「経済学的な考え方」を理解し、「分析手法」を身につけることができる。

◆**授業方法** 本講義は教材の内容を中心にパワーポイントと板書で授業を進める。経済学の理論を理解することを目的とし、経済学とはどのような学問であるのかという点を中心に授業を進める。現実の経済の動きを把握するために、必要に応じて時事経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布・解説する。また、講義内で課題を設ける場合、その解説は講義内で行うようにする。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容	マクロ経済学では何を学ぶか、特に現代マクロ経済学の学習内容を概説する
	事前学修	教科書の第 1 章を熟読すること
	事後学修	講義レジュメを参照し、講義ノートを整理すること講義の内容を整理し、配布資料を読んで、重要なポイントを整理する
2 回	授業内容	国民所得の決定について
	事前学修	教科書第 4 章 (P.75-82) を予め読んでおくこと
	事後学修	消費関数、投資関数、45 度線モデルと財市場の均衡調整を復習すること
3 回	授業内容	有効需要原理
	事前学修	教科書第 4 章 (P.83-98) を予め読んでおくこと
	事後学修	財政政策、総需要管理、乗数効果を復習すること
4 回	授業内容	流動性選好利率論
	事前学修	教科書第 5 章 (P.99-130) を予め読んでおくこと
	事後学修	流動性選好利率論、貨幣の需要とマネーサプライの基礎知識を復習すること
5 回	授業内容	財市場・貨幣市場の均衡と IS=LM 分析
	事前学修	教科書第 6 章 (P.131-152) を予め読んでおくこと
	事後学修	財市場と IS 曲線、貨幣市場均衡 LM 曲線、そして IS=LM 同時均衡の基礎的分析手法を復習すること
6 回	授業内容	国際収支表の構造、国際通貨制度、IS バランスと資本勘定
	事前学修	教科書第 7 章 (P.153-162) を予め読んでおくこと
	事後学修	国際通貨制度を理解し、国際収支表の構造と IS バランスと資本勘定の基礎概念を確認すること
7 回	授業内容	マンデル=フレミング・モデル
	事前学修	教科書第 7 章 (P.162-167) を予め読んでおくこと
	事後学修	開放経済体系における財市場の均衡と IS 曲線の導出、貨幣市場の均衡と LM 曲線の導出、資本移動と利率の決定の講義内容を復習すること
8 回	授業内容	固定相場制のもとでの経済政策の効果
	事前学修	教科書第 7 章 (P.167-172) を予め読んでおくこと
	事後学修	固定相場制のもとでの財政政策の効果、金融政策の効果、為替レート変更の効果、保護主義的な貿易政策の効果について復習すること
9 回	授業内容	変動相場制のもとでの経済政策の効果
	事前学修	教科書第 7 章 (P.172-178) を予め読んでおくこと
	事後学修	変動相場制のもとでの財政政策の効果、金融政策の効果、為替レート変更の効果、保護主義的な貿易政策の効果について復習すること
10 回	授業内容	マクロ経済分析の基本的な枠組み、短期のケインズモデル、長期の新古典派モデル
	事前学修	教科書第 3 章 (P.52-66) および第 8 章 (P.183-192) を予め読んでおくこと
	事後学修	長期均衡モデルにおける労働市場の均衡と産出量の決定、財市場の均衡と利率の決定、貨幣市場の役割、貨幣数量説を復習すること
11 回	授業内容	供給サイドを考慮した長期モデルの分析
	事前学修	教科書第 8 章 (P.193-203) を予め読んでおくこと
	事後学修	マネーサプライと名目 GDP 及びインフレーションの関係、期待物価上昇率、「名目」利率と「実質」利率について復習すること
12 回	授業内容	物価水準はどのように決まるのか / IS・LM モデルの拡張①
	事前学修	教科書第 9 章 (P.208-213) を予め読んでおくこと
	事後学修	ケインジアンと古典派の総供給曲線、現実的な短期の総供給曲線、労働者錯覚モデル、総供給関数における長期と短期について確認し講義内容を復習すること
13 回	授業内容	物価水準はどのように決まるのか / IS・LM モデルの拡張②
	事前学修	教科書第 9 章 (P.214-222) を予め読んでおくこと
	事後学修	物価水準の決定、名目賃金率の伸縮性、労働市場と完全雇用、ピグー効果、AD/AS 分析と財政・金融政策の効果、価格の調整速度について復習すること
14 回	授業内容	インフレとデフレ
	事前学修	教科書第 10 章を熟読しておくこと
	事後学修	フィリップス曲線とインフレーション、合理的期待形成と自然失業率仮説、インフレとデフレの社会的費用の概念を整理し復習すること
15 回	授業内容	第 2 回から第 14 回までの要点まとめ
	事前学修	教科書第 2 章から 10 章までの各章を読み、各章のポイントを確認すること
	事後学修	各章の講義レジュメを参照し、講義ノートを整理し、全体復習すること

◆**教科書** 丸沼『入門マクロ経済学』中谷巖 第 5 版 日本評論社

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 試験 (70%)、講義内課題 (30%)。毎回出席することを前提として評価し、基礎理論を身に付けているかを判定する。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 開講講座表、会場案内及び講座内容（シラバス）

地方 7月2期 大阪

日	程	授業時間	備考
7月24日	金	9:30～18:30	※時間内に昼休みを設けます。
7月25日	土	9:00～18:30	
7月26日	日	9:00～16:00 <試験も含む>	

※開講式をスクーリング初日の9時20分から行いますので、参加してください。

※以下の講座から1講座を選択してください。

講座コード	開講講座名	担当講師名	単開位 数講	充当科目		併用	制限・注意		受オ ー プ ン 講
				科目 コード	科目 名		配当 学年	受講 条件	
F9B1	国語学講義	鈴木 功真	2	M30400	国語学講義		2年		
F9B2	英語学演習C	山岡 洋	1	N401S0	英語学演習Ⅰ	×	3年	・文学専攻（英文学）のみ申込可。 ・Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
				N402S0	英語学演習Ⅱ				
				N403S0	英語学演習Ⅲ				
F9B3	保険総論	岡田 太	2	S30600	保険総論		2年		
F9B4	生涯学習論	上原 義正	2	Y20100	生涯学習論		2年		

大阪

近畿大学東大阪キャンパス

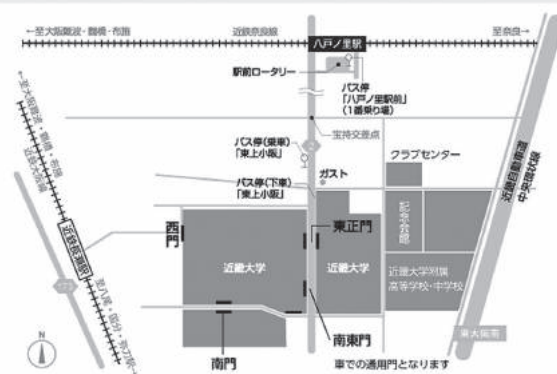
東大阪小若江3-4-1

- ・JR・近鉄大阪線「長瀬」駅から徒歩約10分
- ・近鉄奈良線「八戸ノ里」駅から徒歩約20分

近鉄大阪線・長瀬駅からの経路



近鉄奈良線・八戸ノ里駅からの経路



注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国語学講義〕

鈴木 功眞

- ◆**授業概要** 日本語は歴史的に変化している。それをまとめたものが日本語史である。そこで、本スクーリングでは日本語史の分野のうち、特に語彙史・文体史・日本語学史を中心に講義する。日本語の語彙は語種の点で特徴があり、文体は日本語の表記体系の特徴を踏まえた特徴があり、日本語を学問として考究した先学の蓄積により学史がある。それらを具体的な資料等を参照しながら講義する。
- ◆**学修到達目標** 日本語の歴史のうち、語彙史・文体史・日本語学史について、資料論・文字史・音韻史・文法史・敬語史を踏まえながら具体的に説明することができる。特にさまざまな日本語の歴史的資料に対したときにその資料にどのような特徴があるのかを必要な参考文献を引用しながら説明できるようになることを目標とする。それは日本語史的学問への入門になる。
- ◆**授業方法** 日本語史は具体的な資料を離れて抽象的な記述を行うことも可能であるが、本スクーリングでは可能な限り具体的な資料の影印等を参照しながら講義を進める計画である。積極的に解説等の作業に参加してほしい。そうすることによって、学問として蓄積されている日本語史に対しても具体的な理解が深まるであろう。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としている。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	ガイダンス、日本語学・日本語史とは
	事前学修	テキスト序論を見ておくこと
	事後学修	日本語史の概要をまとめておくこと
2 回	授業内容	語彙史・文体史・日本語学史の周辺
	事前学修	テキスト表記史・音韻史・文法史・敬語史の概要を把握しておくこと
	事後学修	表記史・音韻史・文法史・敬語史の概要をまとめておくこと
3 回	授業内容	日本語の語彙の特徴
	事前学修	テキスト 71～81 ページを読んでおくこと
	事後学修	語彙の特徴をまとめておくこと
4 回	授業内容	語源と語構成
	事前学修	テキスト 81～84 ページを読んでおくこと
	事後学修	語源と語構成についてまとめておくこと
5 回	授業内容	日本語の語彙の歴史
	事前学修	テキスト 84～97 ページを読んでおくこと
	事後学修	語彙の歴史についてまとめておくこと
6 回	授業内容	上代・中古の文体
	事前学修	テキスト 215～234 ページを読んでおくこと
	事後学修	上代・中古の文体についてまとめておくこと
7 回	授業内容	中世の文体
	事前学修	テキスト 234～248 ページを読んでおくこと
	事後学修	中世の文体についてまとめておくこと
8 回	授業内容	近世の文体
	事前学修	テキスト 248～253 ページを読んでおくこと
	事後学修	近世の文体についてまとめておくこと
9 回	授業内容	近代の文体
	事前学修	テキスト 253～257 ページを読んでおくこと
	事後学修	近代の文体についてまとめておくこと
10 回	授業内容	文体の分析
	事前学修	テキスト 257～258 ページを読んでおくこと
	事後学修	文体の分析についてまとめておくこと
11 回	授業内容	日本語学史の概要
	事前学修	テキスト 261～267 ページを読んでおくこと
	事後学修	日本語学史の概要をまとめておくこと
12 回	授業内容	日本語学史の各説
	事前学修	テキスト 268～283 ページを読んでおくこと
	事後学修	日本語学史の各説についてまとめておくこと
13 回	授業内容	これからの日本語学史
	事前学修	テキスト 284～285 ページを読んでおくこと
	事後学修	これからの日本語学史日本語学史についてまとめておくこと
14 回	授業内容	日本語のこれから
	事前学修	ここまでの授業を改めて復習すること
	事後学修	試験勉強に向けて改めて日本語史についてまとめておくこと
15 回	授業内容	試験およびふりかえり
	事前学修	試験勉強をし、日本語史を把握しておくこと
	事後学修	ここまでの講義を踏まえ身の回りの日本語の中から歴史の変遷を自身で蒐集すること

- ◆**教科書** 丸沼『国語史を学ぶ人のために』木田章義編 世界思想社 2013 年
- ◆**参考書** 丸沼『緑の日本語学教本』藤田保幸著 和泉書院 2010 年
丸沼『日本語史概説』沖森卓也編 朝倉書店 2010 年
- ◆**成績評価基準** 授業への取り組み・テストにより総合的に評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英語学演習 C】

山岡 洋

◆**授業概要** 日本語で書かれた文法書を読みながら、英語の様々な表現について、主に意味的な側面から、細かいニュアンスの違いなどを含めて考察してゆく。例えば、一見奇妙な受動態に見える Have you ever been had? という文はどのような意味になるのか。受動態にすることができる場合、できない場合というのはどのように区別されるのか。このような英語の微妙な、しかしながら英語的な感覚を養うには非常に本質的な、違いについて学んでゆく。具体的には、テキスト『英文法解説』の第11章「受動態」と第12章「助動詞」を扱っていく。

◆**学修到達目標** 英語学の時間表現に関わる意味論的概念を、具体的な言語現象を通して理解する。具体的には、受動態・法助動詞の表す様々な意味を理解する。

◆**授業方法** テキストに沿った説明を基本として授業を進めてゆく。日本語で書かれたテキストではあるが、重要箇所を熟読し、必要に応じて教員側から説明を加えていく。但し、教員側からできるだけ頻繁に学生側に対して疑問を投げ掛け、極力「双方向的な」授業にしていく。予めテキストの該当箇所には目を通しておくこと。今回は第11章「受動態」と第12章「助動詞」を扱っていく。

◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：受動態の基本形式・群動詞の受動態 事前学修：教科書 § § 179-180 を読んでおく。 事後学修：授業中にとったノートを、教科書 § § 179-180 を見ながら再確認する。
2回	授業内容：S+V+O+不定詞・People/They say … など 事前学修：教科書 § § 181-182 を読んでおく。 事後学修：授業中にとったノートを、教科書 § § 181-182 を見ながら再確認する。
3回	授業内容：受動態が使われる理由・受動態と by ~ 事前学修：教科書 § § 183-185 を読んでおく。 事後学修：授業中にとったノートを、教科書 § § 183-185 を見ながら再確認する。
4回	授業内容：受動態を作れない動詞・受動態にしない文 事前学修：教科書 § § 186-187 を読んでおく。 事後学修：授業中にとったノートを、教科書 § § 186-187 を見ながら再確認する。
5回	授業内容：受動態についての補足事項・日本語では能動態、英語では受動態 事前学修：教科書 § § 188-189 を読んでおく。 事後学修：授業中にとったノートを、教科書 § § 188-189 を見ながら再確認する。
6回	授業内容：受動態に関連のある構文 事前学修：教科書 § § 190-191 を読んでおく。 事後学修：授業中にとったノートを、教科書 § § 190-191 を見ながら再確認する。
7回	授業内容：Can 事前学修：教科書 § § 192-193 を読んでおく。 事後学修：授業中にとったノートを、教科書 § § 192-193 を見ながら再確認する。
8回	授業内容：Could 事前学修：教科書 § § 194-196 を読んでおく。 事後学修：授業中にとったノートを、教科書 § § 194-196 を見ながら再確認する。
9回	授業内容：May 事前学修：教科書 § § 197-198 を読んでおく。 事後学修：授業中にとったノートを、教科書 § § 197-198 を見ながら再確認する。
10回	授業内容：Might, must 事前学修：教科書 § § 199-202 を読んでおく。 事後学修：授業中にとったノートを、教科書 § § 199-202 を見ながら再確認する。
11回	授業内容：Should, Would 事前学修：教科書 § § 203-206 を読んでおく。 事後学修：授業中にとったノートを、教科書 § § 203-206 を見ながら再確認する。
12回	授業内容：Ought to など 事前学修：教科書 § § 207-210 を読んでおく。 事後学修：授業中にとったノートを、教科書 § § 207-210 を見ながら再確認する。
13回	授業内容：理解度確認 事前学修：これまでの授業の内容を改めて見直し、特に日英語の共通点・相違点を確認する。 事後学修：最終試験に備えて、持ち込む参考資料の整理を行う。
14回	授業内容：最終試験とその解説 事前学修：最終試験に備えて、持ち込む参考資料のどこに何が書いてあるのかの確認をする。 事後学修：自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。
15回	授業内容：最終試験の解説 事前学修：自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。 事後学修：授業内容を確認して、自分の意味論に関する理解が適切かどうかを再確認する。

◆**教科書** 丸沼『英文法解説』江川泰一郎 改訂3版 金子書房 1991年
〔当日資料配布〕 当日配付資料あり

◆**参考書** 丸沼『新英文法概説』山岡洋 開拓社 2014年
丸沼『英文法総覧』安井稔 改訂版 開拓社 1996年

◆**成績評価基準** 授業参加度：20%（半日欠席につき10点マイナス。遅刻は5点マイナス）
最終試験：80%（教科書・参考図書・ノート・電子辞書持ち込み可）

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔保険総論〕

岡田 太

- ◆**授業概要** 少子高齢化が進む日本において、政府の財政負担の制約なども重なり、社会保障の中核を担う社会保険制度改革が課題となっている。授業を通じて、年金、医療、介護、労働の各社会保険について、持続可能な制度をデザインする考え方や基礎知識を習得する一方、それをふまえて民間保険の役割を理解し、ライフプランを作成する力を養う。
- ◆**学修到達目標** ・保険の基礎理論を理解し、それをもとに、保険に関する諸問題を分析、考察し、改善することができる。
・社会保険の歴史、制度および課題を理解できるようになる。
・グループ・ワークを通じて、具体的な保険の課題に対する問題設定、仮説論証を行うことができる。
- ◆**授業方法** 講義とグループワークの2本立てで実施する。講義はスライドによる説明に加え、演習問題を随時織り交ぜ知識の定着を目指す。グループワークは3～4人でグループを結成してから、テーマを決定し計画書を作成する。その後、レポート作成、発表、ディスカッション、レポート提出の順序で進める。最後に、授業のまとめと復習を行い、テストを実施する。レポートは1人2000字程度を目安とする。なお、文献・資料調査を行うため、インターネットに接続できるノートPCがあると便利である。
- ◆**履修条件** グループワークは各社会保険から関心のテーマを選んで作成するため、テキストの社会保険に該当する章を精読すること。スクーリング期間内に1人2000字程度のレポートを作成する。準備に相応の時間が必要なことを理解して履修すること。インターネットに接続できるノートPCがあると便利である。
- ◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ガイダンス、保険の存在意義ーリスクとは何かから紐解き、保険の果たす役割を学ぶ 事前学修：教科書の第1章と第2章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：講義内容と配布資料（演習問題）を確認し、理解する
2回	授業内容：保険の仕組みー保険の原理・原則を学び、保険の機能・経済効果を理解する 事前学修：教科書の第3章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：講義内容と配布資料（演習問題）を確認し、理解する
3回	授業内容：保険の機能を制約する問題：①逆選択ーリスク細分型保険の意義と課題を学ぶ 事前学修：教科書の第6章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：講義内容と配布資料（演習問題）を確認し、理解する
4回	授業内容：保険の機能を制約する問題：②モラルハザードー保険におけるロスコントロールの重要性を学ぶ 事前学修：教科書の第6章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：講義内容と配布資料を確認し、理解する
5回	授業内容：グループ・ミーティング：グループ毎にテーマ決定、計画書の完成 事前学修：グループワークの進め方を理解し、参加するための準備を行う 事後学修：計画書に従い、レポート作成を開始する
6回	授業内容：公的年金の歴史、制度および課題を学ぶ 事前学修：教科書の第25章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：講義内容と配布資料（演習問題）を確認し、理解する
7回	授業内容：公的医療保険の歴史、制度および課題を学ぶ 事前学修：教科書の第26章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：講義内容と配布資料（演習問題）を確認し、理解する
8回	授業内容：公的介護保険の歴史、制度および課題を学ぶ 事前学修：教科書の第27章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：講義内容と配布資料（演習問題）を確認し、理解する
9回	授業内容：労働保険の歴史、制度および課題を学ぶ 事前学修：教科書の第28章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：講義内容と配布資料（演習問題）を確認し、理解する
10回	授業内容：グループ・ミーティング：レポート作成、プレゼンに向けた打ち合わせ 事前学修：レポートの草稿（完成度80%程度）を作成する 事後学修：レポートの完成稿を作成し、プレゼンの役割分担の確認と準備を行う
11回	授業内容：社会保険制度の存在意義、機能および課題を展望する。 事前学修：教科書の第24章を精読し、キーワードを理解する 事後学修：講義内容と配布資料（演習問題）を確認し、理解する
12回	授業内容：課題に対するプレゼンテーション（グループ毎に評価を行う） 事前学修：作成したレポートをもとにプレゼンの準備を行う 事後学修：プレゼンテーションのふりかえりを行う
13回	授業内容：課題に対するプレゼンテーション（ワークシートに記入） 事前学修：レポート、プレゼンをふまえてディスカッションの準備を行う 事後学修：プレゼンテーションのふりかえりを行う
14回	授業内容：まとめと確認・質疑応答 事前学修：テキストと講義資料を熟読し、疑問点を整理する 事後学修：ポイントを精読し、内容を整理すること
15回	授業内容：テストと解説 事前学修：授業内容で示したポイントを中心にテストの準備を行う 事後学修：テストを通じて理解不足な事項を確認し、理解できるようにする

- ◆**教科書** 丸沼『はじめて学ぶリスクと保険』下和田功他著 第4版 有斐閣 2014年
- ◆**参考書** 〔当日資料配布〕スライド表示するものと同じ資料を配布
- ◆**成績評価基準** 試験（50%）、レポート（25%）、プレゼンテーション・ディスカッション（15%）および授業参加度（10%）により、総合的に判断する。授業参加度は、演習問題に対する議論やグループワークに対する取り組みを指す。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔生涯学習論〕

上原 義正

◆**授業概要** 本講座は、職場や家庭、学校、地域社会で生涯にわたって学び続けようとするすべての人に開講するものである。20世紀前半において大きな世界大戦を経験した。また、世界の急速な技術進歩や歴史的变化に対応するよう国際会議で1965年に提唱された生涯教育の枠組みからその後日本は1980年代から生涯学習政策に取り組み始めた。この生涯学習社会において11人の識者（含む筆者）によって編纂された『人生を変える生涯学習の力』を読み、若い時代に育む学習力とおとなに必要な学習力について考察を行う。

◆**学修到達目標** 現代の生涯学習の内容について識見を深め、自らが持つ文化資本や発達資源を連携（ていぞう）させて、新たな知見をプレゼンテーションとレポートを通じて発表できるようにすることが到達目標にある。そのため、授業に積極参加をし、質問をグループワーク内および筆者である担当講師に行うことが望ましい。調べ学習においてはインターネットの情報をそのまま鵜呑みにせず、正確な知識と情報を習得すること。

◆**授業方法** 授業は、シラバスの15回分の内容に沿って行うものとする。ただし、適宜、受講生と開講者の疲労度を鑑みて実情に見合った休憩を入れる。90分授業のうち、最初の45分（含む休憩）においてはテキストの知識習得と分析・考察の時間に割り当て、残りの45分（含む休憩）においてはグループワーク（アクティブラーニング）と最終日に実施予定のプレゼンテーションの準備の時間に割り当てる。予習復習は必須のこと。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：本講座の説明、グループ分け、自己紹介 事前学修：テキストのプロローグを読むこと 事後学修：生涯学習の要約をプロローグから行うこと
2回	授業内容：テキスト第1章の「市民社会と基礎学力」、グループワーク 事前学修：第1章にある市民社会、学校で習う教科、生きる力について重点的に予習を行うこと 事後学修：算数が実生活で如何に大切か熟考すること
3回	授業内容：テキストの第2章「持続する学習力をつける」、グループワーク 事前学修：学習社会における危機的状況は何かについて予習をすること 事後学修：学力を育むキーとなるものについて考察すること
4回	授業内容：第3章「メディアと関わる力」、グループワーク 事前学修：テキストの第3章「メディアと関わる力」を読みメディアを通じての学習を身近な例を挙げて考えること 事後学修：メディアの影響力について考察を深めること
5回	授業内容：第4章「ことばの力を育む」、グループワーク 事前学修：言語に対する意識（バーチャル言語も含む）と社会心理について調べること 事後学修：多様化する日本社会における言語使用の重要性について認識すること
6回	授業内容：第5章「人間関係力」をもつ、グループワーク 事前学修：人間関係について社会的アプローチをすること（ビエールブルデュの「再生産」） 事後学修：本書に掛かっている人間関係論を用いて自己の人間関係を振り返ること
7回	授業内容：第6章「物語る力が人を動かす」、グループワーク 事前学修：藻緒方ることについて予習を行うこと 事後学修：本章をつづいて分かり得た知識を整理する
8回	授業内容：第7章「30歳から読書術」、グループワーク 事前学修：読書法についてのp文献を調べること 事後学修：本章に掛かっている読書法を検討すること
9回	授業内容：第8章「概念で学ぶ力を育てる」、グループワーク 事前学修：これまでになかった概念装置を考えその時代の社会的要因について調べること 事後学修：断片的な事象ではなく物事をストーリーで考える力を習得すること
10回	授業内容：第9章「旅の教育力」、グループワーク 事前学修：旅の形態について予習をすること 事後学修：本章を通じて得られた知見を筆者に建設的に提示すること
11回	授業内容：第10章「キャリアデザインの力」、グループワーク 事前学修：キャリアデザインとは何か？昨今の雇用問題について考察を行うこと。 事後学修：学習する組織と個人と労働市場について振り返りを行うこと
12回	授業内容：第11章「生涯発達と学習方法」、グループワーク 事前学修：生涯学習の基本を概観すること 事後学修：生涯学習の本質について復習すること
13回	授業内容：プレゼンテーション 事前学修：グループワークで作ったプレゼンテーションの内容を精査すること 事後学修：プレゼンテーションに対する意見を吟味すること
14回	授業内容：プレゼンテーション 事前学修：グループワークで作ったプレゼンテーションの内容を精査すること 事後学修：プレゼンテーションに対する意見を吟味すること
15回	授業内容：レポート作成 事前学修：準備したレポートに謝りがないか確認すること 事後学修：レポートの内容が本講座の内容と一致しているかを確認すること

◆**教科書** 丸沼『人生を変える生涯学習の力』 小宮山博仁・立田慶裕編 新評論

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 授業参画度および態度 50%、プレゼンテーション 20%、レポート 30%

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

IV 夜間スクーリング

1 開講日程

開講期間	5月11日(月)～7月3日(金)					
授業時間	18:30～21:25					
受講形態	月曜日から金曜日までの各曜日に開講される講座から1講座を選び、同じ曜日の8回の授業を経て、最終日に試験を受けます。 また、すべての講義に出席が求められます。					
授業日程	月	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
①: 1回目	5月	① 11	① 12	① 13	① 14	① 15
②: 2回目		② 18	② 19	② 20	② 21	② 22
③: 3回目		③ 25	③ 26	③ 27	③ 28	③ 29
④: 4回目	6月	④ 1	④ 2	④ 3	④ 4	④ 5
⑤: 5回目		⑤ 8	⑤ 9	⑤ 10	⑤ 11	⑤ 12
⑥: 6回目		⑥ 15	⑥ 16	⑥ 17	⑥ 18	⑥ 19
⑦: 7回目		⑦ 22	⑦ 23	⑦ 24	⑦ 25	⑦ 26
⑧: 8回目	7月	⑧ 29	⑧ 30			
補: 補講日		補 6	補 7	⑧ 1	⑧ 2	⑧ 3
				補 8	補 9	補 10

※各曜日から1講座のみの申込みで、最多合計5講座まで受講できます。

2 実施会場

授業は主として通信教育部校舎で行います。

名 称	日本大学通信教育部1号館
所 在 地	東京都千代田区九段南4-8-28
交 通 案 内	市ヶ谷駅から徒歩3分

※授業講堂は、ポータルサイトにて事前にお知らせします。

3 開講講座

月	講座名	担当講師名
	宗教学基礎講読	興津香織
	商法	酒巻俊之
	博物館資料論	平野卓治
	社会政策論 / 社会政策	藤本知彦
	日本史概説 / 日本史概論	千葉篤志
文学	渡邊重人	

4月期 東京

5月期 東京

6月1期 東京

火	講座名	担当講師名
	刑法Ⅱ	上野幸彦
	工業経済論	小林世治
	西洋思想史Ⅱ	石井友人
	英語G	ダレルハーディ
	英文文Ⅰ	パトリックマッコイ
経済学	大塚友美	

6月2期 東京

5月期 札幌

水	講座名	担当講師名
	博物館展示論	岡部幹彦
	英米文学演習D	小田井勝彦
	国文学講義Ⅲ(中世)	鹿野しのぶ
	行政法Ⅱ	小澤久仁男
	英語V	水野隆之
教育課程論	滝澤雅彦	

5月期 福岡

7月1期 名古屋

木	講座名	担当講師名
	国文学基礎講義	布村浩一
	英語H	北原安治
	現代教職論	古賀徹
	博物館概論	中野照男
	知的財産権法	三村淳一
	英文法B	小澤賢司
民法Ⅱ	根本晋一	

7月2期 大阪

月曜日 夜間

火曜日 夜間

金	講座名	担当講師名
	西洋史概説 / 西洋史概論	荒木洋育
	道德教育の理論と方法 / 道德教育の研究	李吉魯
	日本経済史	飯島正義
	英語J	常名朗央
	英語学演習D	田中竹史
	交通論	針谷莊司
教育原論 / 教育の思想B	渡辺典子	

水曜日 夜間

木曜日 夜間

金曜日 夜間

付録

◆ 開講講座表及び講座内容（シラバス）

夜 間 月曜日	時間	18:30～21:25							
	授業日	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目 〈試験を含む〉
		5/11	5/18	5/25	6/1	6/8	6/15	6/22	6/29

※以下の月曜日開講の講座から1講座を選択してください。

講座コード	開講講座名	担当講師名	単開 位 数講	充 当 科 目		併 用	制 限・注 意		受 オ ー プ ン 講
				科 目 コ ー ド	科 目 名		配当 学 年	受 講 条 件	
B1A1	宗教学基礎講読	興津 香織	2	P30100	宗教学基礎講読		2年		
B1A2	商 法	酒巻 俊之	2	S30200	商 法		2年		
B1A3	博物館資料論	平野 卓治	2	Y20600	博物館資料論	×	2年	・スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	
B1A4	社会政策論/ 社会政策	藤本 知彦	2	L31600	社会政策		2年	・法学部のみ申込可。 ・文理/経済/商学部のみ申 込可。	×
				R32100	社会政策論				
B1A5	日本史概説/ 日本史概論	千葉 篤志	2	K32200	日本史概論		2年	・法学部のみ申込可。 ・文理/経済/商学部のみ申 込可。	×
				Q30200	日本史概説				
B1A6	文 学	渡邊 重人	2	B11300	文 学		1年		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔宗教学基礎講読〕

興津 香織

◆**授業概要** インドは仏教発祥の地でありながら、現代インドでの主流は仏教ではなく、ヒンドゥー教である。ヒンドゥー教は、仏教よりはるか昔に成立したバラモンを中心とする思想体系（バラモン教）から発展した民俗宗教であり、仏教とバラモン系思想の両者を考察・対比しなければ、仏教を含むインド諸思想や宗教は理解できない。両者の聖典講読を通じて、インド思想の根底にある基本的な考え方や専門用語を学び、理解に役立たせる。

◆**学修到達目標** インド諸思想を学び、バラモン系統の思想と仏教との思想的な違いを理解し、説明できる。現代のインドへの理解を深めることができる。初期仏教を中心的に学ぶことにより、仏教の根底にある考え方を知ることができる。またそれによって、のちに諸地域に広まった様々な仏教の根底にも同じ考え方が存在していることを理解し、検討していくことができるようになる。

◆**授業方法** 基本的には講義形式で専門用語や思想史的な背景、流れ、要点などを解説しながら教科書を読み進める。理解のために資料を配付することもある。受講生にも分担して読んでもらう（発表）。担当者以外にもコメントを求める。必要に応じて、映像資料も使用する。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：「インド思想とは」講義概要、講義の進め方、使用するテキストと参考文献の紹介 事前学修：通信教育教材『宗教学基礎講読』の第七章（インド人の宗教）を読んでおく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
2回	授業内容：「インド思想における仏教の位置付け」インド思想史の流れとテキストをめぐる基本情報や位置づけなどを解説 事前学修：通信教育教材『宗教学基礎講読』の第八章（仏教）を読んでおく 事後学修：配付資料を読み返し、内容を整理・確認する
3回	授業内容：ヴェーダ文献Ⅰ－1 インド思想の根幹であるヴェーダについて、その概要を学ぶ 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
4回	授業内容：ヴェーダ文献Ⅰ－2 テキストを読み進めるのに必要な基礎知識や専門用語を解説する 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：配付資料を読み返し、ヴェーダの種類と部門について整理・確認し説明できるようにする
5回	授業内容：ヴェーダ文献Ⅱ－1 インドの哲学的思惟の最高峰であるウパニシャッドの概要について学ぶ 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
6回	授業内容：ヴェーダ文献Ⅱ－2 ウパニシャッドの文献を実際に読み、輪廻、解脱、業などの基本的かつ重要な問題を検討する 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：配付資料を読み返し、ウパニシャッドについて整理・確認し説明できるようにする
7回	授業内容：正統バラモン系哲学Ⅰ 一元論 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
8回	授業内容：正統バラモン系哲学Ⅱ 二元論、多元論 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：配付資料を読み返し、各哲学学派の概要や主張内容について整理・確認し説明できるようにする
9回	授業内容：原始仏典Ⅰ－1 インド仏教の流れを把握し、開祖である仏陀の事跡を辿る 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
10回	授業内容：原始仏典Ⅰ－2 原始仏典の中から短編の経典（梵天勧請やはじめての説法など）を読み、仏教の基本的な教説を学ぶ 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：配付資料を読み返し、インド仏教の歴史的な概要について整理・確認し説明できるようにする
11回	授業内容：原始仏典Ⅱ－1 原始仏典の中から中編の経典（階級の平等、殺人鬼の帰依など）を読み、仏教の基本的な教説を学ぶ 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
12回	授業内容：原始仏典Ⅱ－2 原始仏典の中から中編の経典（階級の平等、殺人鬼の帰依など）を読み、バラモン教系の思想との相違点を確認する 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：配付資料を読み返し、仏教とバラモン系思想との相違点について整理・確認し説明できるようにする
13回	授業内容：原始仏典Ⅲ－1 『沙門果経』を読み、仏陀と同時代に活躍した六師外道の説を学び、当時のインドにおける思想の特徴を学ぶ 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
14回	授業内容：原始仏典Ⅲ－2 『沙門果経』を読み、仏陀と同時代に活躍した六師外道の説を学び、六師外道の説と仏陀の立場との対比について検討する 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：配付資料を読み返し、これまで学んだインド諸思想について整理・確認し説明できるようにする
15回	授業内容：試験および解説 試験は論述形式。講義や発表内容を踏まえて、各自最も関心の高かったトピックについて掘り下げて自由に論じてもらう。テキストやノートの参照を認める 事前学修：14回までに学んだ内容を全体的に整理し、不明な言葉や項目などは調べる 事後学修：授業内容を確認・理解し、定着させる

◆**教科書** 『バラモン教典・原始仏典』（世界の名著1）長尾雅人編 中央公論社※
〈※上記の本は古本のみで入手可能。インターネットサイト（日本の古本屋やアマゾンなど）にて購入可能。入手不能の場合は初回授業にて対処します。〉

◆**参考書** 講義内において指示します。

◆**成績評価基準** 平常点（50%）、試験（50%）：発表やコメント状況などの授業参加の姿勢と最終回に実施する試験による総合評価。一定以上の出席回数（回数は公表しない）がなければ評価はつけない。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔商法〕

酒巻 俊之

◆**授業概要** 今期は、株式会社の設立・株式・新株予約権・機関等を講義する。令和元年12月4日に成立した改正法に基づいた講義を行うが、通信教材はもとより、六法も一部対応していないので注意。計算・社債・組織再編等は来期の講義になる（ただし、リクエスト箇所及び改正部分については取り上げる）。教科書記載事項だけではなく、実務体験に基づいた講義や検索等の実演、パワーポイントによる要点整理を行う。

◆**学修到達目標** 会社法は経済活動と密接に関わり、厳しすぎる規制は起業減少・倒産増加・拠点の移転等により、緩すぎる規制は悪徳商法の蔓延・企業不祥事・労働環境悪化等により、ともに経済の衰退や社会不安をもたらす。こうした観点から会社法の規制を捉え、バランス感覚を養えるとともに、商慣習や例外規定にも留意する習慣を身に着けることで、実務やリスクマネジメントを適法・適正に行えるようになる。

◆**授業方法** 教科書を参照しながら、パワーポイントによる要点整理を行う。実物・条文・資料をスクリーンに投影したり、検索エンジンによる検索の実演を行う授業をするが、携帯等のモバイル端末による撮影や自身による検索実施を推奨する。会社法の条文や実務は条文順に勉強しても理解できないが、教科書にアンダーラインを引いたり、タックを貼ったりすることで、テストや実務に役立つようになる。奇数回簡単な前週のフィードバックを行う。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 商法から会社法に至る歴史 事前学修 教科書1頁～21頁を中心に教科書の該当部分を勉強する。 事後学修 講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
2回	授業内容 会社の機関設計、役員等の役割、公開・非公開・上場等 事前学修 教科書118頁～126頁・147頁～186頁を中心に教科書の該当部分を勉強する。 事後学修 講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
3回	授業内容 株式会社の設立 事前学修 教科書26頁～41頁・46頁～51頁を中心に教科書の該当部分を勉強する。 事後学修 講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
4回	授業内容 株式会社の設立 事前学修 教科書26頁～41頁・46頁～51頁を中心に教科書の該当部分を勉強する。 事後学修 講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
5回	授業内容 株式 事前学修 教科書42頁～84頁を中心に教科書の該当部分を勉強する。 事後学修 講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
6回	授業内容 株式 事前学修 教科書42頁～84頁を中心に教科書の該当部分を勉強する。 事後学修 講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
7回	授業内容 募集株式の発行・譲渡制限株式の譲渡・株主名簿 事前学修 教科書60頁～68頁・85頁～93頁を中心に教科書の該当部分を勉強する。 事後学修 講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
8回	授業内容 募集株式の発行・譲渡制限株式の譲渡・株主名簿 事前学修 教科書60頁～68頁・85頁～93頁を中心に教科書の該当部分を勉強する。 事後学修 講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
9回	授業内容 新株予約権 事前学修 教科書96頁～118頁を中心に教科書の該当部分を勉強する。 事後学修 講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
10回	授業内容 これまでの講義の関連付け及びフィードバック 事前学修 教科書1頁～117頁を中心に教科書の該当部分を勉強する。 事後学修 講義を反映してこれまでの学習内容を整理する。レポート（任意）を作成する。
11回	授業内容 機関設計のルール 事前学修 教科書118頁～126頁を中心に教科書の該当部分を勉強する。 事後学修 講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
12回	授業内容 会社形態の研究・上場会社の研究 事前学修 教科書8頁～21頁・169頁～185頁・218頁～222頁を中心に教科書の該当部分を勉強する。 事後学修 授業で教えた検索などを復習する。レポート（任意）を作成する。
13回	授業内容 役員等の職務・責任 事前学修 教科書60頁～68頁・85頁～93頁を中心に教科書の該当部分を勉強する。 事後学修 講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
14回	授業内容 令和元年会社法改正及びテスト前講義振り返り 事前学修 教科書7頁及びアンダーライン部分とその前後を勉強する。 事後学修 講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。テスト範囲の勉強を行う（通常の事前学習2時間・事後学習2時間以上必要）。
15回	授業内容 テスト範囲おさらいの確認後、授業時テスト、終了後フィードバック 事前学修 テスト範囲の勉強を行う（通常の事前学習2時間・事後学習2時間以上必要）。 事後学修 フィードバックを反映して自己採点（厳しめに採点して間違った所を復習）。

◆**教科書** 丸沼『会社法講義 令和元年改正対応版』酒巻俊之著 桜門書房

◆**参考書** 令和2年に発行された会社法の教科書（担当者執筆のものに限らない）

◆**成績評価基準** 最終授業時テスト（60%）、出席確認小テスト及び任意提出レポート（40%）

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔博物館資料論〕

平野 卓治

◆**授業概要** 博物館資料の概念、収集・整理、その様々な活用のあり方など、モノが博物館資料となる過程をふまえ、博物館資料をめぐる様々な事項に関して講義し、現状とその課題をさぐる。博物館の学芸員としての経験をもとに、現場の実状と課題をもふまえながら授業を進めていく。

◆**学修到達目標** 博物館資料に関する基本的な知識・技術を身につけ、実際の博物館における資料が抱える課題、資料の調査研究をめぐる課題に関して、各自が主体的なスタンスを構築することが出来る。

◆**授業方法** 講義を中心に授業を進めていく。人文系博物館の事例を中心に、実際の博物館の活動にもふれながら進めていく。また、課題に関しての報告や意見交換なども行っていく。

◆**履修条件** 学芸員資格の取得を目指す者。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ガイダンス：授業のテーマや到達方法、講義計画などと共に博物館と「資料」に関係について説明する。 事前学修：シラバスを確認し授業全体の流れを理解しておく。 事後学修：自分の関心のある博物館の収蔵資料について調べてみる。
2回	授業内容：博物館資料とは—その定義と特性を探る。 事前学修：歴史博物館の資料にはどのようなものがあるのかを、調べてピックアップしノートにまとめておく。 事後学修：講義の内容を確認し、ポイントを整理する。
3回	授業内容：博物館資料の種類と分類—一次資料を中心にみていく。 事前学修：博物館が所蔵する資料の種類について考えてノートにまとめておく。 事後学修：講義の内容を確認し、ポイントを整理する。
4回	授業内容：博物館資料の種類—二次資料を中心にみていく。 事前学修：実物資料と「複製」との相違点について考えてノートにまとめておく。 事後学修：講義の内容を確認し、ポイントを整理する。
5回	授業内容：博物館資料化のプロセス—「モノ」が博物館資料となり、収蔵されるプロセスを考える。 事前学修：モノと博物館資料との相違を考えてノートにまとめておく。 事後学修：講義の内容を確認し、ポイントを整理する。
6回	授業内容：博物館資料の種類と整理—博物館資料の整理過程をみていく。 事前学修：多大な資料の「分類」について考えてノートにまとめておく。 事後学修：関心のある博物館で分類・整理がどのように行われているのかを調べてみる。
7回	授業内容：博物館資料の配架と保管・保存—資料の保管のあり方をみていく。 事前学修：心のある博物館の収蔵庫に関して調べてノートにまとめておく。 事後学修：講義の内容を確認し、ポイントを整理する。
8回	授業内容：博物館資料の収納の実際—人文系博物館での実例をみて考える。 事前学修：資料の収納を自分なりに考えてノートにまとめておく。 事後学修：講義の内容を確認し、ポイントを整理する。
9回	授業内容：博物館資料と調査研究—資料の調査研究のあり方、姿勢や資料への配慮をみていく。 事前学修：学芸員には、なぜ調査・研究能力が求められるのかを考えてノートにまとめておく。 事後学修：講義の内容を確認し、ポイントを整理する。
10回	授業内容：調査研究成果の公表・還元—成果の還元の仕方を考える。 事前学修：博物館で出している「調査報告書」を調べてノートにまとめておく。 事後学修：講義の内容を確認し、ポイントを整理する。
11回	授業内容：博物館資料の活用—展示を中心に資料の活用をみていく。 事前学修：博物館で資料を展示する際に留意すべきことを考えてノートにまとめておく。 事後学修：展示における博物館資料の活用を考え直してみる。
12回	授業内容：博物館資料の活用2—特別利用と教育的活用についてみていく。 事前学修：博物館で資料と接した経験を振り返ってノートにまとめておく。 事後学修：講義の内容を確認し、ポイントを整理する。
13回	授業内容：博物館資料の活用3—デジタル・アーカイブを中心に情動的活用をみていく。 事前学修：博物館のHPから関心ある資料を探ってノートにまとめておく。 事後学修：講義の内容を確認し、ポイントを整理する。
14回	授業内容：博物館の資料の保存・修復 事前学修：資料の劣化と保存・修復との関係を調べてノートにまとめておく。 事後学修：講義の内容を確認し、ポイントを整理する。
15回	授業内容：試験及び解説。博物館資料に関する課題について。 事前学修：試験に備え、これまでの講義を振り返る。 事後学修：博物館資料に関する諸知識を確認する

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 丸沼『新博物館学教科書 博物館学Ⅰ 博物館概論・博物館資料論』大塚哲・水嶋英治編著 学文社 2012年
丸沼『ミュージアロロジーの展開 経営論・資料論』金子伸二・杉浦幸子 武蔵野美術大学出版局 2016年

◆**成績評価基準** 授業参画度 20%、小レポート 30%、試験 50%を基準として、総合的に評価する。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔社会政策論 / 社会政策〕 オープン受講：不可

藤本 知彦

◆**授業概要** 社会政策は、労働政策、社会保障等を対象領域としています。中でも社会保障は、少子高齢化の進行等を背景として大きな転換期を迎えており、将来に向けた制度改革が最重要政策課題の一つとなっています。本講義では、社会政策と社会保障の基礎概念の理解を踏まえ、社会保障の意義と基本構造について社会保険（医療保険、介護保険等）を中心に学習します。

◆**学修到達目標** 1. 社会保障の機能や財政の現状を理解し、説明できる。
2. 社会保険の仕組みや特徴を公的扶助、民間保険との対比において理解し、説明できる。
3. 医療保険制度や介護保険制度の基本的な仕組みを理解し、説明できる。

◆**授業方法** 基本的に講義形式で行います。指定テキストを参照しながら授業を進めますので、毎回持参してください。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**履修条件** 令和元年度夜間スクーリング（春期）「社会政策論 / 社会政策」との積み重ね不可

◆**授業計画**〔各90分〕

1回	授業内容：ガイダンス、社会政策の概要（社会政策の意義、対象領域） 事前学修：シラバスを読み、講義の概要を把握する。日常生活と社会政策との関わりを考える。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
2回	授業内容：労働政策の基礎：労働基準（賃金・労働時間等）、雇用保障、労働組合 事前学修：テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
3回	授業内容：社会保障の基礎1：社会保障と社会保険との関係、医療保険・介護保険の基礎概念 事前学修：テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
4回	授業内容：社会保障の基礎2：年金保険・労災保険・雇用保険の基礎概念 事前学修：テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
5回	授業内容：社会保障の意義と基本構造1：社会保障の概念と体系 事前学修：テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
6回	授業内容：社会保障の意義と基本構造2：社会保障の目的と機能 事前学修：テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
7回	授業内容：社会保障の意義と基本構造3：社会保障の保障方法、主要制度（社会保険、公的扶助、社会福祉、社会手当） 事前学修：テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
8回	授業内容：社会保障の意義と基本構造4：社会保険の仕組みと原理 事前学修：テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
9回	授業内容：社会保障の意義と基本構造5：社会保険の特徴、メリット・デメリット 事前学修：テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
10回	授業内容：社会保障の意義と基本構造6：社会保険の費用負担、行政機構 事前学修：テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
11回	授業内容：社会保障の意義と基本構造7：社会保障の財政（社会保障給付費、社会保障関係費等の現状） 事前学修：テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
12回	授業内容：医療保険制度の概要 事前学修：テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
13回	授業内容：介護保険制度の概要 事前学修：テキスト・参考書等の該当箇所を読み、概要を把握する。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
14回	授業内容：まとめ 事前学修：テキスト・参考書等のこれまでの該当箇所を読み、総復習をする。 事後学修：授業で学んだ内容をまとめ、理解を深める。
15回	授業内容：試験及び解説 事前学修：これまでの学習内容の整理・定着を図る。 事後学修：本講義を通して学んだ内容の理解を深める。

◆**教科書** 丸沼『社会保障法令便覧2020』 社会保障法令便覧編集委員会編 労働調査会

◆**参考書** 授業時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、授業参加度と試験により総合的に評価します。評価に関する詳細は初回授業時に説明します。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本史概説 / 日本史概論〕 オープン受講：不可

千葉 篤志

◆**授業概要** 本科目では、①「日本史」とは何か、②原始・古代から現代に至るまでの歴史の変遷、③「歴史事実」の多様性への理解などを、世界の中での日本という地理的・歴史的な位置付けを意識しながら学修し、政治・経済を中心として、それを背景とした社会・文化への理解を深めていきます。

◆**学修到達目標** ①日本の全時代を通じた時代の流れを辿る説明できるようにする。
②日本の各時代の主な出来事と、その背景や意義、注目点について知り、説明できるようにする。
③日本の歴史を通じて、現在の物事や課題を考える姿勢を身につける。

◆**授業方法** 事前に教科書や関連文献などで、時代概要を把握していることを前提として、プリントの配布を中心に授業を進行します。適所でスクリーンなどの補助教材を使用します。なお、受講人数によって授業方法を変更する場合があります。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**履修条件** 令和2年度昼間前期「日本史概説 / 日本史概論」との積み重ね不可

◆**授業計画**〔各90分〕

1回	授業内容	講義についての説明、先史時代について 授業の進め方や成績評価について説明します。旧石器時代から弥生時代の日本について学びます。
	事前学修	シラバスの内容を十分に確認し、講義全体の流れを把握しておくこと。 教科書p3～7を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
2回	授業内容	ヤマト王権の成立と展開 古墳の出現とヤマト王権の成立から展開について学びます。
	事前学修	教科書p7～16を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
3回	授業内容	律令国家の成立と展開 律令国家が形成される奈良時代に関する諸事項について学びます。
	事前学修	教科書p17～32を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
4回	授業内容	王朝国家の展開と武士の台頭 律令体制の崩壊と荘園・武士の発生について学びます。
	事前学修	教科書p33～55を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
5回	授業内容	鎌倉幕府の成立と展開 武士が築いた政権である鎌倉幕府に関する諸事項について学びます。
	事前学修	教科書p55～67を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
6回	授業内容	室町幕府の成立と展開 足利氏が築いた室町幕府の成立と展開に関する諸事項について学びます。
	事前学修	教科書p68～77を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
7回	授業内容	領域権力の割拠から統一へ 各地の「戦国大名」が活躍した戦国時代に関する諸事項について学びます。
	事前学修	教科書p77～89を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
8回	授業内容	幕藩体制の成立 徳川氏による全国統一体制が成立する江戸時代前期の政治と社会を中心に学びます。
	事前学修	教科書p115～124を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
9回	授業内容	幕藩体制の展開 幕藩体制が確立していく江戸時代中期の政治と社会を中心に学びます。
	事前学修	教科書p124～137を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
10回	授業内容	幕藩体制の崩壊 幕府体制が動揺と崩壊を迎える江戸時代後期の政治と社会を中心に学びます。
	事前学修	教科書p138～161を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
11回	授業内容	近代国家の建設と展開 立憲国家の形成過程と展開について学びます。
	事前学修	教科書p189～220を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
12回	授業内容	デモクラシーの時代 「大正デモクラシー」に関連する諸事項について学びます。
	事前学修	教科書p220～236を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
13回	授業内容	恐慌から戦争へ 昭和初期の時代状況から太平洋戦争までの過程について学びます。
	事前学修	教科書p237～260を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
14回	授業内容	戦後改革と冷戦 戦後の日本の歩みと冷戦体制との関係について学びます。
	事前学修	教科書p263～309を熟読しておくこと
	事後学修	授業内の不明な点や疑問点について、ノートや教科書、または関連する文献で復習し、理解を深めておくこと
15回	授業内容	授業内試験、講義の総括と振り返り 第1回から第14回までの講義に関する授業内試験を行ない、講義内容の振り返りを行ないます。
	事前学修	第1回から第14回までの学修内容をまとめておくこと。
	事後学修	授業で学んだことを振り返り、理解度の低い部分を確認する。

◆**教科書** 教材『日本史概説 / 日本史概論 K32200/Q30200』通信教育教材（教材コード000382）
〈この本は『概論日本史』（吉川弘文館）と同じです〉

◆**参考書** 〔当日資料配布〕配布プリントで適所紹介する

◆**成績評価基準** 試験内試験（70%）、小レポート（20%）、小テスト（10%）を実施して、総合的に評価します。※全ての授業を出席することが前提です。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

4月
期
東
京5月
期
東
京6月
1期
東
京6月
2期
東
京5月
期
札
幌5月
期
福
岡7月
1期
名古屋7月
2期
大
阪月
曜
日
夜
間火
曜
日
夜
間水
曜
日
夜
間木
曜
日
夜
間金
曜
日
夜
間付
録

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔文学〕

渡邊 重人

◆**授業概要** 文学ジャンルは多岐にわたりますが、端的に言えば、言語芸術であるということになります。そこで、この授業では言語芸術のなかでも、フィクション、特に散文による小説に焦点を当て、学修します。具体的には、小説を読むという行為の前景化を通して、小説表現の多様性、小説ジャンルの多様性、同時代言説との関係、史実とフィクションをめぐる想像力などさまざまな角度から文学について考察します。

◆**学修到達目標** 1. 小説を読むという行為について考察し、具体例を挙げながら説明することができる。2. 小説表現の多様性、小説ジャンルの多様性について考察し、説明することができる。3. 同時代言説との関係、史実とフィクションをめぐる想像力について考察し、説明することができる。

◆**授業方法** 文学テキストをただ読むのではなく、さまざまな角度から分析・考察することで幅広い教養を身に付けることを目指します。具体的には、講読と解説、履修者間のピアワークを実施します。また、レスポンス・ペーパーを用いて、履修者と担当者の意見交流も実施し、フィードバックは全体講評と質疑応答で対応します。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	履修者自身の小説を読むという行為について検討し、前景化を図ります。
	事前学修	自分がどのように小説を読んでいるかを想起し、整理しておきます。
	事後学修	授業計画を再読し、学修の見直しを持ちます。
2回	授業内容	分析・考察に必要な概念・用語について確認します。
	事前学修	ストーリー、プロット、語り手、焦点化、異化、自動化など小説を分析・考察する際に必要な概念・用語について調べ、まとめておきます。
	事後学修	夢野久作『瓶詰地獄』を読み、小説を読むという行為を前景化させます。
3回	授業内容	夢野久作『瓶詰地獄』を読む：『瓶詰地獄』を読み、小説表現の多様性について考察します。
	事前学修	『瓶詰地獄』を読み、履修者自身の読みを整理しておきます。
	事後学修	『瓶詰地獄』の小説表現について整理しておきます。
4回	授業内容	江戸川乱歩『二銭銅貨』を読む：焦点化と語り手の機能について考察します。
	事前学修	『二銭銅貨』を読み、語り手がどのような機能をもっているかについて整理しておきます。
	事後学修	焦点化と語り手の機能について整理しておきます。
5回	授業内容	江戸川乱歩『屋根裏の散歩者』を読む：感情移入の仕組みについて考察します。
	事前学修	小説を読む際の感情移入について、履修者自身のケースを振り返り、整理しておきます。
	事後学修	語り手による語りと感情移入の関係について、整理しておきます。
6回	授業内容	谷崎潤一郎『柳湯の事件』を読む：小説表現におけるリアリズムとリアリティについて考察します。
	事前学修	『柳湯の事件』を読み、履修者自身の読みを整理しておきます。
	事後学修	小説表現におけるリアリズムとリアリティについて整理しておきます。
7回	授業内容	谷崎潤一郎『美食倶楽部』を読む：感覚表象について考察します。
	事前学修	感覚表象と読者の想像力について、履修者自身のケースを振り返り、整理しておきます。
	事後学修	リアリズムとリアリティ、感覚表象、読者の想像力の関係について整理しておきます。
8回	授業内容	馬賊を題材とした小説を読む：間テキスト性について考察します。
	事前学修	日本人馬賊に関して調べ、整理しておきます。
	事後学修	間テキスト性について整理しておきます。
9回	授業内容	馬賊を題材とした小説について、同時代言説を踏まえて考察します。
	事前学修	アジア主義や大陸浪人に関して調べ、整理しておきます。
	事後学修	物語内容の時代設定と発表時の時代状況の関係について、履修者自身の考えを整理しておきます。
10回	授業内容	谷崎潤一郎『ハッサン・カンの妖術』を読む：物語内容と発表時の時代状況の関係について考察します。
	事前学修	インド独立運動について調べ、整理しておきます。
	事後学修	物語内容と発表時の時代状況の関係について整理しておきます。
11回	授業内容	三島由紀夫『英霊の聲』を読む：フィクションの可能性について考察します。
	事前学修	昭和維新について調べ、整理しておきます。
	事後学修	マクガフィン（物語を進めるための仕掛け）の機能、フィクションの可能性について整理しておきます。
12回	授業内容	柴田勝家『ヒト夜の永い夢』を読む：伝奇的想像力について考察します。
	事前学修	表象としての昭和維新について調べ、整理しておきます。
	事後学修	実在の人物をフィクションに登場させることの問題点について想起し、整理しておきます。
13回	授業内容	傳史的想像力と伝奇的想像力について考察します。
	事前学修	傳史の生成と受容について調べ、整理しておきます。
	事後学修	傳史的想像力と伝奇的想像力の共通点と相違点について整理しておきます。
14回	授業内容	史実とフィクションをめぐる想像力の観点から、小説ジャンルの多様性について考察します。
	事前学修	ミステリ、歴史小説、伝奇小説などのジャンル認識について、履修者自身のケースを振り返り、整理しておきます。
	事後学修	史実とフィクションをめぐる想像力、小説ジャンルの多様性について、学修内容を整理しておきます。
15回	授業内容	試験及び解説：第1回～第14回の学修内容を振り返り、小説を読むという行為について確認します。
	事前学修	第1回～第14回の学修内容を整理しておきます。
	事後学修	文学における小説の位置付けについて、履修者自身の考えを整理しておきます。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 丸沼『超入門！現代文学理論講座』亀井秀雄監修・夢沼正美著 筑摩書房

◆**成績評価基準** 試験（40%）、提出物（40%）、授業に対する積極性（20%）を総合して評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 開講講座表及び講座内容（シラバス）

夜 間 火曜日	時間	18:30～21:25							
	授業日	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目 <試験を含む>
		5/12	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16	6/23	6/30

※以下の火曜日開講の講座から1講座を選択してください。

講 座 コ ー ド	開 講 講 座 名	担 当 講 師 名	単 開 位 数 講	充 当 科 目		併 用	制 限 ・ 注 意		受 オ ー プ ン 講
				科 目 コ ー ド	科 目 名		配 当 学 年	受 講 条 件	
B1B1	刑 法 II	上 野 幸 彦	2	K30800	刑 法 II		2年		
B1B2	工 業 経 済 論	小 林 世 治	2	R30900	工 業 経 済 論		2年		
B1B3	西 洋 思 想 史 II	石 井 友 人	2	P30600	西 洋 思 想 史 II		2年		
B1B4	英 語 G	ダ レ ル イ ハ ー デ イ	1	C10100	英 語 I		1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。	×
				C10200	英 語 II		2年		
				C10300	英 語 III				
				C10400	英 語 IV				
B1B5	英 作 文 I	パ ト リ ッ ク マ ッ コ イ	2	N30400	英 作 文 I	×	2年	・スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	
B1B6	経 済 学	大 塚 友 美	2	B11800	経 済 学		1年		

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔刑法Ⅱ〕

上野 幸彦

◆**授業概要** 刑法典上の重要な犯罪規定について、実際に社会で生起する具体的な出来事に対して、どのような解釈に基づき適用されるのかを学ぶ。裁判例に即しながら、刑罰法規の目的を踏まえつつ、社会状況に応じた刑法の解釈・適用の在り方に関し、理論的知識と実際の考慮に基づく合理的な刑事規制を探究する。

◆**学修到達目標** 刑法典上の重要な規定について、法の原理・原則を踏まえ、実際の具体的な出来事に対して、裁判例の情報なども参考にしながら分析し、当該刑罰法規の合理的な解釈を通じ、その具体的な適用の可否を検討し、刑法上の罪責（結論）を導くことができるようになる。

◆**授業方法** テキストに基づきながら、パワーポイントを使用して授業を行う。授業テーマに関連するレポート提出が求められるとともに、授業時に授業内容の理解を確認するためリアクションペーパーが課されることがある。いずれについても、授業内で説明しない解説を行う。上記レポート作成も含め、本授業につき、事前・事後の学修時間として各2時間を目安としている。

◆**履修条件** 令和元年度夜間スクーリング（春期）「刑法Ⅱ」との積み重ね不可

◆**授業計画** 【各90分】

1回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：日本の犯罪情勢 令和元年度版の『犯罪白書』（法務省）に基づき、日本における犯罪の現況についてデータで確認したうえで、その特徴や背景等について分析し、検討する。 令和元年度の『犯罪白書』（法務省のホームページから検索して閲覧可能）の「犯罪の動向」を参照し、「一般的な日本の犯罪情勢について」というテーマで、レポート（R no.1）を作成し、第1回の授業時に提出する。 授業を踏まえて、日本の犯罪情勢の推移とその社会的背景について整理するとともに、現在、刑法がどのような問題に直面しているのかという点についても考察する。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：刑法各則の規定とその分類 刑法典が定めている「罪」の諸規定について、どのような法益を保護しようとしているのかという観点から分類し、その罪の性質について整理する。 *日本の犯罪情勢および法益の分類に関する基本的な知識・理解を確認するため、リアクションペーパー①の提出を授業中に求める。 「刑法」第2編に規定されている罪を一覧したうえで、テキスト59～64頁を読んで、どのように分類できるのかについて予備的な知識を理解しておく。 3つに大別される法益に、どのような罪が属するのかについて、リアクションペーパーの問題を振り返りながら、再確認する。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：生命の保護 最も価値の高い生命の保護に関する刑法上の規定を中心に、刑法の保護の対象となる「人」の意義をはじめ、生命の侵害・危険を処罰根拠とする規定について解説する。 なお、前回のリアクションペーパーの問題の解説を授業の冒頭で行う。 最高裁判所平成21年12月7日決定を参照し（裁判所のホームページから「裁判例情報」で検索可能）、(1)事案の概要、(2)争点、(3)決定の要旨をまとめ、(4)その当否について検討し、レポート（Rno.2）にまとめ第3回の授業時に提出する。 今回取り上げた判例のケースなどを踏まえ、終末期医療や尊厳死・安楽死の問題について、刑法上の犯罪との関連性のポイントについて復習する。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：身体（身体の安全を含む）の保護 傷害罪の規定を中心に、その結果的加重罪としての傷害致死罪、傷害に至らない暴行罪等について説明する。「傷害」、「暴行」という基本的な概念の整理についても解説する。 テキスト67～69頁を読み、傷害および暴行の意義を手チェックするとともに、現行刑法上の「傷害罪」と「暴行罪」との関係について予習しておく。 裁判例に基づき、暴行の手段・方法によらずに傷害罪の成立が認められたケースを再確認し、復習しておく。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：自由の保護 どのような自由を保護しているのかという観点から、関連する規定を整理し、それぞれの規定の内容について解説する。 平成29年の改正で、176条以下の性犯罪に関する規定が大幅に改正されたが、この改正の(1)立法的な背景、(2)旧規定と新規定の違いについて調査して、レポート（Rno.3）にまとめ、第5回の授業時に提出する。 13歳以上の者が対象である場合、「暴行または脅迫」を強制わいせつ罪・強制性交等罪成立の手段として定めているが、このような要件の設定の当否について、外国の立法例等も参考にして検討してみる。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：名誉の保護 個人の人格権の一部としての名誉の保護と同時に、表現の自由との調整の問題について、判例の見解も含めて説明する。 *生命・身体・自由・名誉の保護に関する基本的な知識・理解を確認するため、リアクションペーパー②の提出を授業中に求める。 テキスト73～76頁を読み、刑法230条の構成要件をチェックするとともに、230条の2の規定による名誉毀損罪不成立の要件を確認しておく。 人格権としての「名誉」の保護と表現の自由の保障（憲法21条）とは、いずれも憲法上の基本権（人権）として尊重されるべきものであるが、刑法230条の2の規定を手掛かりに両者が対立・衝突する場合の調整基準について再確認し、また最高裁判所昭和44年6月25日判決の意義について、授業内容を復習して再度理解を確かめよう。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：財産の保護(1) 財産犯一般に関する問題として、財産犯の種類、財産犯の保護法益、領得罪における不法領得の意思について解説する。 なお、前回のリアクションペーパーの問題の解説を授業の冒頭で行う。 最高裁判所平成元年7月7日決定について、(1)事案の概要、(2)争点、(3)決定の内容をまとめ、(4)最高裁の判断がどのような見解に拠っているのかを分析し、その当否について検討し、レポート（Rno.3）にまとめ、第7回目の授業時に提出する。 授業内容を振り返り、財産犯の諸規定を分類・整理を手チェックし、判例が採用する財産犯の保護法益に関する見解、不法領得の意思内容に関する見解について復習しておく。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：財産の保護(2) 財産犯の個別規定として、(i)窃盗罪・強盗罪、(ii)詐欺罪、(iii)横領罪・背任罪を中心に解説する。 *財産犯の基本的な知識・理解を確認するため、リアクションペーパー③の提出を授業中に求める。 テキスト77～81頁を読み、財産犯の主要な規定の内容について手チェックしておく。 リアクションペーパーで取り上げられた問題について、テキストで確認し直し、判例の見解とも照合しながら、再度正解について確認しておく。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：公共の安全の保護 公共の安全を脅かす犯罪としての「公共危険犯」を取り上げ、犯罪としての特質、公共危険犯に分類される諸規定を概観したうえで、とくに放火罪を中心に解説する。 なお、前回のリアクションペーパーの問題の解説を授業の冒頭で行う。 テキスト82～86頁を読み、「刑法108条から110条までの規定について、構成要件上の「公共の危険の発生」の要否、放火の対象（客体）の区別、放火対象物が自己所有である場合の罪責について、整理しておく。 授業内容を振り返り、財産犯の諸規定を分類・整理を手チェックし、判例が採用する財産犯の保護法益に関する見解、不法領得の意思内容に関する見解について復習しておく。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：取引の安全の保護 各種偽造罪のうち、とくに文書偽造罪を中心に取り上げ、基本的な知識を確認しながら解説する。 *社会的法益に関する罪の基本的な知識・理解を確認するため、リアクションペーパー④の提出を授業中に求める。 テキスト89～92頁を読み、日本の刑法において名義人の真正の偽りを処罰する規定と内容の虚偽を処罰する規定とを整理しておく。 伝統的な「文書」に加え、今日電磁的記録（データ）も保護の対象となっている。これにより、文書には該当する有形偽造と無形偽造との区別がデータの場合には維持しにくくなっており、従来不可罰な無形偽造として取り扱われていたが、データの場合一部が犯罪化されるに至っている。この点について、授業内容を振り返り、規定に即して理解を再確認する。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：国家の作用の保護(1) 一般的な公務の保護を図る公務執行妨害罪を取り上げ、保護されるべき公務とは何かという問題を中心に検討し説明する。 なお、前回のリアクションペーパーの問題の解説を授業の冒頭で行う。 テキスト96～97頁を読み、公務の適法性について学習したうえで、最高裁判所平成元年9月26日決定について、(1)事案の概要、(2)争点、(3)決定の内容をまとめ、(4)その当否について検討し、レポート（Rno.4）にまとめ、第11回の授業時に提出する。 公務の適法性に関する一連の裁判例を整理する。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：国家の作用の保護(2) 国家作用のうち、司法作用の保護に関連する規定を取り上げ、整理しながら説明する。 テキスト98～99頁を読み、併せて司法作用の保護に係る規定を確認しておく。 刑事手続とも関連させながら、刑法がどのような行為を規制しているのかを再確認しておく。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：公務に対する国民の信頼の保護(1) 汚職の罪のうち、職権濫用を取り上げて、これに関連する規定について解説する。 テキスト99～100頁を読み、職権濫用を処罰する規定を確認しておく。 実際に職権濫用と判断された裁判例と、これを否定した裁判例とを比較し、授業内容に基づきつつ、なぜ尚ほで判断が分かれたのかについて分析し、考察する。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：公務に対する国民の信頼の保護(2) 汚職の罪のうち、賄賂罪を取り上げ、その構造（対向的必要的共犯）や賄賂の意義、収賄罪の成立要件等について説明する。 *国家的法益に関する基本的な知識・理解を確認するため、リアクションペーパー⑤の提出を授業中に求める。 最高裁判所平成7年2月22日判決（ロッキード事件）における内閣総理大臣の職務権限に関する判断について紹介し、そのような判断に至る根拠や背景を分析するとともに、その当否を検討してレポート（Rno.5）にまとめ、第14回の授業時に提出する。 職務権限に関する裁判所の判断について、とくに国民の信頼という観点が重視されていることを復習し、裁判例を手チェックする。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	テーマ：各論上の重要ポイントのまとめ（授業内テストの実施とその解説） なお、前回のリアクションペーパーの問題の解説を授業の冒頭で行う。 これまでの授業内容に関し、テキストをもう一度読み直して、基本的な知識および裁判例等について再確認しておく。 テストの問題について、解説を踏まえながら、自己チェックを行い、不足している知識・理解を補う。

◆**教科書** 丸沼『刑事法入門』上野幸彦・太田茂著 成文堂 2018年

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 《評価資料》 ①レポート（5回）：35% ②リアクションペーパー（5回）：20% ③授業内テスト：45%
《評価項目》 ①では、(データ・判例等の)分析力・読解力、ポイントの理解力、論理的思考能力、表現力
②では、知識の充足度、(授業内容の)理解度、知識授業参加度
③では、知識の充足度、理解力を評価判定する。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔工業経済論〕

小林 世治

◆**授業概要** 現代資本主義における生産の基本を、もっともよく表す産業は「製造業」です。それは、農業のように自然依存度の高い産業に比して、人間の支配力が強い「工業的産業」を代表するものです。工業生産の原理である「規模の経済」は、今日の市場と技術の変化にどのように対応しているのでしょうか？とくに取り上げる対象は、機械とその部品を階層的に製作する「機械工業」です。そこで発達した垂直分業と企業間関係についても考察します。

◆**学修到達目標** 1. ミクロ経済学における「生産」に関する理論を踏まえつつ、現実の「産業」を理解するのに必要な理論枠組みを学べる。2. 従来の「産業組織論」アプローチで欠けている、垂直分業と企業間関係など「企業経済」的視点を理解できる。3. 各種産業を比較分析する力を養い、ひいては「市場の現実」に迫ることができる。

◆**授業方法** 主としてパワーポイント、補足的に板書によって解説します。配布されたハンドアウトにメモを取り、理解を深めてください。開講日ごとに、リアクション・ペーパーに質問・意見を記入・提出してもらいます。

◆授業計画 (各 90 分)

1 回	授業内容: 初めに、産業組織論と本講のアプローチの違いを説明します。 事前学修: 参考書 1 などから「産業組織論」の概略を調べておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
2 回	授業内容: 「産業」とは何か、また産業分類と産業構造の基本的考え方を基に、「工業」の特質を明らかにします。 事前学修: 「日本標準産業分類」を Web 検索し、概略を調べておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
3 回	授業内容: 技術とは何か、そして労働手段の道具から機械への発展、機械の集合・連鎖・自動体系について説明します。 事前学修: 「技術」の定義には様々ある。Web 等で調べておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
4 回	授業内容: 機械工業の位置と構造を統計によって確認し、中心となる工作機械やサポーティング・インダストリーなど関連する分野を見ていきます。 事前学修: 最新の「工業統計調査」を Web 検索し、概略を調べておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
5 回	授業内容: 英・米の産業革命をたどり、今日の大量生産を支える技術的基礎と、結果としての「大企業体制」を確認します。 事前学修: 参考書 2 (第 2 章) などから「産業革命」の概略を調べておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
6 回	授業内容: ミクロ経済学による生産理論から、「規模の経済」の内容を説明します。 事前学修: 「規模の経済」についてミクロ経済学の該当箇所を確認しておく。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
7 回	授業内容: 企業による「垂直統合」と他産業への「多角化」、そして「範囲の経済」等の基礎概念を学びます。 事前学修: 参考書 1 (第 9 章) などから諸概念の内容を調べておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
8 回	授業内容: 「規模の経済」から「範囲の経済」への発展を、アメリカ自動車工業の寡占体制 (フォード vs GM) の確立から見ていきます。 事前学修: 参考書 2 (第 3 章) などから諸概念の内容を調べておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
9 回	授業内容: ME (マイクロ・エレクトロニクス) 技術によって引き起こされた、生産革命の仕組みを解説します。 事前学修: 「ME 革命」を Web 検索してみよう。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
10 回	授業内容: ME 技術と「手の労働」との結合によって、今日のフレキシブルな生産システムが発展していることを見ます。 事前学修: フレキシブルな生産システムが何故必要とされるか考えてみよう。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
11 回	授業内容: 日本型生産システムの代表とされる「トヨタ生産システム」の特徴を解説します。 事前学修: 参考書 2 (第 4 章) などから「トヨタ生産システム」について調べておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
12 回	授業内容: 電子機器組立工程で広がったセル生産方式と、自動車工業にも普及し始めたモジュール化の動きを見ていきます。 事前学修: Web 検索によって諸概念の内容を調べておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
13 回	授業内容: 日本型サプライヤー・システムを代表する「系列」と「下請」の概念を説明します。 事前学修: それぞれの概念の内容を Web 等で調べておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
14 回	授業内容: こんごの学習のために「取引コスト論」の概要を紹介します。 事前学修: 「取引コスト」とは何か Web 等で調べておくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理しておくこと。
15 回	授業内容: 試験および解説 事前学修: 前回の授業内で示した重要項目や注意点に従い試験準備すること。 事後学修: 自らの答案と解説を比較検討し、こんごの課題を明らかにすること。

◆**教科書** (当日資料配布)

◆**参考書** 丸沼『産業経済論』安喜博彦著 新泉社 2007 年
丸沼『エッセンシャル 経営史』中瀬哲史著 中央経済社 2016 年

◆**成績評価基準** 平常点 (発言・課題提出など) 40%, 最終日試験 60%。毎回の出席を前提とします。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔西洋思想史Ⅱ〕

石井 友人

◆**授業概要** 16世紀から18世紀にかけての近代形成期の哲学の展開を追っていきます。主要な哲学者の学説を紹介しながら、どのような問題意識のもとで、彼らが自らの思想をつくり上げていったのか、科学革命と宗教革命から始まる時代の中で、理性的に持っていた可能性について考えてみたいと思います。

◆**学修到達目標** 近世から近代にかけての西洋哲学の基本用語と問題意識を学び、基本的な哲学書を独力で読んでいくために必要な力を身につけていく事を目的とします。

◆**授業方法** 配布プリントと教科書（辞書的・資料集的な副読本扱いになります）を用いて講義形式で行いますが、質疑応答を取り入れ、受講生からの積極的な参加を期待します（講義の進度により、扱う思想家の範囲を変更することもある）。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	ルネサンスにより何が失われたのか？
	事前学修	教科書の当該部分を読んでおくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
2回	授業内容	ルネサンスは近代に何をもたらしたのか？ 世界の永遠や無限、普遍性について考えてみる（ジョルダノ・ブルーノについて考える）。
	事前学修	教科書の当該部分を読んでおくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
3回	授業内容	ルネサンスは近代に何をもたらしたのか？ 世界の永遠や無限、普遍性について考えてみる（マキャベリと共和制について考える）。
	事前学修	教科書の当該部分を読んでおくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
4回	授業内容	デカルトの何が新しかったのか？ アリストテレス批判について。
	事前学修	教科書の当該部分を読んでおくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
5回	授業内容	デカルトの『省察』について。方法的懐疑と「われ思う、故に我あり」という命題。第一哲学（形而上学）とは何か？
	事前学修	教科書の当該部分を読んでおくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
6回	授業内容	ライプニッツと可能世界論、ライプニッツはデカルト主義の何を批判したのか？
	事前学修	教科書のライプニッツの項目は簡潔すぎるので、熊野純彦『西洋哲学史Ⅱ』岩波新書など（これ以外の本でも構いません）、各自で資料にあたって当該項目を確認しておくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
7回	授業内容	前回の続き
	事前学修	前回の事前学修と同じく、教科書の記載は簡潔すぎるので、各自で資料にあたって当該項目を確認しておくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
8回	授業内容	ジョン・ロックの人格の同一性の問題。
	事前学修	教科書のロックの項目は簡潔すぎるので、各自で新書などの資料にあたって当該項目を確認しておくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
9回	授業内容	前回の続き
	事前学修	前回の事前学修と同じく、教科書の記載は簡潔すぎるので、各自で資料にあたって当該項目を確認しておくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
10回	授業内容	スピノザの神とその力の表現について。
	事前学修	教科書のスピノザの項目は簡潔すぎるので、各自で新書などの資料にあたって当該項目を確認しておくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
11回	授業内容	スピノザの感情の分析。
	事前学修	前回の事前学修と同じく、教科書の記載は簡潔すぎるので、各自で資料にあたって当該項目を確認しておくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
12回	授業内容	ヒュームの懐疑。第一哲学（形而上学）の解体。デカルトの懐疑と何が異なるのか？
	事前学修	教科書のヒュームの項目は簡潔すぎるので、各自で新書などの資料にあたって当該項目を確認しておくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
13回	授業内容	ヒュームの共感の哲学。
	事前学修	前回の事前学修と同じく、教科書の記載は簡潔すぎるので、各自で資料にあたって当該項目を確認しておくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
14回	授業内容	まとめ
	事前学修	講義で分からなかった部分を洗い出しておくこと。
	事後学修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
15回	授業内容	試験
	事前学修	試験は記述式で行い、範囲、問題はあらかじめ告知する。ノートに要点をあらかじめまとめておくことが望ましい。
	事後学修	実際に哲学の古典を読んでみる。これ以上の学習方法はありませぬ。

◆**教科書** 教材『西洋思想史Ⅱ P30600』通信教育教材（教材コード000570）
〔当日資料配布〕当日プリント配布

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** 全出席を前提に、試験（80%）と授業への参加度（20%）により総合的に評価する。尚、試験はレポートへ変更の場合もある。全出席の困難な人はあらかじめ申し出て下さい。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 G〕 オープン受講：不可

ダレル ハーディ

◆**授業概要** In this course we will study and practice authentic English from scenes from a popular movie.

◆**学修到達目標** The goals of this course are as follows:

1. To improve listening comprehension, both general listening and listening for details
2. To study vocabulary and colloquial expressions commonly used in American English
3. To study and compare cultural differences as they are presented in the movie

◆**授業方法** We will use the movie, "Back to the Future" for listening comprehension and for speaking practice. We will study some common idioms and expressions as presented in the movie. Students will be able to practice authentic English from the movie by role-playing scenes from the movie.

◆**履修条件** Students are required to attend all of the classes, write a midterm test, and give a group presentation.

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回	授業内容 : Orientation and scene 1. 事前学修 : None required 事後学修 : Review the vocabulary and dialogue in scene 1.
2 回	授業内容 : Scene 2: vocabulary, and listening comprehension. 事前学修 : Preview vocabulary in scene 2. 事後学修 : Review the dialogue in scene 2 and look up any unknown words or phrases.
3 回	授業内容 : Scene 2 dialogue practice and scene 3. 事前学修 : Review the vocabulary and dialogue in scene 2. 事後学修 : Look up any unknown words or phrases in scene 3.
4 回	授業内容 : Scene 3 dialogue practice and scene 4 part A. 事前学修 : Review the vocabulary in scene 3. 事後学修 : Look up any unknown words or phrases in scene 4 part A.
5 回	授業内容 : Scene 4 part B. 事前学修 : Review the vocabulary in scene 4 part A. 事後学修 : Look up any unknown words or phrases in scene 4 part B.
6 回	授業内容 : Scene 4 part C, and review for midterm test. 事前学修 : Review the vocabulary in scene 4 part B. 事後学修 : Review scenes 1 to 4, and use test preparation guide to prepare for midterm test.
7 回	授業内容 : Midterm test (scenes 1 to 4) , scene 5 part A. 事前学修 : Review for midterm test. 事後学修 : Look up any unknown words or phrases in scene 5 part A.
8 回	授業内容 : Scene 5 part B and C. 事前学修 : Review vocabulary and dialogue in scene 5 part A. 事後学修 : Look up any unknown words or phrases in scene 5 part B and C.
9 回	授業内容 : Scene 6 part A. 事前学修 : Review vocabulary and dialogues in scene 5. 事後学修 : Look up any unknown words or phrases in scene 6 part A.
10 回	授業内容 : Scene 6 part B. 事前学修 : Review vocabulary and dialogues in scene 6 part B. 事後学修 : Look up any unknown words or phrases in scene 6 part B.
11 回	授業内容 : Scene 7 part A. 事前学修 : Review vocabulary and dialogues in scene 6 part B. 事後学修 : Look up any unknown words or phrases in scene 7 part A.
12 回	授業内容 : Scene 7 part B. 事前学修 : Review vocabulary and dialogues in scene 7 part A. 事後学修 : Look up any unknown words or phrases in scene 7 part B.
13 回	授業内容 : Scene 8. 事前学修 : Review vocabulary and dialogues in scene 7 part B. 事後学修 : Look up any unknown words or phrases in scene 8.
14 回	授業内容 : Scene 8 continued, preparation and practice for final presentation. 事前学修 : Review vocabulary and dialogues in scene 8. 事後学修 : Memorize and rehearse role for final presentation.
15 回	授業内容 : Final presentations. 事前学修 : Memorize and rehearse role for final presentation. 事後学修 : End of course.

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** Midterm test = 40%; Final presentation = 40%; Participation = 20%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

〔英作文 I〕

パトリック マッコイ

◆**授業概要** 'Process Writing' involves a lot of group work and your first essay will be a group effort. An important part of 'Process Writing' is group feedback, editing and revising of your draft copies. Unfortunately some students dislike group work and prefer to work alone. In this course you will have the opportunity to do both.

◆**学修到達目標** 1. To review paragraph and essay structure and to learn ways of writing effective essays.
2. To learn and use the concept of 'Process Writing' to generate and organize ideas.
3. To improve writing fluency, accuracy and expressing thoughts and opinions in English.

◆**授業方法** Students will be completing a number of exercises from the textbook and be responsible for writing multiple drafts of a group and an individual essay.

◆**履修条件** 令和元年度夜間スクーリング（春期）『英作文 I』（パトリックマッコイ）とは積み重ね不可。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容	Orientation; introduction essay on your partner (Getting To Know you) ;
	事前学修	None
	事後学修	Revise partner essay.
2 回	授業内容	Review of paragraph and essay structure; introduction to the writing process
	事前学修	revise partner essay.
	事後学修	Review today' s lesson. Preview next chapter.
3 回	授業内容	Ready To Write More! Chapter 1: Introduction (part one)
	事前学修	Preview this chapter.
	事後学修	Review today' s lesson. Preview next chapter.
4 回	授業内容	Ready To Write More! Chapter 1: Introduction (part two)
	事前学修	Preview this chapter.
	事後学修	Review today' s lesson. Preview next chapter.
5 回	授業内容	Chapter 2: Writing Paragraphs (part one)
	事前学修	Preview this chapter.
	事後学修	Review today' s lesson. Preview next chapter.
6 回	授業内容	Chapter 2: Writing Paragraphs (part two)
	事前学修	Preview this chapter.
	事後学修	Review today' s lesson. Preview next chapter.
7 回	授業内容	Chapter 4: Writing An Essay (part one)
	事前学修	Preview this chapter.
	事後学修	Review today' s lesson. Preview next chapter.
8 回	授業内容	Chapter 4: Writing An Essay (part one)
	事前学修	Preview this chapter.
	事後学修	Review today' s lesson-start brainstorming group essay travel topic essay.
9 回	授業内容	Grading WS, Analysis: Read 2 SAMPLE Essays
	事前学修	Review previous chapter.
	事後学修	Write first group essay.
10 回	授業内容	Peer Edit: Revising WS and Edit WS
	事前学修	Prepare to write first essay.
	事後学修	Revise first draft. Preview next chapter.
11 回	授業内容	First Essay Due / Chapter 8: Comparison and Contrast Essay
	事前学修	Prepare to write first individual essay.
	事後学修	Write Comparison and Contrast essay first draft.
12 回	授業内容	C & C Essay 1st draft due, Peer Edit, Student-Teacher Writing Conferences
	事前学修	Write Comparison and Contrast essay first draft
	事後学修	Revise first draft essay for final draft. Preview next chapter.
13 回	授業内容	C & C Essay due / Comparison and Contrast Essay Due/ Chapter 11:Expressing Your Opinion (part one)
	事前学修	Preview this chapter.
	事後学修	Review today' s lesson. Preview next chapter.
14 回	授業内容	Comparison and Contrast Essay Due/ Chapter 11:Expressing Your Opinion (part two) (part one)
	事前学修	Preview this chapter.
	事後学修	Review today' s lesson. Write portfolio response and prepare revised portfolio for submission.
15 回	授業内容	Unit Review
	事前学修	Write portfolio response and prepare revised portfolio for submission.
	事後学修	None.

◆**教科書** 『Ready to Write 3: From Paragraph to Essay』 Blanchard & Root Pearsons ISBN10:0131363344

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** participation 30% Essays 70%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔経済学〕

大塚 友美

- ◆**授業概要** 本授業では、①経済学の歴史的発展にそってミクロ経済理論とマクロ経済理論を概説し、また②各時代の経済状況や経済政策などを概観することを通じて、③各自が経済学の大枠を把握し、今日の経済問題を自ら考察する力を涵養すること、を目指す。
- ◆**学修到達目標** 本授業は、①ミクロ経済・マクロ経済の基本理論を習得することを通じて、②人間の経済活動に関する理解を深め、③これをもとに現代の経済問題を各自が自ら考察できるようになることを、を目標としている。
- ◆**授業方法** 本授業は、原則、講義形式を中心に行うが、必要に応じて、①現実の経済問題の事例研究、②シミュレーション（模擬実験）の紹介、③ディスカッション、などを行うこととする。
- ◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：市場の仕組・動きと市場経済：市場経済の中核を理解する。 事前学修：指定した教科書の第1章を読み、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：講義内容を踏まえた上で、第1章の実験編の市場モデルに関するプログラムを動かすこと。
2回	授業内容：市場経済の問題点：市場経済の問題点を理解する。 事前学修：指定した教科書の第1章を読み、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：講義内容を踏まえた上で、市場経済の要点をまとめること。
3回	授業内容：家計の消費行動：家計の消費行動について概説する。 事前学修：指定した教科書の第2章を読み、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：講義内容を踏まえた上で、第2章の実験編の消費行動に関するプログラムを動かすこと。
4回	授業内容：家計の労働供給：家計の労働供給について概説する。 事前学修：指定した教科書の第2章を読み、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：講義内容を踏まえた上で、第2章の実験編の家計の労働供給に関するプログラムを動かすこと。
5回	授業内容：完全競争企業の行動：完全競争企業の行動を概観する。 事前学修：指定した教科書の第3章を読み、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：講義内容を踏まえた上で、第3章の実験編の完全競争企業の行動に関するプログラムを動かすこと。
6回	授業内容：独占企業の行動：独占企業の行動を概観する。 事前学修：指定した教科書の第4章を読み、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：講義内容を踏まえた上で、第4章の実験編の独占企業の行動に関するプログラムを動かすこと。
7回	授業内容：景気変動：市場経済について回る景気変動の要因を考察する。 事前学修：指定した教科書の第7章を読み、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：講義内容を踏まえた上で、第7章の実験編の景気変動に関するプログラムを動かすこと。
8回	授業内容：有効需要の原理：不況対策として出発したケインズ理論を概観する。 事前学修：指定した教科書の第5章を読み、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：講義内容を踏まえた上で、第5章の実験編の有効需要の原理に関するプログラムを動かすこと。
9回	授業内容：有効需要の原理の利害得失：ケインズ理論の問題点を紹介する。 事前学修：指定した教科書の第5章を読み、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：日本経済の現状を、講義内容に基づいて自ら考察してみる。
10回	授業内容：有効需要の原理の効果：近年、ケインズ政策の効果が弱まった要因を概観する。 事前学修：指定した教科書の第5章を読み、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：サプライサイド・エコノミクスの台頭との関連を考えておくこと。
11回	授業内容：サプライサイド・エコノミクス：サプライサイド・エコノミクスの基本を概観する。 事前学修：サプライサイド・エコノミクスに関して、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：サプライサイド・エコノミクスに対する、日本と欧米の対応の違いを考察してみる。
12回	授業内容：経済の成長と発展：経済の成長と発展の原動力を考察する。 事前学修：指定した教科書の第8章を読み、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：講義内容を踏まえた上で、第8章の実験編の経済成長に関するプログラムを動かすこと。
13回	授業内容：経済発展と人口変動：人口転換理論の概要を論ずる。 事前学修：指定した教科書の第9章を読み、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：講義内容を踏まえた上で、第9章の実験編の人口モデルに関するプログラムを動かすこと。
14回	授業内容：人口と経済発展：ヘーゲン・モデル（経済発展とモデル）を用いて、人口と経済発展の関係を論ずる。 事前学修：指定した教科書の第9章を読み、疑問点などをまとめておくこと。 事後学修：日本経済の現状を、講義内容に基づいて自ら考察してみる。
15回	授業内容：日本経済の将来像：これまでの授業を踏まえて、日本経済の将来を考える。 事前学修：これまでの授業を踏まえて、各自、日本経済の将来を考えておくこと。 事後学修：各自が考えた、日本経済の将来像の精緻化を図ること。

- ◆**教科書** 丸沼『実験で学ぶ経済学』大塚友美 創成社 2005
- ◆**参考書** なし
- ◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として評価する。最低限、総授業回数の3分の2は出席すること。これ以下の場合には失格とする。ただし、出席状況は評価には含まない。評価は、平常点（20%）、レポート等（80%）とする。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 開講講座表及び講座内容（シラバス）

夜 間 水曜日	時間	18:30～21:25							
	授業日	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目 〈試験を含む〉
		5/13	5/20	5/27	6/3	6/10	6/17	6/24	7/1

※以下の水曜日開講の講座から1講座を選択してください。

講座コード	開講講座名	担当講師名	単開 位 数	充 当 科 目		併 用	制 限・注 意		受 オ ー プ ン 講
				科 目 コ ー ド	科 目 名		配 当 学 年	受 講 条 件	
B1C1	博物館展示論	岡部 幹彦	2	Y20800	博物館展示論	×	2年	・スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	×
B1C2	英米文学演習D	小田井 勝彦	1	N404S0	英米文学演習Ⅰ	×	3年	・文学専攻（英文学）のみ申 込可。 ・Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させ るのか充当科目コードを必 ず記入してください。	
				N405S0	英米文学演習Ⅱ				
				N406S0	英米文学演習Ⅲ				
B1C3	国文学講義Ⅲ （中世）	鹿野 しのぶ	2	M30700	国文学講義Ⅲ （中世）		2年		
B1C4	行政法Ⅱ	小澤 久仁男	2	K31000	行政法Ⅱ		2年		×
B1C5	英語Ⅴ	水野 隆之	1	C10500	英語Ⅴ		2年	・文学専攻（英文学）のみ申 込可。	×
B1C6	教育課程論	滝澤 雅彦	2	T23300	教育課程論	×	2年	・スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔博物館展示論〕 オープン受講：不可

岡部 幹彦

◆**授業概要** 展示について、ICOMの博物館定義にある「有形、無形の人類の遺産とその環境」をキーワードに、ヒト、モノ、コトと環境、時間軸、空間軸の間に成立する関係性を示すことの本質的な意味を理解するとともに、展示準備プロセスの実際を学び、展示に係る基礎的な知識と能力を身につける。博物館学芸員としての経験をもとに、国内外の多くの事例を紹介し展示の実務を理解する授業を行う。

◆**学修到達目標** 1. 展示テーマとこれを成立させる資料構成を企画立案することができ、観覧者の主体的で積極的な“観る”行為を引き出す展示計画を立案できる。2. 企画立案から展示・撤去までの具体的な準備作業とその手順を理解し、これを計画することができる。3. モノの展示と情報の提供との関係を理解した解説資料を作成することができる。

◆**授業方法** 毎回の授業時に資料を配付し、スライドを用いて講義形式で進行することを基本とするが、積極的な学修姿勢と理解を促すため、事前学習課題ほか適宜テーマを設けて発言を求める。博物館教育に係る映像資料や実物資料を用いて多様な視点を提供するとともに、教育事業の企画書の作成を体験する。また、各授業終了時に必要に応じ要点確認レポートの提出を求める。

◆授業計画（各90分）

1回	授業内容：《ガイダンス》授業の進め方と留意点、博物館の機能と展示 展示の歴史 博物館法とICOMの定義 内外の展示事例 事前学修：博物館の主要な機能について、博物館法がどのように規定しているか確認しておくこと 事後学修：ICOMの博物館定義の新旧の差異を整理しておくこと
2回	授業内容：博物館の館種と展示の形式・種類 事前学修：博物館の館種について調べノートに整理しておくこと 事後学修：フィールドミュージアムの事例を調べ運営の課題を理解すること
3回	授業内容：展示の理念と意義 モノを観ることと情報の提供、観察と鑑賞 事前学修：美術館と文学館の展示を観る行為に差異があるか、その理由を考えておくこと 事後学修：学術的価値・歴史的価値・芸術的価値と文化財について整理しておくこと
4回	授業内容：主体的・積極的な観覧を促す展示手法 内外の事例に見る様々な手法 事前学修：海外の博物館のウェブサイトを閲覧し、展示の様子を調べておくこと 事後学修：1点の資料（作品）を選び積極的・主体的な観覧を促す解説を作成すること
5回	授業内容：展示の構成 モノ・コト・ヒトとその環境／時間軸・空間軸 資料構成と展示テーマ 事前学修：展覧会カタログを見て、展示テーマと資料構成を時間軸・空間軸で把握してみる 事後学修：実際の展覧会に出品された資料についてそのモノ・コト・ヒト・環境を整理し図示すること
6回	授業内容：展示の企画立案とテーマ・サブテーマ 企画決定プロセス 展示企画書作成実習 事前学修：各自の関心に応じた展示企画書を作成しておくこと 事後学修：講義を踏まえ、事前学修で作成した展示企画書を修正完成させること
7回	授業内容：展示環境 展示と資料保存 展示環境と展示施設・設備・用具 ファシリティーレポート 事前学修：相対湿度と絶対湿度の違いを理解しておくこと 事後学修：国指定文化財（美術工芸品）の展示に係る手続と展示の留意点について整理しておくこと
8回	授業内容：展示の方法と技術 展示と演出 展示用具 ユニバーサルデザイン 事前学修：バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解しておくこと 事後学修：博物館を実際に訪問し、展示の方法と技術について観察しノートに整理しておくこと
9回	授業内容：展示の実際(1) 企画展・特別展の開催形態 日本の特殊性 経費と収益 事前学修：大正期に開催された各種博覧会について調べておくこと 事後学修：過去のいくつかの企画展・特別展について、その主催・共催・後援・協賛・協力等を調べ整理すること
10回	授業内容：展示の実際(2) 開催要項 借用交渉と借用 輸送と展示 事前学修：学芸員が輸送に同行する意味・理由を考えておくこと 事後学修：実際の展覧会カタログから開催要項を再現し作成すること
11回	授業内容：展示の実際(3) カタログ・各種印刷物の作成と学芸員の役割 広報 展示の評価 事前学修：展覧会ポスターやチラシを見て主要な記載項目を調べる 事後学修：実際の展覧会カタログについて、その構成（項目）を一覧表に整理しておくこと
12回	授業内容：展示と博物館教育 資料と情報 キャプション・解説パネル・情報機器 事前学修：チラシやウェブサイトなどで企画展示に係る教育事業について調べておくこと 事後学修：授業を踏まえ、資料や作品の解説を情報機器で行う企画を作成すること
13回	授業内容：展示のリスクマネジメント 保険と国家補償 展示と関連法規 事前学修：動産保険の仕組みについて調べ理解しておくこと 事後学修：展示と関連法規を一覧表に整理し、そのポイントを理解すること
14回	授業内容：モノの展示と映像の提示 最近の事例から課題を考える 事前学修：映像資料と文字資料の共通点もしくは相違点について考えておくこと 事後学修：映像資料を扱う場合の原則について整理して理解すること
15回	授業内容：博物館の現状と展示の可能性 学芸員の果たす役割【試験】 事前学修：実際に観覧した展示についてその評価を作成すること 事後学修：全回の配付資料を再読し、主要項目のインデックスを作成すること

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔教材〕『博物館概論 Y20300』通信教育教材（教材コード00092）

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（20%）、要点確認レポート（20%）、試験（60%）

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英米文学演習 D〕

小田井 勝彦

◆**授業概要** 文学作品を鑑賞する、そして分析して論じるにはどうしたらよいのだろうか。この授業では、20 世紀を代表するジョージムズ・ジョイスの短編小説集『ダブリナーズ』を精読することを通じて、文学作品に対するアプローチの仕方を学び、文学作品で卒業論文を作成する上での基礎を学びます。そして作品を通じて英米文化の理解、現代社会の諸問題について考えます。

◆**学修到達目標** ・英語で書かれた文学作品について、英語のニュアンスをくみ取り、作品を正しく理解する。
・文学作品を鑑賞、論じる上でどのような点に注目すべきかを理解する。
・英米文化についてより深く知る。
・現代社会の諸問題について考察する。

◆**授業方法** 初回は文学作品の読み方、そしてこのスクーリングで取り上げる作家ジェームズ・ジョイスについて講義をします。また、発表の担当者を決定します。2 回目以降は、それぞれの作品について、担当者による発表、作品の精読、受講者による討論を行います（受講人数により進行方法が変わりますので、具体的な内容は初回に発表します）。最後にレポートを提出していただきます。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：文学作品の鑑賞方法について講義。 事前学修：この講義テーマについて思いつくことを考える。 事後学修：授業内容について復習し、発表に備える。
2 回	授業内容：作家ジェームズ・ジョイスとその時代について講義。 事前学修：教科書の Introduction を読む。 事後学修：講義で紹介された関連本を読む。
3 回	授業内容："The Sisters" について、発表、精読、討論 事前学修："The Sisters" を読んでくる。担当者は発表準備。 事後学修：授業内容について復習し、作品の考察を深める。
4 回	授業内容："An Encounter" について、発表、精読、討論。 事前学修："An Encounter" を読んでくる。担当者は発表準備。 事後学修：授業内容について復習し、作品の考察を深める。
5 回	授業内容："Araby" について、発表、精読、討論。 事前学修："Araby" を読んでくる。担当者は発表準備。 事後学修：授業内容について復習し、作品の考察を深める。
6 回	授業内容："Eveline" について、発表、精読、討論。 事前学修："Eveline" を読んでくる。担当者は発表準備。 事後学修：授業内容について復習し、作品の考察を深める。
7 回	授業内容："The Boarding House" について、発表、精読、討論。 事前学修："The Boarding House" を読んでくる。担当者は発表準備。 事後学修：授業内容について復習し、作品の考察を深める。
8 回	授業内容："A Little Cloud" の前半について、発表、精読、討論。 事前学修："A Little Cloud" の前半を読んでくる。担当者は発表準備。 事後学修：授業内容について復習し、作品の考察を深める。
9 回	授業内容："A Little Cloud" の後半について、発表、精読、討論。 事前学修："A Little Cloud" の後半を読んでくる。担当者は発表準備。 事後学修：授業内容について復習し、作品の考察を深める。
10 回	授業内容："Counterparts" の前半について、発表、精読、討論。 事前学修："Counterparts" の前半を読んでくる。担当者は発表準備。 事後学修：授業内容について復習し、作品の考察を深める。
11 回	授業内容："Counterparts" の後半について、発表、精読、討論。 事前学修："Counterparts" の後半を読んでくる。担当者は発表準備。 事後学修：授業内容について復習し、作品の考察を深める。
12 回	授業内容："Clay" について、発表、精読、討論。 事前学修："Clay" を読んでくる。担当者は発表準備。 事後学修：授業内容について復習し、作品の考察を深める。
13 回	授業内容："A Painful Case" について、発表、精読、討論。 事前学修："A Painful Case" を読んでくる。担当者は発表準備。 事後学修：授業内容について復習し、作品の考察を深める。
14 回	授業内容："Grace" の前半について、発表、精読、討論。 事前学修："Grace" の前半を読んでくる。担当者は発表準備。 事後学修：授業内容について復習し、作品の考察を深める。
15 回	授業内容："Grace" の後半について、発表、精読、討論。 事前学修："Grace" の後半を読んでくる。担当者は発表準備。 事後学修：授業内容について復習し、作品の考察を深める。レポートを作成する。

◆**教科書** 『Dubliners』 James Joyce Penguin Classic 2000

◆**参考書** なし

◆**成績評価基準** レポート 50%、発表 25%、討論への参加 25%。毎回の出席を前提として評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学講義Ⅲ（中世）〕

鹿野 しのぶ

◆**授業概要** 王朝の、女房文学から隠者文学へと変遷した中世文学の特徴を考えます。作品としては、まず『無名草子』を取り上げ、中世において王朝文学をどのように捉えていたかを考えます。次に鴨長明の作品を取り上げ、中世という時代における長明の生き方、考え方を作品から読み解きます。その上で、中世文学の特徴を探究します。

◆**学修到達目標** 両作品を読み解くことにより、以下のことを学びます。1. 作品と執筆された時代背景を関連付けて説明できるようにします。2. 作品に登場するさまざまな人物の生き方について学び、作品が読み継がれている理由を説明できるようにします。3. 中世文学における美意識や思想、中世の人々の生き方を学び、現代に生きる私たちに通じる部分について、自らのことばで説明できるようにします。

◆**授業方法** 講義形式での授業を中心にを行います。テーマによっては感想や意見などを書いてもらい、次の時間にフィードバックします。また、和歌に関するテーマの際には、学んだ和歌技法を用いて表現してもらうアクティブ・ラーニングを予定しています。質問はレビューシートに記入してください。次の時間に回答します。

◆授業計画（各90分）

1回	授業内容：中世文学についての概論 事前学修：参考書として挙げた通材『国文学講義Ⅲ（中世）』の85頁～94頁をよく読んでおきましょう。 事後学修：中世文学の、区分や特徴について、学んだことをノートにまとめておきましょう。
2回	授業内容：『無名草子』について①、その概論と作品の読解 事前学修：『無名草子』について、日本文学辞典などでその概要を調べておくといいでしょう。さらに、前回の授業までに配布する資料をよく読んでおきましょう。 事後学修：『無名草子』という作品の特徴について、ノートにまとめておきましょう。
3回	授業内容：鴨長明の伝記について 事前学修：前回までに配布する資料をよく読んでおきましょう。 事後学修：長明が育った環境・その人生について、ノートにまとめておきましょう。
4回	授業内容：鴨長明の和歌について 事前学修：歌人としての長明について、和歌文学辞典などで調べて、ノートにまとめておきましょう。 事後学修：長明の和歌の特徴について、ノートのまとめておきましょう。
5回	授業内容：『無名抄』について① その概論と内容読解 事前学修：『無名抄』とはどのような作品か、辞典などで調べておきましょう。 事後学修：配付した資料を参考にして、『無名抄』の特徴についてノートにまとめておきましょう。
6回	授業内容：『無名抄』について② 内容読解 事前学修：前回の授業で配付する資料をよく読んでおきましょう。 事後学修：『無名抄』に記される「予」に注目し、長明が自身をどのように記しているか、まとめておきましょう。
7回	授業内容：『方丈記』について① 作品が書かれた時代背景と災害を描くジャーナリストとしての長明の表現力について 事前学修：前回までに配布する資料をよく読んでおきましょう。 事後学修：『記』という作品について、ノートにまとめておきましょう。
8回	授業内容：『方丈記』について② 内容読解 事前学修：前回までに配布する資料をよく読んでおきましょう。 事後学修：『方丈記』における長明の思想について、ノートのまとめておきましょう。
9回	授業内容：『方丈記』について③ 内容読解 事前学修：前回までに配布する資料をよく読んでおきましょう。 事後学修：長明にとつての方丈の庵とはどのようなものか、ノートにまとめておきましょう。
10回	授業内容：『方丈記』について④ 内容読解 事前学修：前回までに配布する資料をよく読んでおきましょう。 事後学修：長明が隠者としてどのように世の本質を見つめているか、ノートにまとめておきましょう。
11回	授業内容：『方丈記』について⑤ 内容読解 事前学修：前回までに配布する資料をよく読んでおきましょう。 事後学修：長明が無常の世を如何に生きたかをノートにまとめておきましょう。
12回	授業内容：『発心集』について① 説話集についての概論、内容読解 事前学修：説話とは何か、辞典などで調べておきましょう。 事後学修：作品の特徴をノートにまとめておきましょう。
13回	授業内容：『発心集』について② 内容読解 事前学修：前回までに配布する資料をよく読んでおきましょう。 事後学修：『発心』とは何か、ノートにまとめておきましょう。
14回	授業内容：理解度の確認 事前学修：これまでの要点のまとめをしておきましょう。 事後学修：配付した資料やノートを読み返しておきましょう。
15回	授業内容：試験および解説 事前学修：前回までの授業内容を振り返って、中世文学の特徴・個々の作品の特徴をまとめておきましょう。 事後学修：配付資料を参考にして、中世文学作品を幅広く読んでみましょう。

◆**教科書** **事前資料送付** 担当者作成のプリント
当日資料配布 担当者作成のプリント

◆**参考書** **通材**『国文学講義Ⅲ（中世）』 通信教育教材（教材コード000091）

◆**成績評価基準** 試験（60%）、平常点（レビューシート、積極的な発言など授業への参画度）（40%）、毎回出席することを前提としています。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔行政法Ⅱ〕 オープン受講：不可

小澤 久仁男

◆**授業概要** 行政法Ⅰで学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われている必要があります。けれども、現実には、行政活動が違法に行われることが多くあります。そのため、国民の権利救済をどのようにして行っていくのかが重要な問題となります。本講義においては、わが国の行政救済制度について概観していくこととなります。なお、本講義は、行政法Ⅰ（行政法総論部分）を事前に受講しておくことで、より効果的な知識獲得になるため、行政法Ⅰを受講しておくことが望ましい科目となります。

◆**学修到達目標** 本講義によって、行政救済にかかわる概要とこれらの要件・内容等について理解して貰えることが授業目的になります。また、他の行政法の講義と合わせて、行政法の基礎的知識を養い、行政が関わる法制度を考察する際の骨格部分の形成に寄与していきたいと考えています。これらによって、行政に関する基本的な法律問題を念頭におきながら、それらが理論体系上どのように位置づけられるか、またどのように解決されるべきかを考えられるようにすることを到達目標としています。

◆**授業方法** 講義形式で行います。定期試験の解説を後日配信します。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	行政救済制度の概観 教科書の行政救済に関する箇所をざっと目を通しておいてください。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政救済制度にはどのようなものがあるかは覚えるようにしてください。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	行政訴訟の概観と司法権 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。特に、法律上の争訟・司法権がキーワードになります。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法律上の争訟とはどのようなものかについては覚えるようにしてください。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	行政訴訟の類型（抗告訴訟、当事者訴訟、客観訴訟） 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。特に、行政訴訟については、様々な種類の訴訟があることを踏まえて授業に挑んでいただけたらと思います。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政訴訟にはどのような類型があるのかについては覚えるようにしてください。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	取消訴訟(1)：訴訟要件 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。特に、取消訴訟を提起するために必要な要件である訴訟要件にはどのようなものがあるのかを踏まえて授業に挑んでいただけたらと思います。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消訴訟の訴訟要件は覚えるようにしてください。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	取消訴訟(2)：処分性 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。特に、処分性の定義に関する判例（ごみ焼却場事件）については、注意をしてください。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、ごみ焼却場事件で行った処分性の定義および、授業で取り上げた重要判例については再確認をするようにしてください。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	取消訴訟(3)：原告適格 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。特に、原告適格に関する考え方および 2004 年の行政事件訴訟法改正については、注意をしてください。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、原告適格に関する学説および関連する重要判例の動向については再確認をするようにしてください。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	取消訴訟(4)：訴えの利益、取消訴訟の審理、取消訴訟の判決と効果、仮処分 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、訴えの利益が無いと判断された判例や、民事訴訟との異同については再確認をするようにしてください。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	行政不服審査法 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。多くが、行政事件訴訟法と類似しているため、これまでの内容の再確認をしていただけたら、より効果的です。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行訴法と用語が異なる部分に注意しつつ、再確認をするようにしてください。
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	国家補償法の概観 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。特に、国家賠償と損失補償の違いについては、注意をしてください。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国家賠償と損失補償の異同については再確認をするようにしてください。
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	国賠法 1 条(1)：賠償責任の根拠 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。特に、代位責任説と自己責任説という考えについては、注意をしてください。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、賠償責任の根拠となる学説については覚えるようにしてください。
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	国賠法 1 条(2)：公権力の行使、職務関連性 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。特に、公権力の行使に関する狭義説・広義説・最広義説および職務関連性に関する外形標準説については、注意をしてください。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、公権力の行使に関する学説および外形標準説については覚えるようにしてください。
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	国賠法 1 条(3)：違法性、過失 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。特に、違法性に関する行為不法説・結果不法説および過失の客観化については、注意をしてください。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、違法性に関する考え方および過失の客観化については覚えるようにしてください。
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	国賠法 2 条(1)：公の營造物概念、瑕疵概念 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。特に、国賠法 2 条の要件について確認するようにしてください。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国賠法 2 条の要件については覚えるようにしてください。
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	国賠法 2 条(2)：道路設置管理瑕疵、河川設置管理瑕疵 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。特に、道路と河川の区別に注意をするようにしてください。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、道路に関する高知落石事件、河川に関する大東水害訴訟・多摩川水害訴訟については再確認をするようにしてください。
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	損失補償―損失補償の根拠と要件、損失補償の内容 教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。特に、どのような場合に補償され、そしてどの程度補償されるのかについては注意をしてください。 授業で行った内容と教科書・配布資料をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、損失補償の法的根拠、要件、そして補償の程度に関する学説については覚えるようにしてください。

◆**教科書** 題材 『行政法Ⅱ K31000』 通信教育教材（教材コード 000565）
〈この教材は市販の池村正道編『行政法（第 3 版）』弘文堂（2017 年）と同一です。〉

丸沼『行政判例百選Ⅱ（第 7 版）』 宇賀克也ほか編 有斐閣 2017 年

◆**参考書** 丸沼『行政判例百選Ⅰ（第 7 版）』 宇賀克也ほか編 有斐閣 2017 年
【上記の判例集の行政法総論部分となります】

◆**成績評価基準** 本講義のテーマである行政救済法にかかわる基本的な知識を習得できているかを問うための定期試験（100%）によって判定を行います。但し、レポート課題の提出については、加点あるいは救済のために行うこともあります。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語Ⅴ〕 オープン受講：不可

水野 隆之

◆**授業概要** 英語Ⅴは英文学専攻の学生を対象とした、専門科目で必要となる英語力の完成を目指す授業です。下記に記載したイギリス現代文化の様々な側面を取り扱ったテキストを精読することで、時には日本文化との比較を視野に入れながら、イギリス文化への理解を深めていきます。また、英語と日本語の発想の違いや英語でものを考える際の適切な表現なども併せて学んでいきます。

◆**学修到達目標** 下記に記載のテキストを精読することで、次のことができるようになる。

1. イギリス文化について理解し、その特質や日本文化との違いについて説明できる。
2. 様々な英文を読むのに必要な語彙力と基本的文法知識を習得することで、平易な英語を正確に読むことができる。
3. 英語独特の発想を理解し、英語で考えることができる。

◆**授業方法** 毎時間テキストの精読を中心に進めていきます。毎回学生を指名して内容の確認をしていきます。必ず事前にテキストに目を通し、分からない単語は辞書を引いて調べ、疑問点を明確にした上で授業に臨んでください。授業計画に従って、2回の授業で1章分を読了することを目安に、テキストに沿って進めていきますが、受講学生の理解度に応じて進度は調整していきます。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容：ガイダンス。授業の進め方の説明。第1章前半の精読。 事前学修：第1章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
2回	授業内容：第1章後半の精読。 事前学修：第1章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
3回	授業内容：第2章前半の精読。 事前学修：第2章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
4回	授業内容：第2章後半の精読。 事前学修：第2章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
5回	授業内容：第3章前半の精読。 事前学修：第3章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
6回	授業内容：第3章後半の精読。 事前学修：第3章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
7回	授業内容：第4章前半の精読。 事前学修：第4章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
8回	授業内容：第4章後半の精読。 事前学修：第4章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
9回	授業内容：第5章前半の精読。 事前学修：第5章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
10回	授業内容：第5章後半の精読。 事前学修：第5章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
11回	授業内容：第6章前半の精読。 事前学修：第6章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
12回	授業内容：第6章後半の精読。 事前学修：第6章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
13回	授業内容：第7章前半の精読。 事前学修：第7章の前半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
14回	授業内容：第7章後半の精読。 事前学修：第7章の後半部分を読んでくる。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。
15回	授業内容：試験とまとめ。 事前学修：これまで学習した内容を確認する。 事後学修：テキストを再読し、単語、文法事項等の確認をする。

◆**教科書** 丸沼『Realise Britain』 Colin Joyce 著・真野泰編注 金星堂 2014年

◆**参考書** 指定しない

◆**成績評価基準** 試験（70%）、授業時の発言、予習、復習など授業への取り組み（30%）。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔教育課程論〕

滝澤 雅彦

◆**授業概要** 各学校の教育活動・指導内容の土台となっている学習指導要領について学ぶ。各学校・園種の連続性や全体的理解のために、幼稚園・こども園の幼稚園要領から小学校、中学校、高等学校に至る長期的な視野から各校種の学習指導要領のポイントを理解し、各学校・園における具体的な教育課程を参考に、カリキュラム・マネジメントの実際について多角的に学ぶ。以上のことを、公立中学校長、全日本中学校長会生徒指導部長、及び文部科学省中央教育審議会専門委員等の経験を踏まえて授業内容に反映させる。

◆**学修到達目標** 1. 学習指導要領の変遷と、それらとの比較における新学習指導要領の特色について理解し説明することができる。
2. 学校教育における教育課程の役割と、教育課程編成の実際について理解し説明することができる。
3. 学校教育におけるマネジメントの意義・重要性和カリキュラム・マネジメントについて理解し説明することができる。

◆**授業方法** 1. 本時の授業テーマに関連する話題についてグループ・ディスカッションを行い意見交換する。
2. 前時に提出したレポートを返却し解説する。
3. レジューに基づいて解説する。
4. 解説の中で行う発問についてグループ・ディスカッションを行い意見交換・指導する。
5. 最後に、本時または次回のテーマに関する授業レポートを作成し提出する。

◆**履修条件** 令和2年度夏期スクーリング「教育課程論」との積み重ね不可。

◆**授業計画〔各90分〕**

1回	授業内容: カリキュラムとは何か 事前学修: 最近の教育関係の話題やニュースについて情報収集しておくこと。 事後学修: 本時の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。
2回	授業内容: 学習指導要領とは何か 事前学修: 前時の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修: 第1回および第2回の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。
3回	授業内容: 学習指導要領の変遷と新学習指導要領の特色 事前学修: 前回から1週間の間の教育関係の話題やニュースについて情報収集しておくこと。 事後学修: 本時の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。
4回	授業内容: 学習指導要領の内容と各学校の教育課程 事前学修: 前時の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修: 第3回および第4回の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。
5回	授業内容: 教育課程編成の実際 事前学修: 前回から1週間の間の教育関係の話題やニュースについて情報収集しておくこと。 事後学修: 本時の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。
6回	授業内容: 児童生徒や地域の実態を踏まえた教育課程編成 事前学修: 前時の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修: 第5回および第6回の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。
7回	授業内容: 幼小、小中、中高といった校・園種間の円滑な接続 事前学修: 前回から1週間の間の教育関係の話題やニュースについて情報収集しておくこと。 事後学修: 本時の配布レジュー、資料およびノートを読み返しておくこと。
8回	授業内容: 学校における2種類のマネジメントとは何か 事前学修: 前時の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修: 第7回および第8回の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。
9回	授業内容: カリキュラムをマネジメントするとはどういうことか 事前学修: 前回から1週間の間の教育関係の話題やニュースについて情報収集しておくこと。 事後学修: 本時の配布レジュー、資料およびノートを読み返しておくこと。
10回	授業内容: 各教科のカリキュラム・マネジメント 事前学修: 前時の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修: 第9回から第10回の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。
11回	授業内容: 特別の教科 道徳のカリキュラム・マネジメント 事前学修: 前回から1週間の間の教育関係の話題やニュースについて情報収集しておくこと。 事後学修: 本時の配布レジュー、資料およびノートを読み返しておくこと。
12回	授業内容: 総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメント 事前学修: 前時の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修: 第11回および第12回の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。
13回	授業内容: 特別活動のカリキュラム・マネジメント 事前学修: 前回から1週間の間の教育関係の話題やニュースについて情報収集しておくこと。 事後学修: 本時の配布レジュー、資料およびノートを読み返しておくこと。
14回	授業内容: カリキュラム評価の意義と重要性 事前学修: 前時の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。 事後学修: 第13回および第14回の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。
15回	授業内容: カリキュラム評価の実際 事前学修: 前回から1週間の間の教育関係の話題やニュースについて情報収集しておくこと。 事後学修: 返却された全授業レポート、全15回の配布レジュー、配布資料およびノートを読み返しておくこと。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 1. 教科書は指定しない。
2. 当日配布レジュー
3. 当日配布資料

◆**参考書** **〔丸沼〕**『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』文部科学省

◆**成績評価基準** 授業内小テストおよび授業レポート（80%）、グループ・ディスカッションおよび発表内容（20%）。毎回出席することを前提として評価する。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 開講講座表及び講座内容（シラバス）

夜 間 木曜日	時間	18:30～21:25							
	授業日	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目 <試験を含む>
		5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2

※以下の木曜日開講の講座から1講座を選択してください。

講座コード	開講講座名	担当講師名	単開位数	充 当 科 目		併用	制 限 ・ 注 意		受オープン講
				科目コード	科目名		配当学年	受 講 条 件	
B1D1	国文学基礎講義	布村 浩一	2	M20100	国文学基礎講義		※	・文学専攻（国文学）のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
B1D2	英 語 H	北原 安治	1	C10100	英 語 I		1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
				C10200	英 語 II				
				C10300	英 語 III				
				C10400	英 語 IV				
						2年			
B1D3	現代教職論	古賀 徹	2	T10100	現代教職論	×	2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	×
B1D4	博物館概論	中野 照男	2	Y20300	博物館概論	×	2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	×
B1D5	知的財産権法	三村 淳一	2	K31400	知的財産権法		2年		
B1D6	英文法 B	小澤 賢司	2	N20200	英文法		※	・文学専攻（英文学）のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
B1D7	民法 II	根本 晋一	2	K30100	民法 II		2年		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国文学基礎講義〕

布村 浩一

◆**授業概要** 文学研究における「テキスト読解」という分析行為は、日常的な読書行為とは異なる行為です。また、目的意識を持たない漠然とした読解では、本当の意味で客観的なテキストの分析はできません。そこで本講義では、まず、文学研究の基礎手続きについて学んだ後、テキストを自覚的に分析するための方法について教授します。

◆**学修到達目標** 分析的読解の方法を知ること、文学研究や教材研究・開発に生かすことができる。研究の基礎手続を知ること、読み手・聞き手にわかりやすい資料・教材の作成ができる。

◆**授業方法** 配布プリントや視聴覚資料で補足を行いながら、教科書を通読する形で授業を行います。また、簡易レポート（兼リアクションペーパー）に記入した質問については、次回の授業で回答します。なお、本授業の事前学習・事後学習の時間は各2時間を目安としています。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容 ガイダンス 文学研究の基礎① 先行研究の調べ方・データベースの活用法について講義します。なお、講義内容に関連した課題（次回講義で解説）を出題します。	事前学修 教科書全体を予め読んでおくこと。	事後学修 今回の授業内容の要点をノートに整理しておくこと。
2 回	授業内容 文学研究の基礎② 研究カード・ノートの作り方や文章作法（レポート・論文の書式）について講義します。	事前学修 前回講義で出題された課題について調査しておくこと。	事後学修 今回の授業内容の要点をノートに整理しておくこと。
3 回	授業内容 テキストの分析方法① 「物語論」の定義と意義について講義します。	事前学修 教科書「はじめに「物語論とは何を論じるか」(p.3～7)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。	事後学修 今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書3～7頁を読んでおくこと。
4 回	授業内容 テキストの分析方法② 物語の構造を支える「型」と「機能」（物語の筋に直接影響を及ぼす作中人物の行為）などについて講義します。	事前学修 教科書「第一章「物語の形態学」(p16～39)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。	事後学修 今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p16～39を読んでおくこと。
5 回	授業内容 テキストの分析方法③ 「物語内容（何を語っているか）」と「物語言説（いかに語っているか）」の問題などについて講義します。	事前学修 教科書「第二章 物語に流れる「時間」(p40～69)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。	事後学修 今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p40～69を読んでおくこと。
6 回	授業内容 テキストの分析方法④ 「語り手」と「（語りの）視点」の問題などについて講義します。	事前学修 教科書「第三章 視点と語り手」(p80～113)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。	事後学修 今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p80～113を読んでおくこと。
7 回	授業内容 テキストの分析方法⑤ 「語り手」と「語りの人称（一人称語り・三人称語りなど）」との関係などについて講義します。	事前学修 教科書「第四章 日本語の言語習慣」(p114～127)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。	事後学修 今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p114～127を読んでおくこと。
8 回	授業内容 テキストの分析方法⑥ 「作者」と「語り手」との関係などについて講義します。	事前学修 教科書「第五章 ノンフィクションは「物語」か」(p128～138)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。	事後学修 今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p128～138を読んでおくこと。
9 回	授業内容 テキストの分析方法⑦ 「読者」や「引用」、およびテキスト論の問題点などについて講義します。	事前学修 教科書「第六章 物語論への批判」(p139～148)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。	事後学修 今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p139～148を読んでおくこと。
10 回	授業内容 テキストの分析方法⑧ 「ジャンル」と物語の構造との関係や、「文学研究」の対象などについて講義します。	事前学修 教科書「第七章 「おもしろい展開」の法則」(p150～180)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。	事後学修 今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p150～180を読んでおくこと。
11 回	授業内容 テキストの分析方法⑨ 語りの視点の移動（没入する視点・後退する視点）や、語りの速度（省略された語り・詳細な語り）などについて講義します。	事前学修 教科書「第八章 叙述のスピードと文体」(p181～212)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。	事後学修 今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p181～212を読んでおくこと。
12 回	授業内容 テキストの分析方法⑩ 語りの文章形式（地の文・会話文・心内文）や話法（直接話法・間接話法）の問題などについて講義します。	事前学修 教科書「第九章 登場人物の内と外」(p213～230)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。	事後学修 今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p213～230を読んでおくこと。
13 回	授業内容 テキストの分析方法⑪ テキストとコンテキスト（成立事情・社会背景）との関係などについて講義します。	事前学修 教科書「第十章 さまざまな語りの構造」(p231～246)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。	事後学修 今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p231～246を読んでおくこと。
14 回	授業内容 テキストの分析方法⑫ 「文学史」のテキスト解釈への影響の問題（「正典化」など）などについて講義します。	事前学修 教科書「第十一章 「物語」のこれから」(p247～260)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。	事後学修 今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p247～262を読んでおくこと。
15 回	授業内容 テキスト読解とは（講義内容の総括） 授業内試験 第1～14回講義の内容を総括した後に、授業内試験を実施します。なお、試験の詳細については、初回授業の際に連絡します。	事前学修 教科書「おわりに 人間だけが物語る」(p261～262)および全体を改めて読み、参考書も適宜、確認しておくこと。	事後学修 第1回～15回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書全体を読んでおくこと。

◆**教科書** 丸沼『物語論 基礎と応用』橋本陽介〔著〕講談社選書メチエ 2017年
〔当日資料配布〕補足プリント（研究の手続、テキストの分析方法、テキスト本文など）

◆**参考書** 丸沼『物語のレッスン—読むための準備体操』土方洋一〔著〕青簡舎 2010年
丸沼『日本文学の論じ方—体系的研究法』鈴木貞美〔著〕世界思想社 2014年
丸沼『学びのエクササイズ—文学理論』西田谷洋〔著〕ひつじ書房 2014年
丸沼『テキスト分析入門—小説を分析的に読むための実践ガイド』松本和也〔著〕ひつじ書房 2016年
丸沼『小説はわかってくればおもしろい—文学研究の基本 15講』小平麻衣子〔著〕慶應義塾大学出版会 2019年

◆**成績評価基準** 「簡易レポート（最終日以外）」30%、「授業内試験（最終日）」70%の割合で、総合的に評価します。なお、簡易レポートについては、次回授業の際に返却します。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 H〕

北原 安治

◆**授業概要** 五文型に基づき、英文の構造を把握して初学者でも正しい訳ができるようになる。

◆**学修到達目標** 全体的に英文の構造が理解できるようになり、文の構造に基づいた正しい和訳ができるようになる。五文型の基本理解、自動詞と他動詞の区別、目的語と補語の区別、完了形の理解、仮定法の理解など基本文法が理解できるようになる。

◆**授業方法** 講義の最初に映像教材を使い口語英語や英米中心に文化について学ぶ。テキストについては本文のみやり練習問題はやらない。板書事項を少なくして学生にあてて読みと訳をやらせる。ノート検査は抜き打ちで行うのでかならずノートは書いておく。ノートの書き方は指示するので必ず指示どおりに書く。自己流ノートは不可。教科書への書き込みはノートではない。ルーズリーフでもよいが必ず書いたものすべてを毎回持ってくる。単語を調べてくること。電子辞書でもよいので辞書を持ってくる。教科書は必ず購入して毎回持ってくる。最終日の試験は辞書やノートの持ち込み不可。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容：講義の進め方の説明。映像資料。第3章の英文構造と和訳。 事前学修：英文をノートに書き写す（8行ほど）。単語を調べて自分なりの和訳をする。 事後学修：予習段階の和訳と講義の和訳を比べてどこが間違ったか確認する。
2 回	授業内容：映像資料。第3章の英文構造と和訳。5文型の確認。 事前学修：英文をノートに書き写す。和訳をする。5文型の予習。 事後学修：和訳を比べてどこが間違ったか確認する。5文型の復習。
3 回	授業内容：映像資料。第3章の英文構造と和訳。文の種類の確認。 事前学修：英文をノートに書き写す。和訳をする。文の種類の予習。 事後学修：和訳を比べてどこが間違ったか確認する。文の種類の復習。
4 回	授業内容：映像資料。第3章の英文構造と和訳。句と節の確認。 事前学修：英文をノートに書き写す。和訳をする。句と節の予習。 事後学修：和訳を比べてどこが間違ったか確認する。句と節の復習。
5 回	授業内容：映像資料。第3章の英文構造と和訳。動詞の種類の確認。 事前学修：英文をノートに書き写す。和訳をする。動詞の種類の予習。 事後学修：和訳を比べてどこが間違ったか確認する。動詞の種類の復習。
6 回	授業内容：映像資料。第3章の英文構造と和訳。目的語と補語の確認。 事前学修：英文をノートに書き写す。和訳をする。目的語と補語の予習。 事後学修：和訳を比べてどこが間違ったか確認する。目的語と補語の復習。
7 回	授業内容：映像資料。第3章の英文構造と和訳。群動詞の確認。 事前学修：英文をノートに書き写す。和訳をする。群動詞の予習。 事後学修：和訳を比べてどこが間違ったか確認する。群動詞の復習。
8 回	授業内容：映像資料。第3章の英文構造と和訳。前置詞の確認。 事前学修：英文をノートに書き写す。和訳をする。前置詞の予習。 事後学修：和訳を比べてどこが間違ったか確認する。前置詞の復習。
9 回	授業内容：映像資料。第3章の英文構造と和訳。二重前置詞の確認。 事前学修：英文をノートに書き写す。和訳をする。二重前置詞の予習。 事後学修：和訳を比べてどこが間違ったか確認する。二重前置詞の復習。
10 回	授業内容：映像資料。第3章の英文構造と和訳。関係代名詞の確認。 事前学修：英文をノートに書き写す。和訳をする。関係代名詞の予習。 事後学修：和訳を比べてどこが間違ったか確認する。関係代名詞の復習。
11 回	授業内容：映像資料。第3章の英文構造と和訳。前置詞＋関係代名詞の確認。 事前学修：英文をノートに書き写す。和訳をする。前置詞＋関係代名詞の予習。 事後学修：和訳を比べてどこが間違ったか確認する。前置詞＋関係代名詞の復習。
12 回	授業内容：映像資料。第3章の英文構造と和訳。複合関係代名詞の確認。 事前学修：英文をノートに書き写す。和訳をする。複合関係代名詞の予習。 事後学修：和訳を比べてどこが間違ったか確認する。複合関係代名詞の復習。
13 回	授業内容：映像資料。第3章の英文構造と和訳。関係副詞の確認。 事前学修：英文をノートに書き写す。和訳をする。関係副詞の予習。 事後学修：和訳を比べてどこが間違ったか確認する。関係副詞の復習。
14 回	授業内容：映像資料。第3章の英文構造と和訳。関係詞の確認。 事前学修：英文をノートに書き写す。和訳をする。関係詞の予習。 事後学修：和訳を比べてどこが間違ったか確認する。関係詞の復習。
15 回	授業内容：持ち込み不可の試験および解説 事前学修：学習した範囲の単語を覚えて、和訳ができるようにする。 事後学修：学んだ文法事項を参考書などで再確認する。

◆**教科書** 丸沼『Major Countries in the World ～世界の主要国～』小泉和弘編 鳳書房

◆**参考書** 丸沼『ロイヤル英文法』綿貫陽 旺文社 2000年
この本は講義では使わない。辞書は使い慣れたものでよいので毎回持ってくる。電子辞書でもよい。

◆**成績評価基準** 最終試験、小テストなどの総合評価。皆出席を望むが、夜間の場合突然の仕事が入る社会人の学生がいるので相談に応じる。出席点とノート点は加点しない。出席してノートを取るのだからである。抜き打ちの実力テストを行う場合がある。ノート検査をして不備の者は不合格。テキストを買っていないものも不可とする。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

4 東
月 京
期

5 東
月 京
期

6 東
月 京
期

6 東
月 京
期

5 札
月 幌
期

5 福
月 岡
期

7 名
月 古
期 屋

7 大
月 阪
期

月 夜
曜 間
日

火 夜
曜 間
日

水 夜
曜 間
日

木 夜
曜 間
日

金 夜
曜 間
日

付
録

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔現代教職論〕 オープン受講：不可

古賀 徹

◆**授業概要** 「理想とする教師像」とはどのようなものか。本授業では、教職の意義、教員の資質、および教員の役割、教員の職務内容等に関する理解を深めることをねらいとしている。特に現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考えていくことにより、受講者が教職への意識を高めていくようにしていきたい。

◆**学修到達目標** 次の事項について理解を深め、教員としての意識を高めることができる。さらに教育者としての責務を認識し、ふさわしい行動をとることができるようになる。①教職の意義とは何か。②教員に必要とされる資質・能力とは何か。③学校教育という独特の社会における意義や教員の同僚性について。④教員の職務や身分上の問題について。⑤生徒の成長・発達差の理解。【以上を、歴史的、国際的、および現代の課題という点から作成した教材により考え、理解を深める】学修者は、以上の学びにより教員に必要とされる資質・技能が何であるかを考え深め、それを自身の課題としてとらえ、他者に説明することができるようになる。

◆**授業方法** 講義形式を中心とするが、アクティブ・ラーニング型の授業方式もとり入れる。アクティブ・ラーニング形式は、個人の活動からペア学習、3人組み、4人組みと、授業回数毎に複雑さを増すようにし、取り扱う課題についても具体的で簡易なものから複雑で抽象的なものへと組み替えていく。それにより「教員集団としての考え方」という最終目標に近づいていけるように講義全体をデザインしていく。活動・学習ごとにワークシート（ミニレポート）を書くこととそのフィードバック（次の回）により、さらに学習効果があがるよう試みる。事後学修では説明文を中心に人前で話すための文章作成に取り組んでもらう。その説明文をもとに最終回で仮想集団面接のような発信の機会をつくる。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 教職を履修する意味（学習指導・生活指導）。 事前学修 自身が目指す「教職」についてのイメージを手元に「複数」書き出しておくこと。 事後学修 「学校の存在意義」（教科指導・生活指導）について説明文を（短い論述で）まとめる。
2回	授業内容 教育における「他者理解能力」とは何か。 事前学修 「わかる」（理解する）とはどのようなことか。その説明概念を（複数）考えておく。 事後学修 学校でのコミュニケーションの意味や意義について（短い論述で）まとめる。
3回	授業内容 教員の一日の流れ。教員の成長を研修の記録から学ぶ。 事前学修 教員と生徒との関係性に関するイメージを手元に「複数」書き出しておく。 事後学修 生徒の成長に介在する教員の役割の重要性について、説明文を書く。
4回	授業内容 理想の教師に関するディスカッション。 事前学修 教員に必要な資質と能力について「複数」書き出しておく。 事後学修 他者の意見交換から学べたこととアクティブ・ラーニングの学習効果についてまとめる。
5回	授業内容 チーム学校（アクティブ・ラーニング形式の学習方法）。 事前学修 チーム学校に関する文部大臣の文書等（資料）を読み、必要とされる理由を理解する。 事後学修 学校という多様な教員と多様な生徒の集団（社会）での活動可能性について考える。
6回	授業内容 最近の子ども事情（青少年の問題行動）。 事前学修 近年における児童生徒の問題行動に関する記事を読み、イメージをまとめておく。 事後学修 青少年と「ストレス」の問題について、短い論述をまとめるトレーニングをする。
7回	授業内容 最近の子ども事情（いじめ問題に注目する）。 事前学修 「いじめ」事件や対応のアクションプラン、法制度について記事を集めて読む。 事後学修 「いじめ」への教員の立ち位置（自身の考え）をスピーチ原稿としてまとめる。
8回	授業内容 最近の子ども事情（不登校児童への対応と理解の方法）。 事前学修 「不登校」に関する記事等を読み、イメージをまとめておく。 事後学修 「不登校」と「いじめ」問題を比較して、学校内外の社会事情も活かした対応を考案する。
9回	授業内容 最近の子ども事情に関する総括的ロールプレイ。 事前学修 グループで検討する前提として、事前に告知する内容について調査を行う。 事後学修 青少年の問題行動に対応する教員の立ち位置について、短い文での表現を工夫する。
10回	授業内容 教師観・教員養成の歴史の変遷（近代以降の教育）。 事前学修 教員養成の歴史に関する文献や概説書を読んでおく。 事後学修 教育発展の歴史について「教員」の視点からまとめる文章を記す。
11回	授業内容 諸外国の教員養成の仕組み。 事前学修 日本以外の国の「教育（学校）」についてイメージをまとめるメモを用意する。 事後学修 欧米の教育との違いや共通点について短い文で論述できるようにする。
12回	授業内容 法令・法制度上における教員。 事前学修 各種文献に載っている複数の「法令」類を一読しておく。 事後学修 教育基本法の改正前後の教育改革の流れについてまとめる文章を書く。
13回	授業内容 現職教員の研修（向上する教員が求められる現代社会）。 事前学修 各種審議会の答申や審議事項を（指定するので）読んでメモを作成する。 事後学修 「教員に求められる資質・能力」の法令分上における変化についてまとめる。
14回	授業内容 教育実習において求められる教員像（教員社会に求められる教員）。 事前学修 各々の教科ごとの授業イメージをメモとしてまとめておく。 事後学修 教育実習での実践事例をもとに「不安と期待」に関する論述をまとめる。
15回	授業内容 教育現場で求められる資質・技能とは何か。 事前学修 これまでの課題を見直し、それぞれ1分間で話せるレベルでの要約を準備する。 事後学修 学修した内容を自身で整理する。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 〔教材〕『現代教職論 T10100』通信教育教材（教材コード000541）

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行わない。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔博物館概論〕 オープン受講：不可

中野 照男

◆**授業概要** 現代の日本の博物館は多くの問題を抱えている。特にこの数年、国立博物館の独立行政法人化、公立博物館の指定管理者制度導入等に見られる通り、その運営の形態が変わりつつある。また存続すら危ぶまれる博物館もある。学芸員採用枠も、実質的には増えていない。この講義では、博物館に関する基本的な知識と能力を習得するとともに、現代の博物館が抱える諸問題に適切に対処するための思考力、発想力を獲得することを目指す。

◆**学修到達目標** 履修者は、学芸員としての基礎的な知識、技術、発想力を習得することができる。また、現代の博物館が抱える問題点について、講師の実際の経験に基づいた具体的な説明を聞くことによって、問題に対処するための発想、思考力を身に付けることができる。

◆**授業方法** 講義形式で行う。講義に必要な画像や映像を適宜上映する。講義資料は、第 1 回目の講義の折に、データの形で渡す。受講生に、適宜、発言を求め、議論への参加を促す。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：ガイダンス ―博物館概論で何を学ぶのか 事前学修：好きな博物館、美術館を訪れ、その展示、設備、広報宣伝手法、教育プログラム等を観察する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
2 回	授業内容：博物館法、博物館法施行規則を読む 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
3 回	授業内容：今日の博物館・美術館が抱える諸問題 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
4 回	授業内容：日本における文化財の保護と活用の歴史 ―文化財保護法の理念 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
5 回	授業内容：ユネスコの世界遺産条約は文化財保護法と何が違うのか 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
6 回	授業内容：博物館の職員とその仕事 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
7 回	授業内容：学芸員はどのような仕事をするのか 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
8 回	授業内容：博物館資料の収集に関わる仕事 ―大英博物館東洋部の資料はどのようにして収集されたのか 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
9 回	授業内容：展示の企画と運営 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
10 回	授業内容：モノの取扱者として、学芸員が心得ておくこと 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
11 回	授業内容：博物館資料を保管・展示する空間の環境設定 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
12 回	授業内容：博物館資料の保存・修理において、学芸員が果たすべき役割 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
13 回	授業内容：博物館における教育活動 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
14 回	授業内容：博物館活動の普及広報 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する
15 回	授業内容：博物館学芸員の研究成果の公開 事前学修：事前に渡された資料の該当部分を確認し、あらかじめ質問を用意する 事後学修：渡された資料に基づき、内容を復習し、ノートを整理する

◆**教科書** 教科書は使用しない。講義資料を初回の講義の折にデータの形で渡すので、USB を持参すること。

◆**参考書** 『現代に生きる博物館』 君塚仁彦・名児耶明編 有斐閣 2012 年 12 月
『美術館で働くということ 東京都現代美術館学芸員秘密日記』 オノユウリ KADOKAWA 2015 年

◆**成績評価基準** 講義の最終回に試験を行う。試験を 70%、講義への参加・貢献度を 30%として、総合的に評価する。試験は、回答が明解な論理をもっているかどうか、参加・貢献度は、講義中に積極的に質疑応答をしたかどうかを主に評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔知的財産権法〕

三村 淳一

- ◆**授業概要** 知的財産権法（特許・実用新案・意匠・商標・著作権）及び関連条約に関する基礎的講義を行う。具体的には、各権利の成立要件やその権利内容を講義する。尚、講義内で実際に特許庁のデータベースを利用し、各種検索を行ったり、特許庁へ出願する書類の作成も行う予定である。
- ◆**学修到達目標** 知的財産権は、企業の運命を左右する重要な財産である。本講義は、知的財産権の中でも中核をなす特許法・実用新案法を中心に、概要及び制度を理解することを目的とし、また意匠法・商標法・著作権法・関連条約についても基礎的な知識の習得を行うことを目的とする。さらに、知的財産権を巡り、どのような争いがなされているのかを理解する。
- ◆**授業方法** 講義形式による授業を行う。講義では、各法毎に、法目的などの基本的な解説から始め、さらに、PPT を用いることにより視覚を通じて法律の理解を深めるような工夫をしている。一方で、扱手法が多岐に渡るため、事前の学習準備は必須である。授業では条文を参照することが多いので、工業所有権法令集（アプリでも可）を持参すること。
- ◆**履修条件** 知財を勉強したい気持ちがあれば、その他の条件はありません。尚、過去の受講者は、再度受講は不可。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容	知的財産権法の概要
	事前学修	参考書 P 1-36 を事前に読んでおく。知的財産権にはどのような法律があるのかを理解する。
2 回	事後学修	今まで自己が考えてきた無体財産はどのような法律で守られているのか認識する。また、知財の現状を理解し、今後、日本はどのような方向に進むべきか考える。尚、以下、特に重要な部分については特記しているが、基本的には、教科書にて対応する講義主題を確認する。
	授業内容	特許法(1)：特許法の目的及び特許権成立までの概略
3 回	事前学修	参考書 P41-42 を事前に読んでおく。なぜ特許法が制定されたのかを理解する。特許法が無かった場合の世界を想像する。参考書 P86-89 を事前に読んでおく。特許成立までの流れの概略を理解する。
	事後学修	特許法 1 条の各用語の意味を再確認する。特許成立までの流れにおいて、各段階での手続きの内容を教科書で確認する。
4 回	授業内容	特許法(2)：特許要件（発明性、産業上の利用可能性）
	事前学修	参考書 P43-45、66 を事前に読んでおく。一般的に使用されている「発明」と特許法で規定する「発明」の意味の相違を理解する。特許成立に必要である「産業上の利用性」を理解する。
5 回	事後学修	授業内で、特定分野において、特許庁に出願されているアイデアが、法上の発明にあたるか否かをレポートする宿題を実施する。
	授業内容	特許法(3)：特許要件（新規性、進歩性）
6 回	事前学修	参考書 P67-69 を事前に読んでおく。新規であるかどうかという状況を理解する。また、新しい発明をしても、従来のものから容易に発明できるものは特許とはならないという進歩性の判断基準を理解する。
	事後学修	新しさの時間的・地域的基準や公然の意味など、教科書で確認する。
7 回	授業内容	特許法(4)：新規性喪失の例外及び不特許事由
	事前学修	参考書 P68 を事前に読んでおく。新規ではない状態となっても一定条件のもと、新規性を失わない場合はどのような場合であるか、理解しておく。
8 回	事後学修	参考書 P71 を事前に読んでおく。上記の要件を満足しても、特許化すべきではない発明がある。どのような発明が、特許化すべきではないのか、またその理由は何であるか、学習しておく。
	授業内容	特許法(5)：先願主義と拡大された先願の地位
9 回	事前学修	参考書 P70 を事前に読んでおく。先願主義とは何かを理解する。同一の発明が同日に時間を異にして出願された場合の取り扱いが、異日出願お場合と異なる点を十分に理解しておく。
	事後学修	同ページのコラム内の説明も事前に読んでおく。特に、「拡大された先願の地位」は、理解が難しい規定であるため、繰り返し読み、規定の内容を理解する。
10 回	事後学修	先願主義と先発明主義に比べ、日本が採用する先願主義には、どのような利点があるか考える。また、先発明主義を採用していた国の制度を教科書で確認する。
	授業内容	特許法(6)：出願公開制度と補償金請求権
11 回	事前学修	参考書 P93 を事前に読んでおく。出願公開の要件及び補償金請求権の要件及び内容を理解する。
	事後学修	教科書にて講義内容を確認する。
12 回	授業内容	特許法(7)：特許権の効力と効力が及ばない範囲
	事前学修	参考書 P92、169 を事前に読んでおく。特に特許権者はどのようなことを独占排他的に行えるのかを理解する。特許法 69 条（効力制限）、間接侵害規定（101 条）を事前に読んでおく。どのような規定であるか、理解しておく。
13 回	事後学修	特に、「消尽説を教科書を利用して理解する。」「グアニジン/安息香酸誘導体 III 上告審」平成 10（受）153 を読み、69 条 1 項の理解を深める。
	授業内容	特許法(8)：職務発明
14 回	事前学修	参考書 P83 を事前に読んでおく。現行法下での権利の原始的帰属や使用者の権利を理解する。
	事後学修	旧法との比較を行い、改正点を整理するとともに、改正法の課題を考える。
15 回	授業内容	実用新案法：権利取得までの概略、技術評価書、特許法との相違
	事前学修	参考書 P98-101 を事前に読んでおく。特に、権利行使に必要である技術評価書はどのようなものであるか理解する。
16 回	事後学修	教科書を利用して、特許制度との相違を理解する。
	授業内容	条約：パリ条約と特許協力条約
17 回	事前学修	参考書 P94-102 を事前に読んでおく。外国で特許を取得する意義、取得方法について理解する。
	事後学修	教科書にて講義内容を確認する。
18 回	授業内容	意匠法：概要、登録要件、特殊な意匠
	事前学修	参考書 P103-124 を事前に読んでおく。意匠法の保護対象、取得要件、意匠権の効力などを理解しておく。
19 回	事後学修	教科書にて講義内容を確認する。
	授業内容	商標法：概要、登録制度、マドリッドプロトコル
20 回	事前学修	参考書 P125-153 を事前に読んでおく。商標法の保護対象、取得要件、商標権の効力などを理解しておく。
	事後学修	教科書にて講義内容を確認する。
21 回	授業内容	著作権法：概要、著作権、著作権の制限、著作隣接権、二次的著作物
	事前学修	参考書 P174-185 を事前に読んでおく。著作権の種類、支分権を理解した上で、著作権が及ばない範囲を理解する。また、著作隣接権の内容についても、理解する。
22 回	事後学修	教科書にて講義内容を確認する。特に著作権に関しては、新聞等で取り上げることが多いので、その様な記事に触れた際は、法的な観点から記事を読んでもらう。
	授業内容	知的財産権の活用：ライセンス、訴訟
23 回	事前学修	参考書 P154-173 を事前に読んでおく。特許権の行使の手法について理解する。
	事後学修	講義資料を読んで、授業内容を確認する。

- ◆**教科書** 丸沼『知的財産法入門第二版』茶園成樹 有斐閣
- ◆**参考書** 丸沼『特許判例百選 第五版』有斐閣
- ◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提に、試験（70%）、レポート（20%）授業への参加や貢献による平常点（10%）により行う。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【英文法 B】

小澤 賢司

◆**授業概要** 無味乾燥な暗記から脱却し、「使える英文法」の修得を目指します。

◆**学修到達目標** 本授業では、以下の点を目標にします。

- ① これまで学習してきた（暗記してきたであろう）英文法項目のいくつかに焦点を当て、その動きと有機的な関連性を適切に理解し、活用することができる。
- ② 「英文学（英語学）」を専攻するものとして知っておかなければならない英文法の知識・素養を身につけ、それらをわかりやすい言葉で説明することができる。

◆**授業方法** 本授業は、最終回を除いて、講義と演習の2つのパートから構成されます。講義パートでは導入および理解を主として行い、演習パートではそれを実際使用する（練習する）ことを主として行います。8日間のスクーリングですので、全15回の「授業計画」は1日約2回分進むとお考えください。ただし、受講者の様子（理解度）を見ながら授業を進めていきますので、「授業計画」はあくまで「目安」とお考えください。

◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：品詞と文法、4大品詞 事前学修：本授業のシラバスを熟読しておくこと 事後学修：「品詞と文法」、「4大品詞」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
2回	授業内容：相当語句、語・句・節 事前学修：第1回で学修した内容を復習しておくこと 事後学修：「相当語句」、「語・句・節」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
3回	授業内容：不定詞（名詞的用法） 事前学修：第2回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修：「不定詞（名詞的用法）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
4回	授業内容：不定詞（形容詞的用法） 事前学修：第3回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修：「不定詞（形容詞的用法）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
5回	授業内容：不定詞（副詞的用法） 事前学修：第4回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修：「不定詞（副詞的用法）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
6回	授業内容：分詞（形容詞的用法） 事前学修：第5回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修：「分詞（形容詞的用法）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
7回	授業内容：分詞（副詞的用法〈分詞構文〉） 事前学修：第6回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修：「分詞（副詞的用法〈分詞構文〉）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
8回	授業内容：動名詞 事前学修：第7回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修：「動名詞」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
9回	授業内容：主語・述語・目的語・補語 事前学修：第8回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修：「主語・述語・目的語・補語」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
10回	授業内容：自動詞 事前学修：第9回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修：「自動詞」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
11回	授業内容：他動詞 事前学修：第10回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修：「他動詞」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
12回	授業内容：進行形（現在形との違い） 事前学修：第11回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修：「進行形（現在形との違い）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
13回	授業内容：進行形（未来表現として） 事前学修：第12回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修：「進行形（未来表現として）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
14回	授業内容：これまでの復習（予備日） 事前学修：第13回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修：知識に漏れのある学修項目を確認しておくこと
15回	授業内容：試験およびまとめ 事前学修：第14回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修：本授業で学んだ文法を日々使ってみること

◆**教科書** 【当日資料配布】プリントを配布します。

◆**参考書** 丸沼『英文法解説』江川泰一郎 第三版 金子書房 1991年

丸沼『英文法ビフォー&アフター（普及版）』豊永彰 南雲堂 2009年

◆**成績評価基準** 試験（80%）、授業参画度（20%）

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔民法Ⅱ〕

根本 晋一

- ◆**授業概要** 物権法総論、占有権、所有権、用益物権（地上権、永小作権、地役権、入会権）、法定担保物権（留置権、先取特権）、約定担保物権（質権、抵当権）、非典型担保、のうち、用益物権あたりまでを学修する。
- ◆**学修到達目標** 民法学における物権法の位置づけ、物権と債権の異同、物権に関する主要な論点を理解する。併せて、授業概要の箇所で示した専門用語を、具体例を用いて説明できるようになる。
- ◆**授業方法** 講義形式を採用する。法改正や新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。
- ◆**履修条件** 根本の民法Ⅱ（後半）と、根本以外の民法Ⅱとの積み重ね可
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回	授業内容 GD、【物権法総論】物権の意義、直接支配性、排他性など 事前学修 必要なし 事後学修 その日のうちの板書事項の読み込み
2 回	授業内容 物権の債権に対する優先的効力（売買は賃貸借を破る）、物権的請求権、対抗力など 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認
3 回	授業内容 物権と債権の異同、物権法定主義と契約自由の原則など 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認
4 回	授業内容 物権変動、意思表示に基づく物権変動、意思表示に基づかない物権変動など 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認
5 回	授業内容 物権変動意思主義の原則、形式主義との違いなど 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認
6 回	授業内容 物権変動公示の原則、公信の原則、動産物権変動と不動産物権変動など 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認
7 回	授業内容 不動産物権変動と登記、登記を必要とする物権変動など 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認
8 回	授業内容 民法第 177 条における「第三者」の意義、実体的無権利者、背信的悪意者、不法行為者を含むのか？ 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認
9 回	授業内容 動産物権変動と占有（引渡し）、即時取得とその例外、【占有権】など 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認
10 回	授業内容 【所有権】所有権絶対の原則、完全物権と制限物権、相隣関係、所有権の効力など 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認
11 回	授業内容 所有権の取得原因、原始取得と承継取得、国庫帰属、無主物先占、遺失物拾得、遺失物法、埋蔵物発見など 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認
12 回	授業内容 添付、附合、混和、加工、その効果など 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認
13 回	授業内容 共有、狭義の共有、合有、総有、共有物の保存、管理、変更、準共有、建物区分所有法など 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認
14 回	授業内容 【用益物権】地上権、借地借家法との関係など 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認
15 回	授業内容 地役権、永小作権、入会権、民法Ⅱ（前半）の補遺とおさらいなど 事前学修 その日のうちの板書事項の読み込み 事後学修 前回授業時の板書事項の再確認

- ◆**教科書** 指定しない
- ◆**参考書** 『民法Ⅱ K30100』 通信教育教材（教材コード 000408）
- ◆**成績評価基準** 全回出席を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度や質疑応答 20%。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 開講講座表及び講座内容（シラバス）

夜 間 金曜日	時間	18:30～21:25							
	授業日	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目 <試験を含む>
		5/15	5/22	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26	7/3

※以下の金曜日開講の講座から1講座を選択してください。

講座 コード	開講講座名	担当講師名	単開 位 数 講	充 当 科 目		併 用	制 限 ・ 注 意		受 オ ー プ ン 講
				科 目 コ ー ド	科 目 名		配 当 学 年	受 講 条 件	
B1E1	西洋史概説/ 西洋史概論	荒木 洋育	2	K32400	西洋史概論		2年	・法学部のみ申込可。	
				Q30400	西洋史概説			・文理/経済/商学部のみ申込可。	
B1E2	道徳教育の 理論と方法/ 道徳教育の研究	李 吉魯	2	T21300	道徳教育の 理論と方法	×	2年	・スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	×
				T21400	道徳教育の研究	×			
B1E3	日本経済史	飯島 正義	2	R30500	日本経済史		2年		
B1E4	英 語 J	常名 朗央	1	C10100	英 語 I		1年	・I～IVのいずれに該当させる のか充当科目コードを必ず 記入してください。	×
				C10200	英 語 II				
				C10300	英 語 III		2年		
				C10400	英 語 IV				
B1E5	英語学演習D	田中 竹史	1	N401S0	英語学演習I	×	3年	・文学専攻（英文学）のみ申 込可。 ・I～IIIのいずれに該当させ るのか充当科目コードを必ず 記入してください。	
				N402S0	英語学演習II				
				N403S0	英語学演習III				
B1E6	交 通 論	針谷 莊司	2	S30700	交 通 論		2年		
B1E7	教育原論/ 教育の思想B	渡辺 典子	2	T10200	教 育 原 論	×	2年	・スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です。	
				T10300	教 育 の 思 想	×			

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔西洋史概説 / 西洋史概論〕

荒木 洋育

◆**授業概要** 「西洋」地域は、現在の政治・経済の「世界標準」のほとんどの起源を持ち、同時に現在世界で最も激動の時代を迎えつつある地域でもある。この地域の歴史に関しては、中等教育の「世界史」の枠組みの中ではしばしば把握が分節的となり、かつ現代史が手薄となりがちであるが、実際には総合的な理解、また 21 世紀の現在に至る把握が求められるであろう。本講義はこの問題意識に基づき、西洋地域の歴史を一通り概観する。

◆**学修到達目標** 現代（21 世紀前半）に至る西洋（ヨーロッパに加えアメリカ等の地域も含む）の歴史の全体像を捉えることにより、自身が関心を持つ個別の地域・時代についてもより大きな視野からの理解を深めることができる。また学問として「西洋史」を研究する際に、出発点として最低限必要となる程度の基本的知識を、授業を通じ一通り身につけることができる。

◆**授業方法** 下記のように時代区分を設定し、各回の中で更に細かく時期を区分して西洋諸地域の歴史を全体論、各地域の動向の二つの面から概観する。毎回配布するプリントに基づいて授業を行うが、双方向的な授業を求める立場から、受講者の方々とコミュニケーションをとる時間を毎回設定するので、受講者の方々には能動的な受講姿勢を求めたい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容 ガイダンス：西洋世界の成立 全体の授業の流れを一通り説明し、続いて古代から中世にかけての流れを簡単に概観する。
	事前学修 参考書の「古代」該当箇所を読んでおくこと。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
2 回	授業内容 西洋世界の再編成：封建社会と諸地域の形成 フランク王国の解体から封建社会の形成、教皇・皇帝を軸とした秩序の形成までの経過をまとめる。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
3 回	授業内容 中世盛期の西洋世界：英独仏の発展 「中世盛期」とされる 13 世紀西洋世界について、英仏の「集権化」と独の「分権化」を軸に説明する。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
4 回	授業内容 中世末期の展開：「百年戦争」と黒死病の流行 「中世末の変動・危機」について、英仏抗争、中欧の隆盛、人口減と社会変化を中心に説明する。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
5 回	授業内容 ルネサンスの隆盛と宗教改革の開始 大航海時代の開始とルネサンス、およびそれに連なる「宗教改革」について説明する。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
6 回	授業内容 大航海時代と宗教戦争 「スペインの時代」を「西洋世界の拡大」と「新旧両宗派の抗争」の二つの側面から説明する。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
7 回	授業内容 17 世紀の西洋地域：三十年戦争と英国市民革命 ウェストファリア条約（1648 年）による「主権国家体制」の成立、英国市民革命について説明する。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
8 回	授業内容 絶対王政と啓蒙思想の時代 英仏植民地抗争と「新興列強」プロイセン、ロシアの発展を軸に「ロココの時代」を説明する。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
9 回	授業内容 西洋近代の始まり：大西洋二重革命 アメリカ独立戦争、産業革命、フランス革命からナポレオン体制への流れについて説明する。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
10 回	授業内容 工業化の開始とウィーン体制 産業革命、資本主義とそれによる社会変化を、列強の協調体制＝ウィーン体制とあわせて説明する。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
11 回	授業内容 市民革命と民族主義の時代：1848 年の革命と独伊の成立 「1848 年の革命」から国民国家が一通り出そろった 1870 年ごろまでの流れを説明する。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
12 回	授業内容 西洋の全盛期：ベル・エポックと帝国主義 「ベル・エポック」（1870～1914 年）について、帝国主義、米国の発展、第二次産業革命とあわせて説明する。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
13 回	授業内容 第一次世界大戦：「ヴェルサイユ体制」と「米国の時代」の始まり 第一次世界大戦について、「ヴェルサイユ体制」「超大国アメリカの出現」「ロシア革命」を軸に説明する。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
14 回	授業内容 第二次世界大戦と冷戦体制：自由主義と全体主義 第二次世界大戦への流れと「西洋主導の世界」の最終形＝冷戦体制の盛衰をまとめる。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習し、予習作業として指定した語句について検索・調査すること。
15 回	授業内容 現代の西洋世界：競合と変容、情報革命 冷戦後、現在（2020 年）までの西洋世界の流れをとらえ、今後の見通しについても触れる。
	事前学修 参考書のあらかじめ指定した箇所について読む、また担当する場合には口頭発表の準備をすること。
	事後学修 配布教材の内容を復習しておくこと。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕

◆**参考書** 丸沼『西洋世界の歴史』近藤和彦編 山川出版社 1999 年
丸沼『悪の歴史 西洋編（下）』堀越孝一編 清水書院 2018 年

◆**成績評価基準** 平常点（50%）、試験（50%）。平常点については 2 / 3 以上の出席を前提とし、口頭発表、小レポート（1 回）を対象として評価を行う。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔道德教育の理論と方法 / 道德教育の研究〕 オープン受講：不可

李 吉魯

◆**授業概要** この授業では、道德の意義や原理などを踏まえ、学校における道德教育の目標や内容を理解する。また、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育及びその要となる道德科における指導計画や指導方法などを幅広く理解する。さらに、授業中に配布する資料や各種のデータ・映像などを用いて教育の問題に対する理解を深めるとともに、受講生どうしの「話し合い」を通じて、多様な考え方を共有する場としたい。

◆**学習到達目標** 1. 道德及び道德教育、道德性、道德科の指導、評価等の意義を理解し、学校教育の中でこれらが、どのように位置づけられているのかを説明できる。
2. 学習指導要領に基づいて道德に関する諸概念の検討、道德教育の歴史的背景、道德教育の指導計画など、道德の授業実践に役立つ基本的な事項について知り、説明することができる。
3. 学習指導案の作成を通して、教師としての求められる資質・能力を養うことができる。

◆**授業方法** 授業方法は講義形式による説明と、模擬授業・グループワークで行う。模擬授業は 30 分程度で全員必ず行う。また授業時に作成したリアクションペーパーを含め、課題やレポートについてはフィードバックを行う。そのため、受講生には積極的な意見や考えなどを求める。受講者は教職への強い志をもって受講してほしい。

◆**授業計画（各 90 分）**

1 回	授業内容 事前学修 事後学修	ガイダンス（授業の進め方・道德や道德教育とは何か） まずは、授業の進め方を説明する。次に、道德や道德教育とは何かを整理し、学校における道德教育の重要性について理解を深める。 シラバスをよく読んでおくこと。 授業の復習。配布資料を読んで、道德教育の目標と内容を理解しておくこと。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	道德教育の必要性 教育の役割を踏まえて、道德性とは何か、人間が道德性の涵養によって何ができるか、どう生きるべきかを考える。 道德と学校教育との関係について把握しておくこと。 授業の復習。道德性と人間発達との関連性について整理しておくこと。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	道德性の発達理論 ピアジェ (Piaget, Jean 1896 - 1980) やコールバーグ (Kohlberg, Lawrence 1927-1987) などの 道德性発達理論について検討する。 道德性の発達理論について、その意義と内容を把握しておくこと。 授業の復習。コールバーグと日本の道德教育との関係について整理しておくこと。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	道德教育の指導計画と実践 教育基本法と学校教育法に基づく道德教育の役割を説明するとともに、道德教育の全体計画と年間指導計画等を理解する。 教育基本法と学校教育法の内容を把握しておくこと。 授業の復習。学校教育における道德教育の意義及び位置づけについて整理しておくこと。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	戦前の道德教育 教育道德教育を担った「修身」が天皇制国家主義にもとづいた戦前の教育を根底から支えるに至った過程について検討する。 特設された「道德の時間」の内容を把握しておくこと。 授業の復習。天皇制公教育と修身との関係について理解しておくこと。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	戦後の道德教育 「道德の時間」が特設された経緯や、道德教育を積極的に推進することをめぐる見解の対立等について検討する。 学習指導要領の変遷と道德教育の位置づけについて把握しておくこと。 授業の復習。道德教育の改革と「道德の時間」の設置との関連について整理しておくこと。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	「道德の時間」から「特別の教科 道德」へ 最近、道德教育は日本国憲法や教育基本法の理念に基づく新しいあり方が模索され、「道德の時間」から「特別の教科 道德」へと変更された。ここでは、その背景と経緯、そして内容について検討する。 道德教育と関連する学習指導要領の改正点について把握しておくこと。 授業の復習。「特別の教科 道德」の教育観について整理しておくこと。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	道德科の学習指導案づくり① 学習指導案の構成と作成、その留意事項などを理解する。 道德科の学習指導案の作成にあたり、参考資料等をよく読んで確認しておくこと。 授業の復習。道德科の学習指導案作成にあたって、その基本的な枠組みと要点を整理しておくこと。
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	道德科の学習指導案づくり② 道德科とは何をやる時間なのか、作成された学習指導案の見直し、指導方法の問題点などを理解する。 道德科の指導方法と改善点について把握しておくこと。 授業の復習。道德科と他の教育活動との関連について把握しておくこと。
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	道德科の評価のための具体的な工夫 ①道德科における評価の意義と基本的な考え方（数値による評価ではなく、記述式であること等）、②評価の方法（ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価、エピソード評価等）。 道德授業改善の方向性について、一部改正の学習指導要領及び解説における評価の内容を確認しておくこと。 授業の復習。学校教育における道德科の位置づけについて整理しておくこと。
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	道德教育の実践① 模擬授業と検討会（グループによる発表及び質疑応答） どうしたら良い授業ができるか、をお互いに情報交換をしておくこと。 授業の復習。模擬授業の感想及び評価
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	道德教育の実践② 模擬授業と検討会（グループによる発表及び質疑応答） 前回の模擬授業の内容を確認し、学習指導案に目を通しておくこと。 授業の復習。模擬授業の感想及び評価
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	道德教育の実践③ 模擬授業と検討会（グループによる発表及び質疑応答） 前回の模擬授業の内容を確認し、学習指導案に目を通しておくこと。 授業の復習。模擬授業の感想及び評価
14 回	授業内容 事前学修 事後学修	授業のまとめ 本場に「道德に答えはない」のか、教師はどのように道德教育をすべきか。これまでの学習内容を確認し、道德科の評価のあり方等を含む道德教育の具体的な授業改善の方向性について総括する。 配布資料や参考資料などを熟読し、該当する内容を事前に整理しておくこと。 授業の復習。要点項目として配布された資料などを、再確認し授業内容を整理しておくこと。
15 回	授業内容 事前学修 事後学修	試験及び解説 前回の授業内で指摘した、教師はどのように道德教育をすべきかを考えておくこと。 授業（試験を含む）を通して、その内容を十分理解しているかどうかを再確認すること。

◆**教科書** 〔汎用〕『小学校学習指導要領解説 道德編』文部科学省 東洋館出版 2008 年

〔汎用〕『中学校学習指導要領解説 道德編』文部科学省 日本文教出版 2008 年

〔汎用〕『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「特別の教科 道德編」』文部科学省 教育出版 2017 年

◆**参考書** 〔汎用〕『道德教育の理論と方法 / 道德教育の研究 T21300 / T21400』通信教育教材（教材コード 000543）

〈この教材は市販の『道德教育の理論と方法』羽田積男・関川悦雄編 弘文堂 2016 年〉と同様。

〔汎用〕『教科化された道德への向き合い方』碓井敏正著 かもがわ出版 2017 年

〔汎用〕『考える道德教育「道德科」の授業づくり』笹田博通・山口匡・相澤伸幸編 福村出版 2018 年

〔汎用〕『私たちの道德 中学校』廣済堂あかつき 2014 年

◆**成績評価基準** 試験（40%）、レポートおよび課題（20%）、模擬授業（20%）、授業への取り組み（20%）により総合的に評価する。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

4 月 東 京 期

5 月 東 京 期

6 月 東 京 期

6 月 東 京 期

5 月 札 幌 期

5 月 福 岡 期

7 月 名 古 屋 期

7 月 大 阪 期

月 夜 間 日 間

火 夜 間 日 間

水 夜 間 日 間

木 夜 間 日 間

金 夜 間 日 間

付 録

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔日本経済史〕

飯島 正義

◆**授業概要** 19世紀後半にイギリスを中心とする資本主義的世界体制が確立し、欧米列強が帝国主義体制へと移行していく時期に日本は資本主義的世界体制の中に組み込まれていった。その結果、日本はどのような経済的影響を受けたのか、また、日本は、そうした状況の中でどのように資本主義経済体制を構築していったのかを学んでいきます。

◆**学修到達目標** 1. 日本が資本主義的世界体制に組み込まれたことで、日本のこれまでの経済・産業がどのような影響を受けたのかを説明することができるようになる。
2. 日本がどのように資本主義経済体制を構築していったのかを説明することができるようになる。

◆**授業方法** 講義形式。授業は、当日配布するプリント資料を中心に進めていきますが、理解を確認するために何回か「確認プリント」を実施する予定です。「確認プリント」を実施した場合は、プリントは翌週返却します。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容：日本経済史を何で学ぶのか、幕藩体制の経済構造の特徴 事前学修：シラバスで全体の授業内容を確認しておく。 事後学修：幕藩体制の経済構造についてまとめておくこと。
2回	授業内容：幕藩体制の経済構造の動揺・変化 事前学修：プリント資料を中心に授業内容の該当する箇所の理解を深めておくこと。 事後学修：幕藩体制の経済構造の変化の要因は何か、また、どのように変化・変質していったのかをまとめておくこと。
3回	授業内容：幕藩体制の経済構造の動揺・変化と幕政・藩政改革 事前学修：プリント資料を中心に授業内容の該当する箇所の理解を深めておくこと。 事後学修：幕藩体制の経済構造の動揺・変化に対して、支配者である幕府、藩がどのように対応したのかをまとめておくこと。
4回	授業内容：開国の経済的影響 事前学修：プリント資料を中心に、教材・参考図書等で授業内容の該当する箇所の理解を深めておくこと。 事後学修：開国の経済的影響についてまとめておくこと。
5回	授業内容：明治初年の日本経済状況 事前学修：プリント資料を中心に、教材・参考図書等で授業内容の該当する箇所の理解を深めておくこと。 事後学修：明治初年の日本経済がどのような状況であったかをまとめておくこと。
6回	授業内容：明治政府の成立と明治憲法体制の構築 事前学修：プリント資料を中心に、教材・参考図書等で授業内容の該当する箇所の理解を深めておくこと。 事後学修：明治憲法体制の形成過程についてまとめておくこと。
7回	授業内容：明治政府による「上からの資本主義化」(1) 地租改正 事前学修：プリント資料を中心に、教材・参考図書等で授業内容の該当する箇所の理解を深めておくこと。 事後学修：資本の本源の蓄積政策の視点から地租改正についてまとめておくこと。
8回	授業内容：明治政府による「上からの資本主義化」(2) 秩禄処分 事前学修：プリント資料を中心に、教材・参考図書等で授業内容の該当する箇所の理解を深めておくこと。 事後学修：資本の本源の蓄積政策の視点から秩禄処分についてまとめておくこと。
9回	授業内容：明治政府による「上からの資本主義化」(3) 殖産興業 事前学修：プリント資料を中心に、教材・参考図書等で授業内容の該当する箇所の理解を深めておくこと。 事後学修：資本の本源の蓄積政策の視点から殖産興業についてまとめておくこと。
10回	授業内容：日本における軍事工業の発展 事前学修：プリント資料を中心に、教材・参考図書等で授業内容の該当する箇所の理解を深めておくこと。 事後学修：日本の軍事工業が発展した背景についてまとめておくこと。
11回	授業内容：日本の産業革命(1) 松方デフレと官業払下げ 事前学修：プリント資料を中心に、教材・参考図書等で授業内容の該当する箇所の理解を深めておくこと。 事後学修：日本の産業革命の展開の背景について整理・まとめておくこと。
12回	授業内容：日本の産業革命(2) 企業勃興 事前学修：プリント資料を中心に、教材・参考図書等で授業内容の該当する箇所の理解を深めておくこと。 事後学修：日本の企業勃興の特徴をまとめておくこと。
13回	授業内容：日清・日露の「戦後経営」と日本経済 事前学修：プリント資料を中心に、教材・参考図書等で授業内容の該当する箇所の理解を深めておくこと。 事後学修：日清・日露の「戦後経営」の内容とそれが日本経済にどのような影響をもたらしたのかをまとめておくこと。
14回	授業内容：確立期日本資本主義の構造的特徴 事前学修：プリント資料を中心に、教材・参考図書等で授業内容の該当する箇所の理解を深めておくこと。 事後学修：確立期日本資本主義の経済構造の特徴を整理しまとめておくこと。
15回	授業内容：総まとめと筆記試験 事前学修：これまでの各内容のポイントをまとめたものを再度確認しておくこと。 事後学修：設題に対して、重要事項を落とさず論理的に記述できたかどうかを確認する。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 授業時にプリント資料を配布します。

◆**参考書** 丸沼『概説日本経済史 近現代 第3版』三和良一著 東京大学出版会 2012年

◆**成績評価基準** 授業内における確認プリントの提出（40%）、試験（60%）

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語 J〕 オープン受講：不可

常名 朗央

◆**授業概要** 正確な英文読解には英文法の理解が不可欠です。本講義では、「品詞」（名詞・形容詞・動詞等）を学んでいきます。文法のベースとなっている品詞の理解を通じて正確な文章読解力を身に付けていただきたいと思います。特に副詞には時間をかけます。そのうえで、英文の雑誌、新聞記事、散文作品等を毎回の講義で読んでいきます。

◆**学修到達目標** 英文法を品詞ごと（名詞・動詞・形容詞・副詞・前置詞・接続詞）に学習し、英作文作成の演習を通じて、英語の運用能力を身につけることを目標とします。外国語学習には、S（主語）とV（動詞）の位置付けが重要です。講義では英文読解と英作文作成を交互に行います。常にSVの運用を意識しながら講義に取り組みようとしてください。

◆**授業方法** 授業前半では、指定した文法・品詞の説明を文章読解を行いながら理解していただきます。事前にプリントを配布する場合がありますので、忘れずに持参するようにしてください。授業後半では、新聞記事、雑誌、イギリス小説・詩の読解を行います。授業内で分からない項目を減らせるように、辞書は必ず持参してください。

◆**授業計画（各90分）**

1回	授業内容：名詞（n）の6つの使い方について。1～5文型の構造とその役割。 事前学修：名詞の役割について考えてきてください。 事後学修：5文型（SVOOC）の内容を確認するようにしてください。
2回	授業内容：形容詞（a）の役割と2つの用法について。 事前学修：形容詞の使い方について、日本語との違いを考えてきてください。 事後学修：プリント記載の宿題を実施。
3回	授業内容：副詞（ad）の使い方とその多様性について。 事前学修：副詞が何を修飾するかを考えてきてください。 事後学修：副詞はSVOOCどれにも当てはまらないことを確認するように。
4回	授業内容：接続詞（conj）の正しい使い方を学びます。 事前学修：接続詞にand、but以外の用法を調べてくること。 事後学修：プリント記載の宿題をしてきてください。
5回	授業内容：助動詞（aux）の使い分けについて。 事前学修：mustとhave to、の違いについて調べてきてください。 事後学修：助動詞の使い分けから生じる「スタイル」の変化を理解してください。
6回	授業内容：前置詞（pre）の役割について。 事前学修：事前に配布する「前置詞クイズ」を解いてきてください。 事後学修：プリント記載の宿題をしてきてください。
7回	授業内容：定冠詞（the）、不定冠詞（a）の違いについて。 事前学修：モーム『サミング・アップ』（抜粋）を訳してきてください。 事後学修：学習した英文を繰り返し読んでください。
8回	授業内容：冠詞のまとめ。 事前学修：プリント記載の「冠詞クイズ」を解いてきてください。 事後学修：関係代名詞に関する問題を解いてきてください。
9回	授業内容：関係代名詞について。 事前学修：関係代名詞を用いた英文を作成してください。 事後学修：学習した文法事項のチェック。
10回	授業内容：従属接続詞と関係代名詞のthatについて。 事前学修：thatの使い方を考えてきてください。 事後学修：プリント記載の宿題をしてきてください（強調構文について）。
11回	授業内容：倒置表現について。 事前学修：プリント記載の英文を和訳する。 事後学修：学習した文法事項を説明できるようにしてください。
12回	授業内容：文法事項の総まとめ。 事前学修：模擬テストを行うので総復習をしてください（成績には関係なし）。 事後学修：テスト内容の復習をしてください。
13回	授業内容：Toeicの問題を「読解」します。 事前学修：ToeicのReading問題を解いておくように。 事後学修：学習した英文を繰り返し読んで理解してください。
14回	授業内容：英作文作成。 事前学修：SVOOCを意識して5文型の英文を作ってもらいます。 事後学修：いかなる文型にも対応できるようになってください。
15回	授業内容：定期考査：文法事項の理解度をチェックします。 事前学修：高度な内容の英文を読解してもらいます。 事後学修：全ての授業内容を確認、理解するようにしてください。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 授業当日プリントを配布します。

◆**参考書** 丸沼『英文法総覧』 安い総著 開拓社 1996年

◆**成績評価基準** 授業への取り組み、最終日に実施する定期考査により総合的に判断します。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語学演習 D〕

田中 竹史

◆**授業概要** ヒトは誰でも母語を獲得することができますが、その獲得は特別な勉強や訓練なしに子供の頃にいつの間にか当たり前のようになされてしまいます。これは、たとえば計算の仕方や交通規則を身につけるためには勉強しなければならないということや、ピアノやバイオリンを弾いたりあるいは泳いだり車を運転したりするためには特別な訓練が必要になる、といったことは対照的です。また、通常大人が外国語を身につけるには意識的な努力が必要であるということとも対照的です。それでは、なぜ子供は特別な勉強や訓練をせずとも母語を身につけられるのでしょうか。なぜ大人は勉強や訓練なしには外国語を身につけることができないのでしょうか。そもそもヒトは一体どのような仕組みにより、極めて複雑で豊かな内容を持つ言語を身につけているのでしょうか。本講座では、上記のような事柄を通じて生物種としてのヒトの特徴について考えます。

◆**学修到達目標** 全ての生物種の中でヒト科ヒト属のみが持つと考えられている特殊な知識体系であることばに内在する性質、そして幼児による言語獲得の過程に触れることにより、ことばの分析方法や言語学・英語学の方法論を学ぶことを目標とします。

◆**授業方法** はじめにヒトのことばに関する基礎的知識（母語話者の持つ言語知識、言語獲得の過程、言語障害、類人猿などヒト以外の生物のコミュニケーション体系など）を講義形式により確認します。その後、テキストを題材に、受講者による担当部分の内容説明・質疑応答（その過程でアクティブラーニング、グループディスカッションなどを含みます）、教員による補足説明（その過程で課題に対するフィードバックを含みます）、という演習形式で授業を進めます。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容: 母語と外国語(1) 事前学修: 参考書に挙げられている大津 (2004, 2008) を読んでおくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
2 回	授業内容: 母語と外国語(2) 事前学修: 配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
3 回	授業内容: 言語の研究(1) 事前学修: 配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
4 回	授業内容: 言語の研究(2) 事前学修: 配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
5 回	授業内容: ヒトの言語獲得(1) 事前学修: 配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
6 回	授業内容: ヒトの言語獲得(2) 事前学修: 配布された資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。
7 回	授業内容: 14. Constraints on Reference 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
8 回	授業内容: Introduction, 1 The Interpretation of Pronouns 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
9 回	授業内容: 2 C-Command 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
10 回	授業内容: 3 Principle C 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
11 回	授業内容: Conclusion 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
12 回	授業内容: 15 Children's Knowledge of Constraints: Backwards Anaphora 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
13 回	授業内容: Introduction, 1 Knowledge of Principle C: Previous Research 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
14 回	授業内容: 2 When They Should, Children Accept Backwards Anaphora 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。
15 回	授業内容: 3 Research Design, Conclusion 事前学修: 配布された資料を読み、和訳をしておくこと。わからない語彙がある場合には、辞書で調べておくこと。 事後学修: 授業で扱われた内容をノート等にまとめ知識の定着を図ること。難しいと感じた英文の解析を復習すること。

◆**教科書** **事前資料送付** An Introduction to Linguistic Theory and Language Acquisition. Crain & Lillo-Martin Blackwell 1999 (該当箇所 pp.145-163 を配布します)

◆**参考書** 丸沼『探検！ことばの世界』大津由紀雄著 ひつじ書房 2004 年
丸沼『ことばに魅せられて 対話編』大津由紀雄著 ひつじ書房 2008 年
丸沼『ファンダメンタル英語学 改訂版』中島平三著 ひつじ書房 2011 年
通材『英語学概説 N30700』通信教育教材(教材コード 000567)

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、発表や質疑応答などの授業に対する取り組み(50%)と授業終了後に提出のレポート(50%)により総合的に評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔交通論〕

針谷 莊司

◆**授業概要** 近年の経済の変革は、非常に速いスピードで進んでいます。この状況を踏まえ、この時代に対応できる基礎力を養成していきます。時代の流れを捉えられる感覚を得られる講義をすすめます。

◆**学修到達目標** 交通サービスをマーケティングの視点から考察する基礎知識を得る。日常生活の中での諸現象を交通・マーケティングの立場から考察できる知識を養成する。

◆**授業方法** この講義は、単に聴講するだけでなく、自分自身の考えを積極的に表現できる能力を習得することを目標とする。日常の起こっている現象を常に経済的思考をもとに分析し、授業では積極的に意見を発表する講義をめざす。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回	授業内容：交通とは何か 事前学修：テキストを一読し、内容について把握しておく 事後学修：授業の関連事項について資料収集・理解をすすめる
2 回	授業内容：交通サービスのとらえかたについて 事前学修：受講生はスクーリングまでの間に起こった交通に関するトピックスについてまとめておく 事後学修：内容の理解に努める
3 回	授業内容：交通に関するトピックス（意見発表） 事前学修：スクーリングまでの間に起こった交通に関するトピックスについてまとめておく 事後学修：内容の理解に努める
4 回	授業内容：交通サービスと観光① 事前学修：この項目に関する資料を広く収集する 事後学修：内容の理解に努める
5 回	授業内容：交通サービスと観光② 事前学修：この項目に関する資料を広く収集する 事後学修：内容の理解に努める
6 回	授業内容：交通の発達と地域のありかた 事前学修：自分の育った地域・生活をしている地域についての特性を考える 事後学修：他の受講生の発表を踏まえ、自分の意見をまとめる
7 回	授業内容：都市交通について 事前学修：この項目に関する資料を広く収集する 事後学修：内容の理解に努める
8 回	授業内容：規制緩和の流れと交通サービス① 事前学修：この項目に関する資料を広く収集する 事後学修：内容の理解に努める
9 回	授業内容：規制緩和の流れと交通サービス② 事前学修：この項目に関する資料を広く収集する 事後学修：内容の理解に努める
10 回	授業内容：規制緩和の影響 事前学修：この項目に関する資料を広く収集する 事後学修：内容の理解に努める
11 回	授業内容：交通サービスとマーケティング 事前学修：この項目に関する資料を広く収集する 事後学修：内容の理解に努める
12 回	授業内容：自分と交通サービスとのかかわり方（意見発表）① 事前学修：この項目に関する資料まとめておく 事後学修：内容の理解に努める
13 回	授業内容：自分と交通サービスとのかかわり方（意見発表）② 事前学修：この項目に関する資料まとめておく 事後学修：内容の理解に努める
14 回	授業内容：交通サービスの変化と私たちの生活① 事前学修：この項目に関する資料を広く収集する 事後学修：内容の理解に努める
15 回	授業内容：交通サービスの変化と私たちの生活② 事前学修：この項目に関する資料を広く収集する 事後学修：この講座の理解をすすめる、疑問点などはメールで講師に質問する

◆**教科書** 教材『交通論 S30700』通信教育教材（教材コード 000184）
〔当日資料配布〕

◆**参考書** 丸沼『経営学』小倉昌男 日経 BP 社

◆**成績評価基準** 毎回、授業時課題を課します。意見発表 体験発表 試験を総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔教育原論 / 教育の思想 B〕

渡辺 典子

◆**授業概要** 過去から現在に至るまでの学校の変遷とそれを支えている教育理念を理解し、歴史認識を培うことで、現在の教育に対する視点を持つことを目的とする。

◆**学修到達目標** ①近代の教育を支えている理念や思想に関する基礎的な知識を身につけることができる。

②現代社会における教育課題を考える際の歴史的視点を身につけることができる。

③人間の育ちとジェンダーとのかかわりを理解することができる。

◆**授業方法** 主な授業方法は教科書に沿った講義形式であるが、できるだけ視聴覚教材を用い、またグループワークも取り入れる予定である。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回	授業内容: イントロダクション—教育の本質・目標— 事前学修: テキスト p. 1-2 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
2 回	授業内容: 近世の子どもと教育 事前学修: テキスト p.41-55 の太字の項目内容に目を通すこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
3 回	授業内容: 近代教育の成立 事前学修: テキスト p.64-68 の太字の項目内容に目を通すこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
4 回	授業内容: 天皇制教育体制の確立と展開 事前学修: テキスト p.85-88 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
5 回	授業内容: 良妻賢母教育の成立 事前学修: テキスト p.99, 101-102 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
6 回	授業内容: 教員養成と教科書 事前学修: テキスト p.70, 103-104 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
7 回	授業内容: 大正デモクラシー期における社会と教育の再編 事前学修: テキスト p.115 - 120 の太字の項目内容に目を通すこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
8 回	授業内容: 児童中心主義の教育 事前学修: テキスト p.127-128, 130-131 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
9 回	授業内容: 教育を受ける権利 事前学修: テキスト p.128-129 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
10 回	授業内容: 大正期の女性と教育 事前学修: テキスト p.106-107 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
11 回	授業内容: 大正期の社会教育 事前学修: テキスト p.115-116 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
12 回	授業内容: 昭和前期の教育と子ども 事前学修: テキスト p.138, p.141-142, p.149-153 の太字の項目内容に目を通すこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
13 回	授業内容: 昭和前期の女性の教育 事前学修: テキスト p.150 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
14 回	授業内容: 昭和前期の男性の教育 事前学修: テキスト p.151 を読んでおくこと。 事後学修: 授業内容を確認し理解しておくこと。
15 回	授業内容: まとめ 事前学修: これまでの授業内容を確認しておくこと。 事後学修: これまで学んだことを現在の教育に対する視点につなげること。

◆**教科書** 丸沼『教育から見る日本の社会と歴史』第2版 片桐芳雄他 八千代出版 2017.3

◆**参考書** 丸沼『図説教育の歴史』横須賀薫監修 河出書房新社 2008.10

◆**成績評価基準** 試験（50%）、適宜課す感想文などの課題（30%）、授業参加における発言や貢献度（20%）

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

交通案内・校舎案内

① 交通案内～通信教育部までの交通～

〔東京駅乗継の場合〕

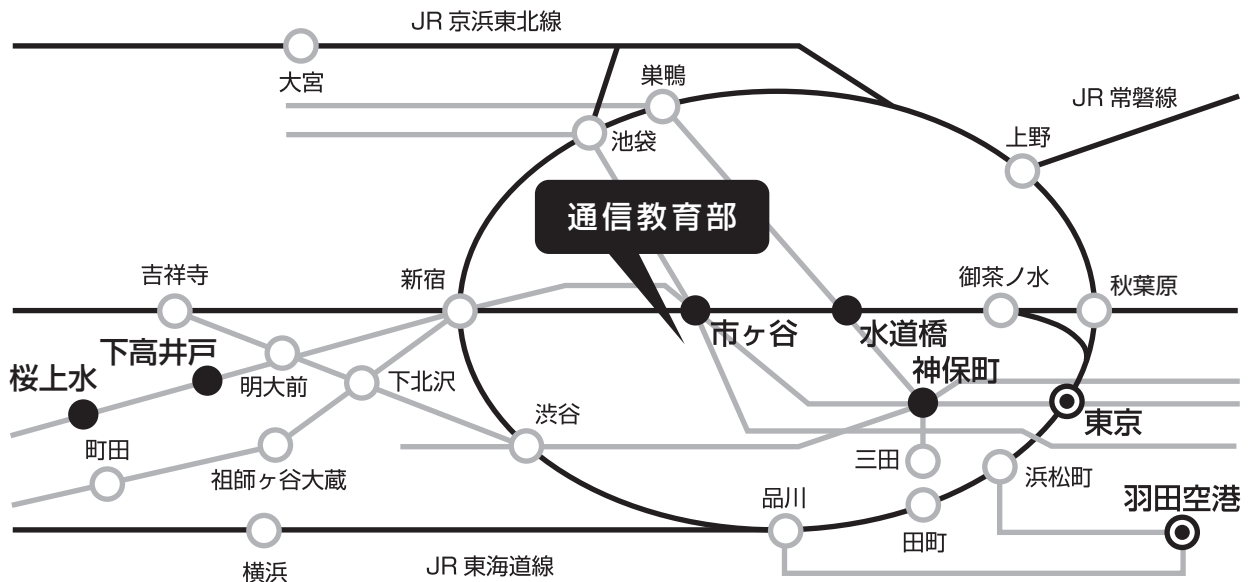
JR 中央線（1・2番線から発車する電車いずれも可）に乗車，御茶ノ水駅で JR 総武・中央線の各駅停車（新宿・中野方面）に乗り換え，市ヶ谷駅下車徒歩約3分。東京駅から約 20 分。

〔上野駅乗継の場合〕

JR 山手線・京浜東北線（東京方面）に乗車，秋葉原駅で JR 総武・中央線各駅停車（新宿・中野方面）に乗り換え，市ヶ谷駅下車徒歩約3分。上野駅から約 20 分。

〔羽田空港乗継の場合〕

東京モノレールで浜松町駅下車，JR 山手線・京浜東北線（東京・上野方面）に乗車，秋葉原駅で JR 総武線・中央線各駅停車（新宿・中野方面）に乗り換え，市ヶ谷駅下車徒歩約3分。羽田空港駅から約 50 分。



■市ヶ谷キャンパス

JR 中央・総武線（各駅停車）市ヶ谷駅から 徒歩3分

都営地下鉄新宿線，東京メトロ有楽町線・南北線 市ヶ谷駅 A 2 出口から 徒歩2分

■水道橋キャンパス（日本大学法学部）

JR 中央・総武線（各駅停車），都営地下鉄三田線 水道橋駅東口から 徒歩3分

都営地下鉄三田線・新宿線，東京メトロ半蔵門線 神保町駅 A 4 出口から 徒歩5分

■世田谷キャンパス（日本大学文理学部）

京王線 下高井戸駅 又は，桜上水駅から 徒歩 10 分

② 校舎案内

市ヶ谷キャンパス

【所在地】〒102-8005 東京都千代田区九段南 4-8-28



JR 中央・総武線（各駅停車）市ヶ谷駅下車 徒歩3分

都営地下鉄新宿線，東京メトロ有楽町線・南北線 市ヶ谷駅 A2 出口から 徒歩2分

水道橋キャンパス

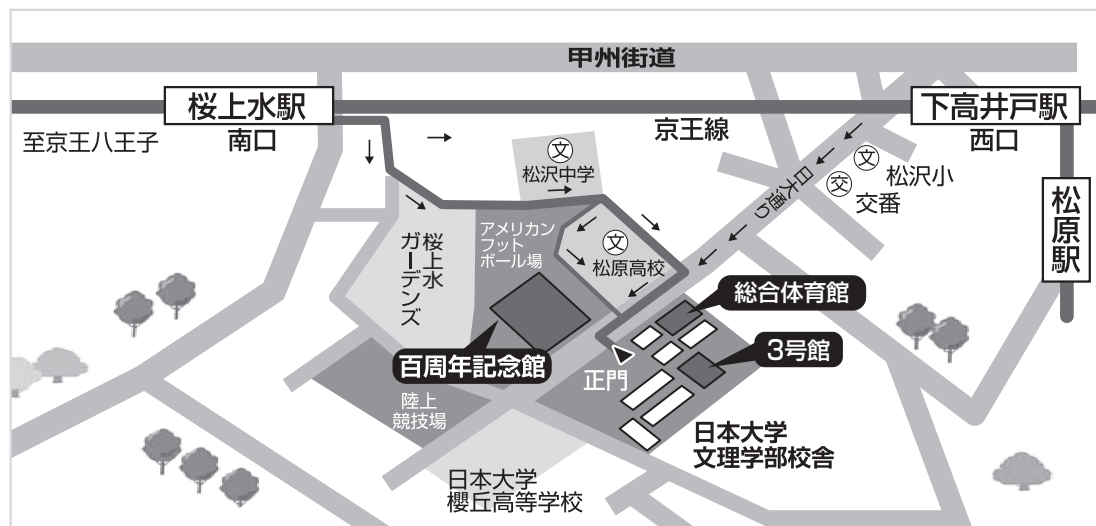
【所在地】〒101-8375 東京都千代田区神田三崎町 2-3-1



JR 中央・総武線（各駅停車），都営地下鉄三田線 水道橋駅東口から 徒歩3分

都営地下鉄三田線・新宿線，東京メトロ半蔵門線 神保町駅 A4 出口から 徒歩5分

世田谷キャンパス 【所在地】〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40



京王線下高井戸駅 又は、桜上水駅から 徒歩約 10 分

スクーリング手続 チェックシート

このシートは、受講届の記入からスクーリングを受講するまでの確認用です。

チェック項目	参照
◆受講届の記入	
<input type="checkbox"/> 希望する科目の履修登録は済んでいますか	手続編Ⅰ 履修登録をする表紙（履修登録締切日）
<input type="checkbox"/> 申し込む「受講届」用紙の選択に間違いはありませんか	手続編 巻末「受講届」
<input type="checkbox"/> <input type="text"/> 内の必要事項の記入漏れはありませんか (講座コード・講座名・充当科目コード・学生番号・氏名・電話番号)	手続編Ⅰ 講座を申し込む ◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 講座コード・講座名・充当科目コードは一致していますか	◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 希望科目の受講条件は満たしていますか (配当学年・適用カリキュラム・その他受講条件)	I-3 「開講講座表」の見方 ◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 申し込む開講期、開講地、開講曜日は間違っていないですか	◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 修得済科目を申し込んでいませんか	・単位照合票 ・単位修得状況確認 (ポータルサイト)
◆併用	
<input type="checkbox"/> 併用希望科目のレポートは、必要通数分を期限内に提出していますか	手続編Ⅰ 受講手続の流れ表紙（レポート提出締切日）
◆受講届の提出	
<input type="checkbox"/> 提出締切日に間に合いますか (郵送の場合は締切日消印有効)	表紙（受講届提出締切日） 手続編Ⅰ 講座を申し込む
<input type="checkbox"/> 〈推奨〉申込内容の控えはありますか（受講届のコピー）	
<input type="checkbox"/> 申込完了のメールは届いていますか（ポータルサイトからの申込の場合のみ）	
<input type="checkbox"/> 〈推奨〉特定記録郵便で発送しましたか	手続編Ⅰ 講座を申し込む
◆受講料の納入	
<input type="checkbox"/> ポータルサイト「スクーリング・メディア情報一覧」又は、受講資格審査結果通知の内容と振込用紙の内容に間違いはありませんか	手続編Ⅱ 受講資格審査結果通知を確認する
<input type="checkbox"/> 受講料の納入期限は厳守していますか	手続編Ⅲ 受講料の納入



各種連絡先

- | | |
|---------------------------------------|--|
| ○スクーリングの手續等に関する事項
教務課 03-5275-8911 | ○各種学修相談に関する事項
学修支援センター 03-5275-8857 |
| ○受講料の振込に関する事項
会計課 03-5275-8925 | ○通学定期・学割に関する事項
学生課 03-5275-8921 |
| ○教材（教科書）に関する事項
研究事務課 03-5275-8890 | |

DISTANCE LEARNING DIVISION, NIHON UNIVERSITY

〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28 日本大学通信教育部